

草加市子ども教育の連携に関する 教員・保育士アンケート調査報告書

平成26年3月
草加市

目 次

第 1 部	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の方法	3
3	配布・回収状況	3
4	地域別集計について	4
5	利用にあたって	4
第 2 部	調査結果報告	5
I	幼稚園・保育園の調査結果	7
1	基本情報	7
(1)	幼稚園・保育園の回答割合	7
(2)	職名	7
(3)	教員・保育士歴	8
(4)	園児の進学先（平成 24 年度、上位 3 校）	9
2	幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	10
(1)	他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況	10
(2)	交流・連携の相手方	12
(3)	交流・連携の参加者	14
(4)	交流・連携の内容	16
(5)	重要な交流・連携の取組	19
(6)	交流・連携の窓口の主な担当者	22
(7)	交流・連携の窓口の担当者の固定化	24
(8)	交流・連携を行って良かった点	25
(9)	交流・連携の課題となる点	27
(10)	交流・連携で改善したい点	29
(11)	交流・連携の実施が困難な理由	31
(12)	他園・校との交流・連携について改善されたこと	32
3	就学に向けた取組について	33
(1)	交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況	33
(2)	小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育	34
(3)	小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期	36
(4)	就学に向けて行っている具体的な取組	38
(5)	小学校に対して期待すること	50
4	自由記述	52

Ⅱ	小学校の調査結果	53
1	基本情報	53
(1)	職名	53
(2)	教員歴	53
(3)	学級数	54
(4)	入学児童の出身園数	55
(5)	入学児童の出身園（平成 24 年度、上位 3 園）	56
2	幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	57
(1)	幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況	57
(2)	交流・連携の相手方	58
(3)	交流・連携の参加者	59
(4)	交流・連携の内容	61
(5)	重要な交流・連携の取組	63
(6)	交流・連携の窓口の主な担当者	67
(7)	交流・連携の窓口の担当者の固定化	68
(8)	交流・連携を行って良かった点	69
(9)	交流・連携の課題となる点	71
(10)	交流・連携で改善したい点	73
(11)	交流・連携の実施が困難な理由	75
(12)	他園・校との交流・連携について改善されたこと	75
3	小 1 プロブレムについて	76
(1)	「小 1 プロブレム」の発生状況	76
(2)	「小 1 プロブレム」がみられた学級数	77
(3)	「小 1 プロブレム」の要因	78
(4)	「小 1 プロブレム」への対応	79
(5)	「小 1 プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策	80
(6)	入学に際しての配慮や準備	81
(7)	幼稚園や保育園に対して期待すること	83
4	中学校進学に向けた取組について	85
(1)	中学校進学に向けて行っている具体的な取組	85
(2)	中学校に対して期待すること	86
5	自由記述	88
Ⅲ	中学校の調査結果	89
1	基本情報	89
(1)	職名	89
(2)	教員歴	89
(3)	学級数	90
2	幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について	91
(1)	幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況	91
(2)	交流・連携の相手方	93
(3)	交流・連携の参加者	94

(4) 交流・連携の内容	96
(5) 重要な交流・連携の取組	98
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者	101
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化	102
(8) 交流・連携を行って良かった点	103
(9) 交流・連携の課題となる点	105
(10) 交流・連携で改善したい点	107
(11) 交流・連携の実施が困難な理由	109
(12) 他園・校との交流・連携について改善されたこと	109
3 中1ギャップについて	110
(1) 「中1ギャップ」の発生状況	110
(2) 「中1ギャップ」の要因	112
(3) 「中1ギャップ」への対応	113
(4) 「中1ギャップ」の予防や解消のための対応策	114
(5) 入学に際しての配慮や準備	115
(6) 小学校に対して期待すること	117
4 自由記述	119
IV 幼稚園・保育園・小学校・中学校の調査結果の比較	120
1 交流・連携の実施状況	120
2 交流・連携の実施が困難な理由	120
3 交流・連携の内容	121
4 交流・連携を行って良かった点	122
5 交流・連携の課題となる点	123
6 交流・連携で改善したい点	124
7 他園・校との交流・連携について改善されたこと	125
8 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること	126
9 小学校と中学校が相互に期待すること	127
資料編	129
幼稚園・保育園 調査票	131
小学校 調査票	134
中学校 調査票	138

第 1 部 調査の概要

1 調査の目的

市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校における、子ども教育の連携についての実態を把握し、その実態を踏まえ、子ども教育の連携推進に関わる施策について検討を行う際の基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

2 調査の方法

【対象者】教員及び保育士

- ① 市内の幼稚園・保育園：園長及び年長児・5歳児の担任
- ② 市立小学校：校長、生徒指導主任、1年生及び6年生の学年主任、特別支援学級の担任
- ③ 市立中学校：校長、生徒指導主任、1年生及び3年生の学年主任、特別支援学級の担任

【調査方法】市内の幼稚園・保育園、市立小学校、市立中学校にて直接配付・回収

【調査期間】平成25年7月22日～7月31日

3 配布・回収状況

対象者	配布数（件）	回収数（件）	回収率（％）
幼稚園	73	73	100
保育園	66	66	100
小学校	103	103	100
中学校	58	58	100
合計	300	300	100

4 地域別集計について

本調査は地域別のクロス集計を行っています。地域の区分は次のようになっています。

地域名	幼稚園	保育園	小学校	中学校
北東ブロック	いなり、青徳、 草加ひので	しのは、やはた、あおやぎ、 ひかり幼稚舎、さくら保育、 こだま	川柳、八幡、 稲荷、八幡北、 青柳	川柳、青柳、 松江
北西ブロック	新田、清門	あさひ、しんぜん、しんえい、 けやきの森清門町園、しんでん	新田、新栄、 清門、長栄	新栄、新田
松原ブロック	草加みどり、ひかり、 草加ひまわり、 草加藤、みのべ	さかえ、きたや、こやま、 めえめえこやぎこども園、 まつばら	栄、花栗南、 小山、松原	栄、花栗
中央ブロック	谷塚、ルミ、 かおり、フラワー	たかさご、きたうら、あずま、 にしまち、せざき、 かおりPutra、さくらの実、 スマイルキッズルーム、 ニコニコルーム、 めりーごーらんど、 もりまさ草加園、ニコニコ	草加、高砂、 瀬崎、西町	草加、瀬崎
南部ブロック	あずま、 谷塚おざわ、 草加氷川	やつか、やなぎしま、ひかわ、 やつかかみ、草加なかよし、 そうか草花、にっさとの森	谷塚、新里、 氷川、両新田	谷塚、両新田

5 利用にあたって

- ① 集計した数値（％）は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。そのため、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、100.0%にならない場合があります。
- ② 回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100.0%を超えることがあります。
- ③ 図表の中で、アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、要約して表現している場合があります。
- ④ 回答が少数である場合の比率については、特定の回答の結果が強く反映される場合があることにご留意ください。

第 2 部 調查結果報告

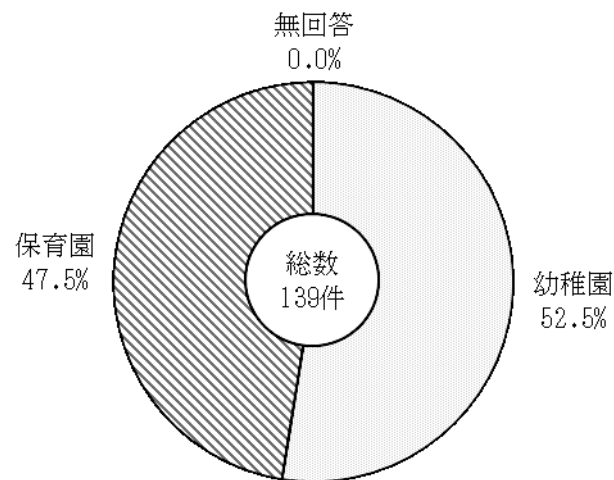
I 幼稚園・保育園の調査結果

1 基本情報

(1) 幼稚園・保育園の回答割合

「幼稚園」が52.5%、「保育園」が47.5%となっています。

図1-1 幼稚園・保育園の回答割合

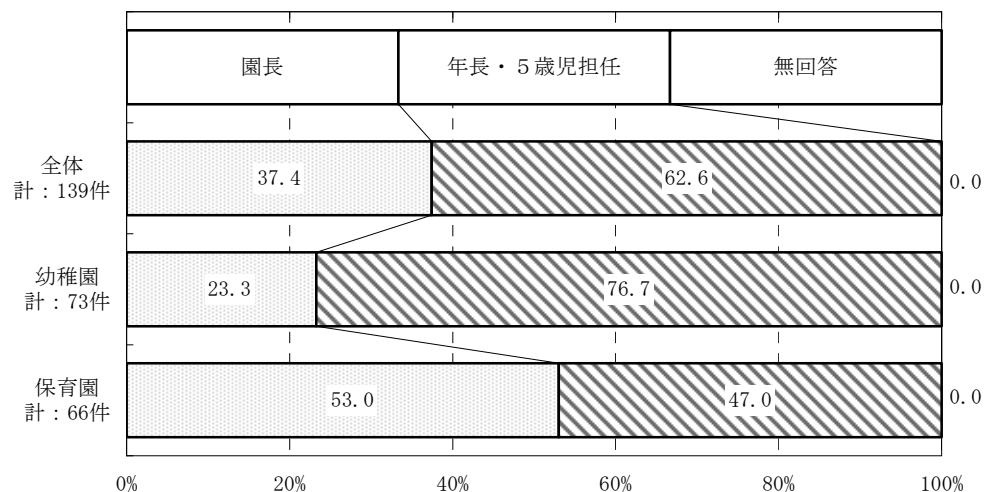


(2) 職名

全体では、「園長」が37.4%、「年長・5歳児担任」が62.6%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では「園長」が23.3%、「年長・5歳児担任」が76.7%、保育園では「園長」が53.0%、「年長・5歳児担任」が47.0%となっています。

図1-2 職名



幼稚園・保育園の調査結果

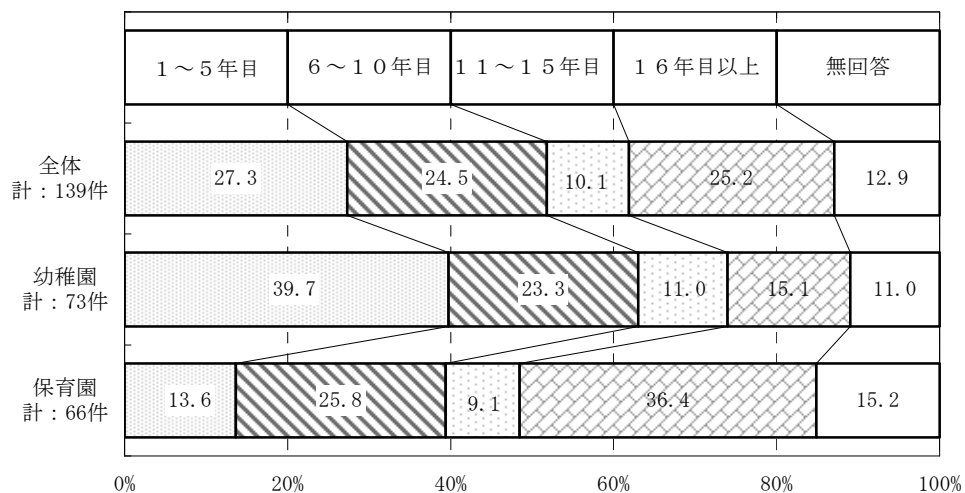
(3) 教員・保育士歴

全体では、「1～5年目」が27.3%と最も高く、次いで「16年目以上」が25.2%、「6～10年目」が24.5%となっています。

幼稚園では、「1～5年目」が39.7%と最も高く、次いで「6～10年目」が23.3%、「16年目以上」が15.1%となっています。

保育園では、「16年目以上」が36.4%と最も高く、次いで「6～10年目」が25.8%、「1～5年目」が13.6%となっています。

図1－3 教員・保育士歴



(4) 園児の進学先 (平成 24 年度、上位 3 校)

表 1 - 1 園児の進学先 (平成 24 年度、上位 3 校)

(単位: %)

幼稚園・保育園名		第1位		第2位		第3位	
幼稚園	谷塚	瀬崎	50.0	谷塚	35.0	高砂	15.0
	ルミ	草加	49.0	高砂	33.0	西町	8.0
	あずま	新里	80.0	谷塚、両新田	各10.0		—
	いなり	稲荷	50.0	高砂	15.0	市外	10.0
	かおり	西町	60.0	高砂、草加	各20.0		—
	草加みどり	栄	50.0	八幡	20.0	花栗南	10.0
	青徳	川柳	47.0	青柳	25.0	八幡北	10.0
	草加ひまわり	栄	19.4	松原	16.0	草加	11.1
	草加藤	草加、栄、松原	各10.3		—		—
	新田	長栄	27.3	新田	26.5	八幡北	11.1
	谷塚おざわ	谷塚	40.0	氷川、高砂	各20.0		—
	草加氷川	高砂	29.0	氷川	25.0	西町	16.0
	みのべ	清門	30.0	小山、松原	各10.0		—
	草加ひので	八幡	67.8	八幡北、川柳	各8.5		—
	清門	清門	40.0	新栄	35.0	長栄	5.0
	フラワー	西町	38.0	小山	30.0	花栗南	11.0
	ひかわ	栄	26.0	松原	23.0	花栗南	13.0
保育園	あおやぎ	川柳	60.0	青柳	30.0	稲荷	10.0
	あさひ	新田	36.0	長栄	31.5	清門	13.5
	あずま	高砂	68.0	草加	20.0	瀬崎	10.0
	きたうら	草加	40.0	西町	13.0	花栗南	10.0
	きたや	八幡	25.0	栄、花栗南、長栄	各9.5		—
	こやま	小山	63.6	清門	27.3	新里、松原	各4.5
	さかえ	栄	60.0	草加	9.0	清門	5.0
	しのは	八幡	85.0	青柳、松原	各5.0		—
	しんえい	新栄	90.0	清門	7.0	長栄	2.0
	しんぜん	新田、清門	各33.0		—	長栄	23.0
	せざき	瀬崎	85.0	高砂	10.0	谷塚	5.0
	たかさご	高砂	74.0	草加、氷川	各9.0		—
	にしまち	西町	63.0	草加	9.0	小山	4.0
	ひかわ	氷川	80.0	谷塚	15.0	高砂	4.0
	やつか	谷塚	87.5	両新田	12.5		—
	やつかかみ	両新田	42.1	新里	21.1	谷塚	15.8
	やなぎしま	新里	88.2	市外	11.8		—
	やはた	八幡北	40.0	川柳	30.0	八幡	25.0
	かおりPutra	西町	60.0	高砂、新里	各20.0		—
	草加なかよし	谷塚	66.6	新里	22.2	両新田	11.1
	さくらの実	西町	30.0	高砂	20.0	その他	50.0
	そうか草花	谷塚、瀬崎	各30.0		—	氷川	10.0
	けやきの森清門町園	清門	70.0	新栄	12.5	新田、長栄	各6.3
	につさとの森		—		—		—
	しんでん	新田	60.0	清門、長栄	各20.0		—
	まつばら	栄、八幡	各50.0		—		—
	スマイルキッズルーム	谷塚、氷川	各50.0		—		—
	ニコニコルーム		—		—		—
	さくら保育	稲荷、瀬崎、市外2校	各25.0		—		—
	保育室めりーごーらんど		—		—		—
	もりまさ草加園	高砂	40.0	草加	30.0	稲荷	20.0
	ニコニコ		—		—		—
	こだま		—		—		—
	ひかり幼稚園舎	稲荷	76.0	八幡	10.0	草加	5.0
	めえめえこやぎこども園		—		—		—

2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

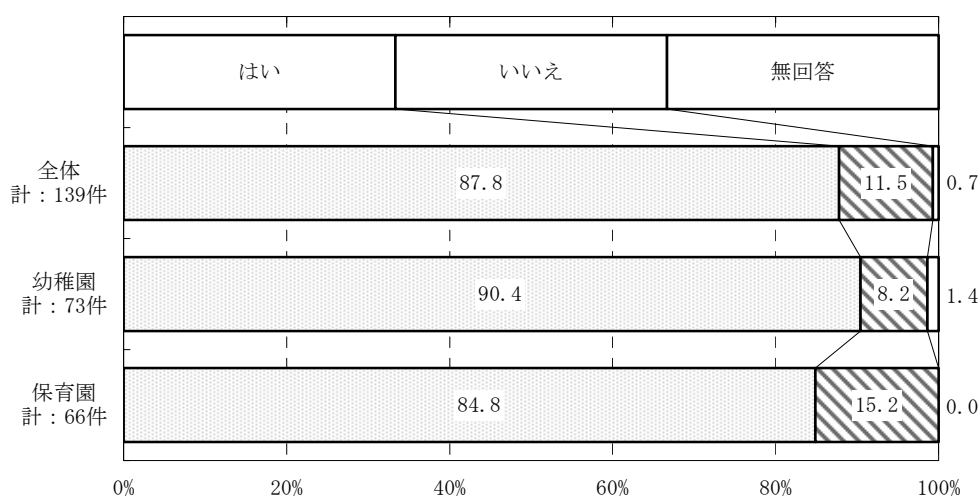
(1) 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの園では、昨年度（平成24年度）に、他の幼稚園・保育園・小学校・中学校のいずれか又はいくつかと交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

全体では、「はい」が87.8%、「いいえ」が11.5%となっています。

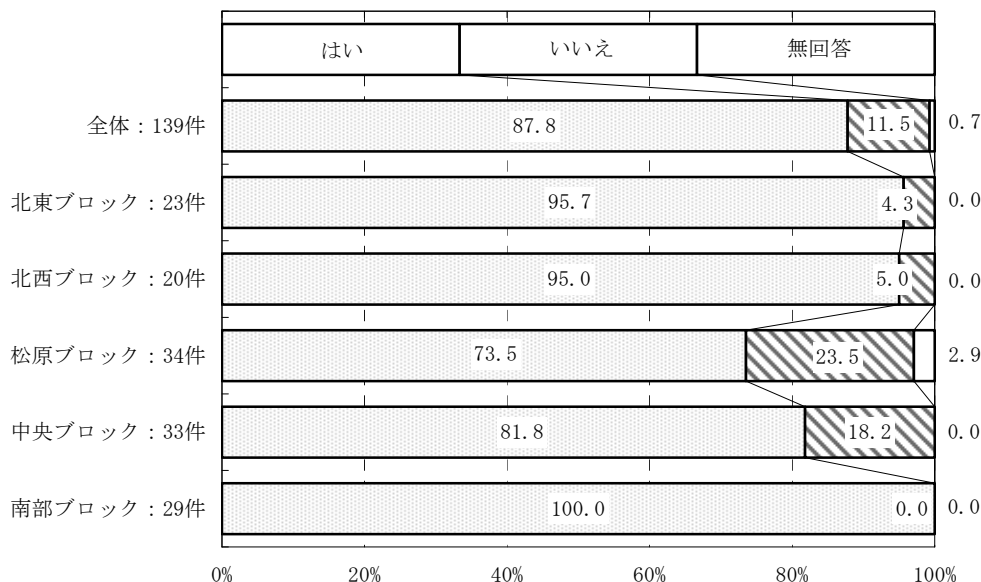
幼稚園・保育園の別にみると、交流・連携を行っている割合は、幼稚園が90.4%、保育園が84.8%となっています。

図1-4 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況



地域別にみると、「はい」という回答は、南部ブロック（100.0%）が最も高く、次いで北東ブロック（95.7%）、北西ブロック（95.0%）の順となっています。

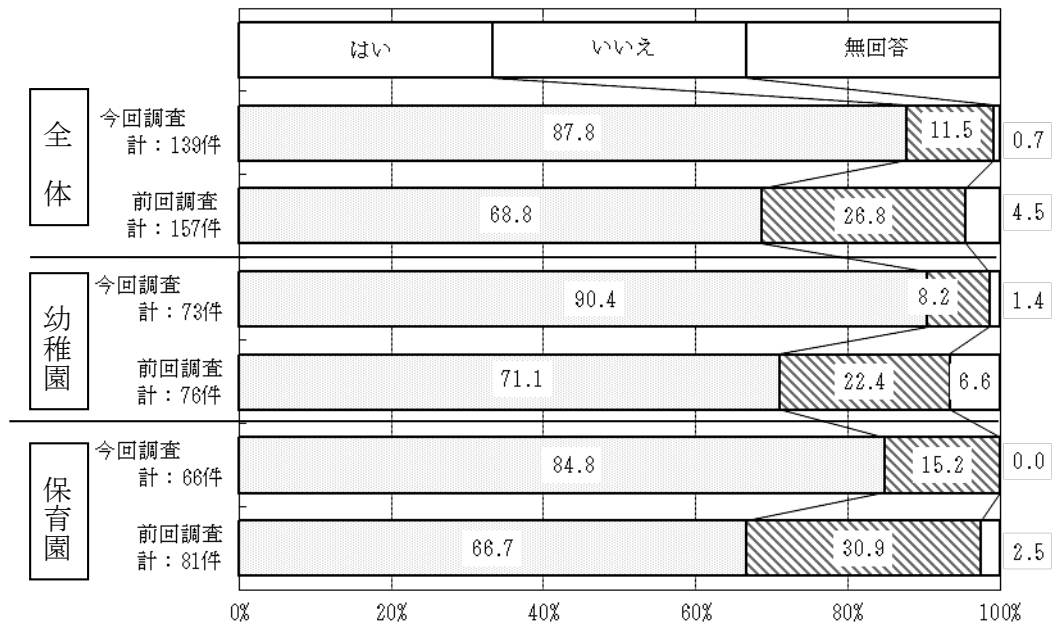
図1-5 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況（地域別）



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、全体、幼稚園、保育園とも交流・連携を行っている割合が約 20 ポイント高くなっています。

図 1－6 他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携の実施状況
(前回調査との比較)



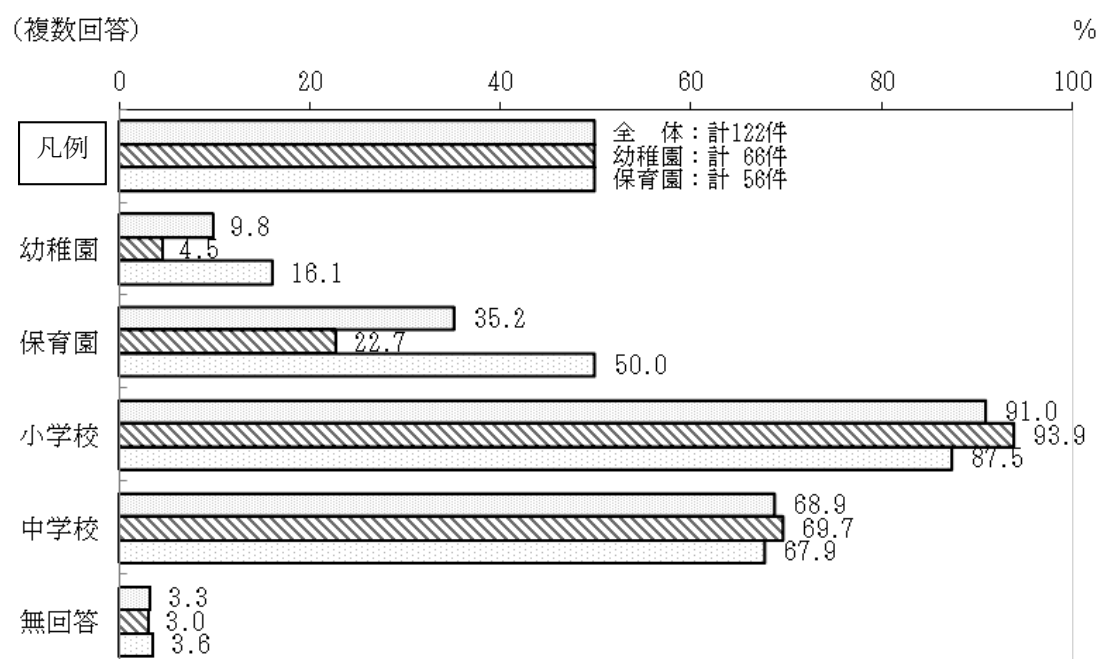
(2) 交流・連携の相手方

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の相手方はどこでしたか。(あてはまるもの全てに○、相手方の数を記入)

全体では、「小学校」が91.0%と最も高く、次いで「中学校」が68.9%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園、保育園ともに「小学校」という回答の割合が最も高くなっています。また、保育園については、保育園どうしの交流・連携が行われているとする回答が50.0%となっています。

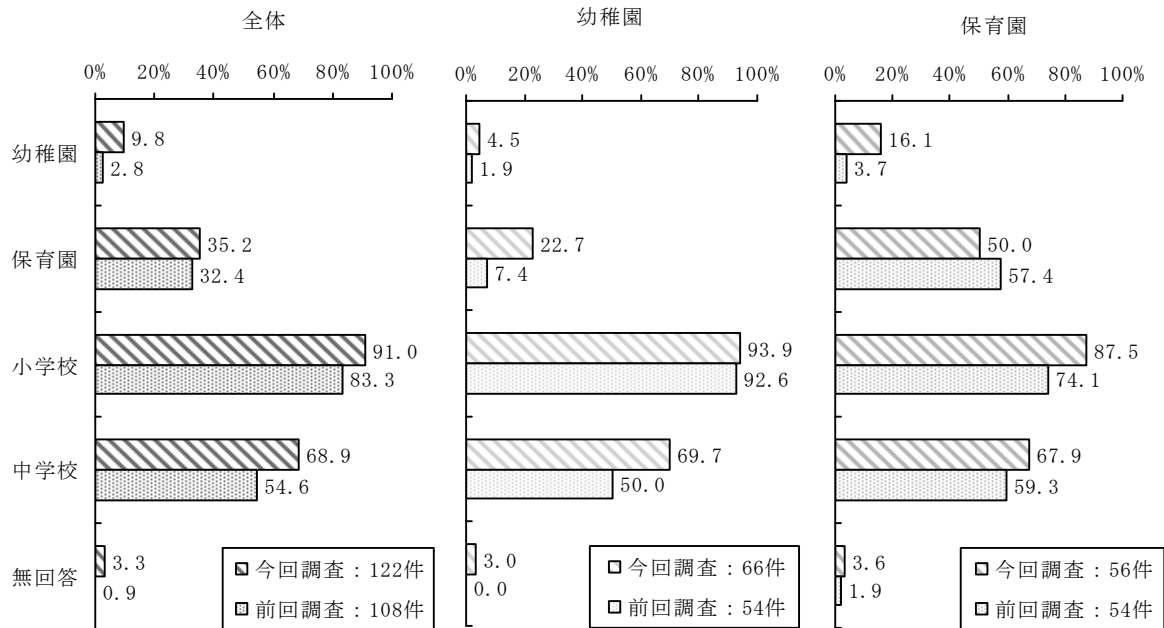
図1-7 交流・連携の相手方



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、幼稚園では「保育園」、「中学校」という回答がそれぞれ 15 ポイント以上増加しました。保育園では「小学校」が 13.4 ポイント、「幼稚園」が 12.4 ポイント、「中学校」が 8.6 ポイントそれぞれ増加しています。

図 1－8 交流・連携の相手方（前回調査との比較）



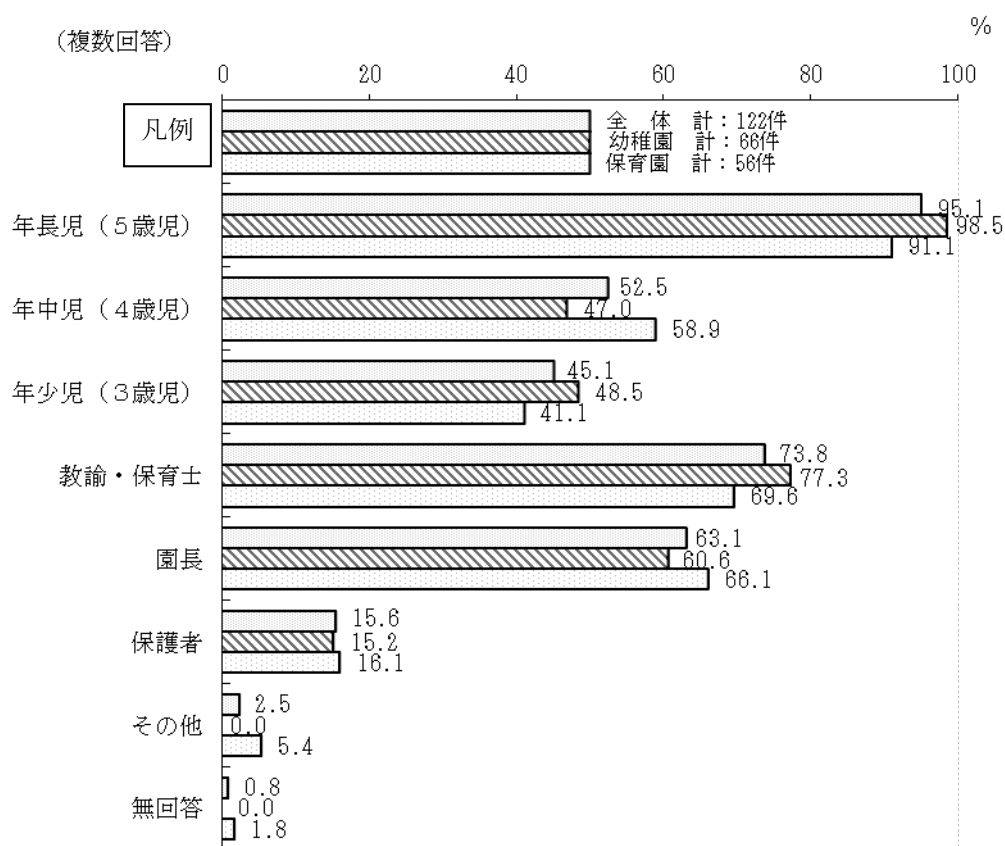
(3) 交流・連携の参加者

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、幼児については「年長児（5歳児）」が95.1%と最も高く、教職員については「教諭・保育士」が73.8%、「園長」が63.1%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「年長児（5歳児）」、「年少児（3歳児）」、「教諭・保育士」という回答は幼稚園が保育園より割合がやや高くなっています。一方、「年中児（4歳児）」という回答は保育園が幼稚園より割合が高くなっています。

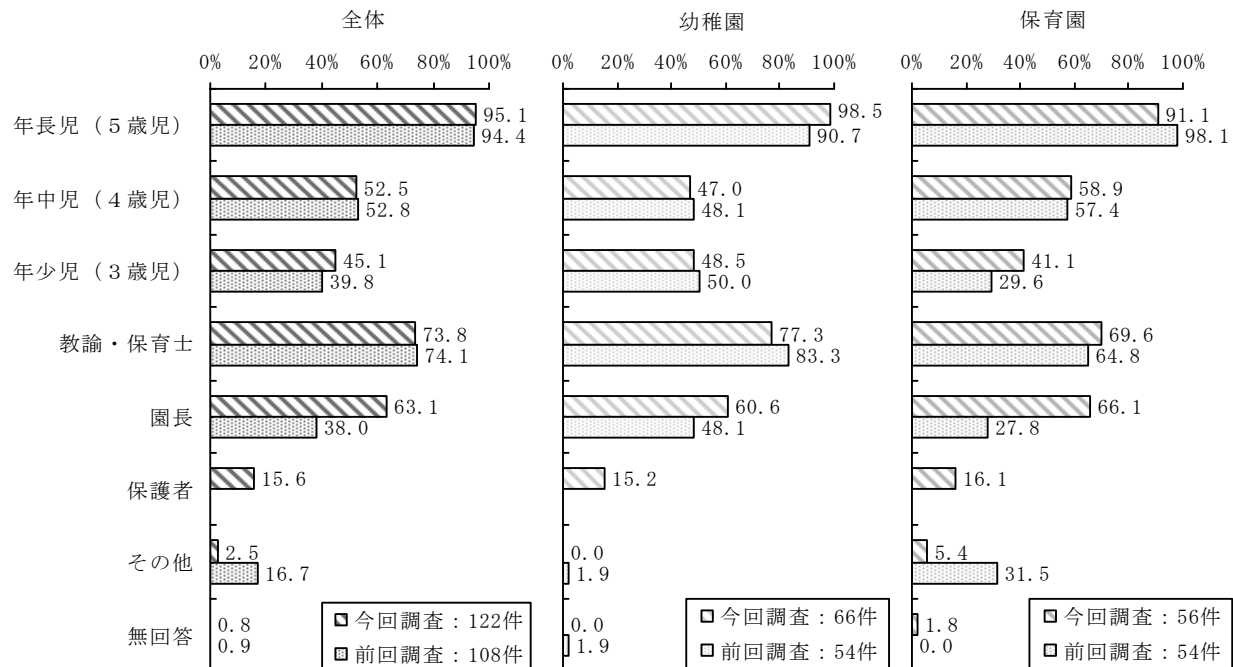
図1-9 交流・連携の参加者



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「園長」という回答は全体、幼稚園、保育園とも特に割合が高くなっています。

図 1-10 交流・連携の参加者（前回調査との比較）



※ 前回調査は「保護者」の項目なし。

(4) 交流・連携の内容

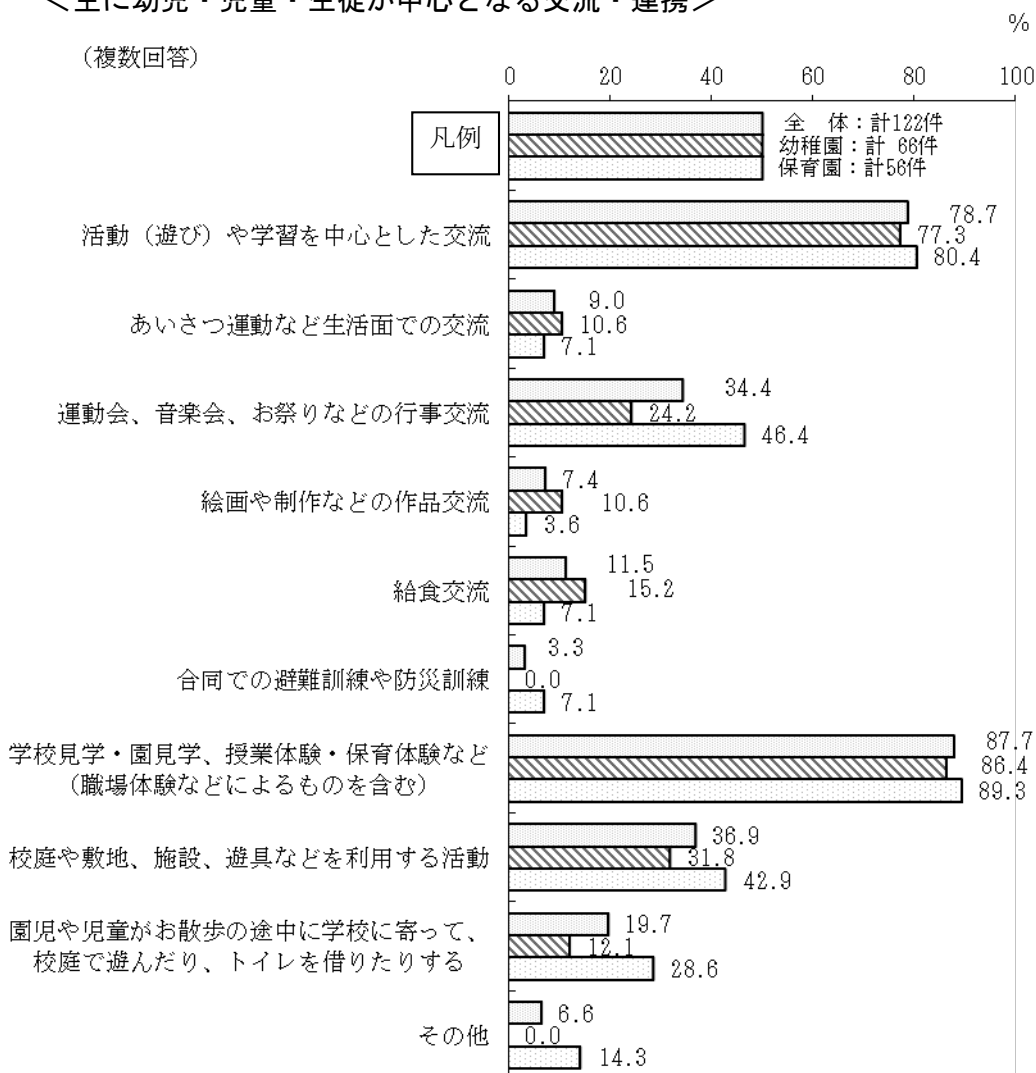
問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」が87.7%と最も高く、次いで「活動（遊び）や学習を中心とした交流」が78.7%、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」が77.9%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学後）」、「教職員の合同研修会」という回答は幼稚園が保育園より割合が高くなっています。一方、「運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流」、「校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動」、「園児や児童がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする」、「園だより・学校だよりの他園・他校への送付」という回答は保育園が幼稚園より割合が高くなっています。

図1-11 交流・連携の内容

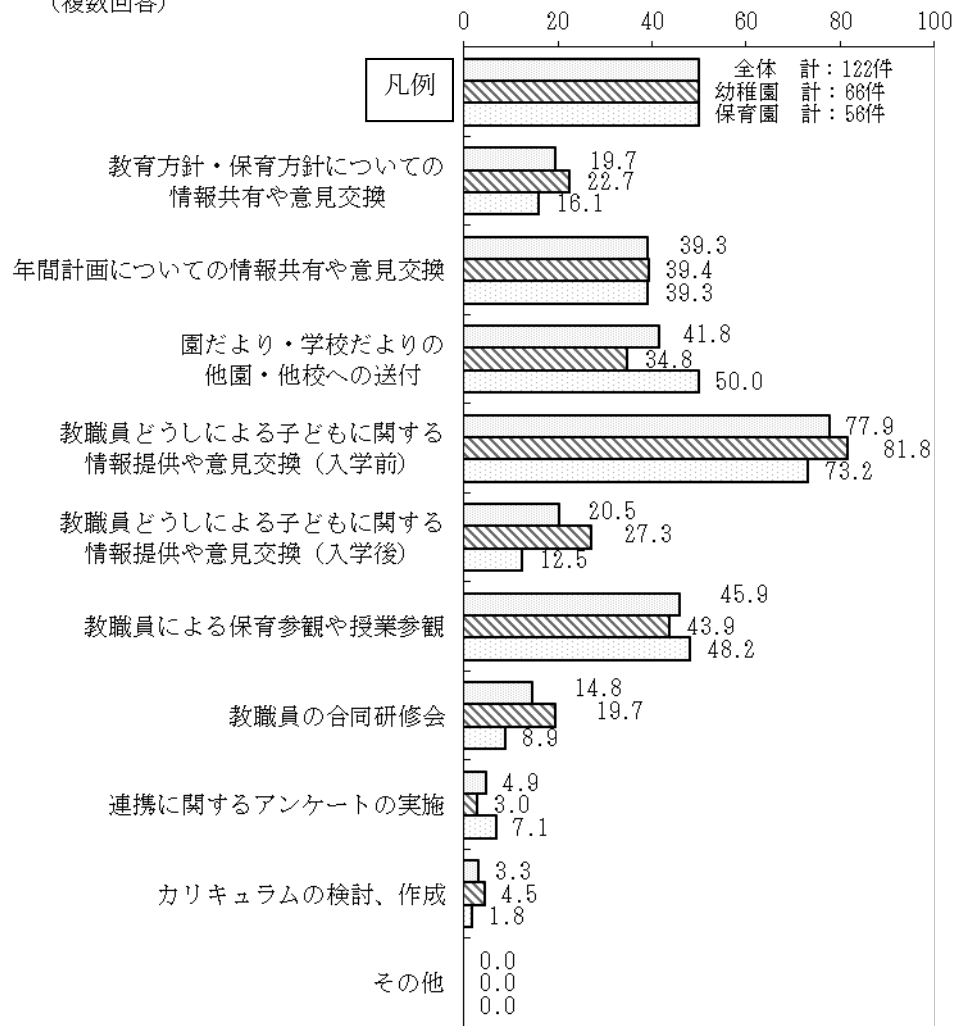
<主に幼児・児童・生徒が中心となる交流・連携>



<主に教員・保育士が中心となる交流・連携>

(複数回答)

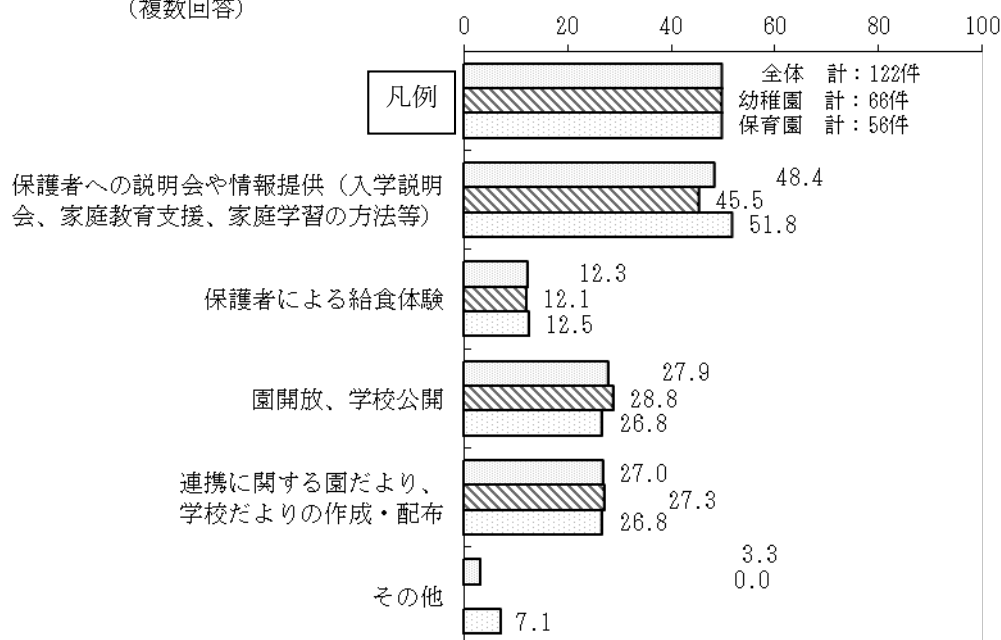
%



<主に保護者が対象となる交流・連携>

(複数回答)

%

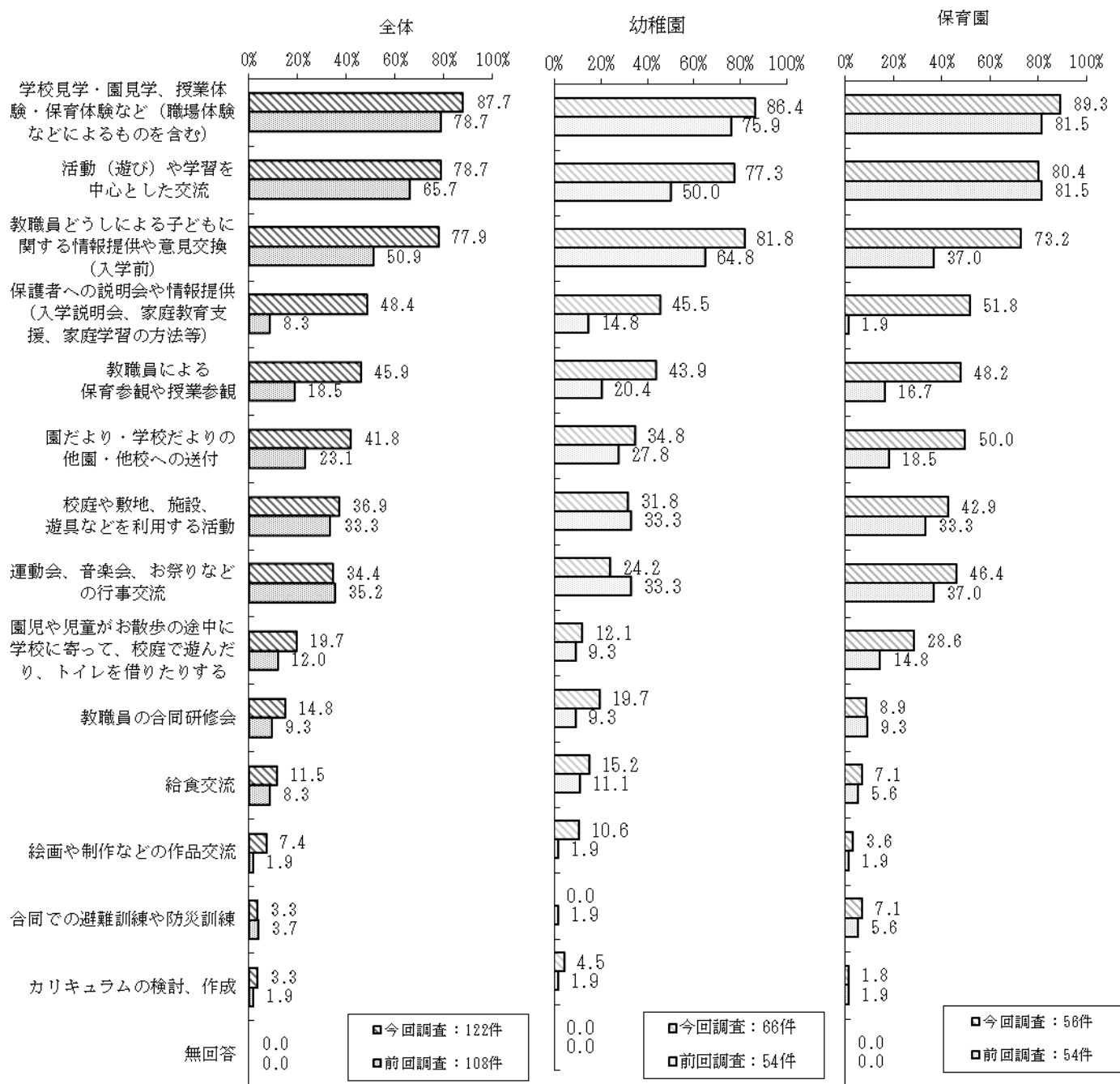


幼稚園・保育園の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、全体では「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）」、「教職員による保育参観や授業参観」、幼稚園では「活動（遊び）や学習を中心とした交流」、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）」、「教職員による保育参観や授業参観」、保育園では、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）」、「教職員による保育参観や授業参観」、「園だより・学校だよりの他園・他校への送付」の回答の割合が、それぞれ20ポイント以上高くなっています。

図1-12 交流・連携の内容（前回調査との比較）



※ 前回調査と比較可能な項目を抜粋。「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」は、前回調査の「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」と比較している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思われますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。(5つまで)

重要な交流・連携の取組については、主に幼児・児童・生徒が中心となる交流・連携では「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「活動(遊び)や学習を中心とした交流」、「運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流」の件数が多く、主に教員・保育士が中心となる交流・連携では「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学前)」、「教職員による保育参観や授業参観」、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学後)」の件数が多く、主に保護者が対象となる交流・連携では「保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等)」の件数が多くなっています。

表1-2 重要な交流・連携の取組

単位:件

交流・連携の内容			重要度 1	重要度 2	重要度 3	重要度 4	重要度 5	合計
主に 幼児・児童・生徒が 中心となる 交流・連携	1	活動(遊び)や学習を中心とした交流	25	13	12	3	2	55
	2	あいさつ運動など生活面での交流	2	2	0	4	0	8
	3	運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流	5	6	3	3	3	20
	4	絵画や制作などの作品交流	0	1	3	0	0	4
	5	給食交流	0	4	2	2	2	10
	6	合同での避難訓練や防災訓練	1	0	2	2	0	5
	7	学校見学・園見学、授業体験・保育体験など(職場体験などによるものを含む)	37	20	8	7	2	74
	8	校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	2	2	6	1	1	12
	9	園児や児童がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	4	4	4	2	4	18
	10	その他	0	3	0	0	0	3
主に 教員・保育士が 中心となる 交流・連携	11	教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換	2	4	2	1	1	10
	12	年間計画についての情報共有や意見交換	3	2	2	1	0	8
	13	園だより・学校だよりの他園・他校への送付	0	0	1	3	1	5
	14	教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学前)	27	16	9	5	3	60
	15	教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学後)	1	6	4	2	5	18
	16	教職員による保育参観や授業参観	3	9	8	5	4	29
	17	教職員の合同研修会	0	2	0	2	1	5
	18	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	0	1	1
	19	カリキュラムの検討、作成	0	1	0	1	1	3
	20	その他	0	0	0	0	0	0
主に 保護者が 対象となる 交流・連携	21	保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等)	1	3	11	7	5	27
	22	保護者による給食体験	0	0	0	0	0	0
	23	園開放、学校公開	0	1	3	2	1	7
	24	連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布	0	0	0	0	1	1
	25	その他	1	0	0	1	0	2

幼稚園・保育園の調査結果

【重要と考える理由】

重要度 1～5 のそれぞれについて、最も件数の多かった項目の理由は以下のようになっています。

①重要度 1

「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」（37 件）で記述があったのは 37 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 37 件より多くなっています）。

項目	件数
就学に対する期待・意識が高まるから	15
就学に対する不安の解消になるから	10
学校の様子がわかるから	7
体験することでわかることがあるから	4
就学へのスムーズな移行が図れるから	2
学校を身近に感じられるようになるから	1
学校の先生が 1 年時のスタートのプログラム作りの参考になるから	1
子ども同士が交流できるから	1

②重要度 2

「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」（20 件）で記述があったのは 20 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 20 件より多くなっています）。

項目	件数
就学に対する期待・意識が高まるから	11
就学に対する不安の解消になるから	4
就学へのスムーズな移行が図れるから	2
体験することでわかることがあるから	1
卒園生の様子を見ることで、子どもの成長を感じることができるから	1
様々な学校・園等との交流で視野を広げられるから	1
互いの環境を理解することで、きめ細かな指導に繋がっていただけるから	1
情報交換できるから	1
その他	1

③重要度 3

「活動（遊び）や学習を中心とした交流」（12 件）で記述があったのは 10 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 10 件より多くなっています）。

項目	件数
学校への関心が高まるから	2
就学に対する不安の解消になるから	2
小学生に対するあこがれが芽生えるから	1

子どもたちの仲が深まるから	1
違う遊びも知るから	1
保育に活かすことができるから	1
お互いの活動の理解のため	1
遊びを通して楽しさを味わうため	1
その他	1

④重要度 4

「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」（7件）で記述があったのは6件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は6件より多くなっています）。

項目	件数
就学に対する期待・意識が高まるから	4
就学に対する不安の解消になるから	1
学校の様子がわかるから	1
互いに理解し合う機会が増えるから	1

「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）」（7件）で記述があったのは7件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は7件より多くなっています）。

項目	件数
就学に対する不安の解消になるから	6
保護者と連携・協力するため	3

⑤重要度 5

「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学後）」（5件）で記述があったのは3件でした。

項目	件数
入学後の子どもの様子がわかるから	1
入学後も見学交流・意見交換することでより連携が深まると思うから	1
次に入学する子どもを保育するうえで重要になると思うから	1

「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）」（5件）で記述があったのは4件でした。

項目	件数
就学に対する不安の解消になるから	2
保護者と連携・協力するため	1
保護者に学んでほしい事があるから	1

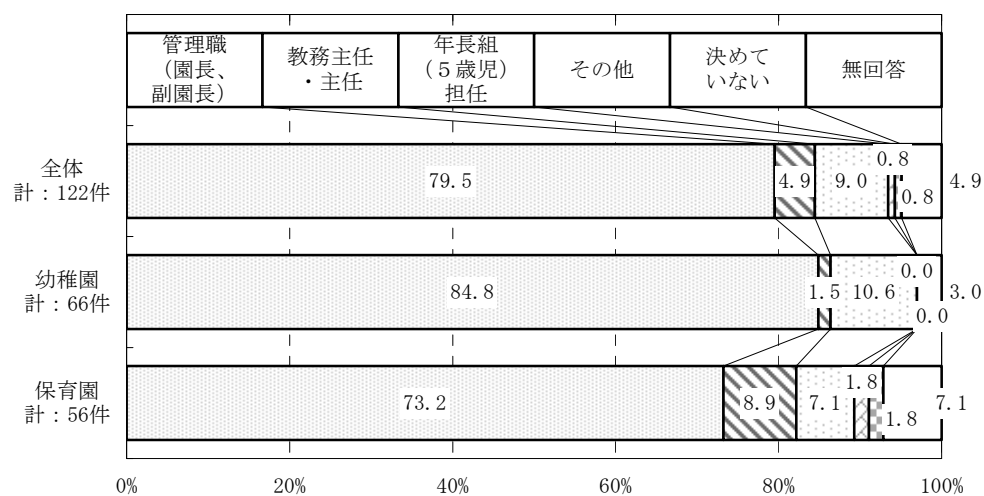
(6) 交流・連携の窓口の主な担当者

問6 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(○は1つだけ)

全体では、「管理職（園長、副園長）」が79.5%と最も高く、次いで「年長組（5歳児）担任」が9.0%、「教務主任・主任」が4.9%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「管理職（園長、副園長）」という回答は、幼稚園（84.8%）が保育園（73.2%）より割合が高くなっています。

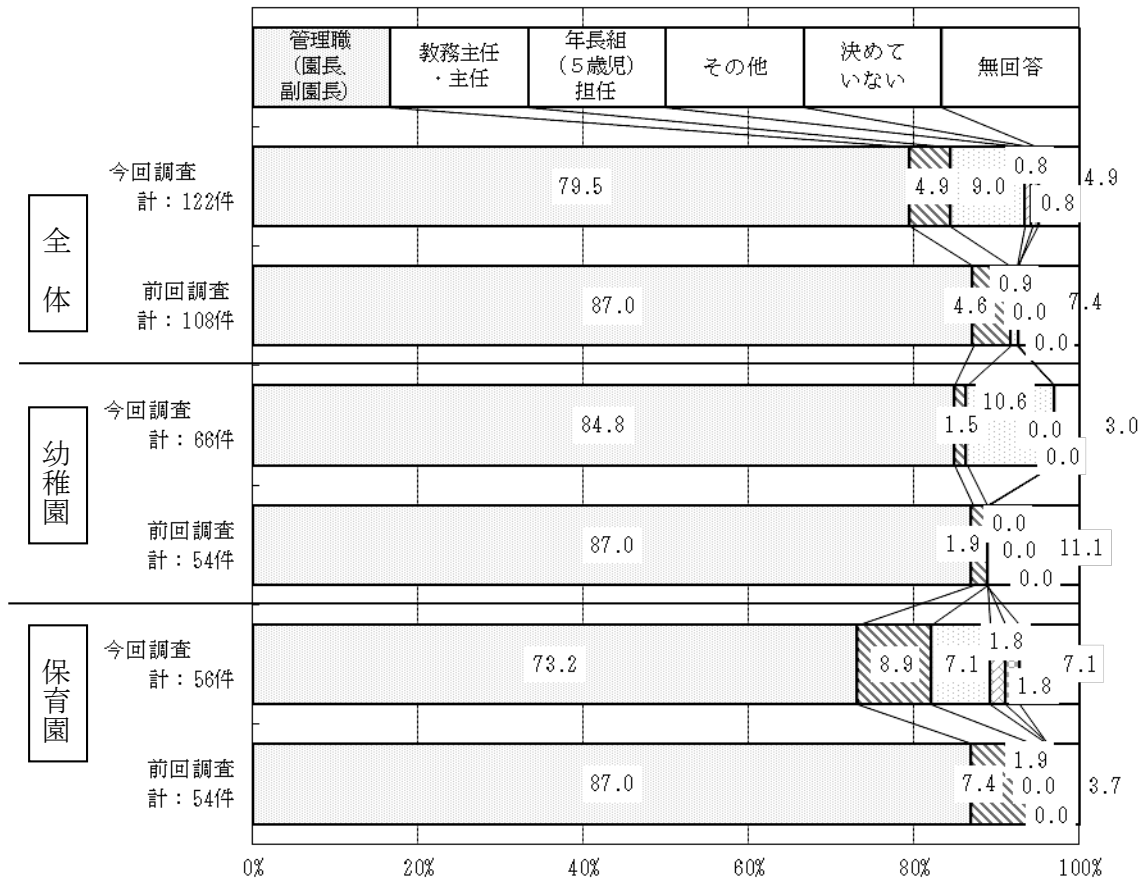
図1-13 交流・連携の窓口の主な担当者



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「管理職（園長、副園長）」という回答は保育園で割合が低くなっています。「年長組（5歳児）担任」という回答は全体、幼稚園、保育園とも比較的割合が高くなっています。

図 1-14 交流・連携の窓口の主な担当者（前回調査との比較）



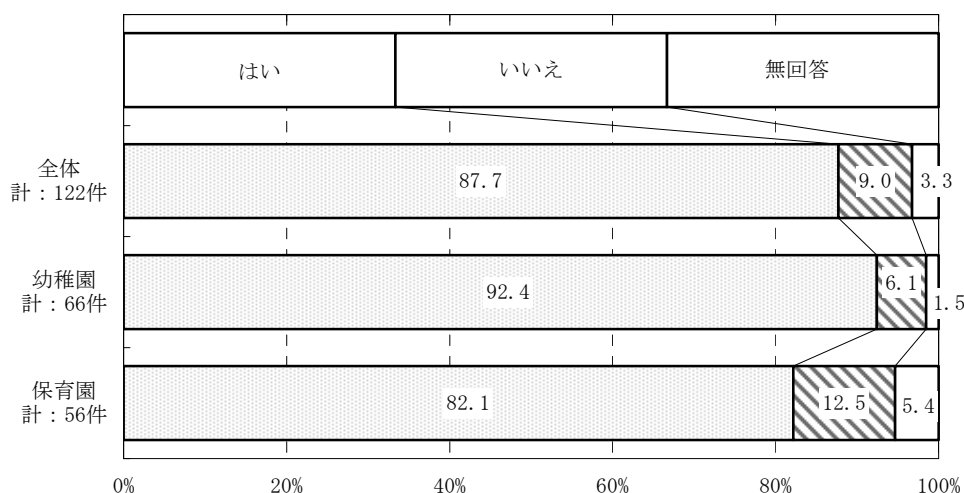
(7) 交流・連携の窓口の担当者の固定化

問7 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の窓口の担当者は、固定していますか。(○は1つだけ)

全体では、「はい」が87.7%、「いいえ」が9.0%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「はい」という回答は幼稚園(92.4%)が保育園(82.1%)より割合が高くなっています。

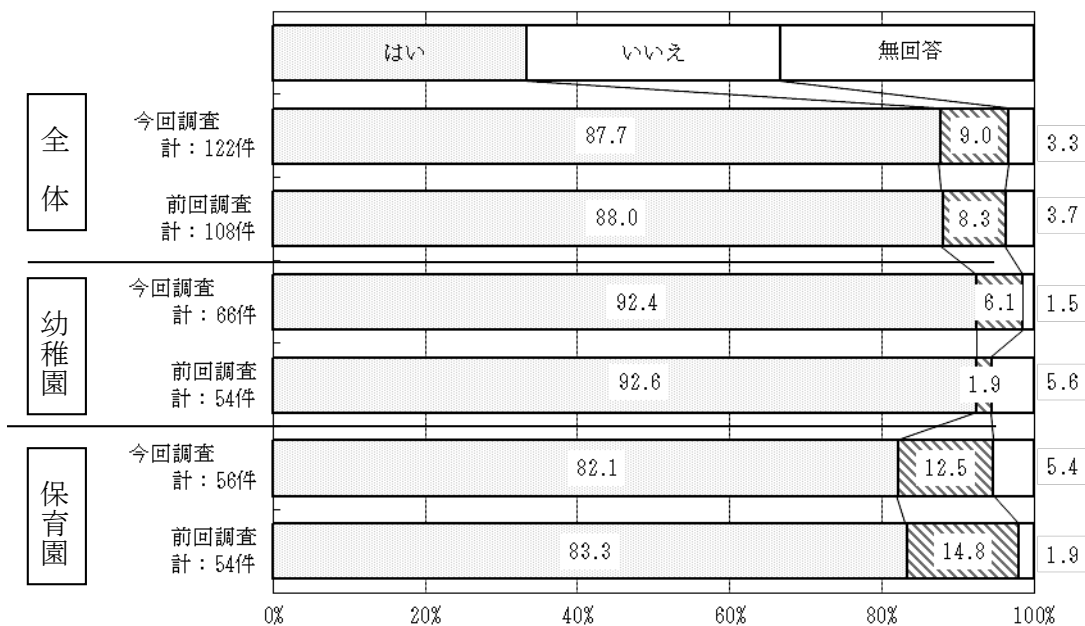
図1-15 交流・連携の窓口の担当者の固定化



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、全体、幼稚園、保育園とも、どの項目も概ね同じような割合となっています。

図1-16 交流・連携の窓口の担当者の固定化 (前回調査との比較)



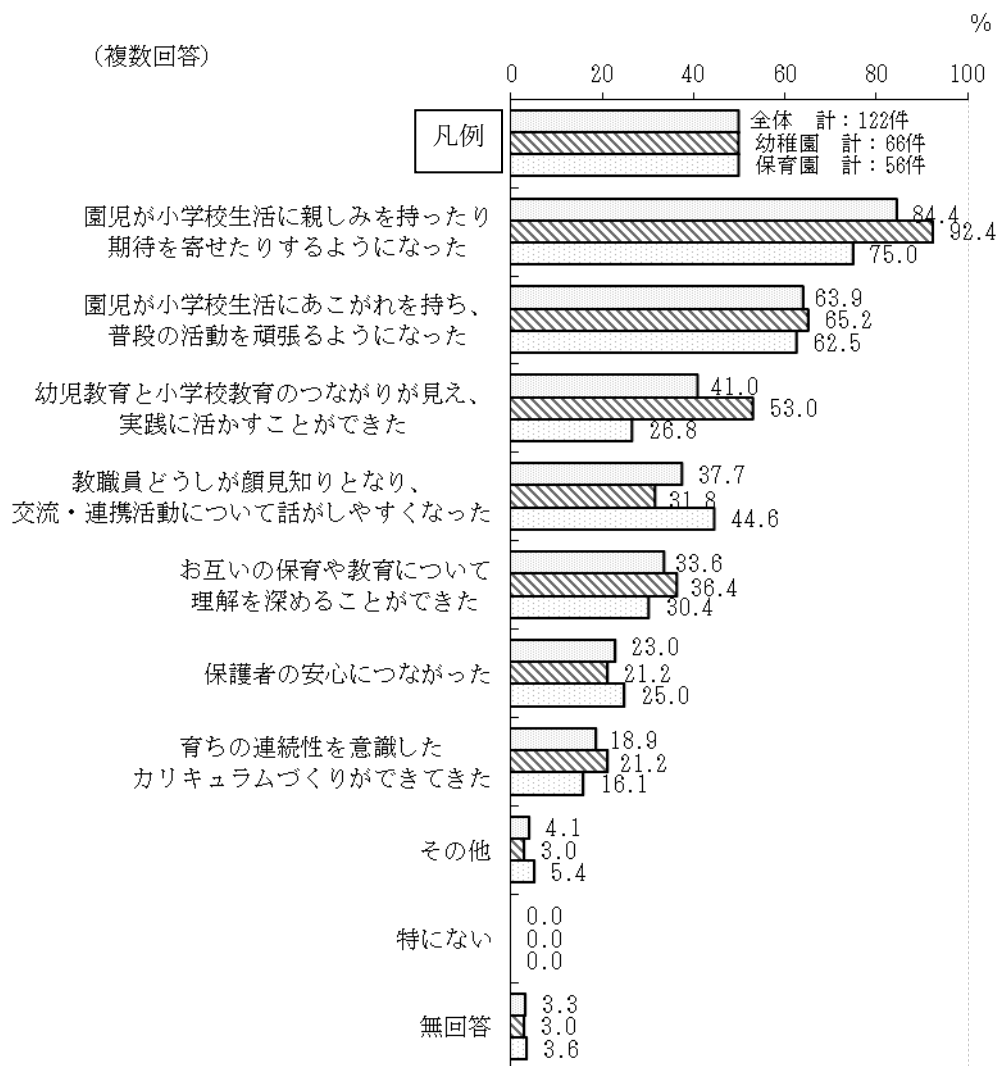
(8) 交流・連携を行って良かった点

問8 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「園児が小学校生活に親しみを持ったり期待を寄せたりするようになった」が84.4%と最も高く、次いで「園児が小学校生活にあこがれを持ち、普段の活動を頑張るようになった」が63.9%、「幼児教育と小学校教育のつながりが見え、実践に活かすことができた」が41.0%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「園児が小学校生活に親しみを持ったり期待を寄せたりするようになった」、「幼児教育と小学校教育のつながりが見え、実践に活かすことができた」という回答は幼稚園が保育園より割合が高くなっています。一方、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携活動について話がしやすくなった」という回答は保育園が幼稚園より割合が高くなっています。

図1-17 交流・連携を行って良かった点

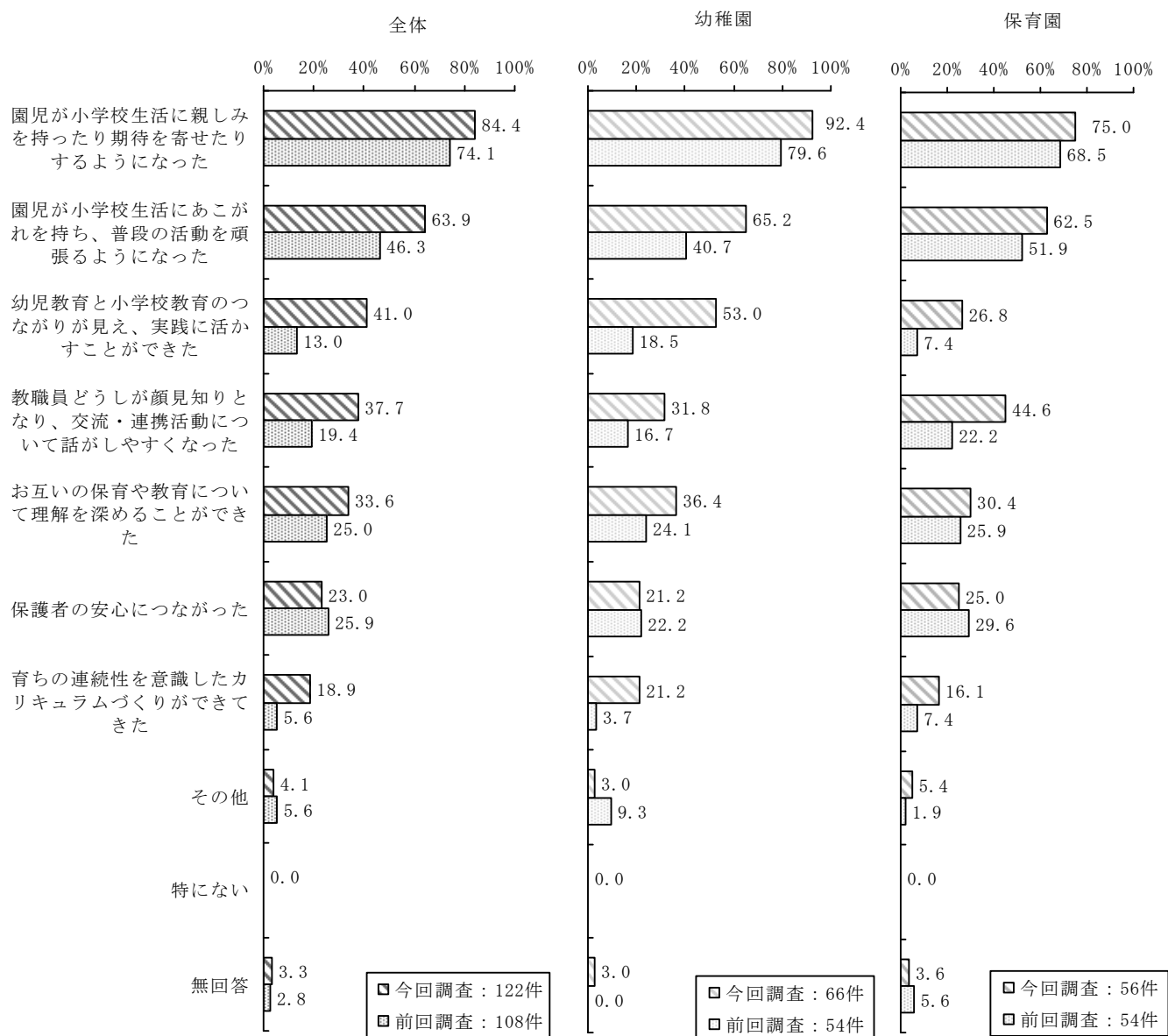


幼稚園・保育園の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、全体、幼稚園、保育園とも「保護者の安心につながった」以外はどの項目も割合が高くなっています。

図1-18 交流・連携を行って良かった点（前回調査との比較）



※ 前回調査は「特にない」の項目なし。

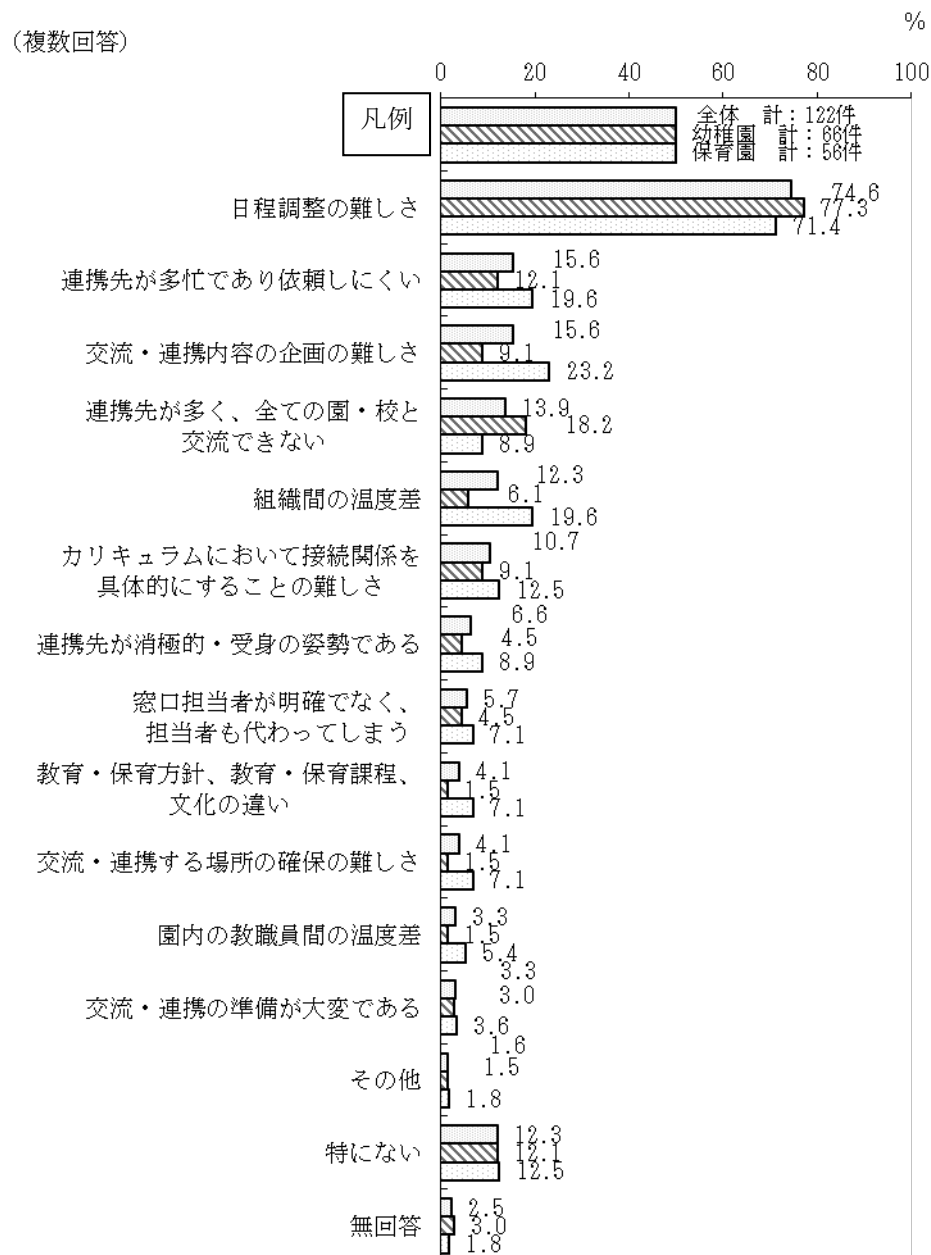
(9) 交流・連携の課題となる点

問9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「日程調整の難しさ」が74.6%と最も高く、次いで「連携先が多忙であり依頼しにくい」と「交流・連携内容の企画の難しさ」がそれぞれ15.6%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「交流・連携内容の企画の難しさ」、「組織間の温度差」という回答は、保育園が幼稚園より割合が高くなっています。

図1-19 交流・連携の課題となる点

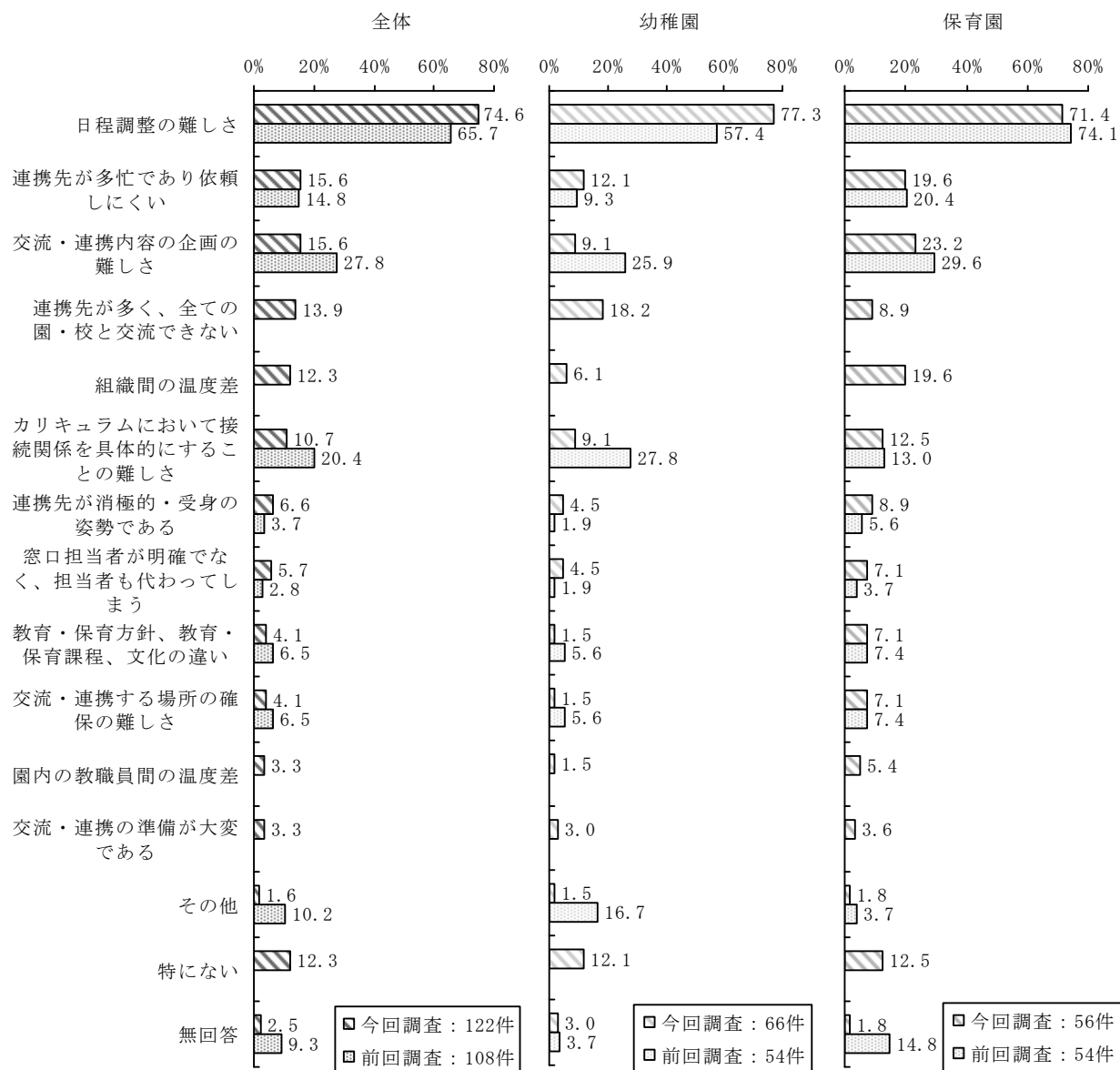


幼稚園・保育園の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「日程調整の難しさ」という回答は全体、幼稚園で高くなっています。一方、「交流・連携内容の企画の難しさ」という回答は全体、幼稚園、保育園とも低くなっています。また、「カリキュラムにおいて接続関係を具体的にすることの難しさ」という回答は全体、幼稚園では低くなっています。

図1-20 交流・連携の課題となる点（前回調査との比較）



※ 前回調査は「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「交流・連携の準備が大変である」、「特にない」の項目なし。「組織間の温度差」、「園内の教職員間の温度差」は内容が一部異なるため比較していない。

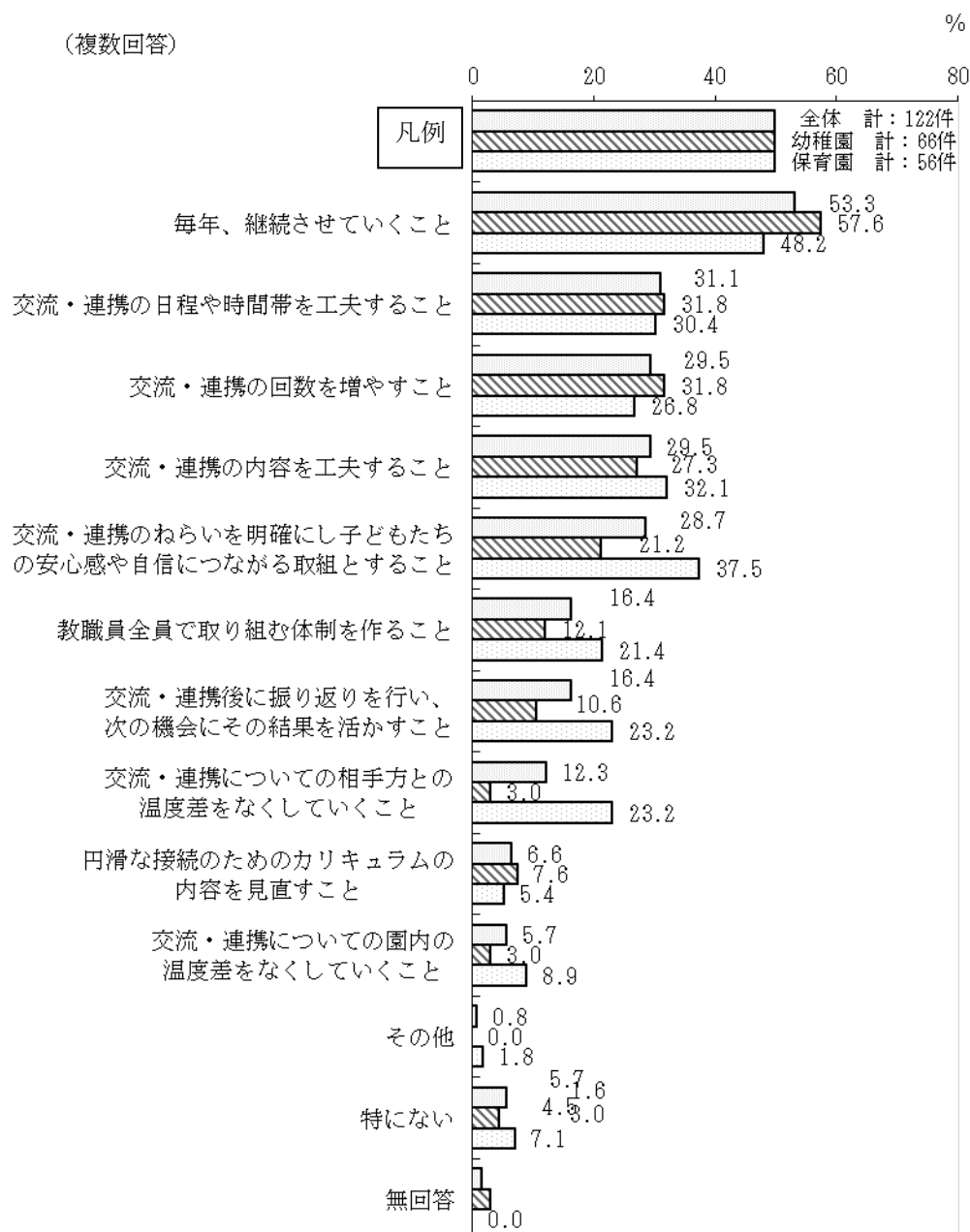
(10) 交流・連携で改善したい点

問 10 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「毎年、継続させていくこと」が 53.3%と最も高く、次いで「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」が 31.1%、「交流・連携の回数を増やすこと」と「交流・連携の内容を工夫すること」がそれぞれ 29.5%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「交流・連携のねらいを明確にし子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を活かすこと」、「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」という回答は保育園が幼稚園より割合が高くなっています。

図 1-21 交流・連携で改善したい点

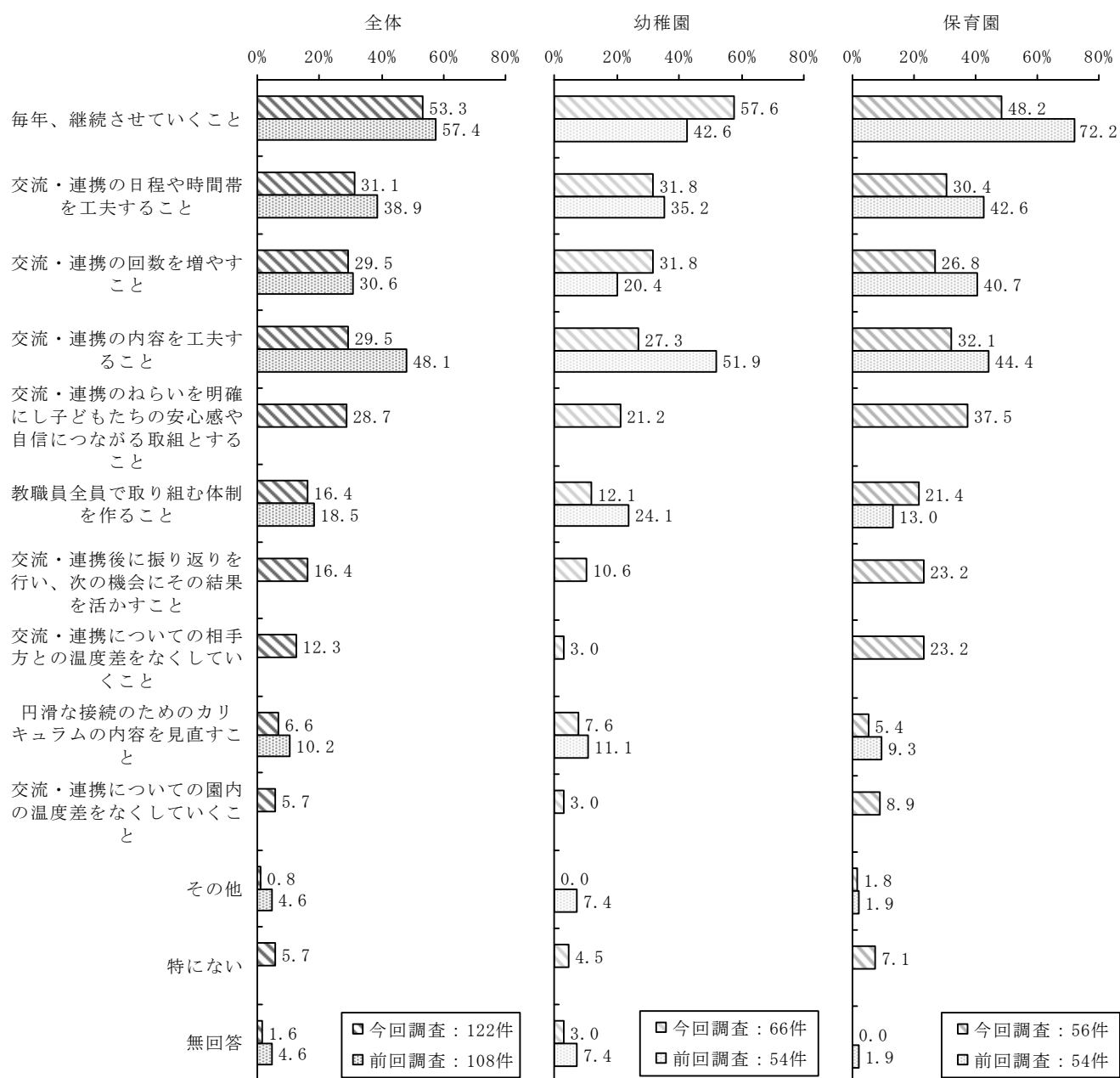


幼稚園・保育園の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「毎年、継続させていくこと」、「交流・連携の回数を増やすこと」という回答は幼稚園では割合が高くなっていますが、保育園では低くなっています。「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」という回答は保育園で、「交流・連携の内容を工夫すること」という回答は全体、幼稚園、保育園とも割合が低くなっています。「教職員全員で取り組む体制を作ること」という回答は、幼稚園では割合が低くなっていますが、保育園ではやや高くなっています。

図 1-22 交流・連携で改善したい点（前回調査との比較）



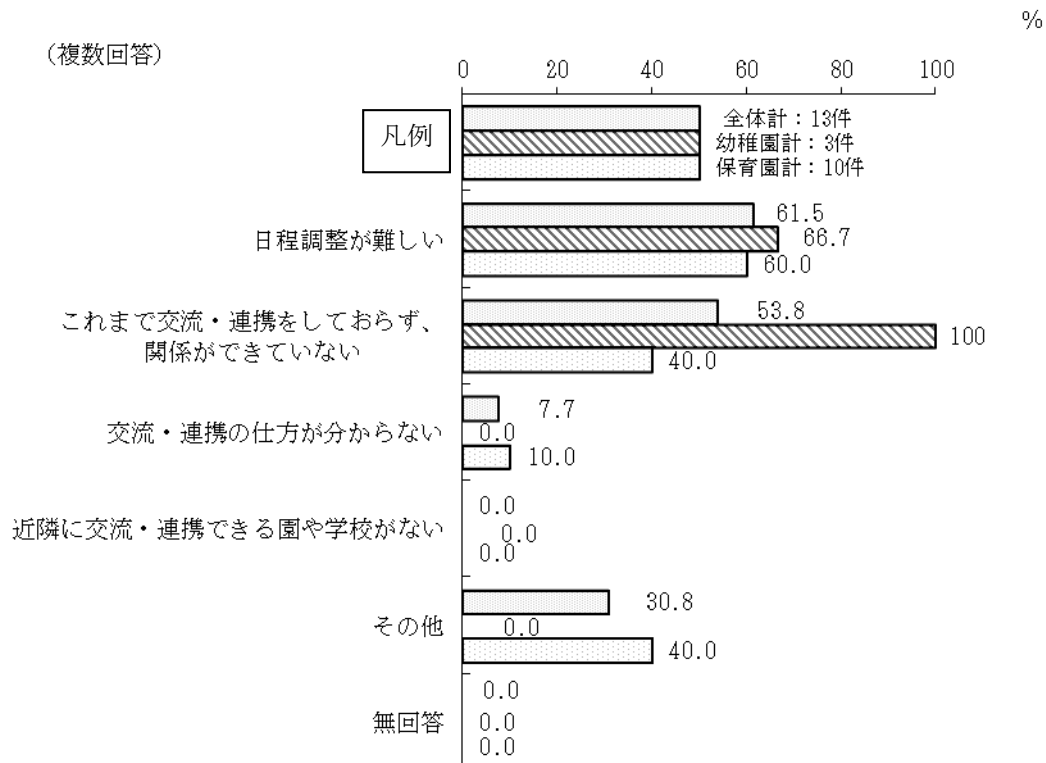
※ 前回調査は「交流・連携のねらいを明確にし子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を活かすこと」、「特にない」の項目なし。「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」、「交流・連携についての園内の温度差をなくしていくこと」、は内容が一部異なるため比較していない。

(11) 交流・連携の実施が困難な理由

問 11 【問 1 で 2 の「いいえ」に○をつけた場合に教えてください】 交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

全体では、「日程調整が難しい」が 61.5%と最も高く、次いで「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」が 53.8%、「交流・連携の仕方が分からない」が 7.7%となっています。

図 1-23 交流・連携の実施が困難な理由



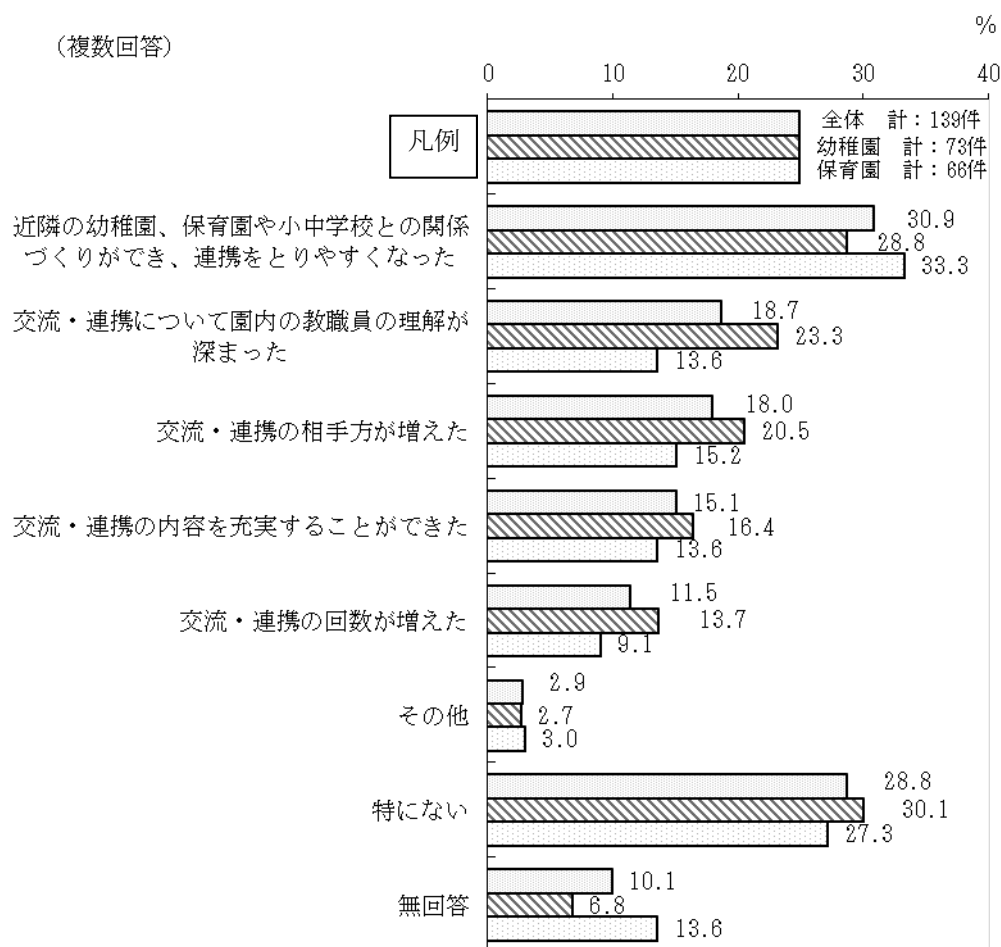
(12) 他園・校との交流・連携について改善されたこと

問 12 あなたの園において、昨年度（平成 24 年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

全体では、「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」が 30.9%と最も高く、次いで「交流・連携について園内の教職員の理解が深まった」が 18.7%、「交流・連携の相手方が増えた」が 18.0%となっています。一方で、「特にない」は 28.8%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「交流・連携について園内の教職員の理解が深まった」という回答は幼稚園（23.3%）が保育園（13.6%）より割合がやや高くなっています。

図 1-24 他園・校との交流・連携について改善されたこと



3 就学に向けた取組について

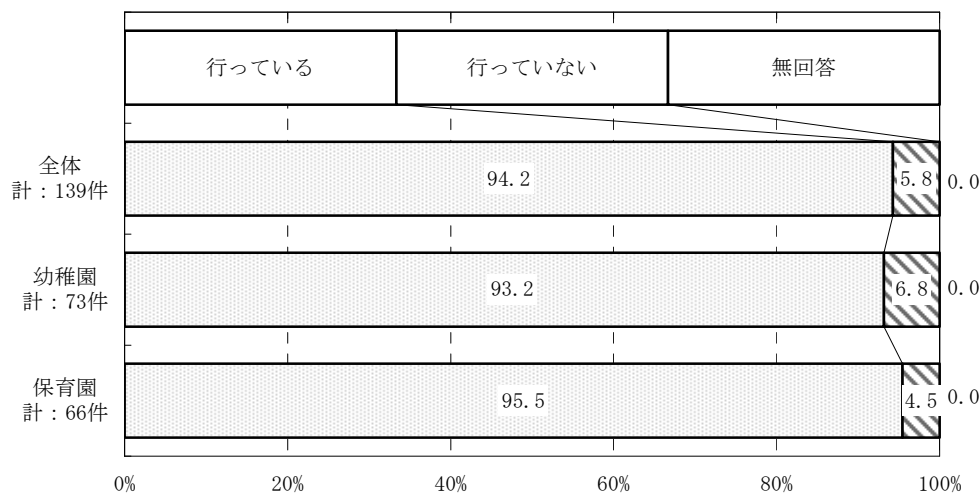
(1) 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況

問 13 あなたの園では、他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携以外に、小学校教育への接続を意識して行う幼児教育を行っていますか。(〇は1つだけ)

全体では、「行っている」が94.2%、「行っていない」が5.8%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園、保育園とも概ね同じような割合となっています。

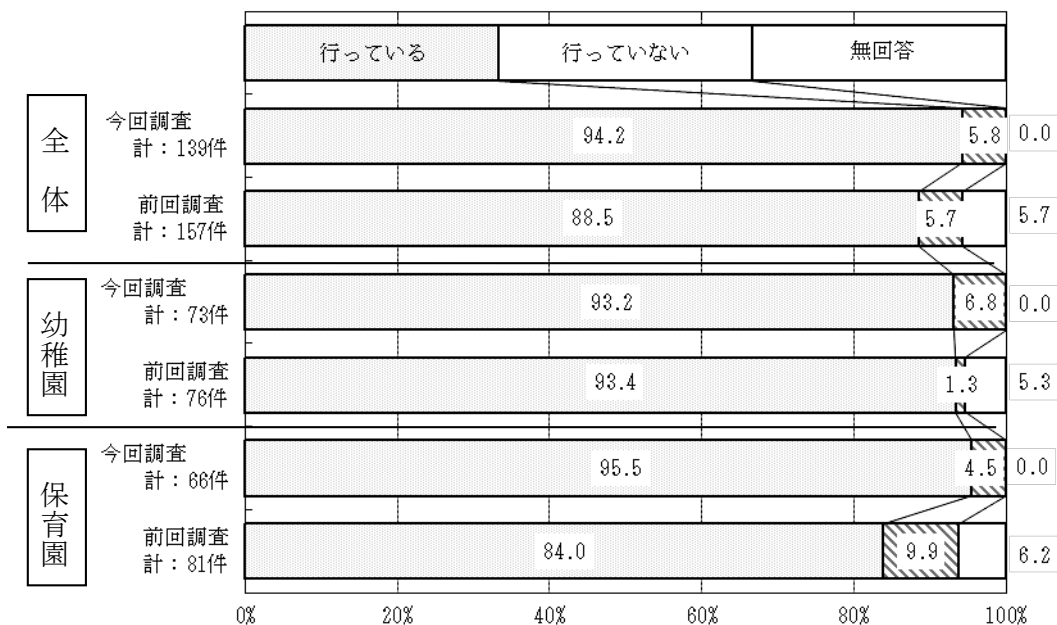
図 1-25 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「行っている」という回答は保育園で割合が高くなっています。

図 1-26 交流・連携以外に小学校教育への接続を意識した幼児教育の取組状況
(前回調査との比較)



(2) 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育

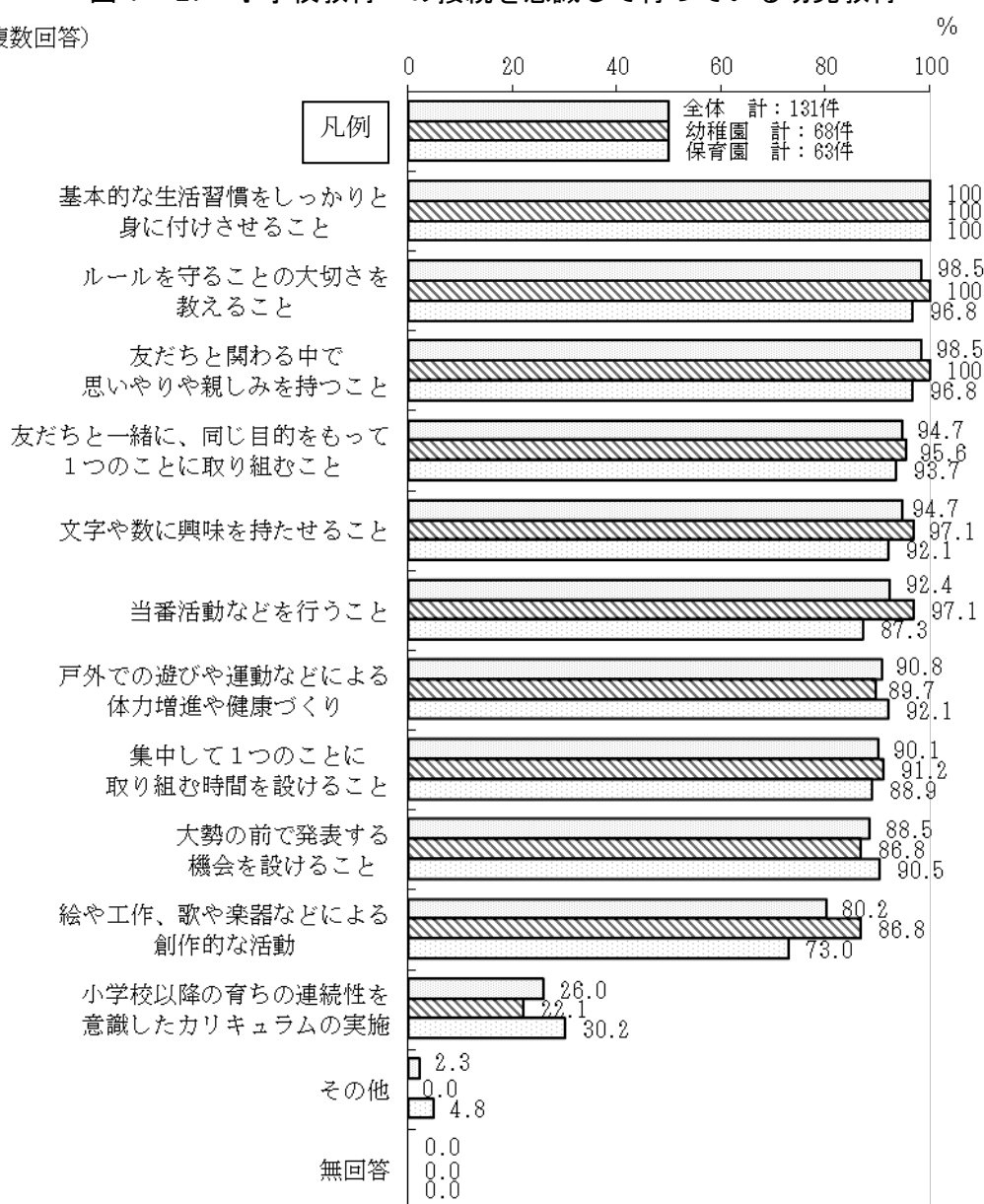
問 14 【問 13 で 1 の「行っている」に○をつけた場合に答えてください】 小学校教育への接続を意識して行う幼児教育として、どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること」が 100%と最も高く、次いで「ルールを守ることの大切さを教えること」と「友だちと関わる中で思いやりや親しみを持つこと」がそれぞれ 98.5%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「当番活動などを行うこと」、「絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動」という回答は幼稚園が保育園より割合が高くなっています。一方、「小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施」という回答は保育園 (30.2%) が幼稚園 (22.1%) より割合がやや高くなっています。

図 1-27 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育

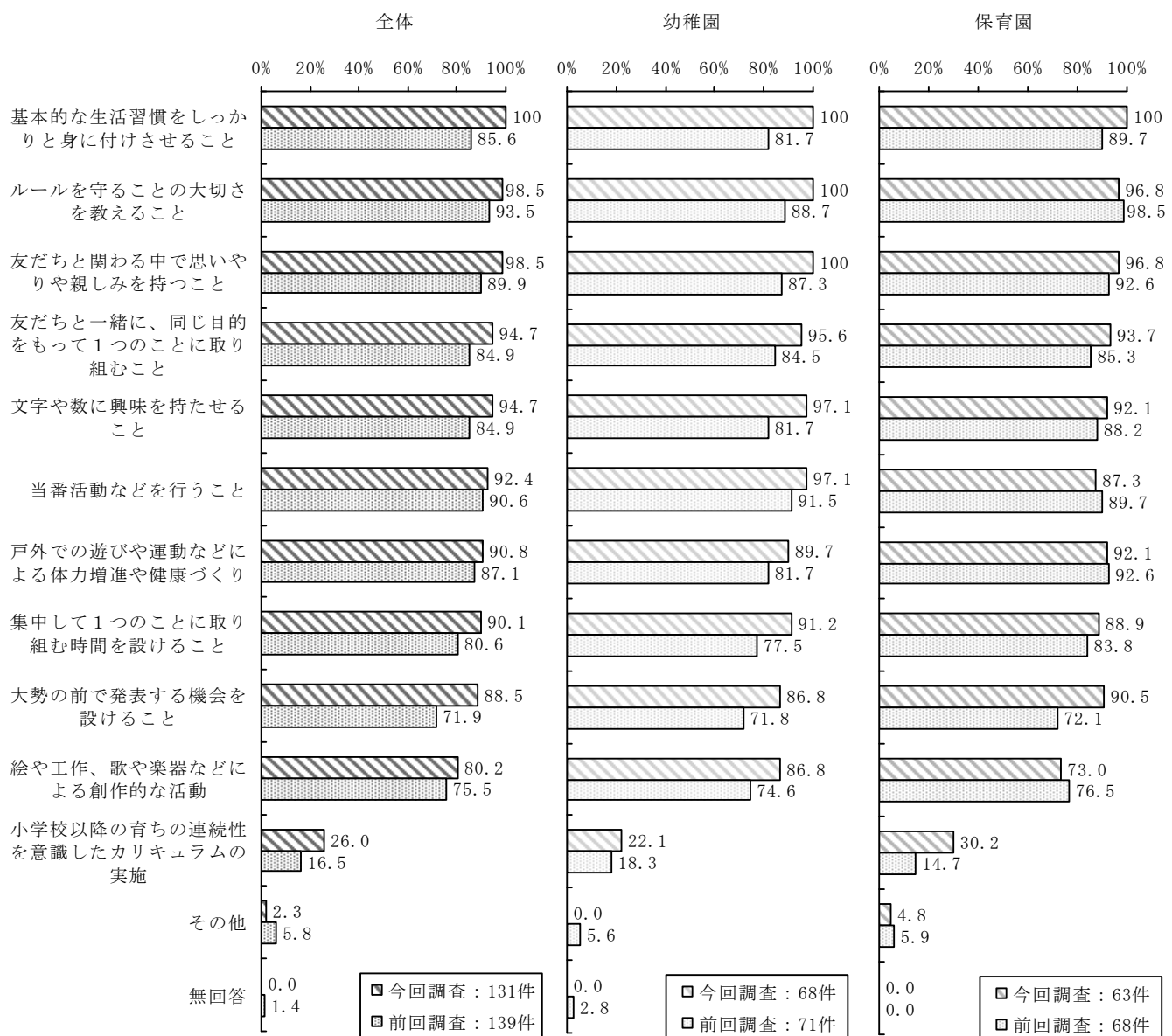
(複数回答)



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること」、「友だちと一緒に、同じ目的をもって1つのことに取り組むこと」、「集中して1つのことに取り組む時間を設けること」、「大勢の前で発表する機会を設けること」という回答は全体、幼稚園、保育園とも割合が高くなっています。「ルールを守ることの大切さを教えること」、「友だちと関わる中で思いやりや親しみを持つこと」、「文字や数に興味を持たせること」、「絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動」という回答は幼稚園で割合が高くなっています。「小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施」という回答は保育園で割合が高くなっています。

図1-28 小学校教育への接続を意識して行っている幼児教育（前回調査との比較）



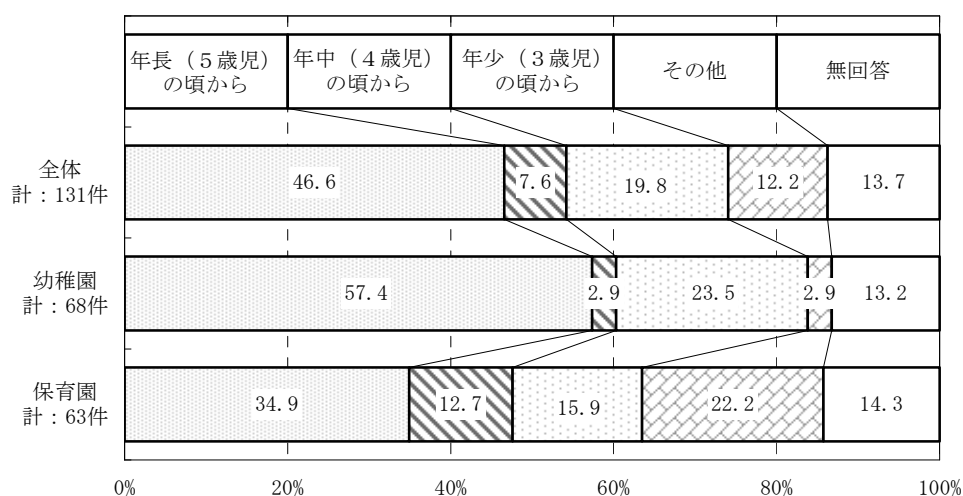
(3) 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期

問 15 【問 13 で 1 の「行っている」に○をつけた場合に答えてください】 小学校教育への接続を意識して行う幼児教育を、いつ頃から行っていますか。(○は1つだけ)

全体では、「年長（5歳児）の頃から」が46.6%と最も高く、次いで「年少（3歳児）の頃から」が19.8%、「その他」が12.2%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、幼稚園では「年長（5歳児）の頃から」の割合が最も高く、次いで、「年少（3歳児）の頃から」、「年中（4歳児）の頃から」、「その他」の順となっています。一方、保育園では、「年長（5歳児）の頃から」の割合が最も高く、次いで「その他」、「年少（3歳児）の頃から」の順となっています。

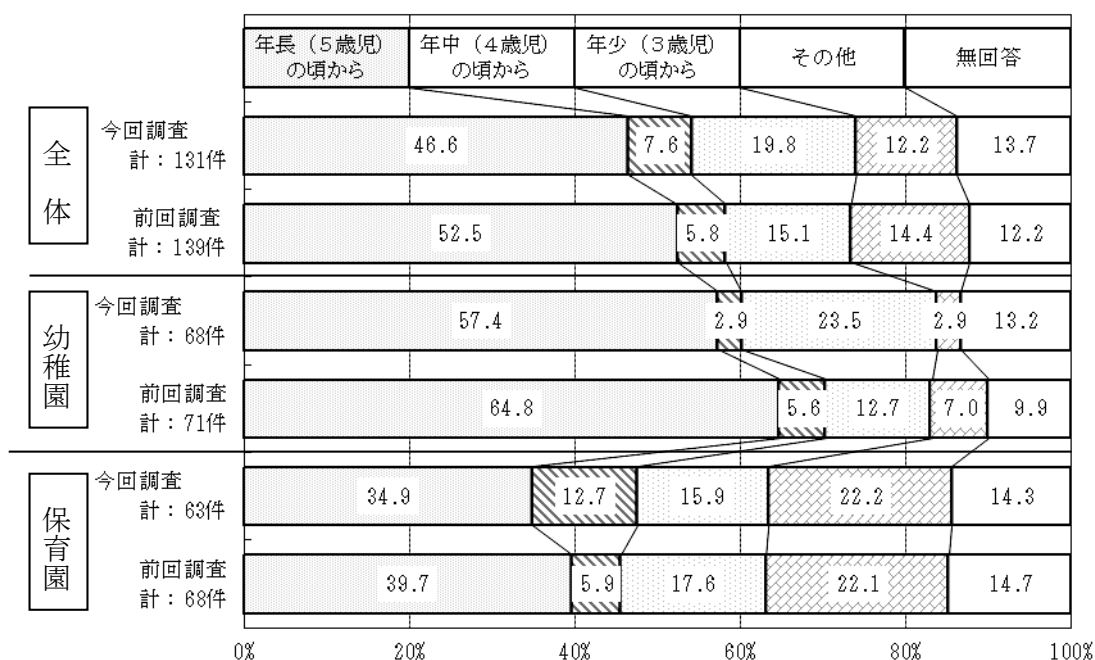
図 1-29 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期



【前回調査との比較】

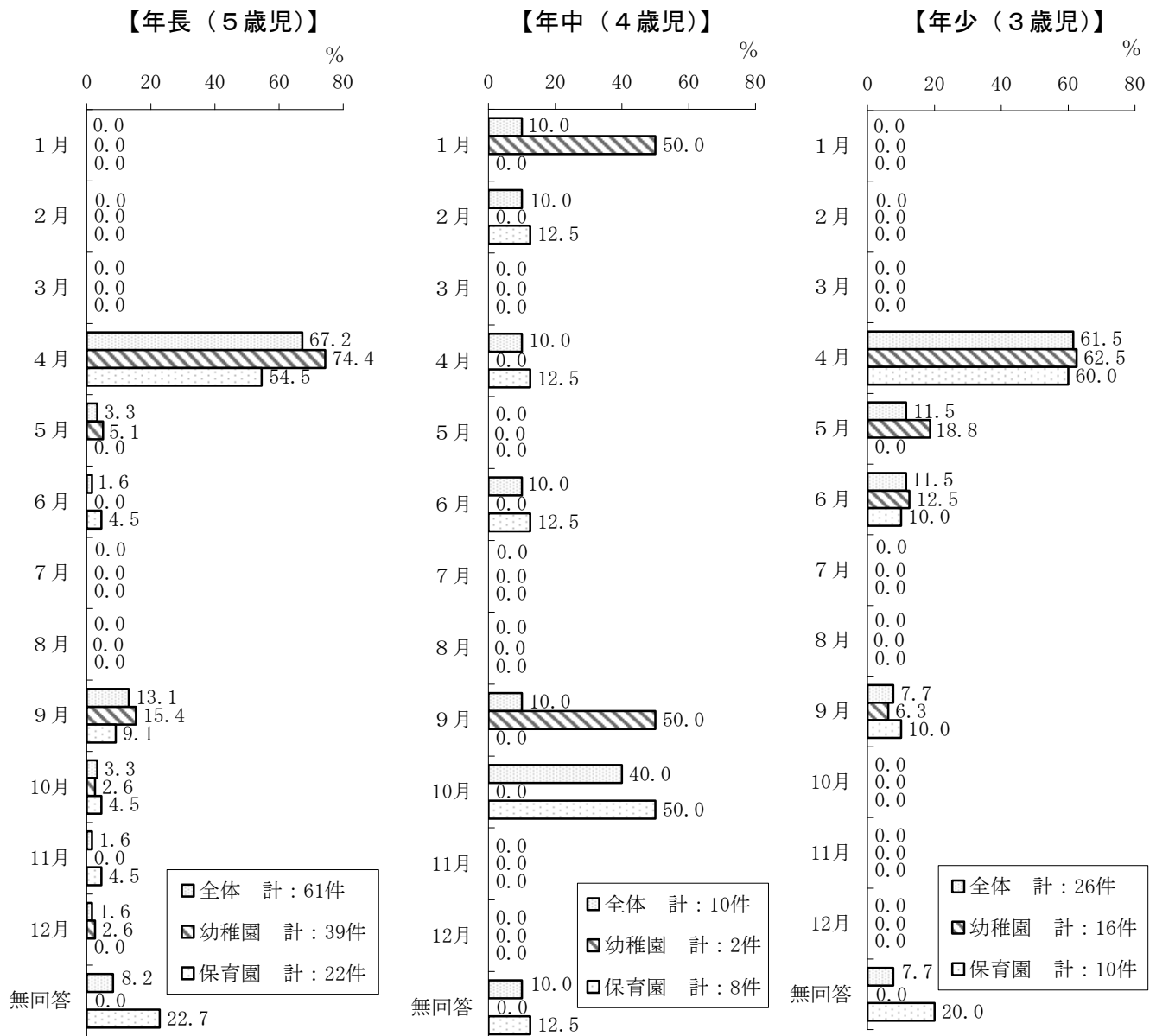
前回調査と比較すると、幼稚園では「年少（3歳児）の頃から」という回答の割合が高くなっています。保育園では「年中（4歳児）の頃から」という回答の割合がやや高くなっています。

図 1-30 小学校教育への接続を意識した幼児教育の実施時期（前回調査との比較）



学年ごとの実施時期（月）にみると、年長児（５歳児）では「４月」という回答が最も割合が高くなっています。

図１－31 学年ごとの実施時期



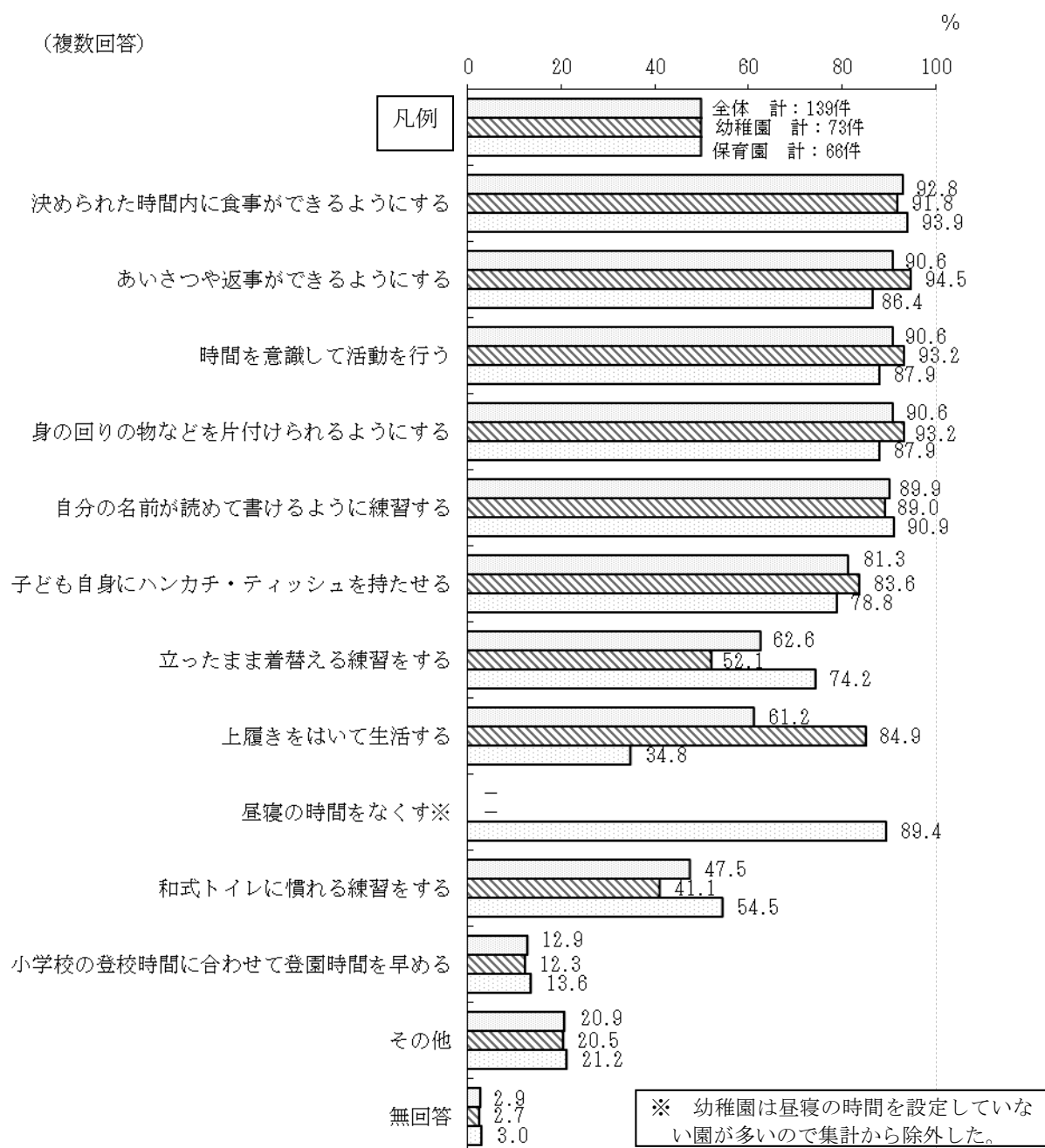
(4) 就学に向けて行っている具体的な取組

問 16 あなたの園では、就学に向けた具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。(あてはまるもの全てに○、開始時期(年長・5歳児、年中・4歳児、年少・3歳児)の何月頃からかを記入)

全体では、「決められた時間内に食事ができるようにする」が92.8%と最も高く、次いで「あいさつや返事ができるようにする」、「時間を意識して活動を行う」、「身の回りの物などを片付けられるようにする」がそれぞれ90.6%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「立ったまま着替える練習をする」、「和式トイレに慣れる練習をする」という回答は保育園が幼稚園より割合が高くなっています。一方、「上履きをはいて生活する」という回答は幼稚園が保育園より割合が高くなっています。

図1-32 就学に向けて行っている具体的な取組



【開始時期】

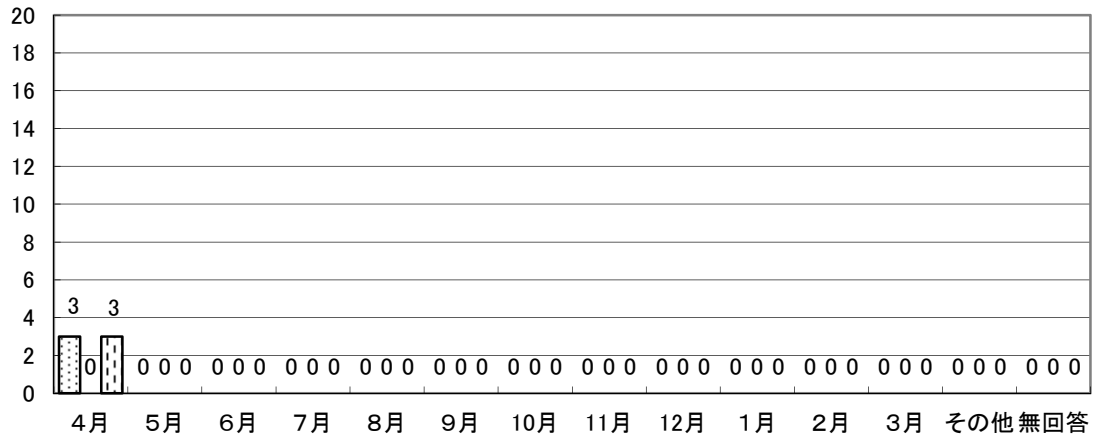
それぞれの取組の開始時期は以下のとおりです。なお、「年少（3歳児）」、「年中（4歳児）」、「年長（5歳児）」以外の回答のデータは省略しているため、図1-32と差が出るものがあります。

①小学校の登校時間に合わせて登園時間を早める

図1-33 小学校の登校時間に合わせて登園時間を早める（開始時期）

【年少（3歳児）】

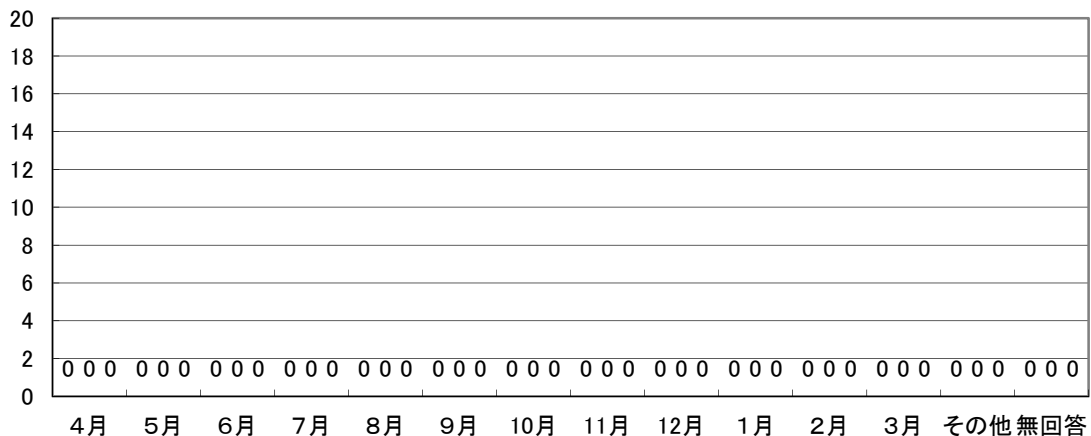
単位：件



□全体年少・3歳児(計:3件) □幼稚園年少・3歳児(計:0件) □保育園年少・3歳児(計:3件)

【年中（4歳児）】

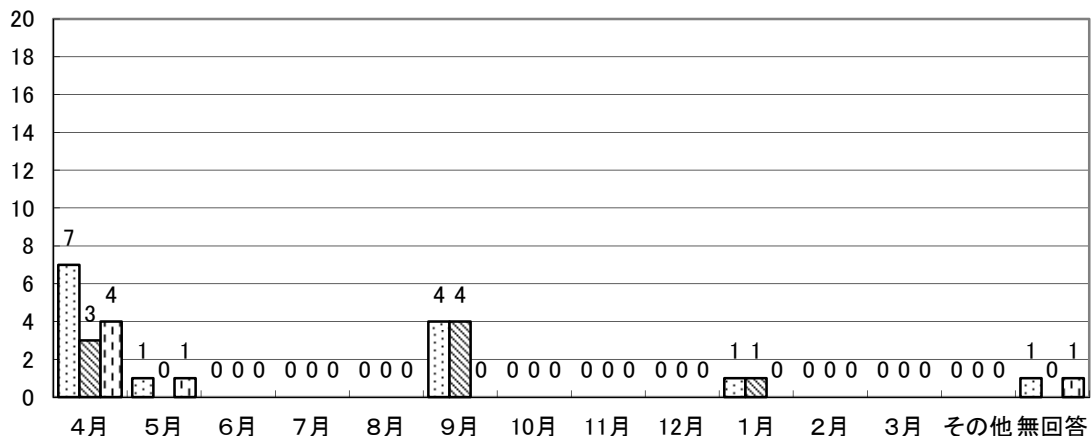
単位：件



□全体年少・4歳児(計:0件) □幼稚園年中・4歳児(計:0件) □保育園年中・4歳児(計:0件)

【年長（5歳児）】

単位：件



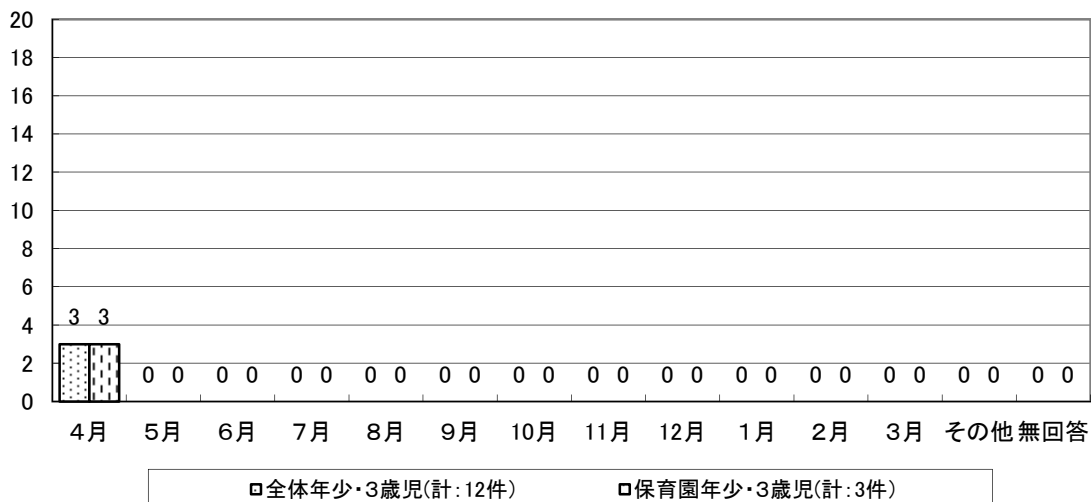
□全体年長・5歳児(計:14件) □幼稚園年長・5歳児(計:8件) □保育園年長・5歳児(計:6件)

②昼寝の時間をなくす

図 1-34 昼寝の時間をなくす（開始時期）

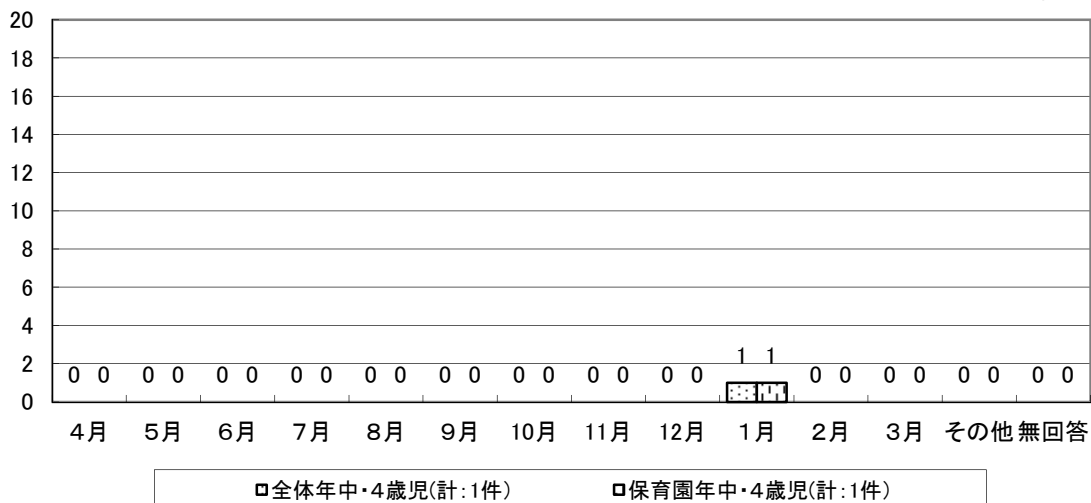
【年少（3歳児）】

単位：件



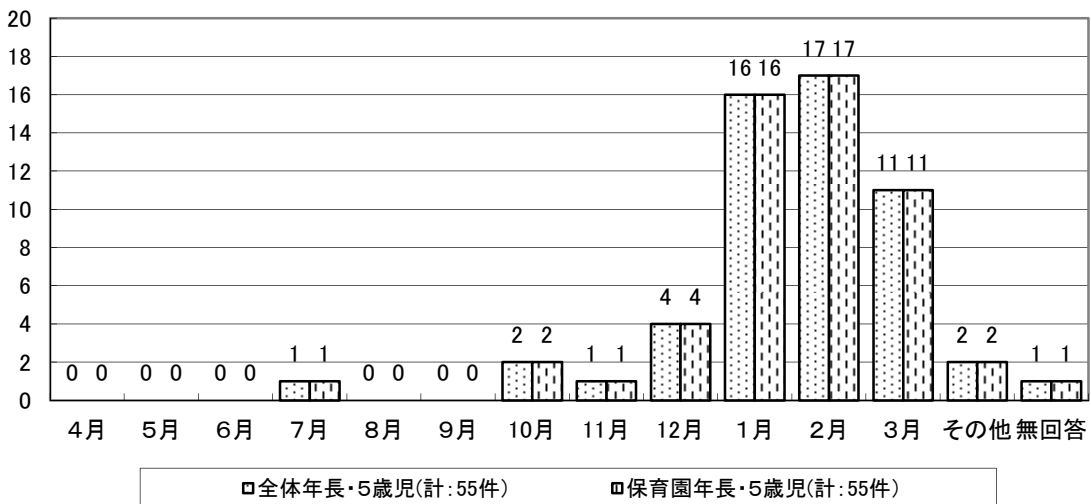
【年中（4歳児）】

単位：件



【年長（5歳児）】

単位：件

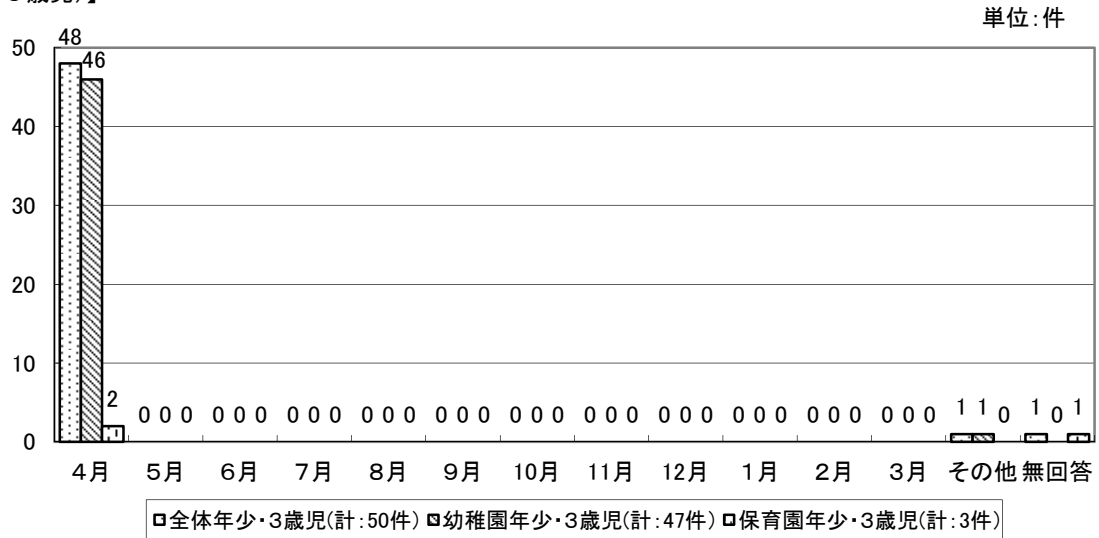


※ 幼稚園は昼寝の時間を設定していない園が多いので集計から除外した。

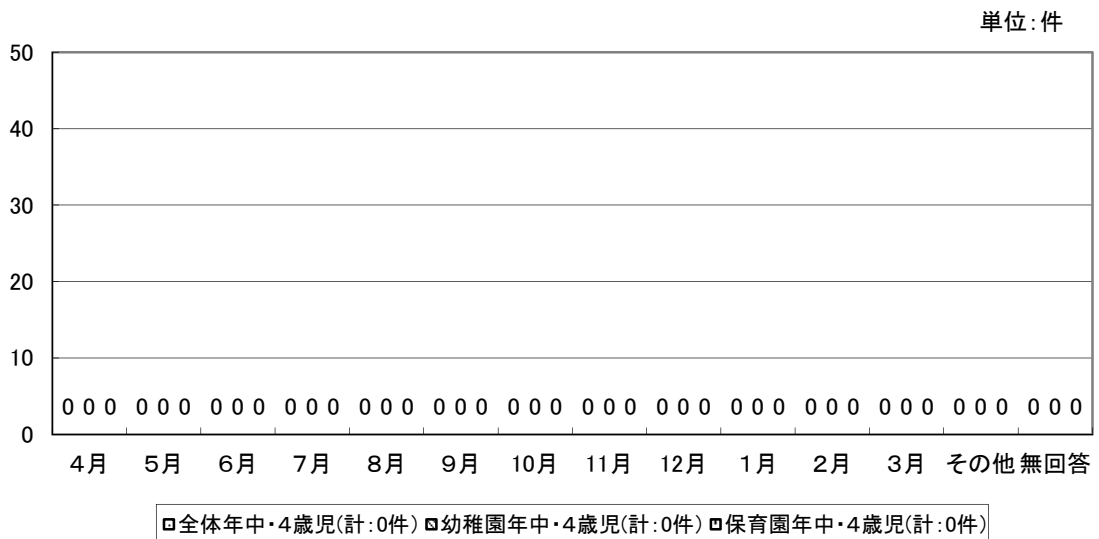
③子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる

図 1-35 子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる（開始時期）

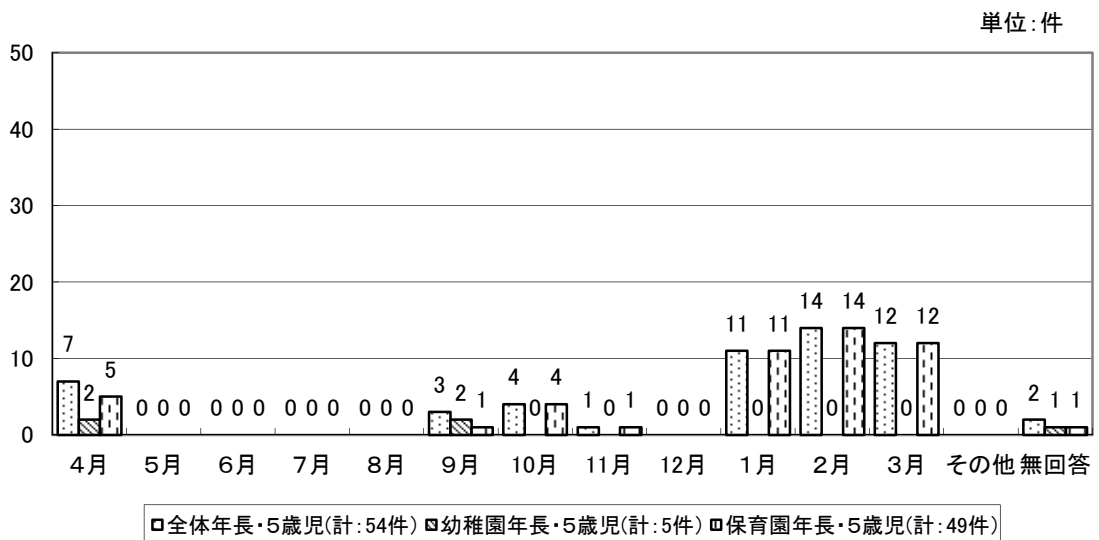
【年少（3歳児）】



【年中（4歳児）】



【年長（5歳児）】

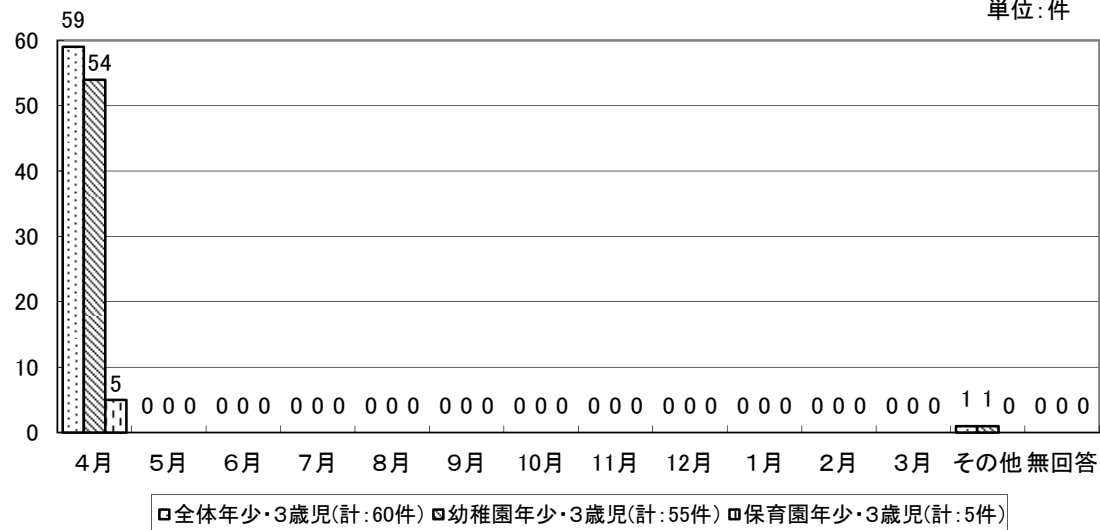


④上履きをはいて生活する

図 1-36 上履きをはいて生活する（開始時期）

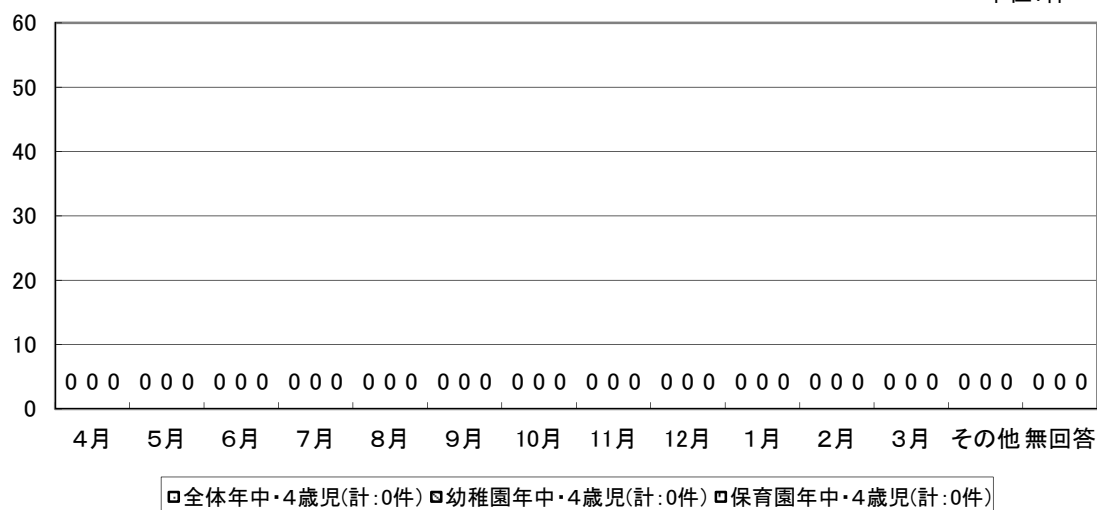
【年少（3歳児）】

単位：件



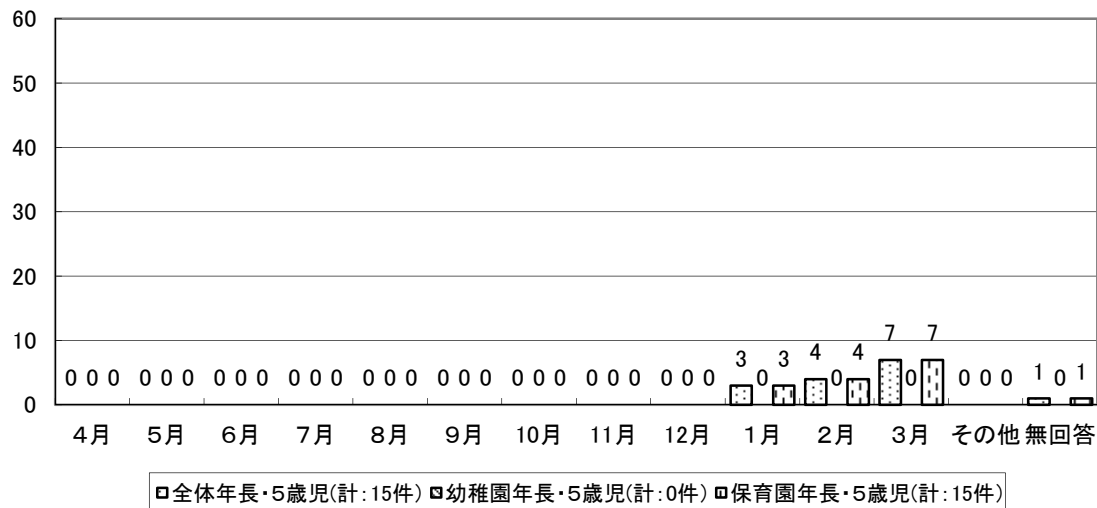
【年中（4歳児）】

単位：件



【年長（5歳児）】

単位：件

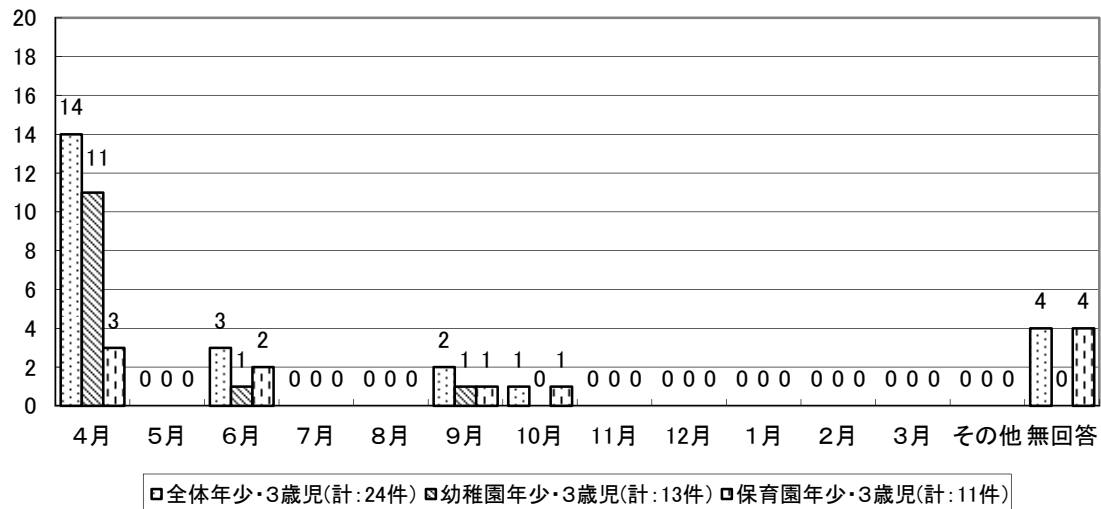


⑤立ったまま着替える練習をする

図 1-37 立ったまま着替える練習をする（開始時期）

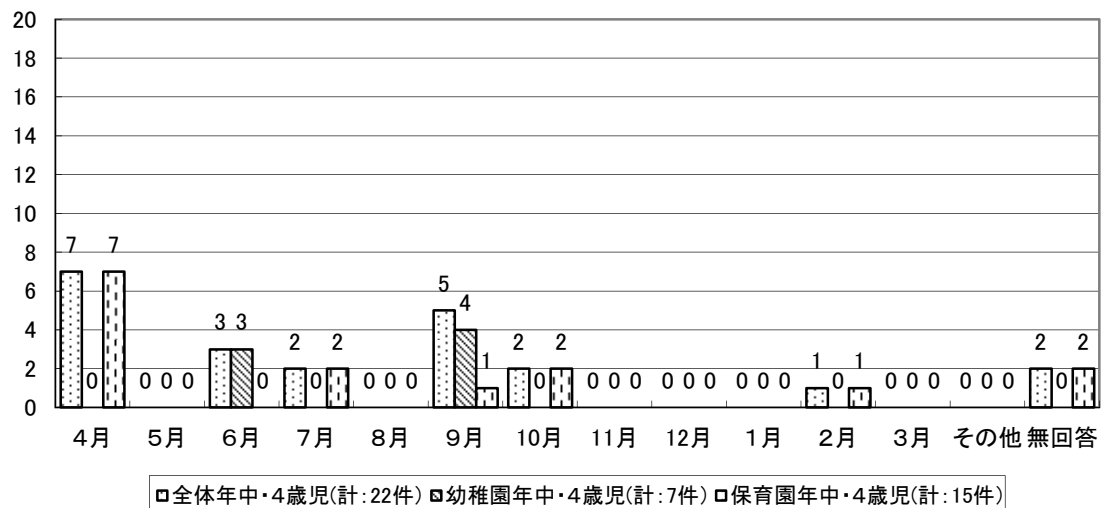
【年少（3歳児）】

単位：件



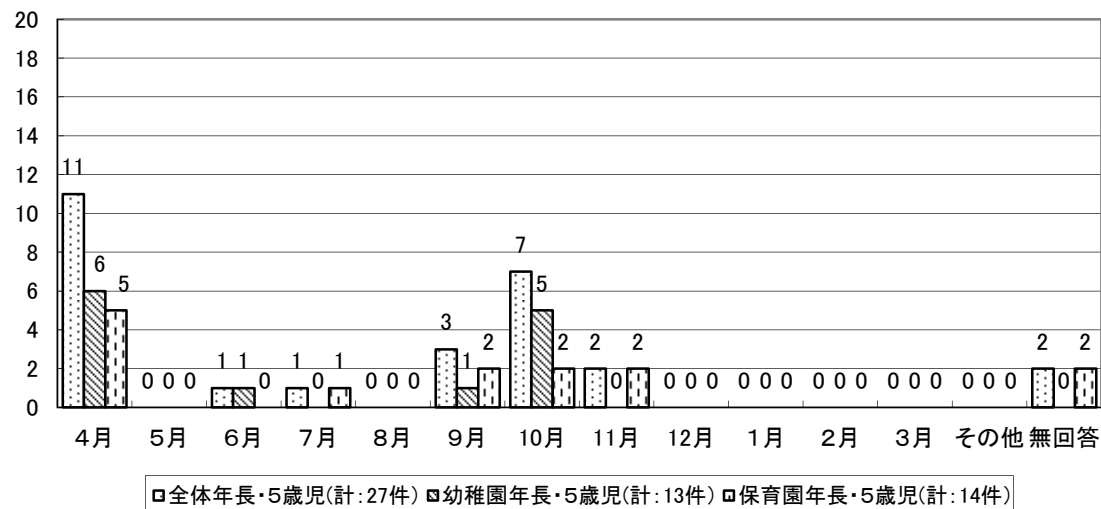
【年中（4歳児）】

単位：件



【年長（5歳児）】

単位：件

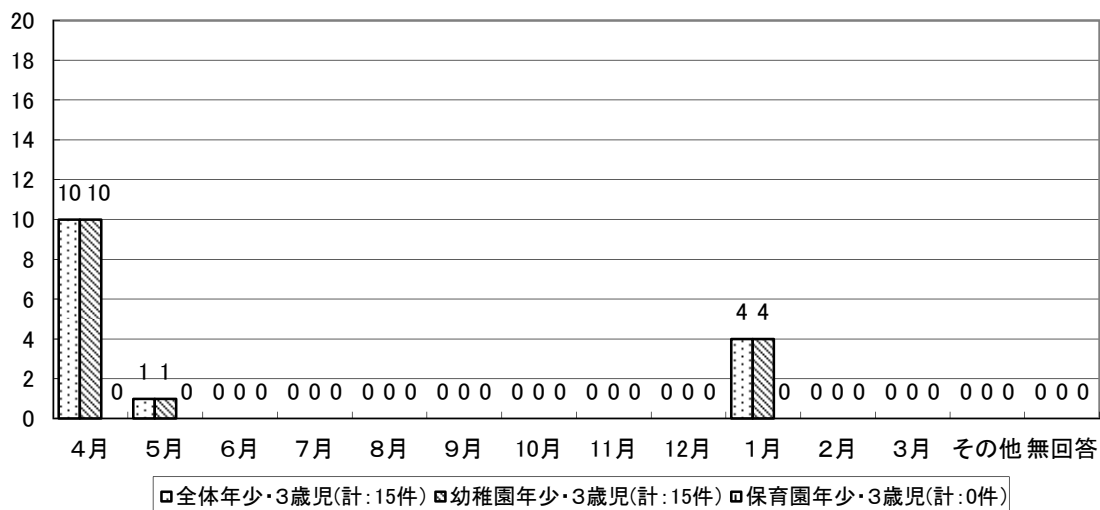


⑥和式トイレに慣れる練習をする

図 1-38 和式トイレに慣れる練習をする（開始時期）

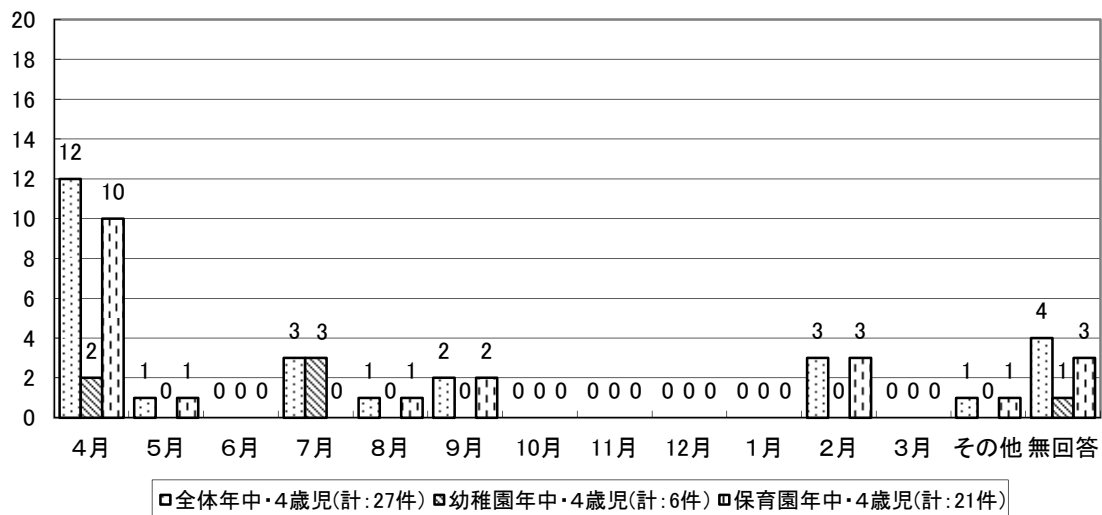
【年少（3歳児）】

単位：件



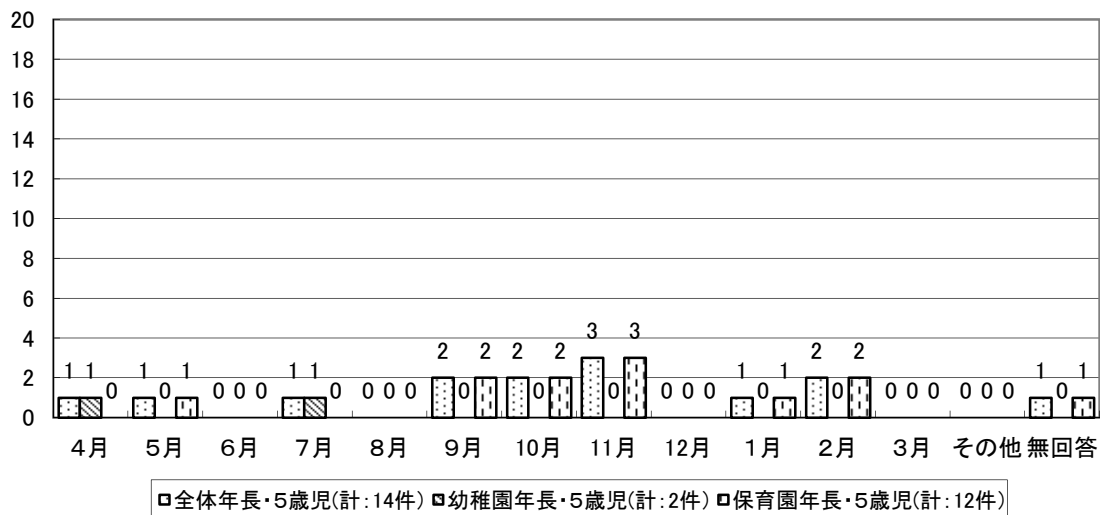
【年中（4歳児）】

単位：件



【年長（5歳児）】

単位：件

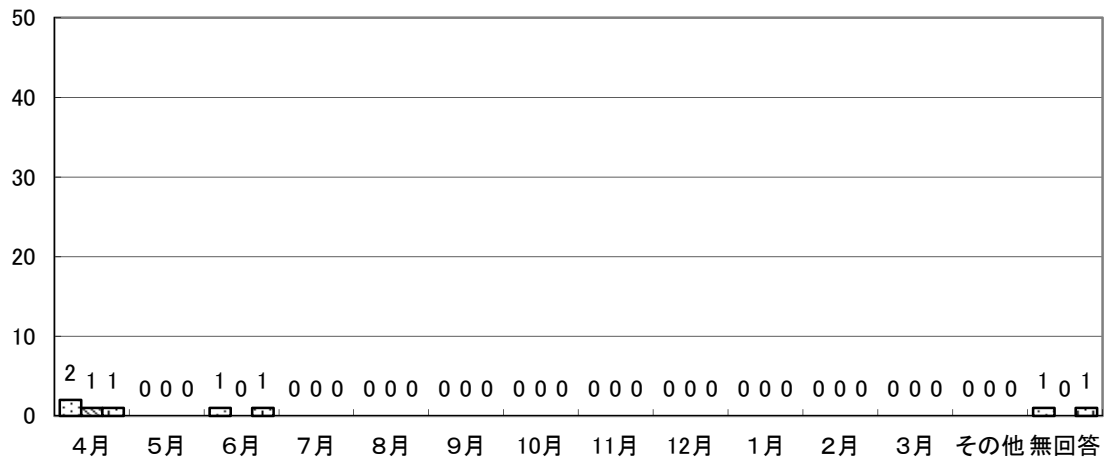


⑦自分の名前が読めて書けるように練習する

図 1-39 自分の名前が読めて書けるように練習する（開始時期）

【年少（3歳児）】

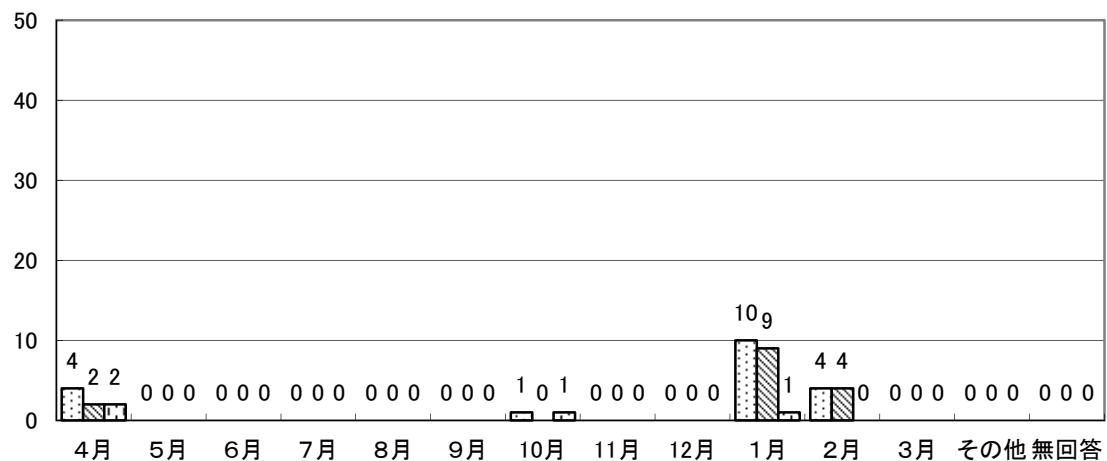
単位：数



□全体年少・3歳児(計:4件) □幼稚園年少・3歳児(計:1件) □保育園年少・3歳児(計:3件)

【年中（4歳児）】

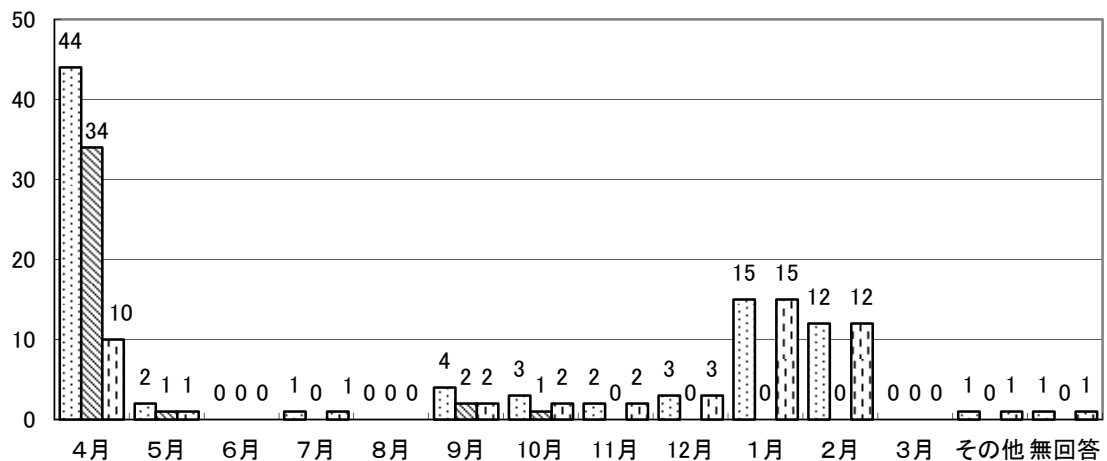
単位：件



□全体年中・4歳児(計:19件) □幼稚園年中・4歳児(計:15件) □保育園年中・4歳児(計:4件)

【年長（5歳児）】

単位：件



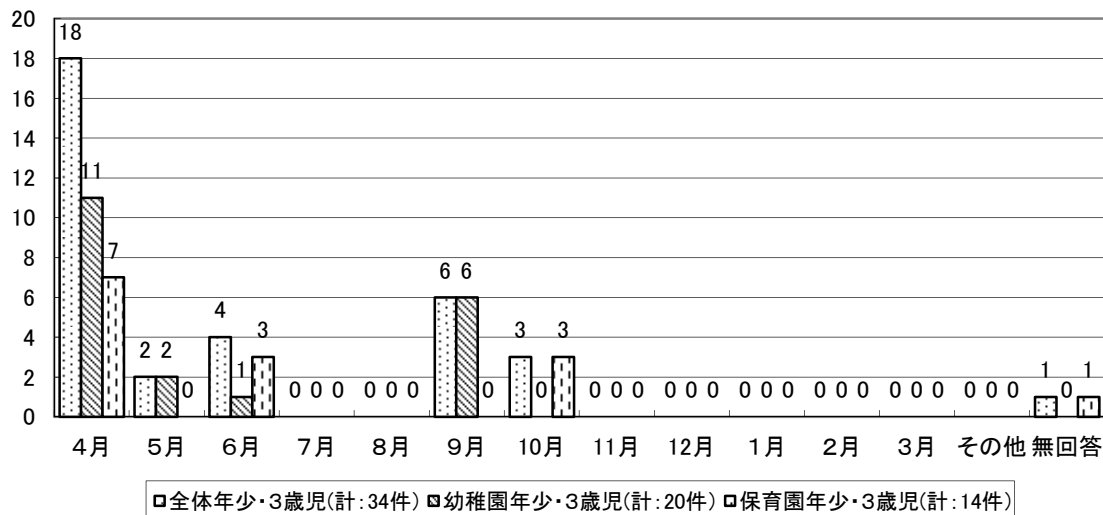
□全体年長・5歳児(計:88件) □幼稚園年長・5歳児(計:38件) □保育園年長・5歳児(計:50件)

⑧決められた時間内に食事ができるようにする

図 1-40 決められた時間内に食事ができるようにする（開始時期）

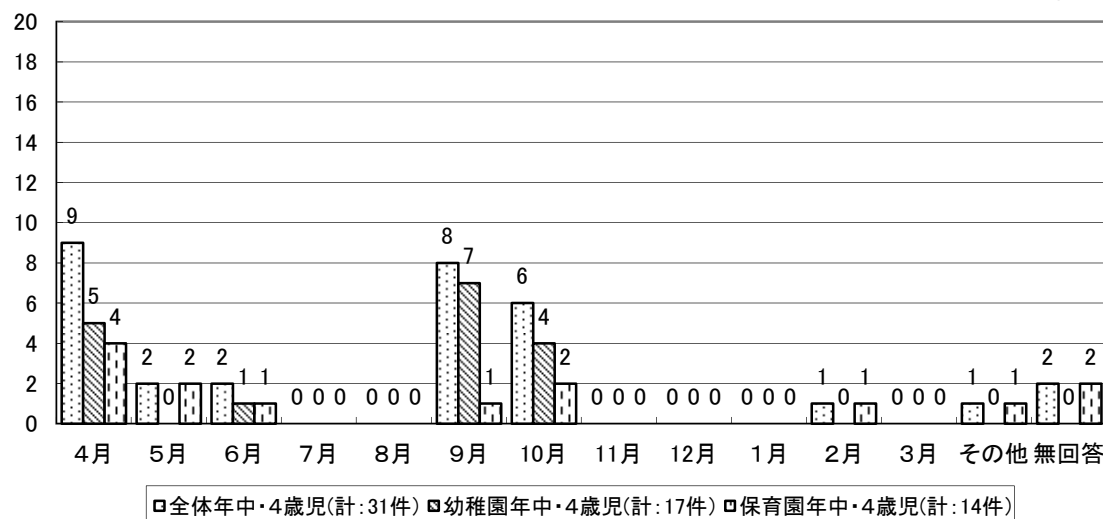
【年少（3歳児）】

単位：件



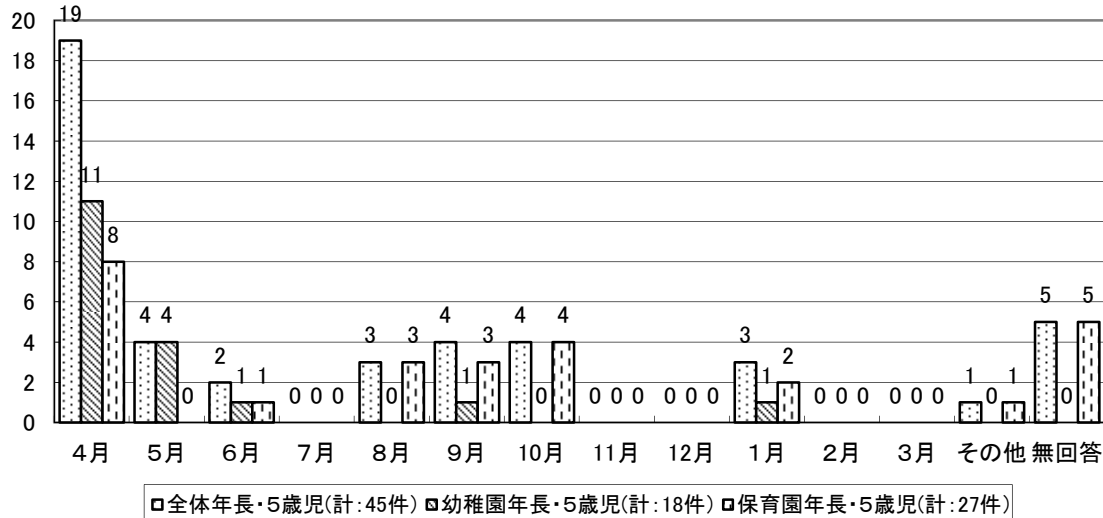
【年中（4歳児）】

単位：件



【年長（5歳児）】

単位：件

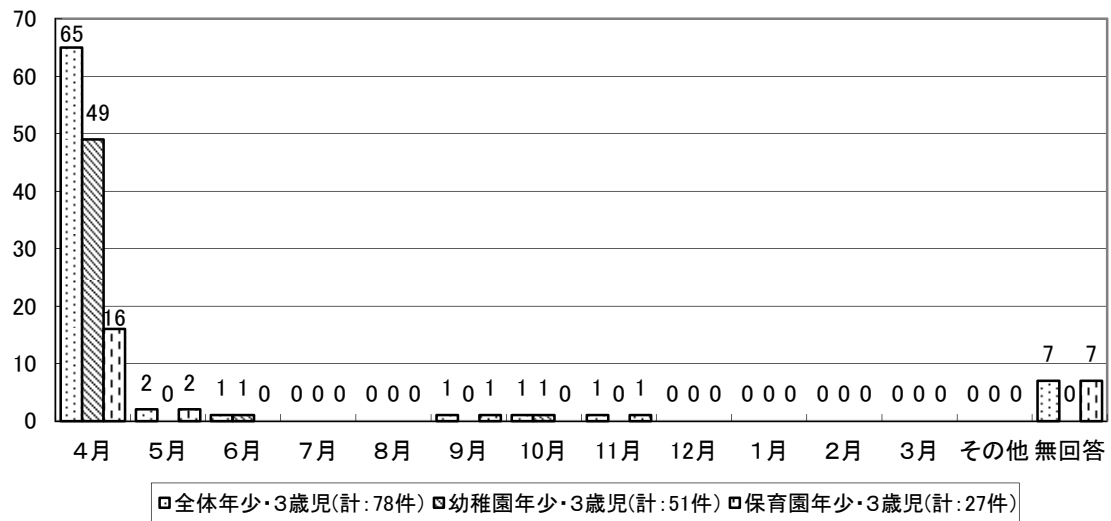


⑨あいさつや返事ができるようにする

図 1-41 あいさつや返事ができるようにする（開始時期）

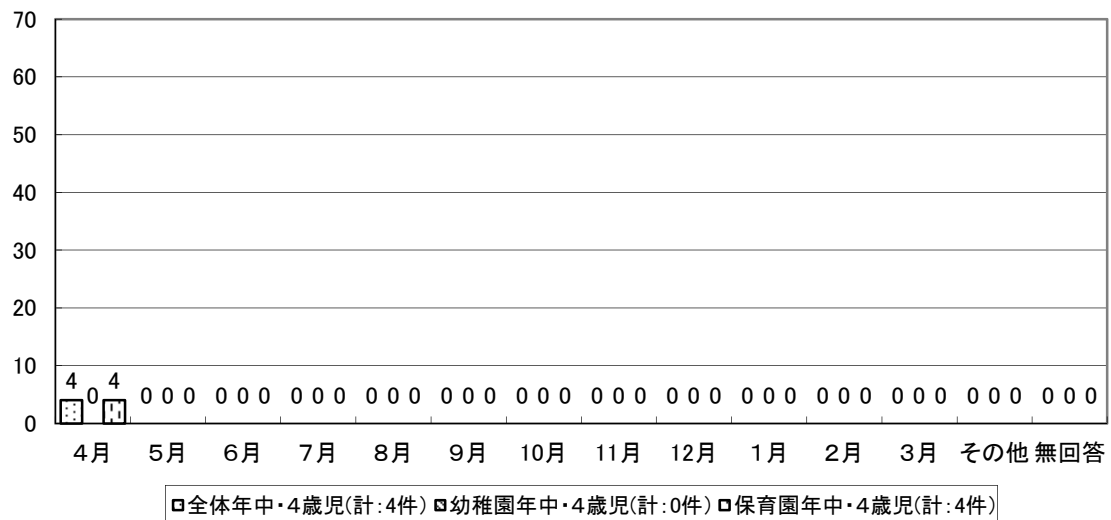
【年少（3歳児）】

単位：件



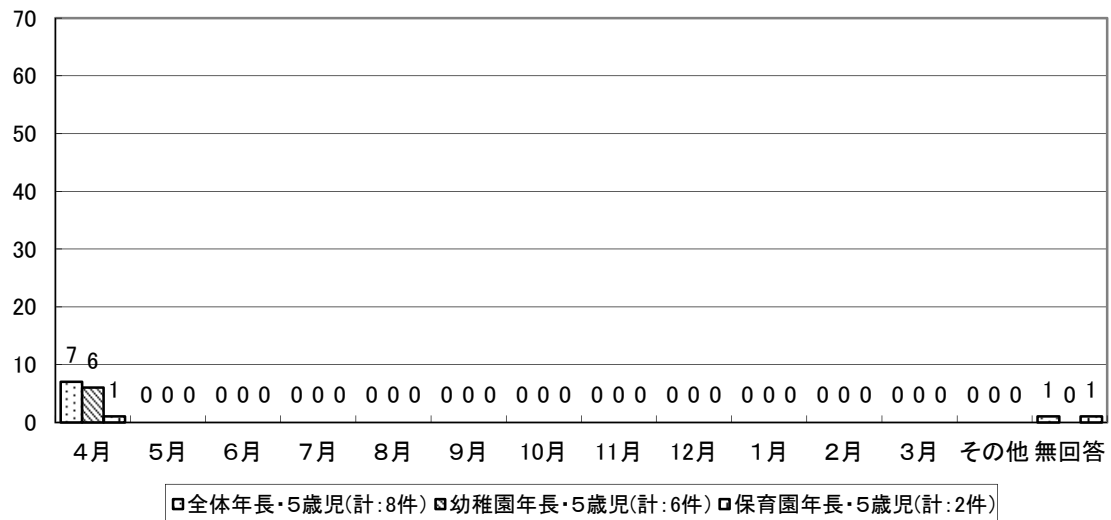
【年中（4歳児）】

単位：件



【年長（5歳児）】

単位：件

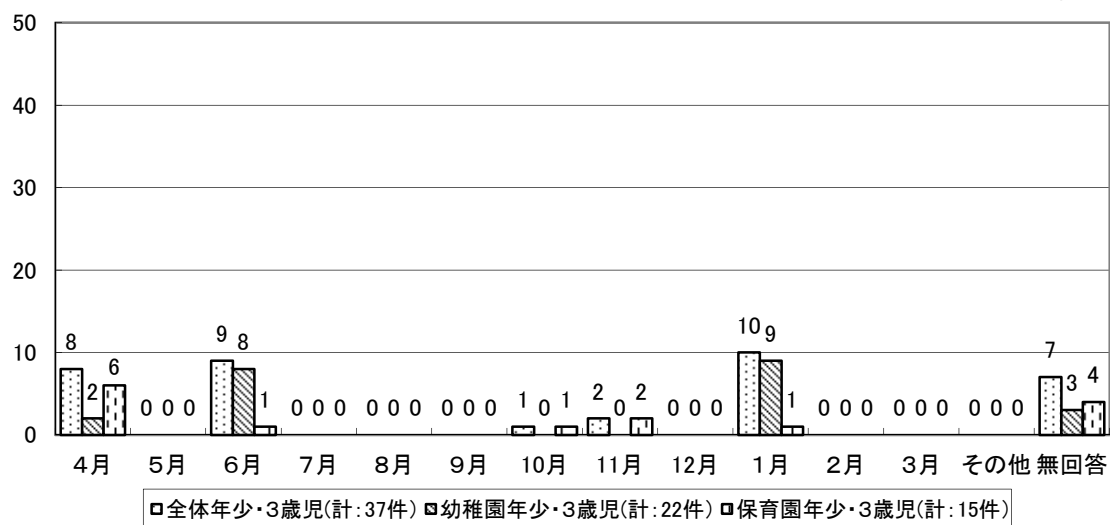


⑩時間を意識して活動を行う

図 1-42 時間を意識して活動を行う（開始時期）

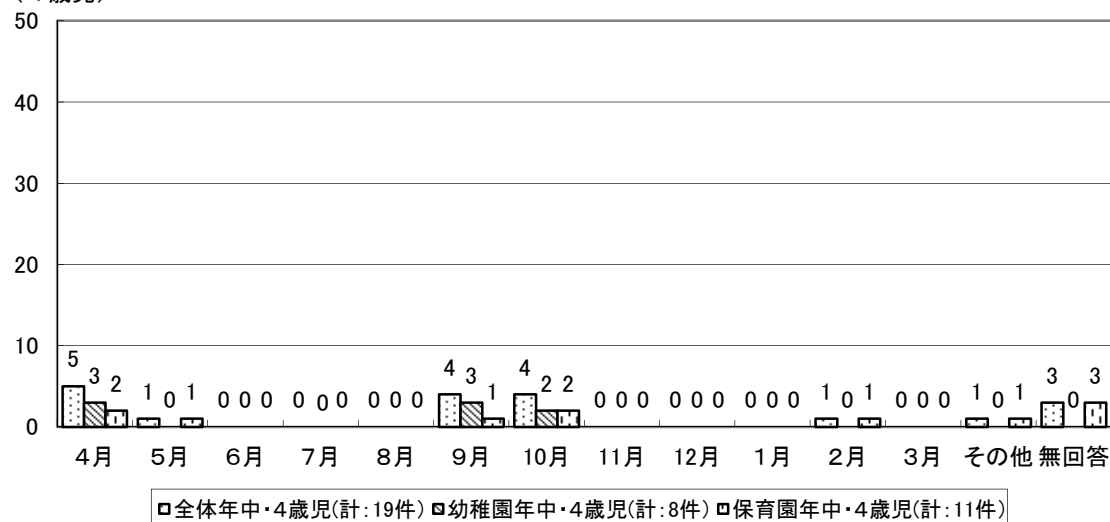
【年少（3歳児）】

単位：件



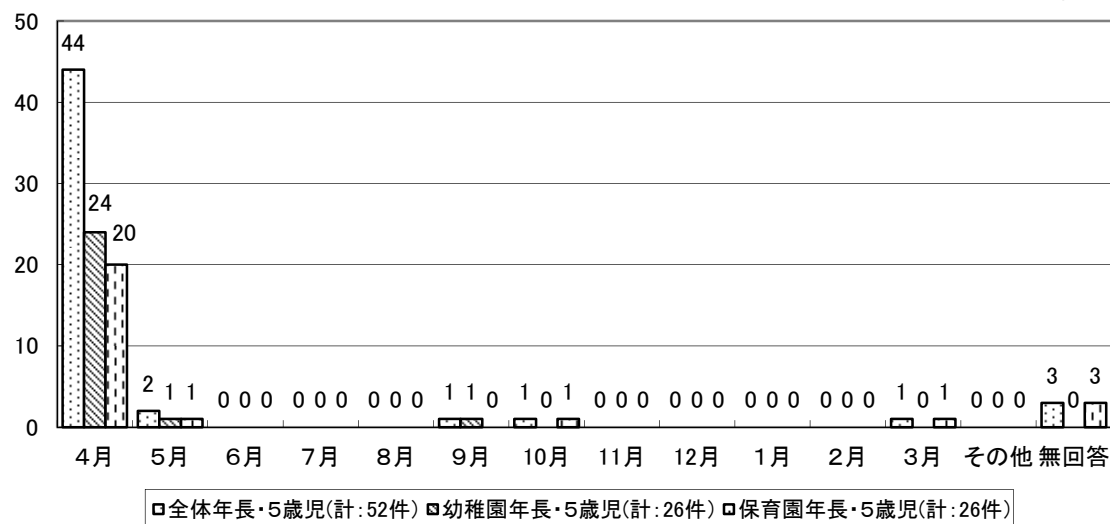
【年中（4歳児）】

単位：件



【年長（5歳児）】

単位：件

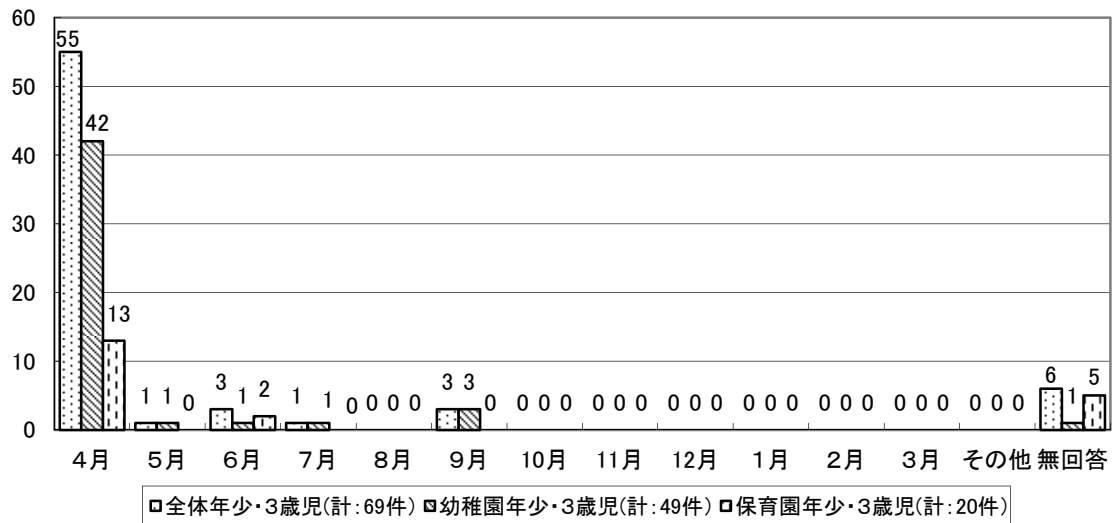


⑪身の回りの物などを片付けられるようにする

図 1-43 身の回りの物などを片付けられるようにする（開始時期）

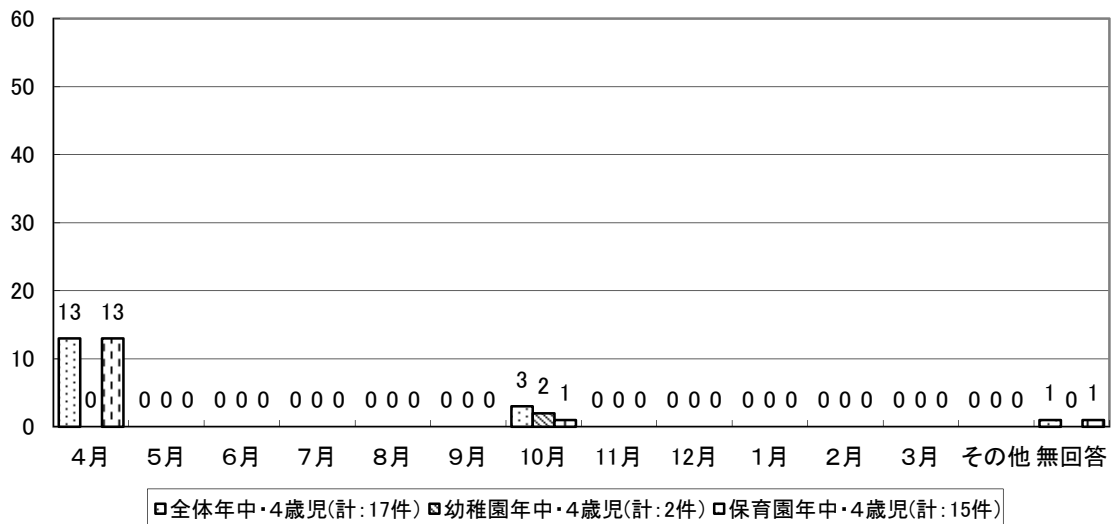
【年少（3歳児）】

単位：件



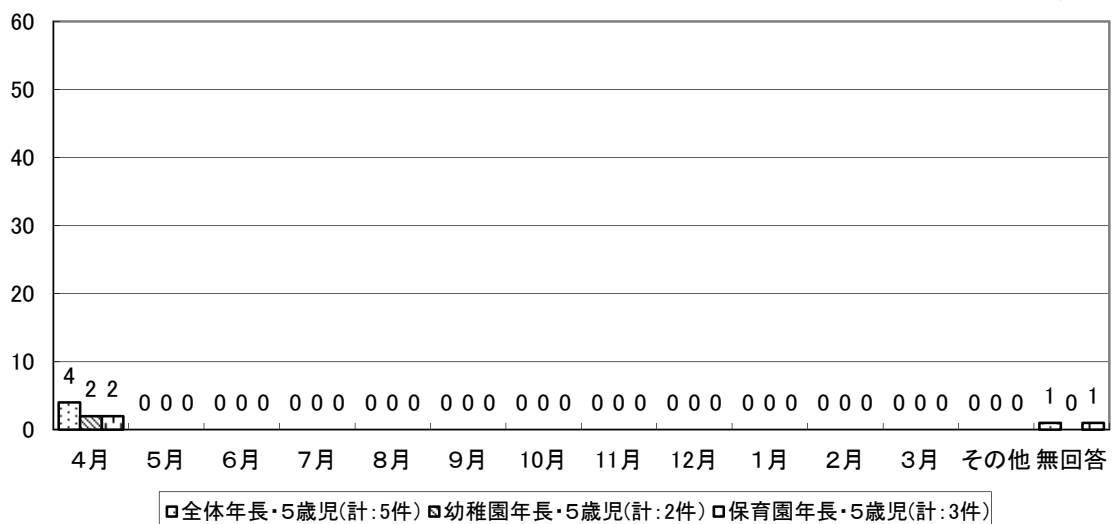
【年中（4歳児）】

単位：件



【年長（5歳児）】

単位：件



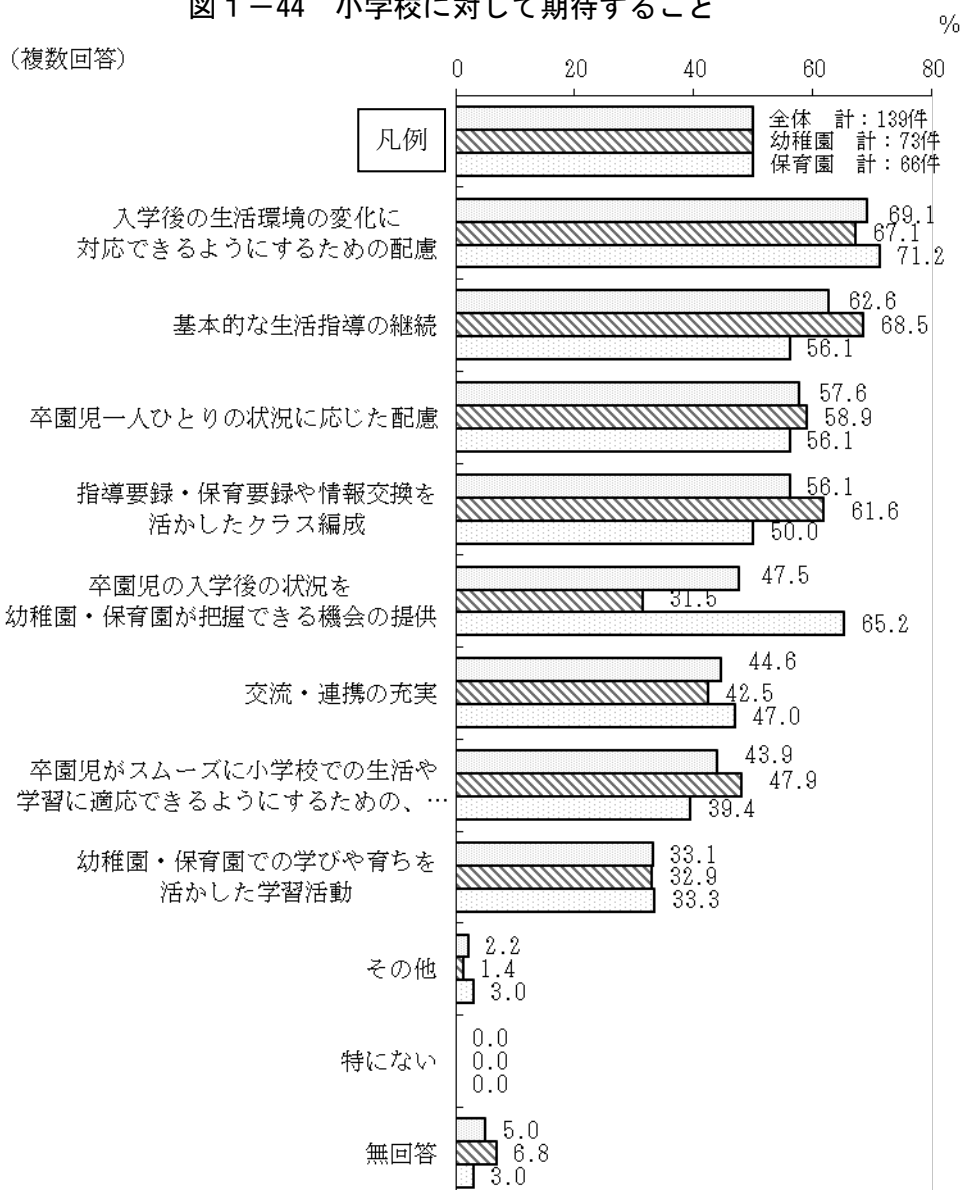
(5) 小学校に対して期待すること

問 17 卒園児が進学する小学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」が 69.1%と最も高く、次いで「基本的な生活指導の継続」が 62.6%、「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮」が 57.6%となっています。

幼稚園・保育園の別にみると、「基本的な生活指導の継続」、「指導要録・保育要録や情報交換を活かしたクラス編成」という回答は幼稚園が保育園より割合が高くなっています。一方、「卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供」という回答は保育園が幼稚園より割合が高くなっています。

図 1-44 小学校に対して期待すること



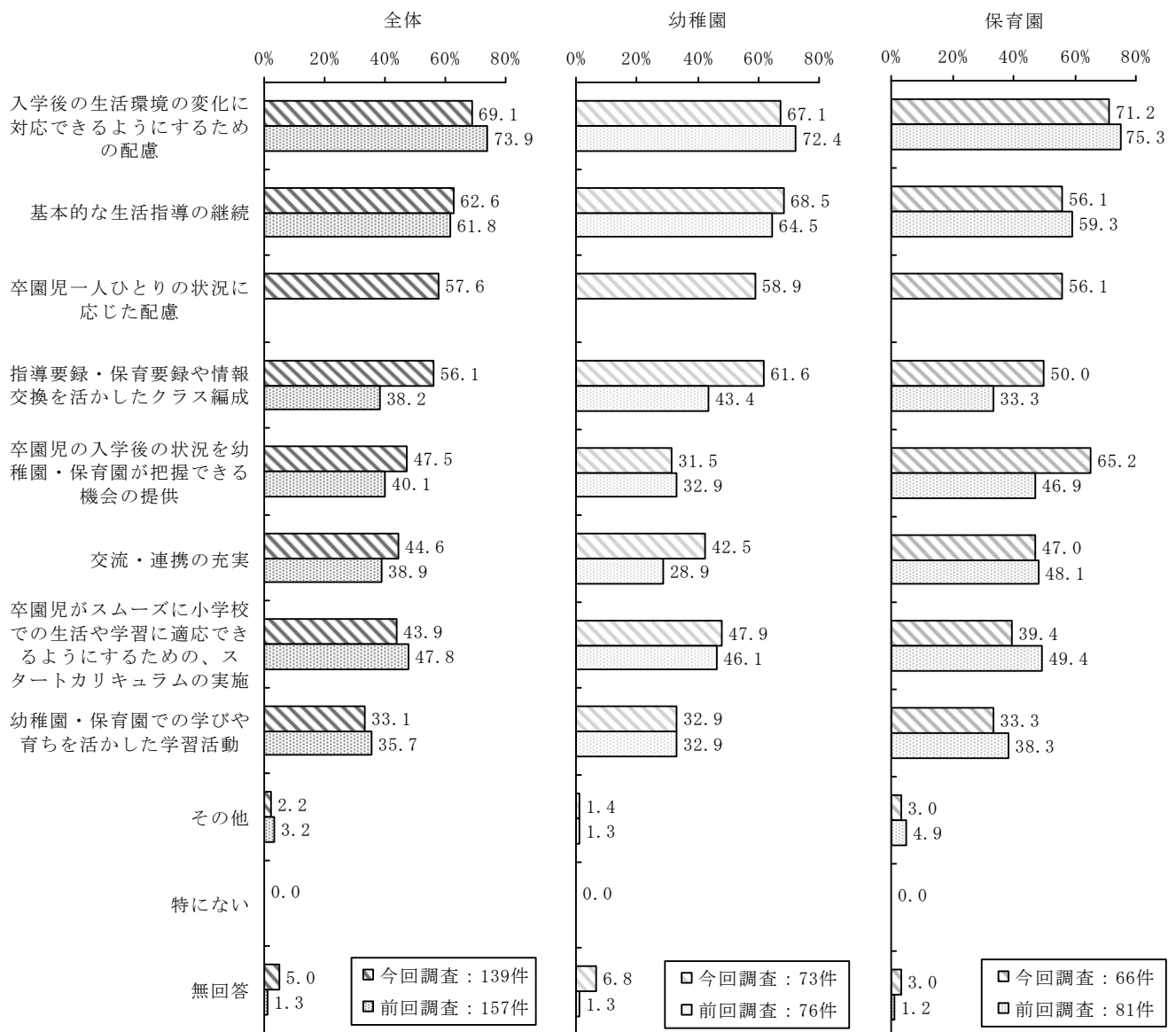
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「指導要録・保育要録や情報交換を活かしたクラス編成」という回答は全体、幼稚園、保育園とも割合が高くなっています。

幼稚園では「交流・連携の充実」という回答の割合が高くなっています。

保育園では「卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供」という回答の割合が高くなっています。一方、「卒園児がスムーズに小学校での生活や学習に適応できるようにするための、スタートカリキュラムの実施」という回答の割合が低くなっています。

図1-45 小学校に対して期待すること（前回調査との比較）



※ 前回調査は「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

4 自由記述

最後に、あなたの園や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 125 件中 36 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 36 件より多くなっています）。

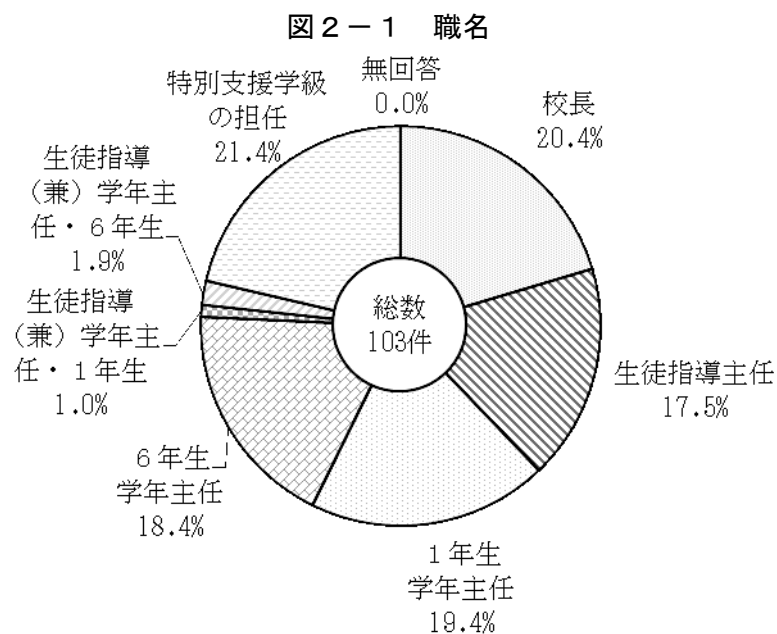
項目	件数
園・校間の連携に関すること	35
交流・連携を継続、充実していくことが大切	6
教員・保育士同士の交流・連携	5
小学校の見学・体験	4
交流・連携により子どもの健やかな成長を促したい	3
教員・保育士の研修の充実	2
交流・連携では互いの教育方針や教育環境を理解して子どもとかがかわることが大切	2
互いのカリキュラムに無理なく進めていくことが大切	1
他の園との交流があると、教育・保育の幅が広がる	1
連携・交流の日程を合わせることが大事	1
中学生の社会体験	1
交流・連携できる園・校が広がるとよい	1
交流・連携できる内容が少なかった	1
近隣の小中学校とやりとりをする時間が確保できなかった	1
幼保小の連絡協議会から市全体の組織的な取組となった	1
交流のための補助金が受けられるとよい	1
小中学校との交流・連携に取り組むことを自園からは言いにくい	1
小学校入学までに身につけておかなければいけないことができない子どもへの配慮	1
小規模な認可外保育施設でも交流・連携しやすい機会があるとよい	1
できることから取り組みたい	1
地域との連携に関すること	5
地域との交流・連携が大切	3
園庭開放を行っている	2
家庭との交流・連携の推進	3
放課後の学童保育等の充実	1
卒園、卒業していった子どもたちが集まる機会があると地域へ愛着が持てる	1
その他	4

Ⅱ 小学校の調査結果

1 基本情報

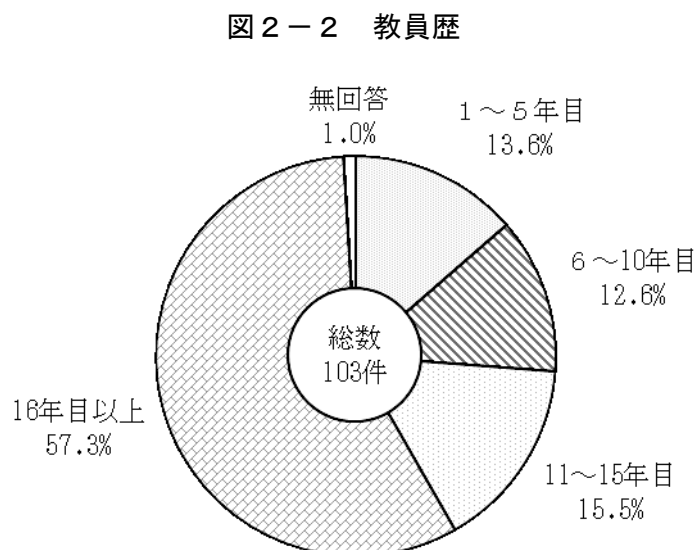
(1) 職名

回答者の職名は以下の通りです。



(2) 教員歴

「16年目以上」が57.3%と最も高く、次いで「11～15年目」が15.5%、「1～5年目」が13.6%となっています。

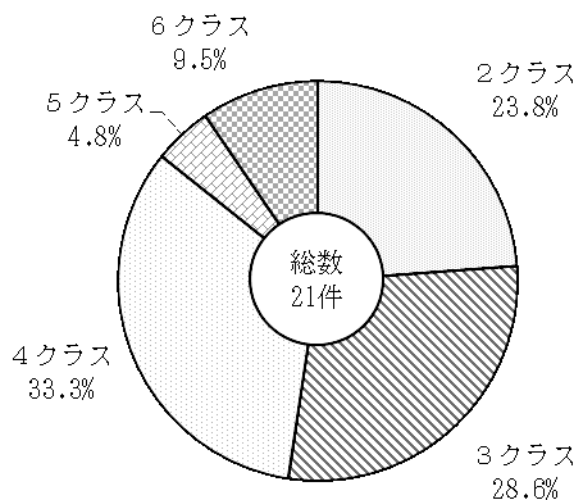


(3) 学級数

① 1年生の学級数

「4クラス」が33.3%と最も高く、次いで「3クラス」が28.6%、「2クラス」が23.8%となっています。

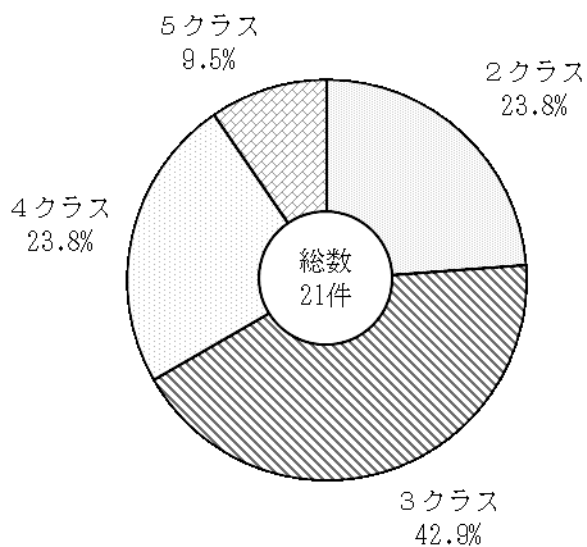
図2-3 1年生の学級数



② 6年生の学級数

「3クラス」が42.9%と最も高く、次いで「2クラス」と「4クラス」がそれぞれ23.8%となっています。

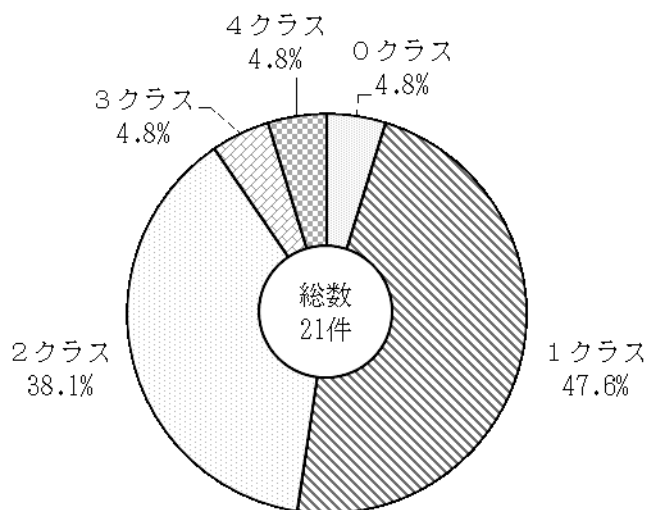
図2-4 6年生の学級数



③ 特別支援学級数

「1クラス」が47.6%と最も高く、次いで「2クラス」が38.1%となっています。

図2-5 特別支援学級数

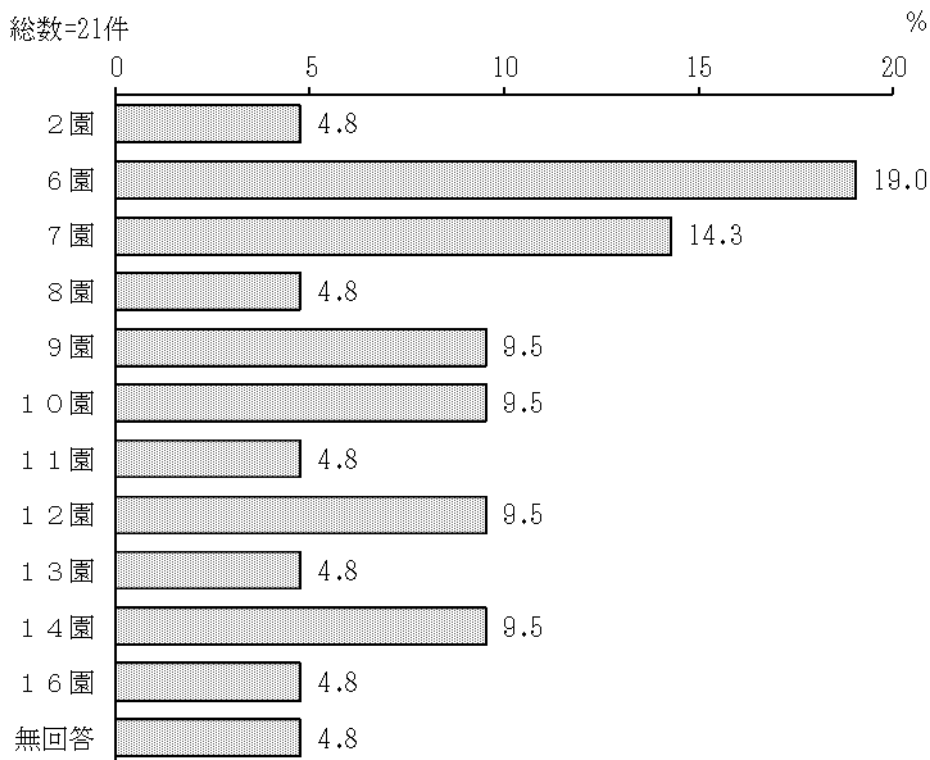


(4) 入学児童の出身園数

① 幼稚園

「6園」が19.0%と最も高く、次いで「7園」が14.3%となっています。

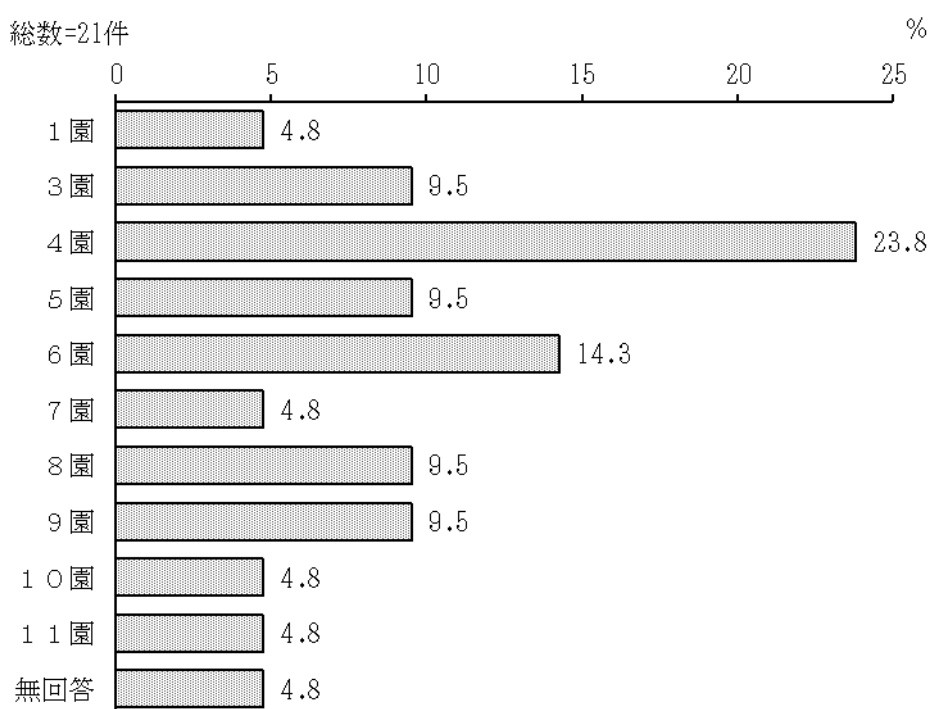
図2-6 入学児童の出身園数（幼稚園）



② 保育園

「4園」が23.8%と最も高く、次いで「6園」が14.3%となっています。

図2-7 入学児童の出身園数（保育園）



小学校の調査結果

(5) 入学児童の出身園（平成24年度、上位3園）

表2-1 入学児童の出身園（平成24年度、上位3園）

(単位:%)

小学校名	第1位		第2位		第3位	
草加小学校	草加ひまわり幼稚園	19.7	ルミ幼稚園	15.0	草加氷川幼稚園	13.3
高砂小学校	谷塚おざわ幼稚園	13.2	草加氷川幼稚園、 ルミ幼稚園	各10.7		—
新田小学校	新田幼稚園	56.0	清門幼稚園	10.0	あさひ保育園、 しんぜん保育園	各8.0
谷塚小学校	谷塚おざわ幼稚園	28.3	谷塚幼稚園	22.1	市外	13.1
栄小学校	草加ひまわり幼稚園	21.6	草加みどり幼稚園	20.7	さかえ保育園	18.1
川柳小学校	青徳幼稚園	30.0	あおやぎ保育園	15.0	やはた保育園	10.0
瀬崎小学校	谷塚幼稚園	45.0	せざき保育園	20.0	谷塚おざわ幼稚園	10.0
西町小学校	フラワー幼稚園	22.0	草加氷川幼稚園	18.0	かおり幼稚園、 にしまち保育園	各13.0
新里小学校	あずま幼稚園	64.0	やなぎしま保育園	15.0	谷塚おざわ幼稚園	7.0
花栗南小学校	ひかり幼稚園	17.5	草加ひまわり幼稚園	12.7	フラワー幼稚園	11.7
八幡小学校	草加ひので幼稚園	29.1	草加ひまわり幼稚園	15.7	しのは保育園	15.0
新栄小学校	清門幼稚園	36.0	しんえい保育園	20.0	市外	15.0
清門小学校	清門幼稚園	42.0	みのべ幼稚園	20.0	新田幼稚園	10.0
稲荷小学校	いなり幼稚園	27.3	市外	18.2	市外	16.9
氷川小学校	草加氷川幼稚園	39.8	谷塚おざわ幼稚園	22.9	ひかわ保育園	13.3
八幡北小学校	青徳幼稚園	27.0	新田幼稚園	19.0	市外	18.0
長栄小学校	新田幼稚園	43.9	清門幼稚園、 あさひ保育園	各10.6		—
青柳小学校	青徳幼稚園	30.3	市外	18.9	あおやぎ保育園	13.9
小山小学校	フラワー幼稚園	34.8	こやま保育園	21.7	みのべ幼稚園	18.8
両新田小学校	あずま幼稚園	24.6	市外	15.8	やつかかみ保育園	14.0
松原小学校	草加ひまわり幼稚園	35.0	みのべ幼稚園	22.0	きたや保育園	12.0

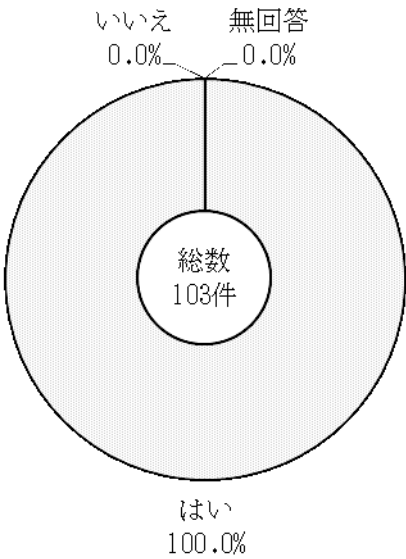
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

(1) 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの学校では、昨年度（平成 24 年度）に、幼稚園・保育園・他の小学校・中学校のいずれか又はいくつかと交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

「はい」が 100% となっています。

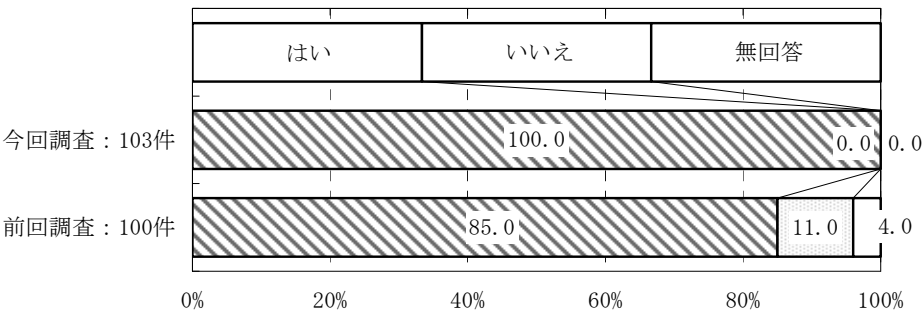
図 2－8 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況



【前回調査との比較】

交流・連携を行っている割合は、前回調査では 85.0%でしたが、今回は 100%となりました。

図 2－9 幼稚園・保育園・他の小学校・中学校との交流・連携の実施状況
(前回調査との比較)

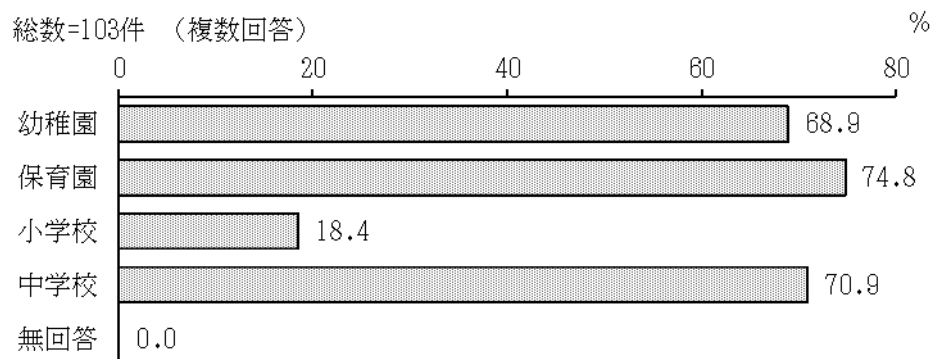


(2) 交流・連携の相手方

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の相手方はどこでしたか。(あてはまるもの全てに○、相手方の数を記入)

「保育園」が74.8%と最も高く、次いで「中学校」が70.9%、「幼稚園」が68.9%となっています。

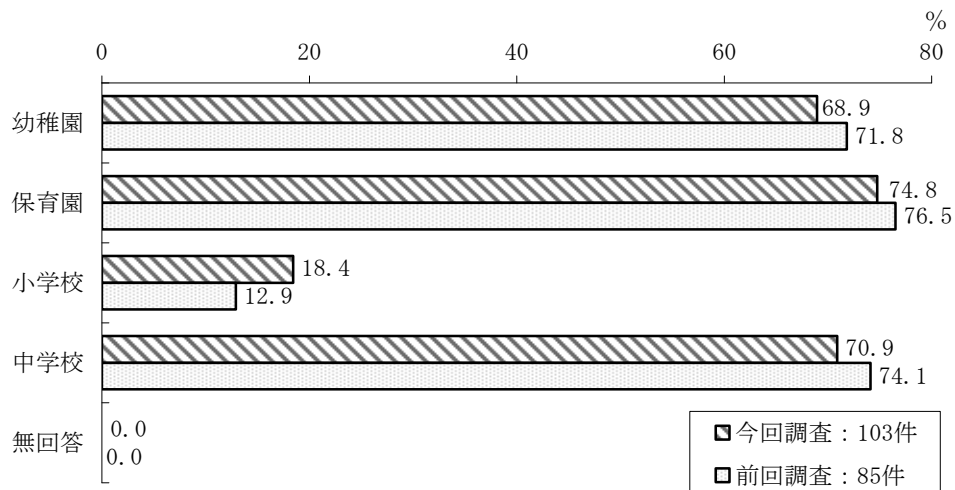
図2-10 交流・連携の相手方



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「小学校」という回答の割合がやや高くなっています。

図2-11 交流・連携の相手方（前回調査との比較）

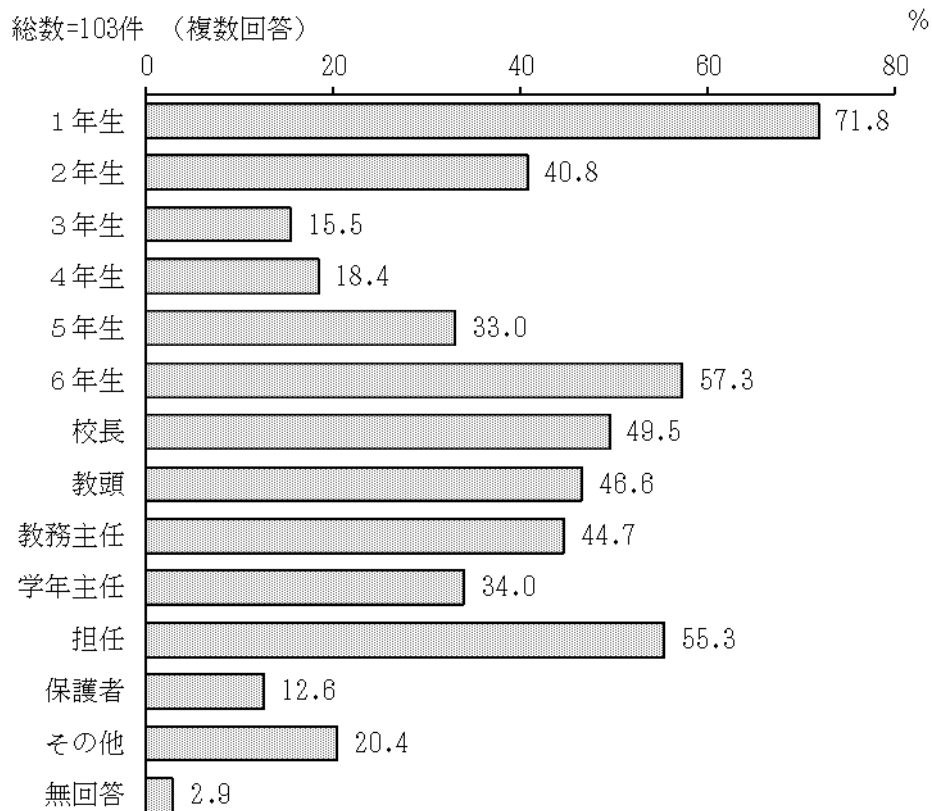


(3) 交流・連携の参加者

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。(あてはまるもの全てに○)

児童では、「1年生」が71.8%と最も高く、次いで「6年生」が57.3%となっています。教職員等では、「担任」が55.3%と最も高く、次いで「校長」が49.5%となっています。

図2-12 交流・連携の参加者

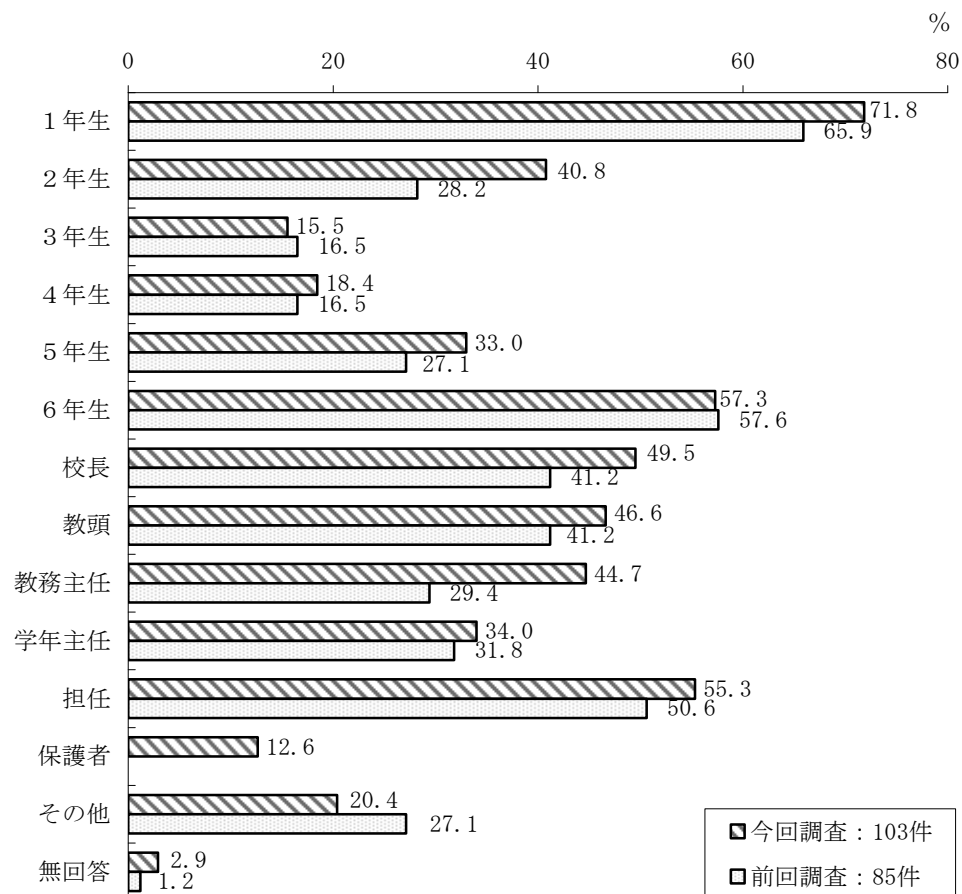


小学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、児童では「2年生」の、教職員等では「教務主任」の割合が高くなっています。

図2-13 交流・交流・連携の参加者（前回調査との比較）



※ 前回調査は「保護者」の項目なし。

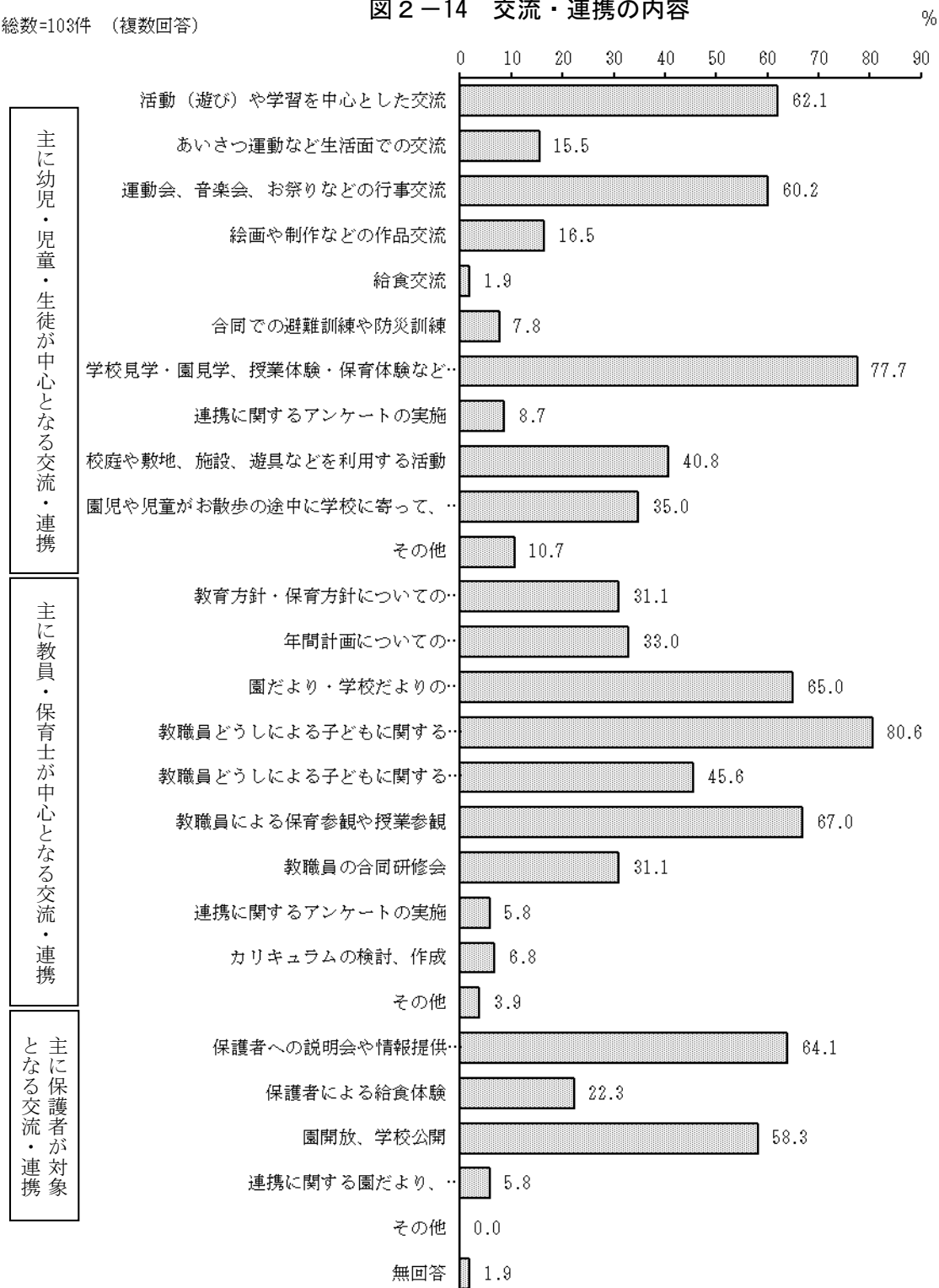
(4) 交流・連携の内容

問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」が80.6%と最も高く、次いで「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」が77.7%、「教職員による保育参観や授業参観」が67.0%となっています。

総数=103件（複数回答）

図2-14 交流・連携の内容

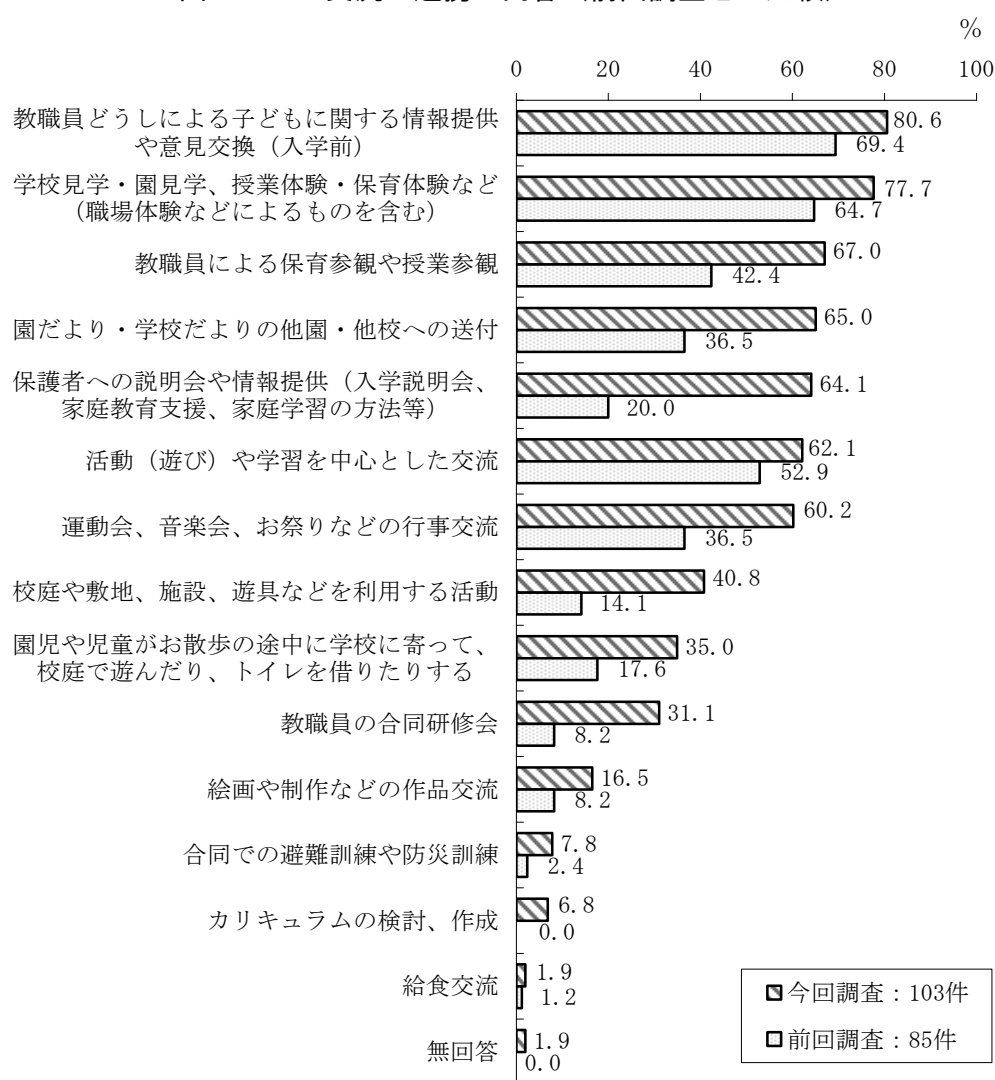


小学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、すべての項目で割合が高くなっています。特に、「教職員による保育参観や授業参観」、「園だより・学校だよりの他園・他校への送付」、「保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等)」、「運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流」、「校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動」、「教職員の合同研修会」は、20 ポイント以上割合が高くなっています。

図 2-15 交流・連携の内容（前回調査との比較）



※ 前回調査と比較可能な項目を抜粋。「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」は、前回調査の「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」と比較している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思われますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。(5つまで)

重要な交流・連携の取組については、主に幼児・児童・生徒が中心となる交流・連携では、「活動(遊び)や学習を中心とした交流」、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など(職場体験などによるものを含む)」、「運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流」の件数が多く、主に教員・保育士が中心となる交流・連携では、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学前)」、「教職員による保育参観や授業参観」、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学後)」の件数多く、主に保護者が対象となる交流・連携では「保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等)」の件数が多くなっています。

表2-2 重要な交流・連携の取組

単位:件

交流・連携の内容			重要度 1	重要度 2	重要度 3	重要度 4	重要度 5	合計
主に 幼児・児童・生徒が 中心となる 交流・連携	1	活動(遊び)や学習を中心とした交流	28	10	11	6	5	60
	2	あいさつ運動など生活面での交流	1	5	0	3	0	9
	3	運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流	5	5	5	7	4	26
	4	絵画や制作などの作品交流	0	1	1	2	1	5
	5	給食交流	1	0	0	1	0	2
	6	合同での避難訓練や防災訓練	0	0	1	0	0	1
	7	学校見学・園見学、授業体験・保育体験など(職場体験などによるものを含む)	16	11	9	5	6	47
	8	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	1	0	1
	9	校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	0	3	2	0	2	7
	10	園児や児童がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	1	0	0	1	0	2
	11	その他	2	1	0	0	0	3
主に 教員・保育士が 中心となる 交流・連携	12	教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換	1	3	2	1	1	8
	13	年間計画についての情報共有や意見交換	1	1	2	3	3	10
	14	園だより・学校だよりの他園・他校への送付	0	1	2	2	2	7
	15	教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学前)	28	19	11	2	1	61
	16	教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学後)	2	11	5	5	1	24
	17	教職員による保育参観や授業参観	5	4	6	8	9	32
	18	教職員の合同研修会	1	1	3	4	1	10
	19	連携に関するアンケートの実施	0	0	1	0	0	1
	20	カリキュラムの検討、作成	1	0	0	1	0	2
	21	その他	0	0	1	0	0	1
主に 保護者が 対象となる 交流・連携	22	保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等)	3	6	10	5	8	32
	23	保護者による給食体験	0	0	0	0	0	0
	24	園開放、学校公開	1	2	1	3	4	11
	25	連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布	0	0	0	0	0	0
	26	その他	0	0	0	0	0	0

小学校の調査結果

【重要と考える理由】

重要度 1～5 のそれぞれについて、最も件数の多かった項目の理由は以下のようになっています。

①重要度 1

「活動（遊び）や学習を中心とした交流」（28 件）で記述があったのは 27 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 27 件より多くなっています）。

項目	件数
子ども同士が直接交流できるから	10
入学への不安を解消し、期待・希望を持たせるため	4
幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校が互いの様子を知ることができるから	3
上級生としての自覚や意識が高まるから	3
年間計画、カリキュラム等に組み入れやすいから	3
交流を通して体験的な学習ができるから	2
障がいのある子どもが交流の機会を持てるから	2
交流することで学びが深められるから	1
園児にも児童にもメリットがあるから	1
日常の活動が交流とならなければ深まらないから	1

「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」（28 件）で記述があったのは 26 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 26 件より多くなっています）。

項目	件数
学級編成に活かすため	15
適切な指導ができるから	5
子どもの家庭環境や生活状況を把握するため	2
小学校での教育内容を中学校に引き継ぐことで教育効果が高まるから	1
不安なく学校生活をスタートさせるため	1
発達障害、アレルギー等について事前に把握をしておきたいから	1
子どもを知ることが教育のスタートだから	1
入学後に大変役立つから	1

②重要度 2

「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」（19 件）で記述があったのは 19 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 19 件より多くなっています）。

項目	件数
適切な指導ができるから	10
入学後の新 1 年生の生活をスムーズに進めるため	3
学級編成に活かすため	2
指導計画等の準備ができるから	2
小 1 プロブレムをなくすため	1
入学前に児童の情報を詳しく提供できるから	1
教職員の意識の差や違いを埋め合わせることができるから	1
トラブルの未然防止のため	1

③重要度 3

「活動（遊び）や学習を中心とした交流」（11 件）で記述があったのは 11 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 11 件より多くなっています）。

項目	件数
入学への不安を解消し、期待・希望を持たせるため	5
上級生としての自覚や意識が高まるから	2
自分自身の成長を感じることができるから	2
就学予定児に小学生のモデルを示すことができるから	1
互いを知るため	1
自立していく上で必要だから	1
卒園・卒業校の教育に役立てるため	1
異年齢との交流は道徳的価値が高いから	1

「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」（11 件）で記述があったのは 11 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 11 件より多くなっています）。

項目	件数
子どもの理解を深められるから	3
学級編成に活かすため	2
適切な指導ができるから	1
その時の指導者から情報を得て、多面的に理解することができるから	1
新入生の受入や指導の準備を進める上で有効だから	1
幼稚園、保育園での生活の様子を知る上で重要だから	1
活動や様子を互いに理解するため	1
トラブルの未然防止のため	1
その他	1

小学校の調査結果

④重要度 4

「教職員による保育参観や授業参観」（8件）で記述があったのは8件でした。

項目	件数
互いの教育・保育について理解するため	6
発達段階に応じた指導を学べるから	1
その他	1

⑤重要度 5

「教職員による保育参観や授業参観」（9件）で記述があったのは8件でした（1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は8件より多くなっています）。

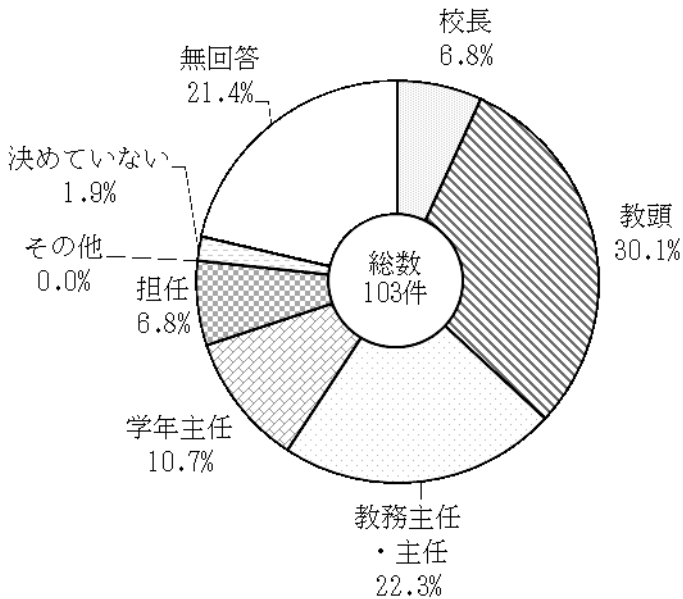
項目	件数
教育・保育の内容や子どもの様子がわかるから	5
その後の子どもの指導に役立つから	3
互いの教育・保育について理解し、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため	1

(6) 交流・連携の窓口の主な担当者

問6 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(○は1つだけ)

「教頭」が30.1%と最も高く、次いで「教務主任・主任」が22.3%、「学年主任」が10.7%となっています。

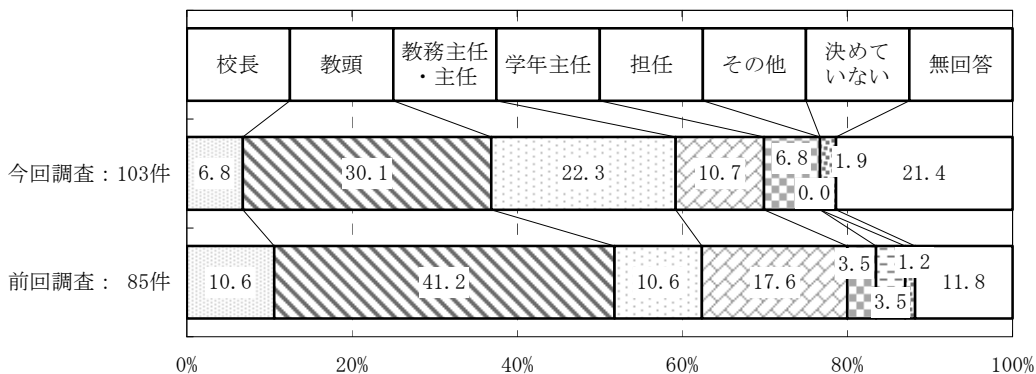
図2-16 交流・連携の窓口の主な担当者



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「教務主任・主任」という回答の割合が高くなっています。

図2-17 交流・連携の窓口の主な担当者（前回調査との比較）

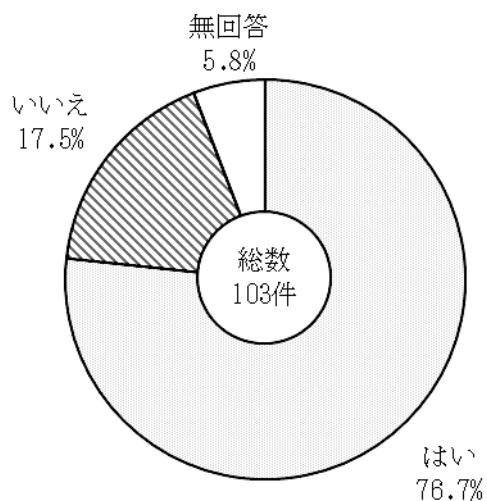


（７）交流・連携の窓口の担当者の固定化

問７ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合に教えてください】 交流・連携の窓口の担当者は、固定していますか。（○は１つだけ）

「はい」が76.7%、「いいえ」が17.5%となっています。

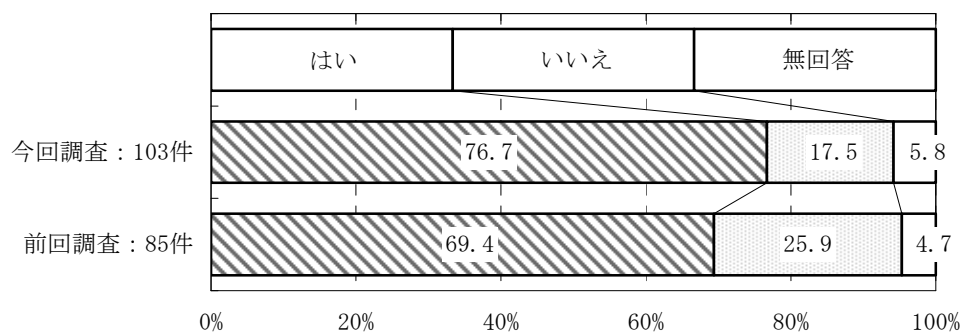
図２－18 交流・連携の窓口の担当者の固定化



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、固定化している割合がやや高くなっています。

図２－19 交流・連携の窓口の担当者の固定化
（前回調査との比較）

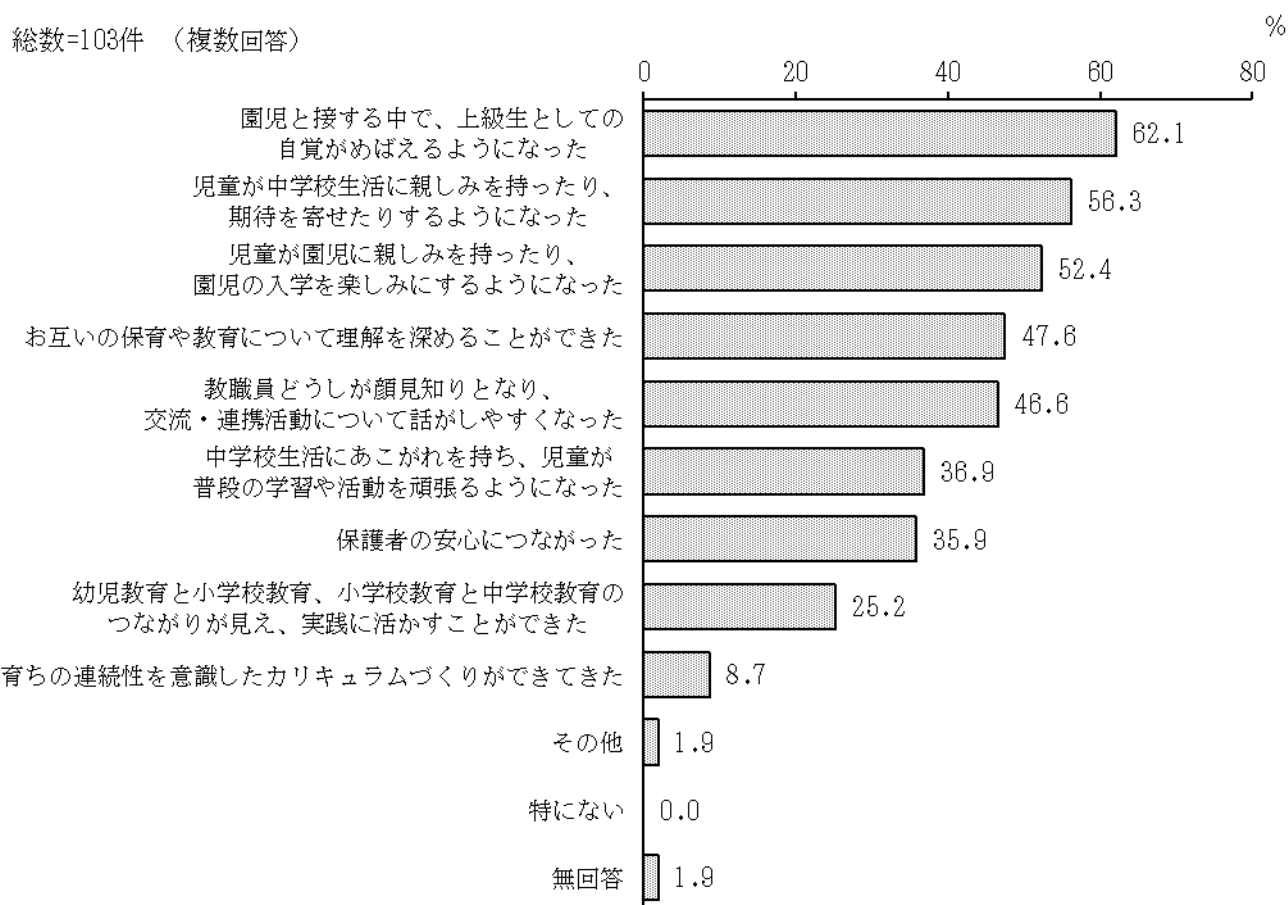


(8) 交流・連携を行って良かった点

問8 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「園児と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」が62.1%と最も高く、次いで「児童が中学校生活に親しみを持ったり、期待を寄せたりするようになった」が56.3%、「児童が園児に親しみを持ったり、園児の入学を楽しみにするようになった」が52.4%となっています。

図2-20 交流・連携を行って良かった点

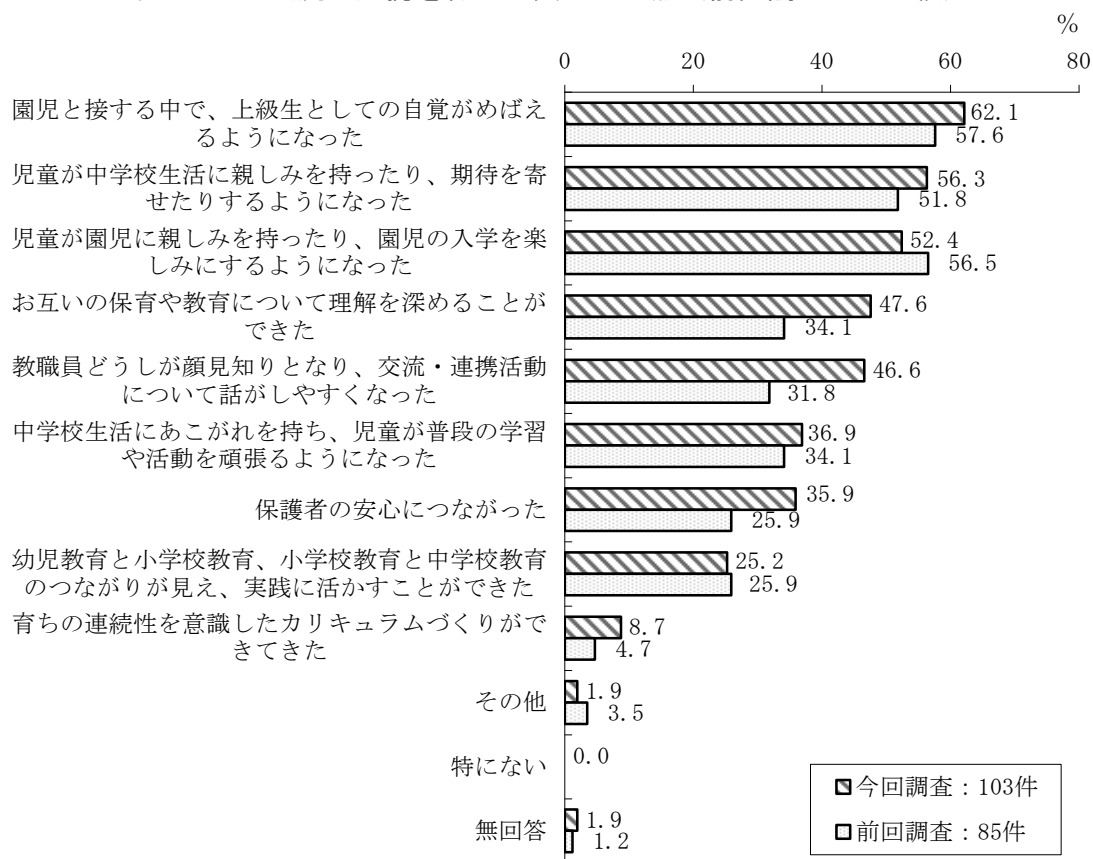


小学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「お互いの保育や教育について理解を深めることができた」、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携活動について話がしやすくなった」、「保護者の安心につながった」という回答の割合が高くなっています。

図 2-21 交流・連携を行って良かった点（前回調査との比較）



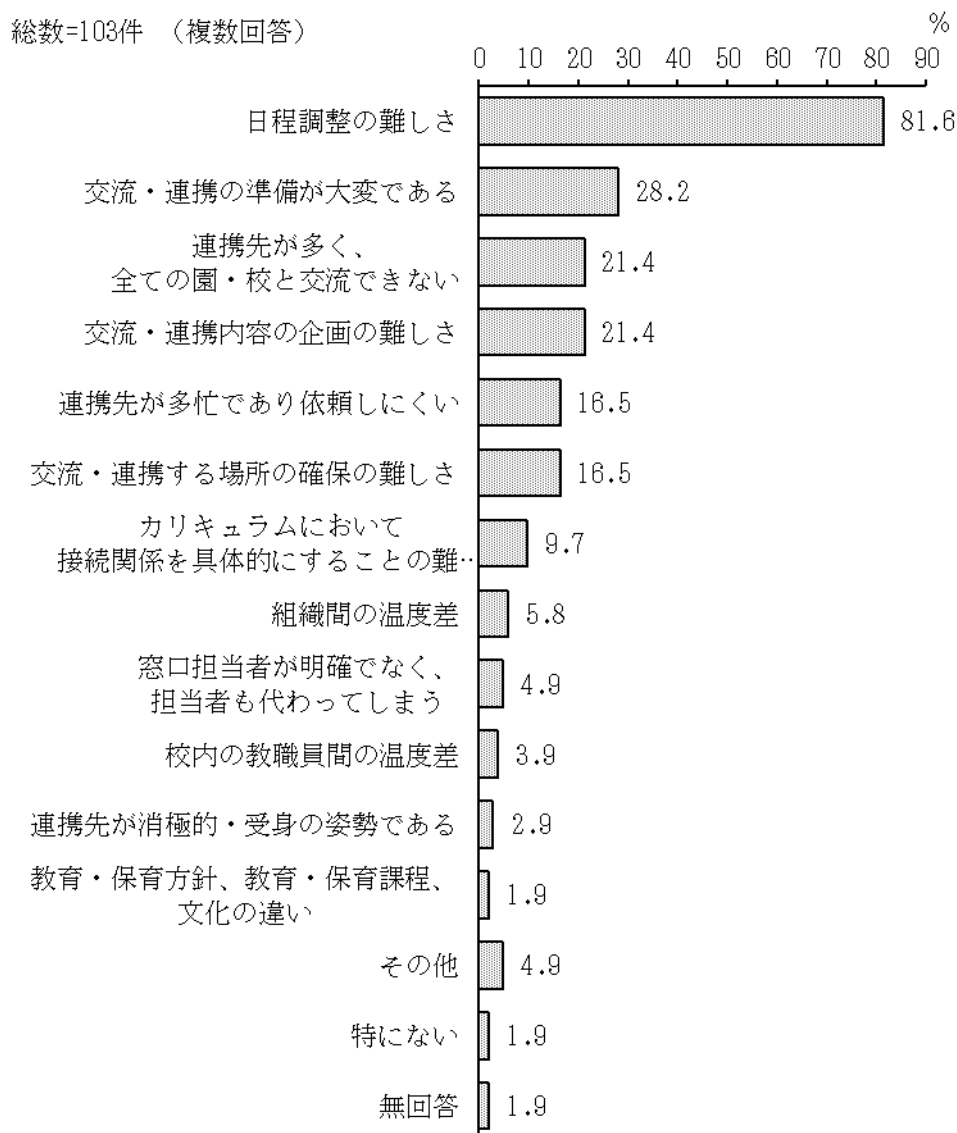
※ 前回調査は「特にない」の項目なし。

(9) 交流・連携の課題となる点

問9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】 交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「日程調整の難しさ」が81.6%と最も高く、次いで「交流・連携の準備が大変である」が28.2%、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」と「交流・連携内容の企画の難しさ」がそれぞれ21.4%となっています。

図2-22 交流・連携の課題となる点

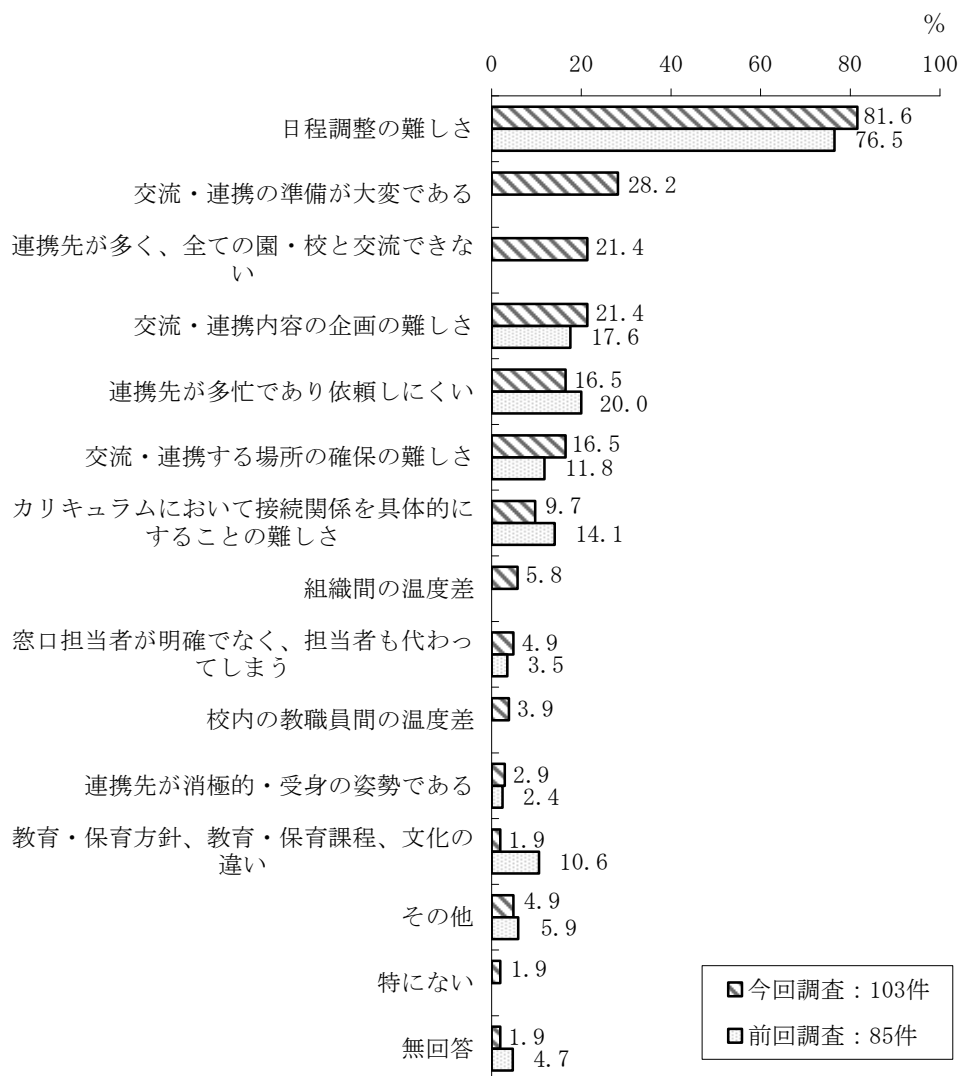


小学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「日程調整の難しさ」という回答の割合がやや高くなっています。一方、「教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い」という回答の割合がやや低くなっています。

図 2-23 交流・連携の課題となる点（前回調査との比較）



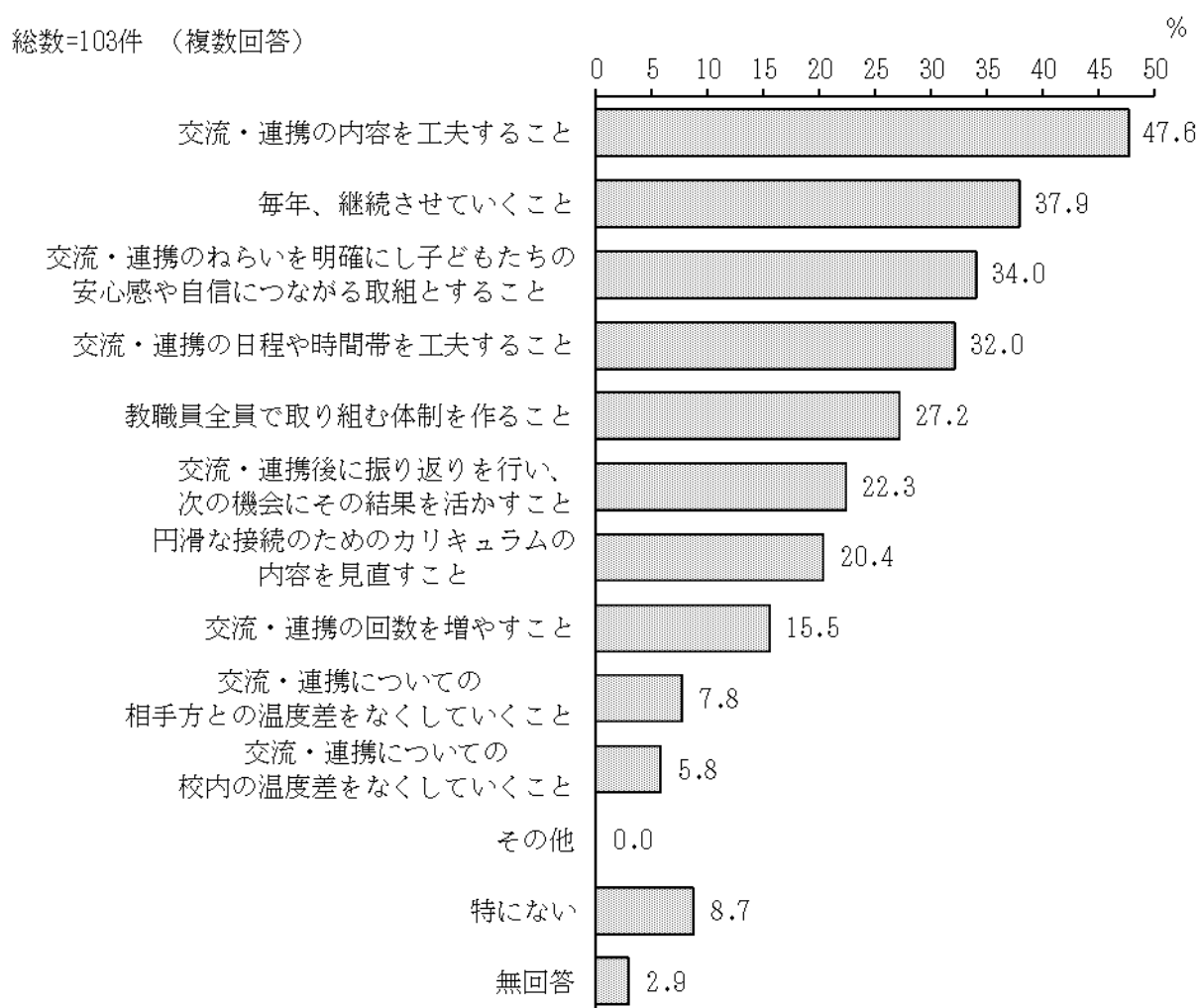
※ 前回調査は「交流・連携の準備が大変である」、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「特になし」の項目なし。「組織間の温度差」、「校内の教職員間の温度差」は内容が一部異なるため比較していない。

(10) 交流・連携で改善したい点

問 10 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「交流・連携の内容を工夫すること」が 47.6%と最も高く、次いで「毎年、継続させていくこと」が 37.9%、「交流・連携のねらいを明確にし子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」が 34.0%となっています。

図 2-24 交流・連携で改善したい点

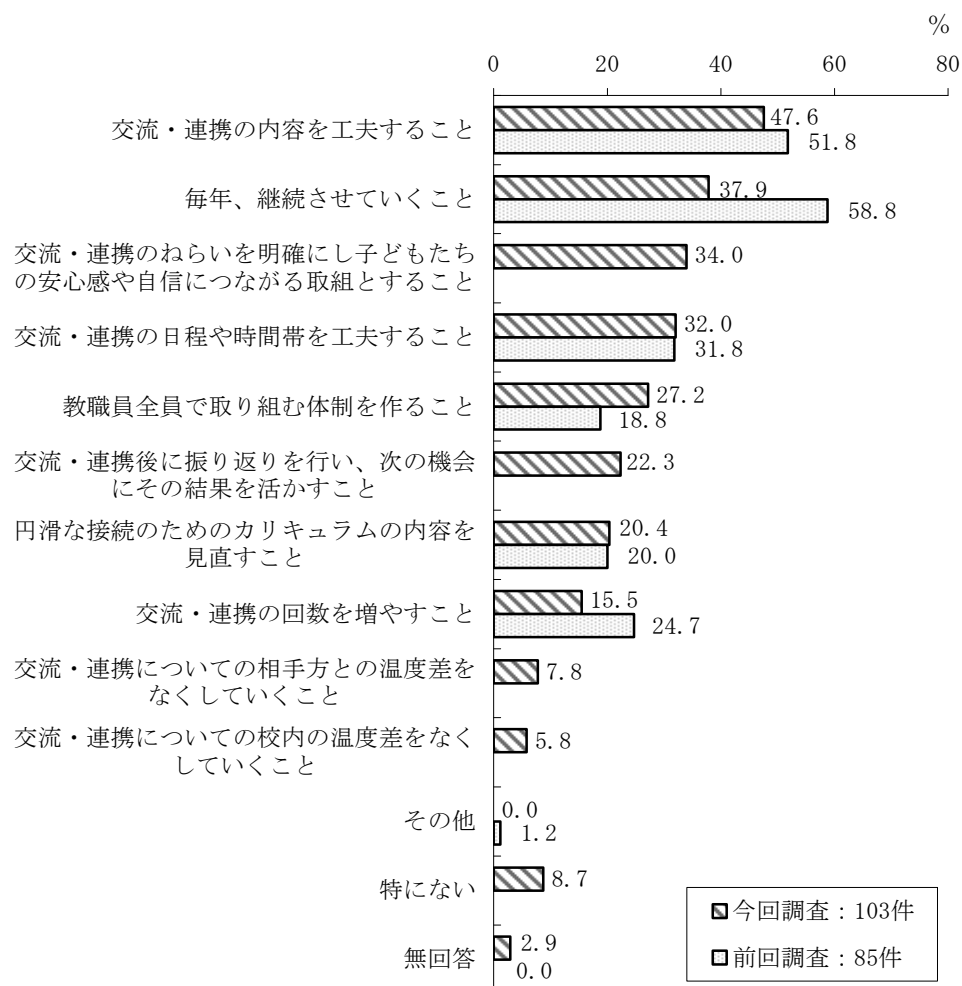


小学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「毎年、継続させていくこと」という回答の割合が、20.9ポイント低くなっています。また、「交流・連携の回数を増やすこと」については、9.2ポイント低くなっています。一方、「教職員全員で取り組む体制を作ること」については、8.4ポイント高くなっています。

図 2-25 交流・連携で改善したい点（前回調査との比較）



※ 前回調査は「交流・連携のねらいを明確にし子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を活かすこと」、「特にない」の項目なし。「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」、「交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと」は内容が一部異なるため比較していない。

(11) 交流・連携の実施が困難な理由

問 11 【問 1 で 2 の「いいえ」に○をつけた場合に教えてください】 交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

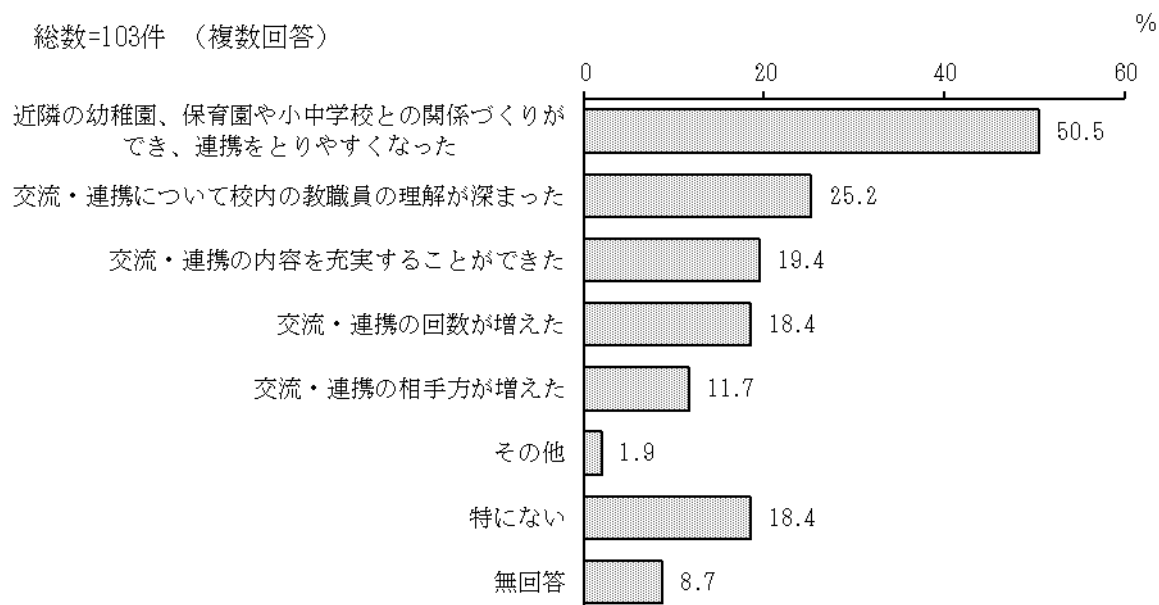
問 1 の交流・連携の実施状況について、2 の「いいえ」という回答は 0 件でした。

(12) 他園・校との交流・連携について改善されたこと

問 12 あなたの学校において、昨年度（平成 24 年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」が 50.5%と最も高く、次いで「交流・連携について校内の教職員の理解が深まった」が 25.2%、「交流・連携の内容を充実することができた」が 19.4%となっています。一方、「特にない」は、18.4%となっています。

図 2-26 他園・校との交流・連携について改善されたこと



3 小1プロブレムについて

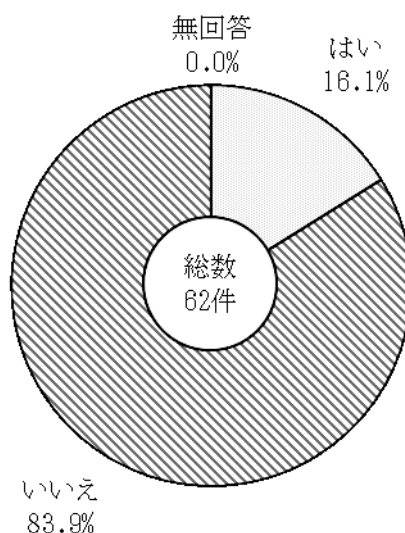
「小1プロブレム」（入学したばかりの1年生の教室において、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話を受かないなど、学校生活にうまく適応できない状態が続き、学級として機能しないことをいいます）について、あなたの学校の状況を教えてください。（問13～問19は、校長、生徒指導主任、1年生の学年主任のみ、お答えください）

（1）「小1プロブレム」の発生状況

問13 あなたの学校では、今年度（平成25年度）、「小1プロブレム」といわれる状況がみられますか。（○は1つだけ）

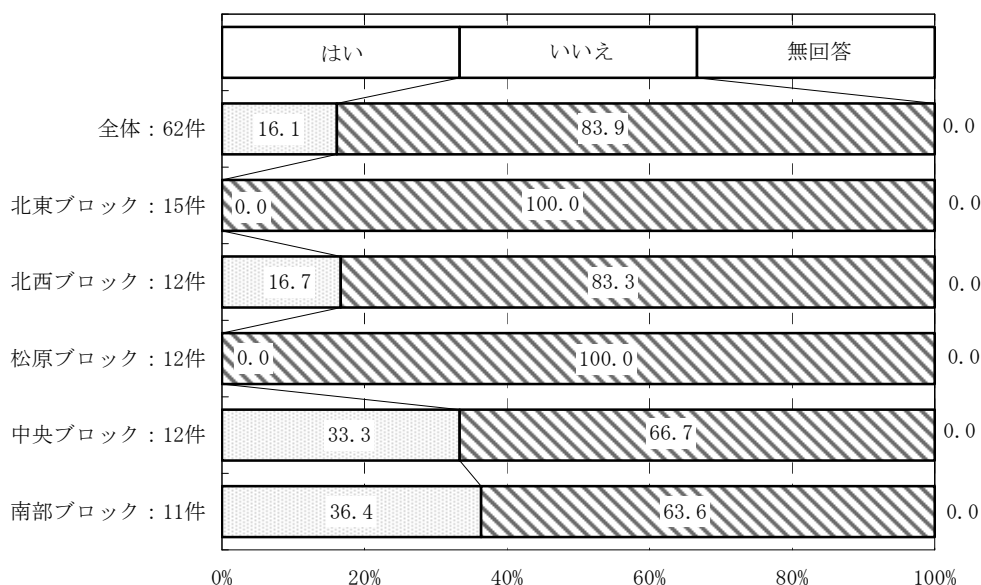
「はい」が16.1%、「いいえ」が83.9%となっています。

図2-27 「小1プロブレム」の発生状況



地域別にみると、「はい」という回答は、南部ブロックが36.4%と最も高く、次いで中央ブロックが33.3%、北西ブロックが16.7%となっています。

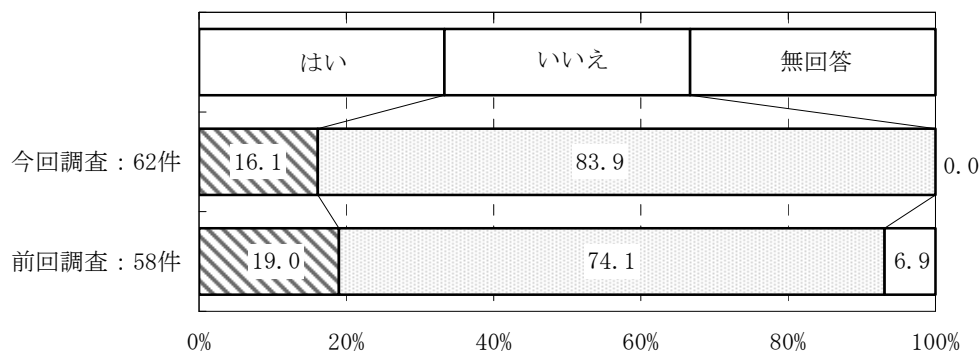
図2-28 「小1プロブレム」の発生状況（地域別）



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「小1プロブレム」といわれる状況がみられるとする回答の割合がやや低くなっています。

図2-29 「小1プロブレム」の発生状況（前回調査との比較）

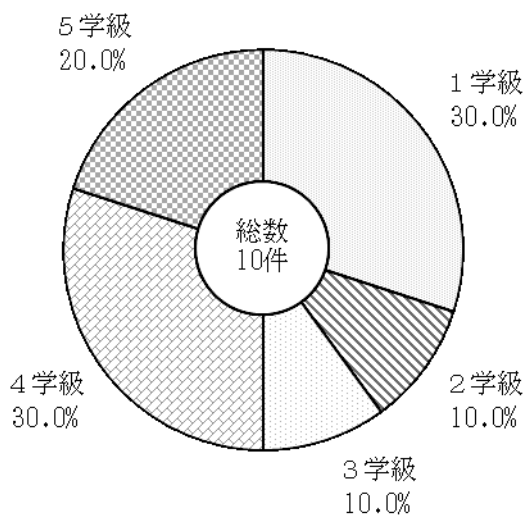


(2) 「小1プロブレム」がみられた学級数

問14 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】「小1プロブレム」がみられた学級は何学級ですか。

「1学級」と「4学級」がそれぞれ30.0%と最も高く、次いで「5学級」が20.0%となっています。

図2-30 「小1プロブレム」がみられた学級数

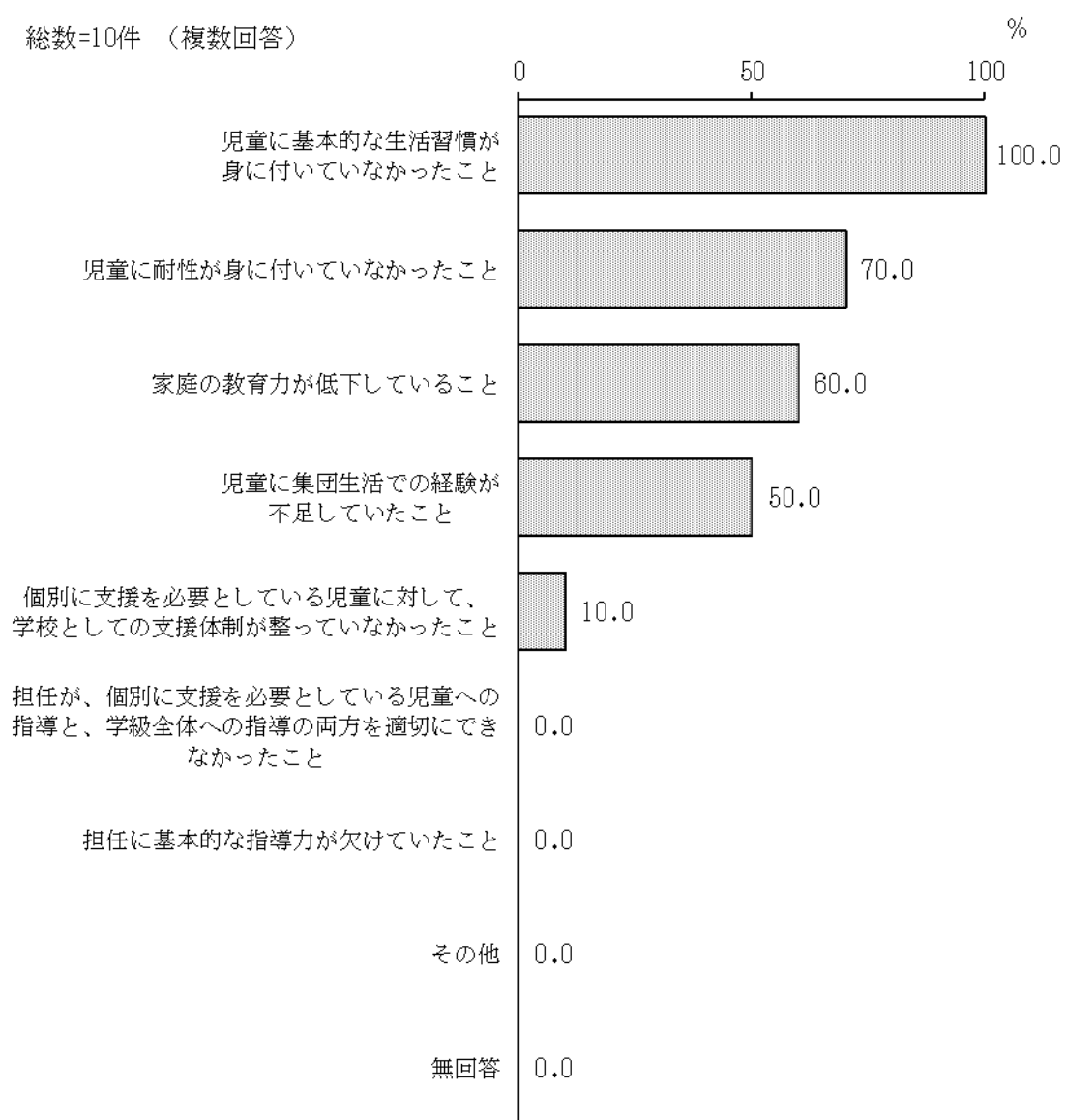


(3)「小1プロブレム」の要因

問 15 【問 13 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】「小1プロブレム」がみられた要因はどのようなことであると考えますか。(あてはまるもの全てに○)

「児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと」が 100%と最も高く、次いで「児童に耐性が身に付いていなかったこと」が 70.0%、「家庭の教育力が低下していること」が 60.0%となっています。

図 2-31 「小1プロブレム」の要因

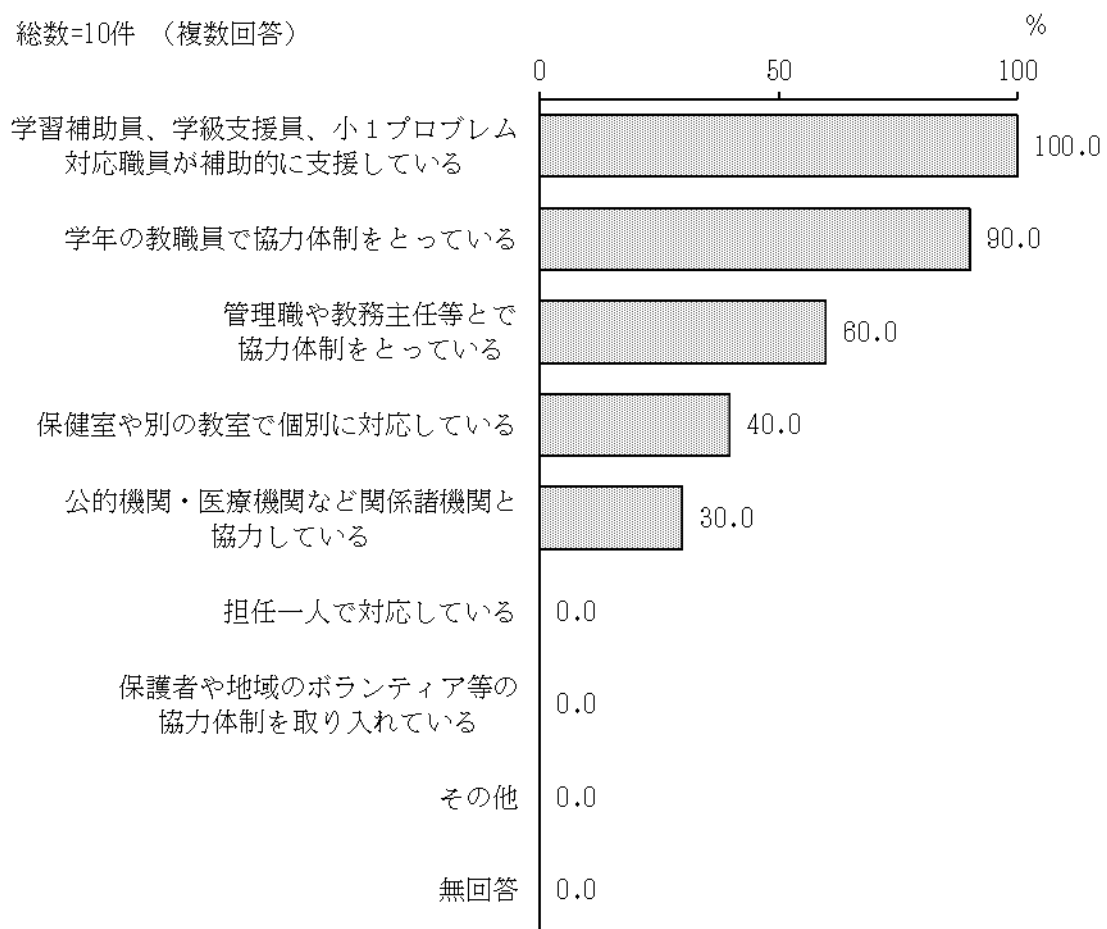


(4)「小1プロブレム」への対応

問 16 【問 13 で 1 の「はい」に○をつけた場合に教えてください】「小1プロブレム」とみられる状況に、どのように対応していますか。(あてはまるもの全てに○)

「学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している」が 100%と最も高く、次いで「学年の教職員で協力体制をとっている」が 90.0%、「管理職や教務主任等とで協力体制をとっている」が 60.0%となっています。

図 2-32 「小1プロブレム」への対応

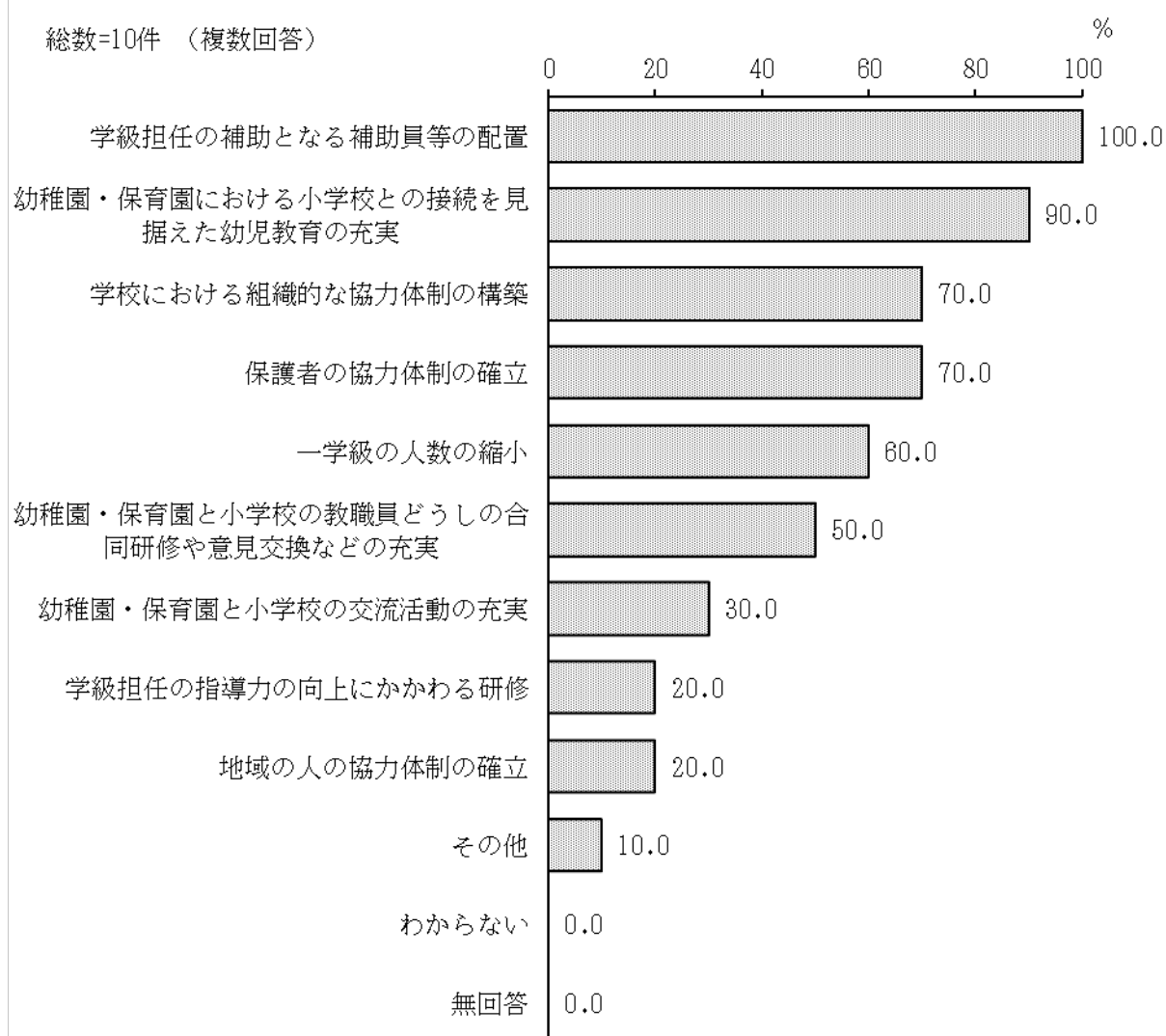


(5)「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策

問17 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】「小1プロブレム」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「学級担任の補助となる補助員等の配置」が100%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園における小学校との接続を見据えた幼児教育の充実」が90.0%、「学校における組織的な協力体制の構築」と「保護者の協力体制の確立」がそれぞれ70.0%となっています。

図2-33 「小1プロブレム」の発生の予防や解消のための対応策

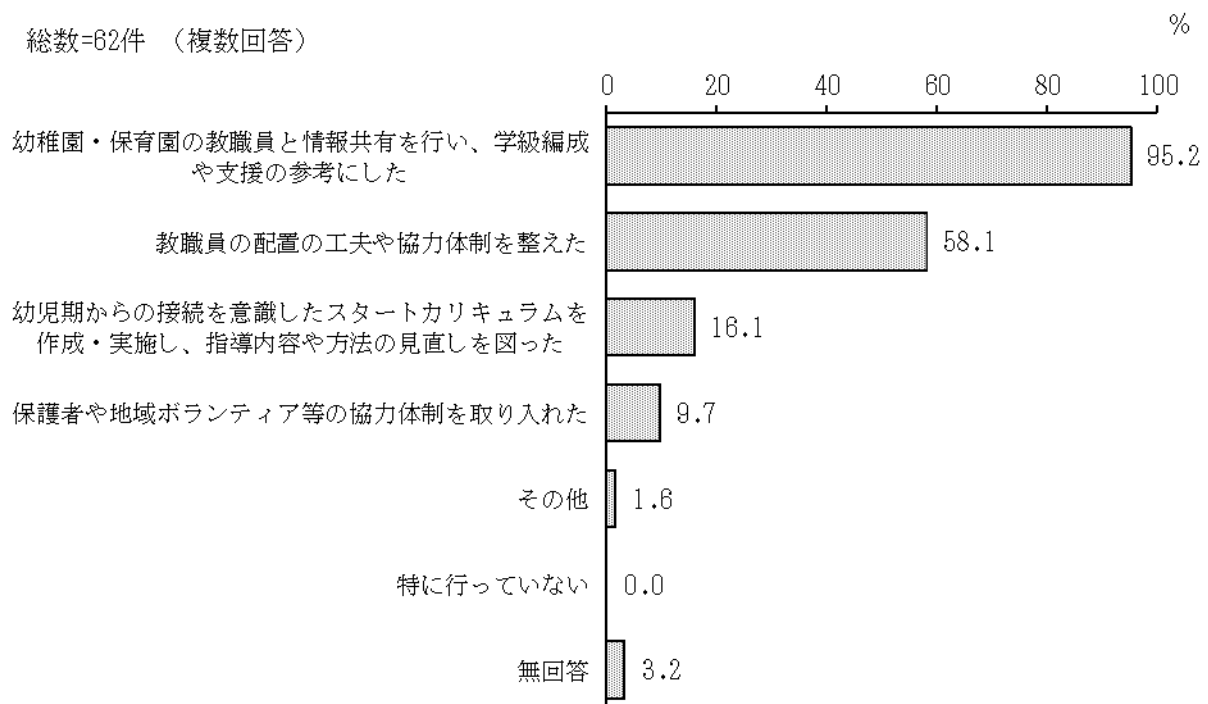


(6) 入学に際しての配慮や準備

問 18 あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

「幼稚園・保育園の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」が 95.2%と最も高く、次いで「教職員の配置の工夫や協力体制を整えた」が 58.1%、「幼児期からの接続を意識したスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った」が 16.1%となっています。

図 2-34 入学に際しての配慮や準備

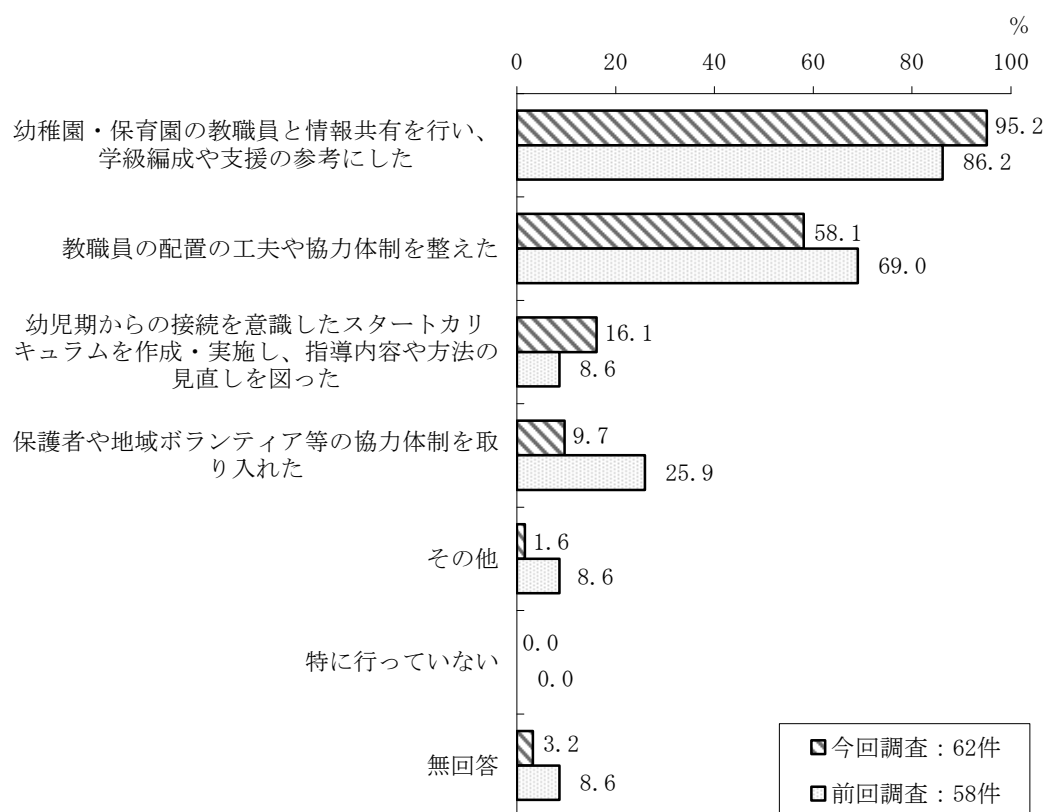


小学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「幼稚園・保育園の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」、「幼児期からの接続を意識したスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った」という回答の割合が高くなっています。一方、「教職員の配置の工夫や協力体制を整えた」、「保護者や地域ボランティア等の協力体制を取り入れた」という回答の割合が低くなっています。

図 2-35 入学に際しての配慮や準備（前回調査との比較）

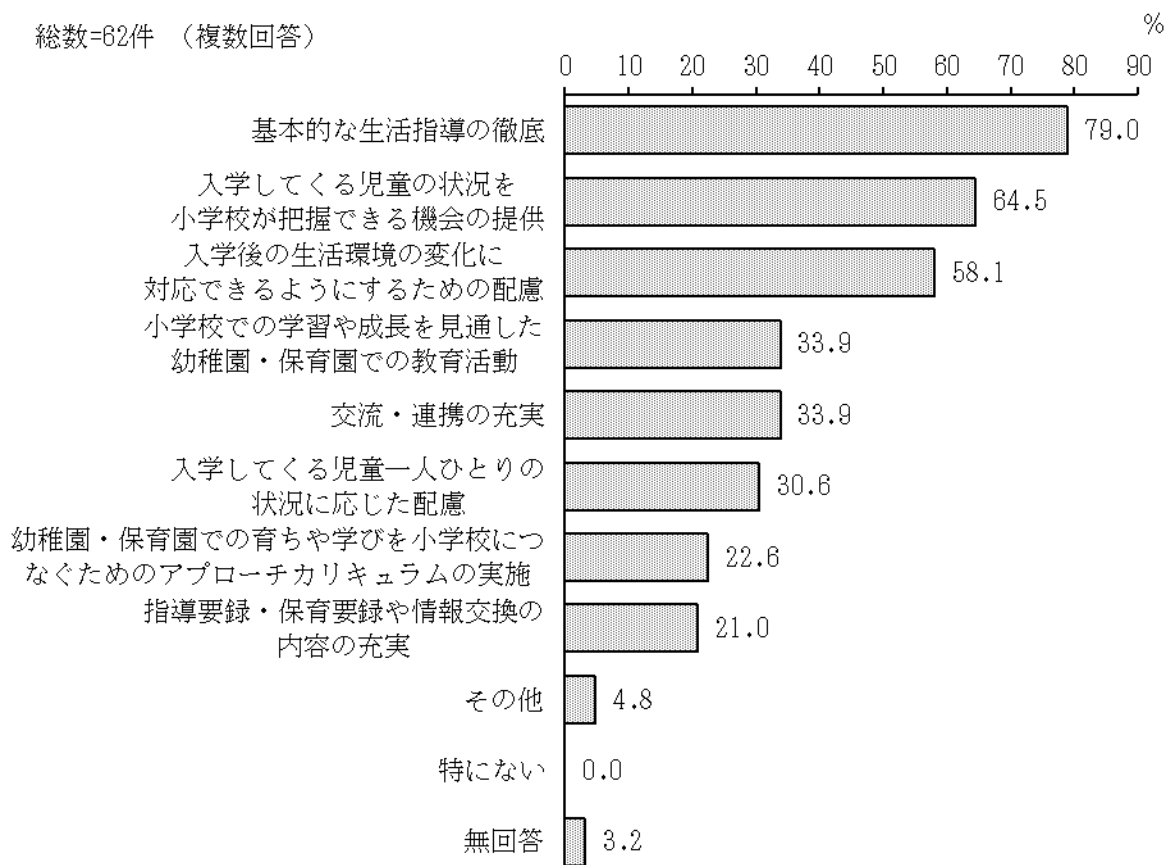


(7) 幼稚園や保育園に対して期待すること

問 19 あなたの学校に入学する児童の出身園である幼稚園や保育園に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

「基本的な生活指導の徹底」が 79.0%と最も高く、次いで「入学してくる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供」が 64.5%、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」が 58.1%となっています。

図 2-36 幼稚園や保育園に対して期待すること

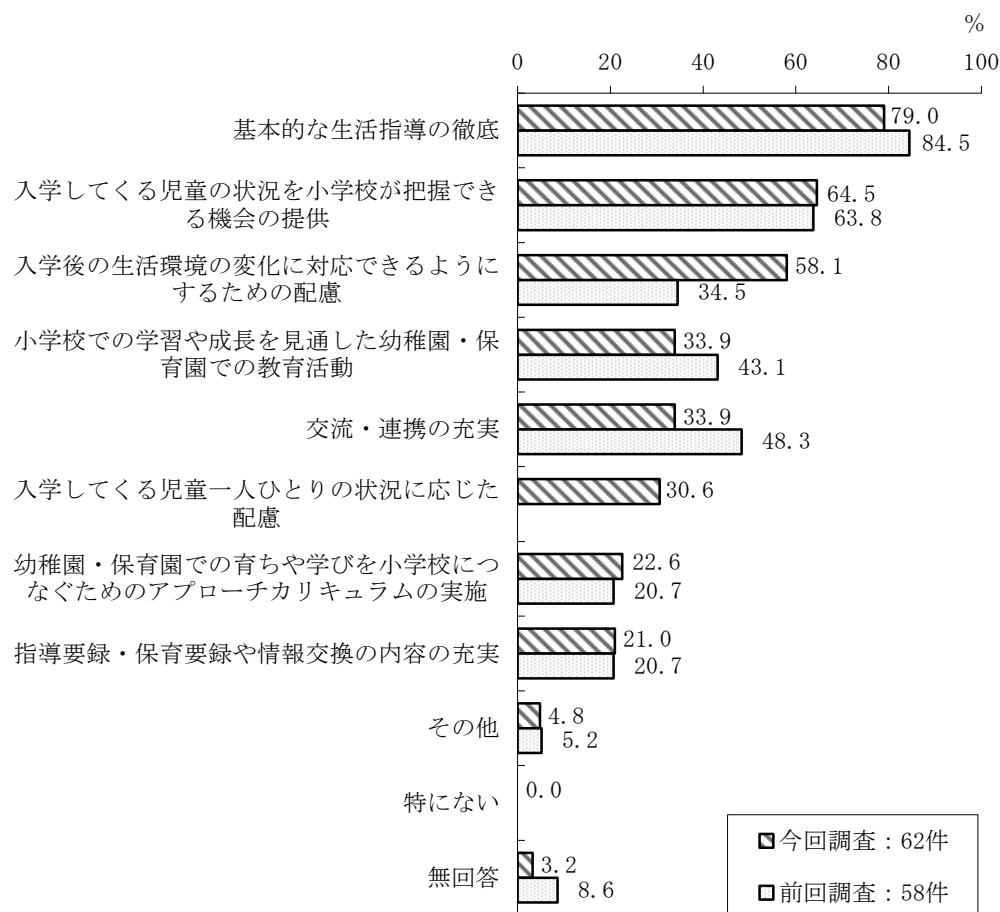


小学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」という回答の割合は特に高くなっています。一方、「小学校での学習や成長を見通した幼稚園・保育園での教育活動」、「交流・連携の充実」という回答の割合は低くなっています。

図 2-37 幼稚園や保育園に対して期待すること（前回調査との比較）



※ 前回調査は「入学してくる児童一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

4 中学校進学に向けた取組について

(1) 中学校進学に向けて行っている具体的な取組

問 20 【校長、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください】あなたの学校では、中学校進学に向けて、生徒指導や教科指導等における具体的な取組として、どのようなことを行っていますか（教科担任制の導入、中学校生活について話を聞く機会の設定など）。具体的にご記入ください。

対象となる回収数 61 件中 58 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 58 件より多くなっています）。

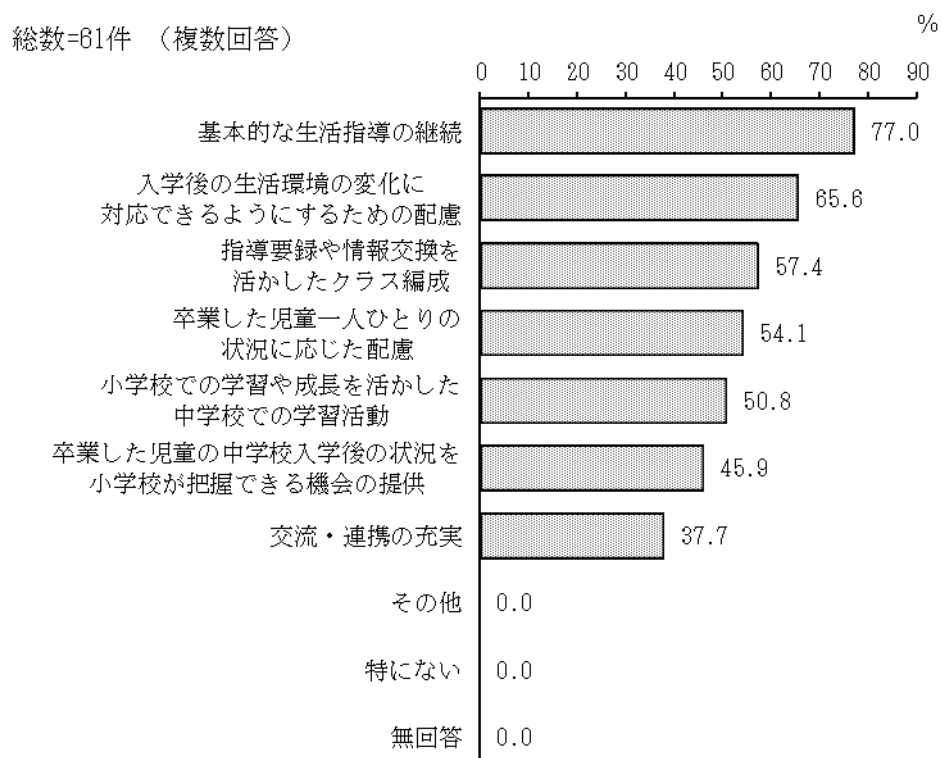
項目	件数
授業に関すること	50
小中学校の授業参観	18
教科担任制の導入	12
中学校教員の授業（外国語活動等）への参加	9
食育・運動等についての指導	4
学級活動で中学校進学に向けて指導	3
授業でのノート指導	2
総合的な学習の時間で「卒業に向けて」の学習	1
学習指導の類似化	1
児童・生徒の交流に関すること	25
運動（運動会、大会、練習指導等）の交流	10
部活動の見学・体験	6
芸術（作品展示等）・音楽（音楽会、楽器演奏指導等）の交流	6
あいさつ運動	3
中学校の教員、生徒（中学校社会体験事業）、担任等から中学校生活について話を聞く機会の設定	24
中学校の体験入学・学校見学	16
教員同士の情報交換	15
生徒指導・生活指導（校則、規律、あいさつ、携帯電話・スマートフォン等）	10
小中連絡協議会、研修会の開催	8
家庭学習、自主学習の指導	5
保護者向け中学校入学説明会	2
中学校進学に向けたカリキュラムの見直し	2
中学校の学校だよりの配付	2
さわやか相談員の来校、連携	2
委員会、クラブ等での責任を持たせる工夫	1
その他	1

(2) 中学校に対して期待すること

問 21 【校長、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください】あなたの学校を卒業する児童が進学する中学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

「基本的な生活指導の継続」が77.0%と最も高く、次いで「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」が65.6%、「指導要録や情報交換を活かしたクラス編成」が57.4%となっています。

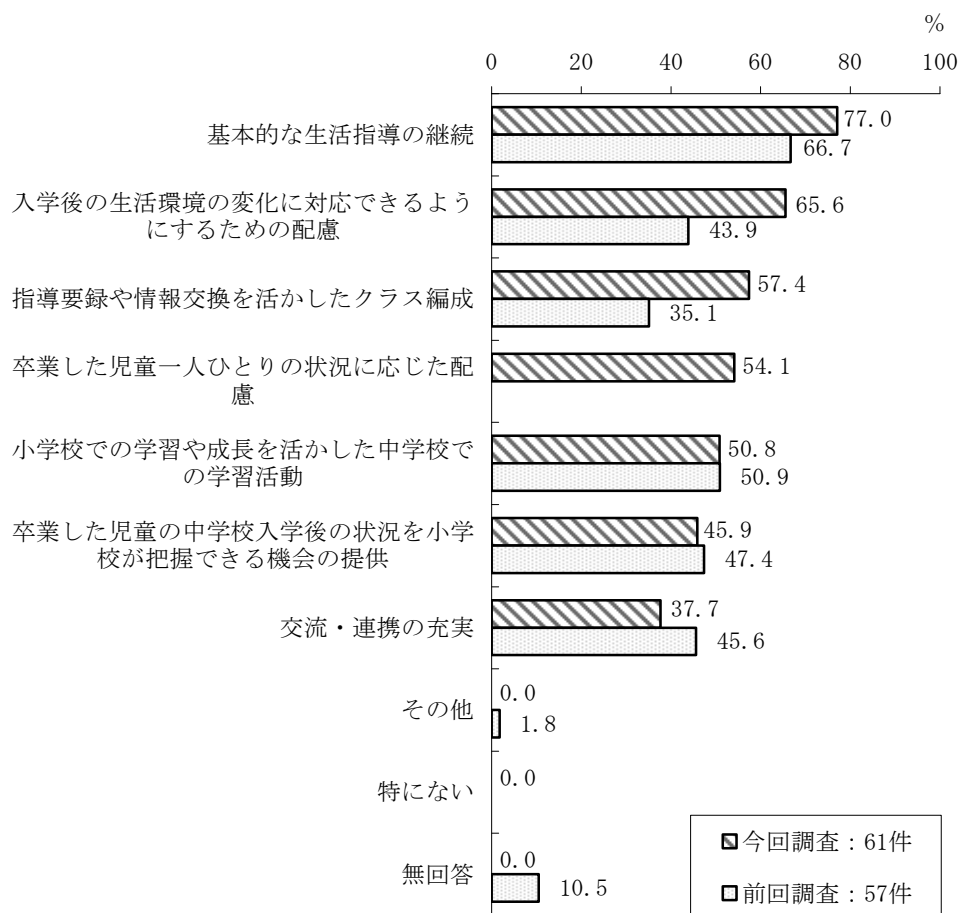
図 2-38 中学校に対して期待すること



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「基本的な生活指導の継続」、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」、「指導要録や情報交換を活かしたクラス編成」という回答の割合が高くなっています。

図2-39 中学校に対して期待すること（前回調査との比較）



※ 前回調査は「卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

5 自由記述

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 103 件中 27 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 27 件より多くなっています）。

項目	件数
園・学校間の連携に関すること	22
交流・連携を継続、充実していきたい	4
交流・連携には時間の確保が必要	3
内容を工夫して取り組んでいきたい	2
幼保小中へスムーズに接続できるように交流・連携を深める必要がある	2
幼保小中の教職員の共通理解を図り、子どもに無理がないよう、スモールステップで取り組みたい	1
「あいさつ運動」等で中学生との交流を行っている	1
中学校への体験入学は良かった	1
発達段階に応じたカリキュラムの構築が必要	1
小中の接続を考慮した活動や連携を協議しカリキュラムに加えたい	1
幼保小中それぞれの教育課程を充実させることが重要	1
幼保小中連携を進めるには、時間の確保、指導内容、授業時数、教職員の勤務時間等も変えていく必要がある	1
時間・人材の確保が必要	1
交流・連携するための窓口をわかりやすく示してほしい	1
幼保小連絡会を行っている	1
幼保小中、さらに高校と連携して系統的に取り組めるとよい	1
幼保小中連携のパイプ役になる人がいれば、一層の連携が図れる	1
特別支援教育に関すること	2
幼保から小へつなぐ特別支援教育研修の充実をしてほしい	1
小中学校の特別支援の取組を密にしていきたい	1
家庭との連携は難しいが、PTAが学校や幼保と協力して活動しているのがよい	2
地域が協力的なので、その力を連携にもっと取り入れていきたい	2
幼保小中時代は基本的な生活指導が大事	1
その他	1

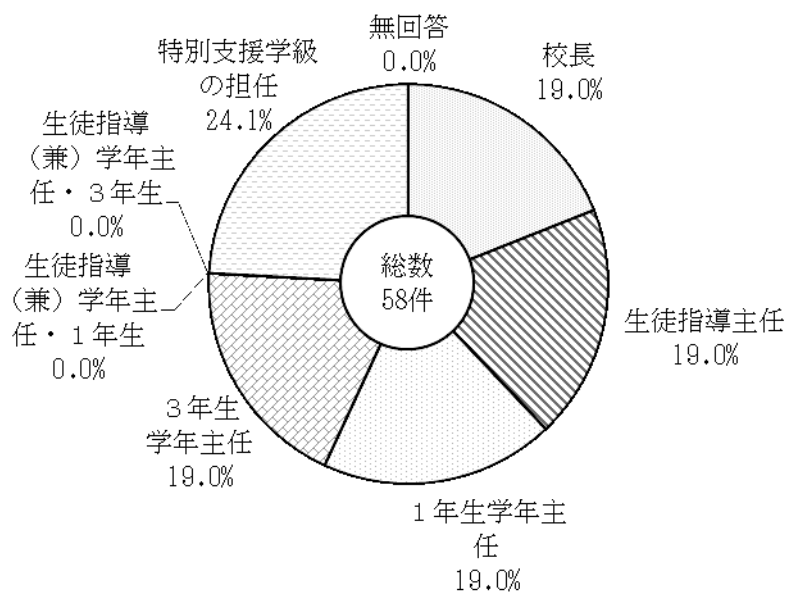
Ⅲ 中学校の調査結果

1 基本情報

(1) 職名

回答者の職名は以下のとおりです。

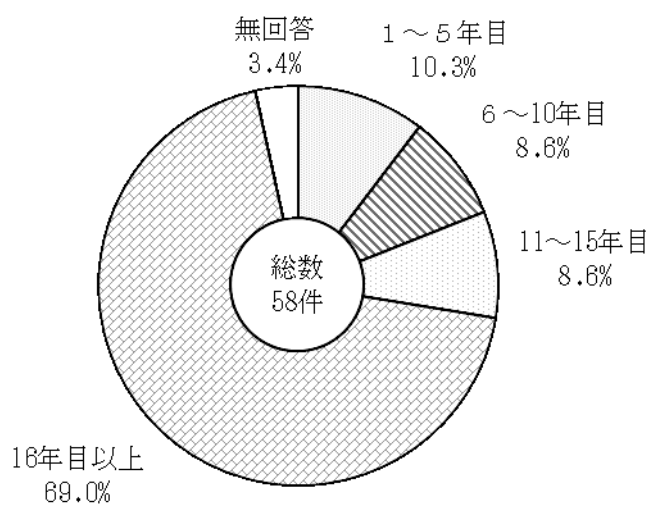
図3-1 職名



(2) 教員歴

「16年目以上」が69.0%と最も高く、次いで「1～5年目」が10.3%、「6～10年目」と「11～15年目」がそれぞれ8.6%となっています。

図3-2 教員歴

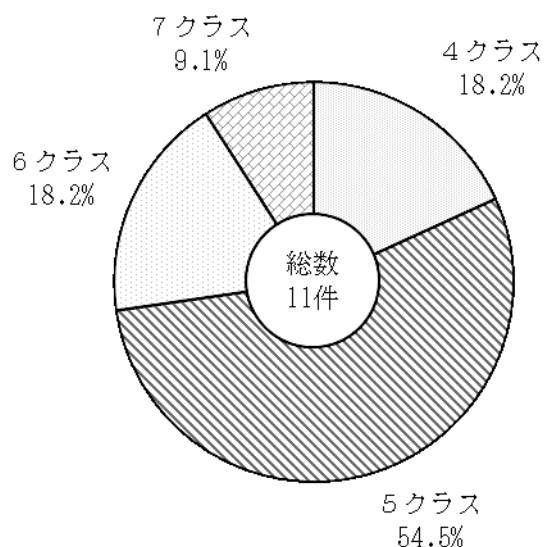


(3) 学級数

① 1年生の学級数

「5クラス」が54.5%と最も高く、次いで「4クラス」と「6クラス」がそれぞれ18.2%となっています。

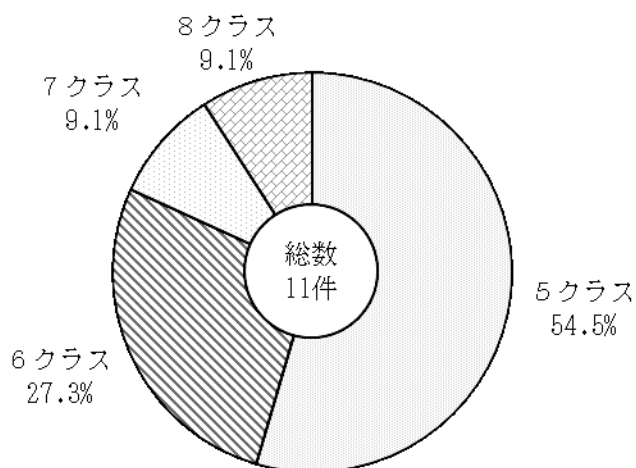
図3-3 1年生の学級数



② 3年生の学級数

「5クラス」が54.5%と最も高く、次いで「6クラス」が27.3%となっています。

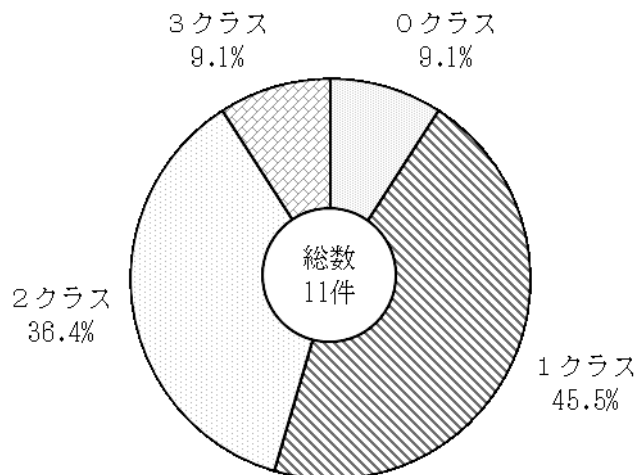
図3-4 3年生の学級数



③ 特別支援学級数

「1クラス」が45.5%と最も高く、次いで「2クラス」が36.4%となっています。

図3-5 特別支援学級数



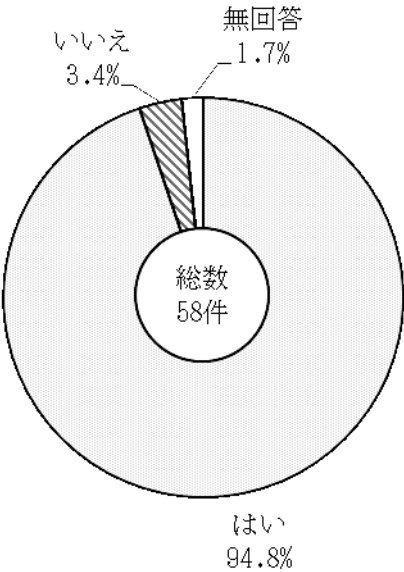
2 幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

(1) 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況

問1 あなたの学校では、昨年度（平成24年度）に、幼稚園・保育園・小学校・他の中学校のいずれか又はいくつかと交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

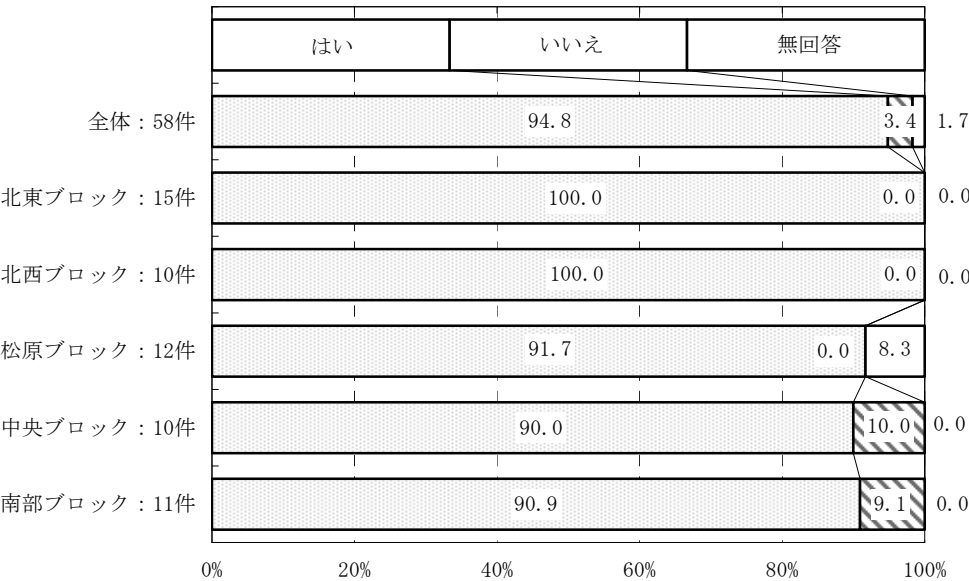
「はい」が94.8%、「いいえ」が3.4%となっています。

図3-6 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況



地域別の交流・連携の実施状況は以下のとおりです。

図3-7 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況（地域別）

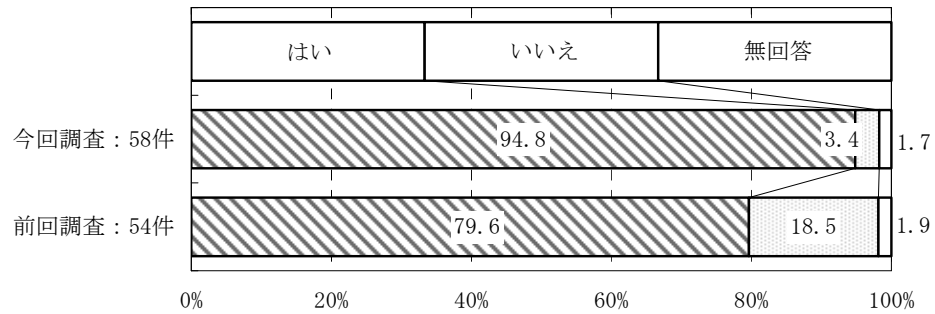


中学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、交流・連携を行っている割合が 15.2 ポイント高くなっています。

図 3－8 幼稚園・保育園・小学校・他の中学校との交流・連携の実施状況
(前回調査との比較)

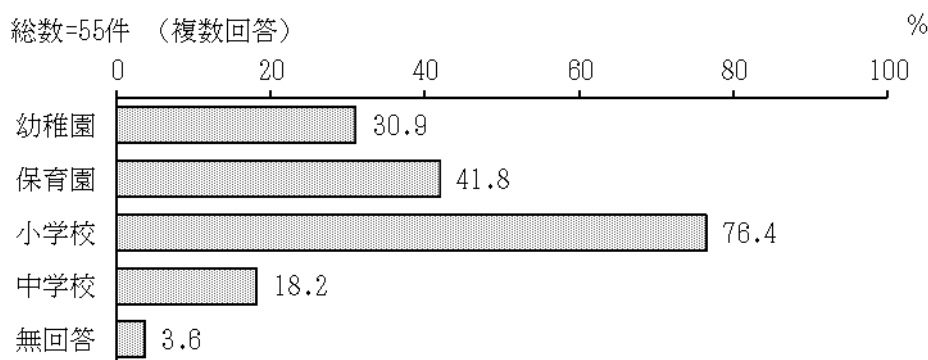


(2) 交流・連携の相手方

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の相手方はどこでしたか。(あてはまるもの全てに○、相手方の数を記入)

「小学校」が76.4%と最も高く、次いで「保育園」が41.8%、「幼稚園」が30.9%となっています。

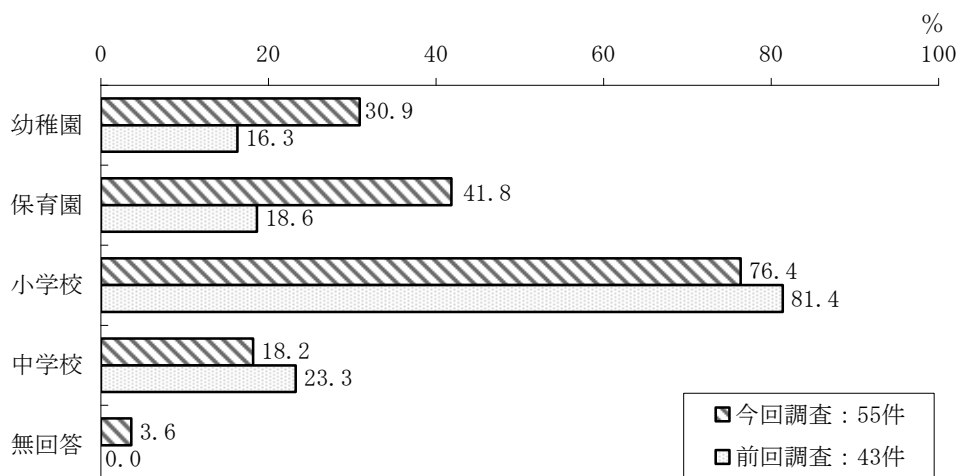
図3-9 交流・連携の相手方



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「幼稚園」、「保育園」という回答の割合が高くなっています。

図3-10 交流・連携の相手方 (前回調査との比較)

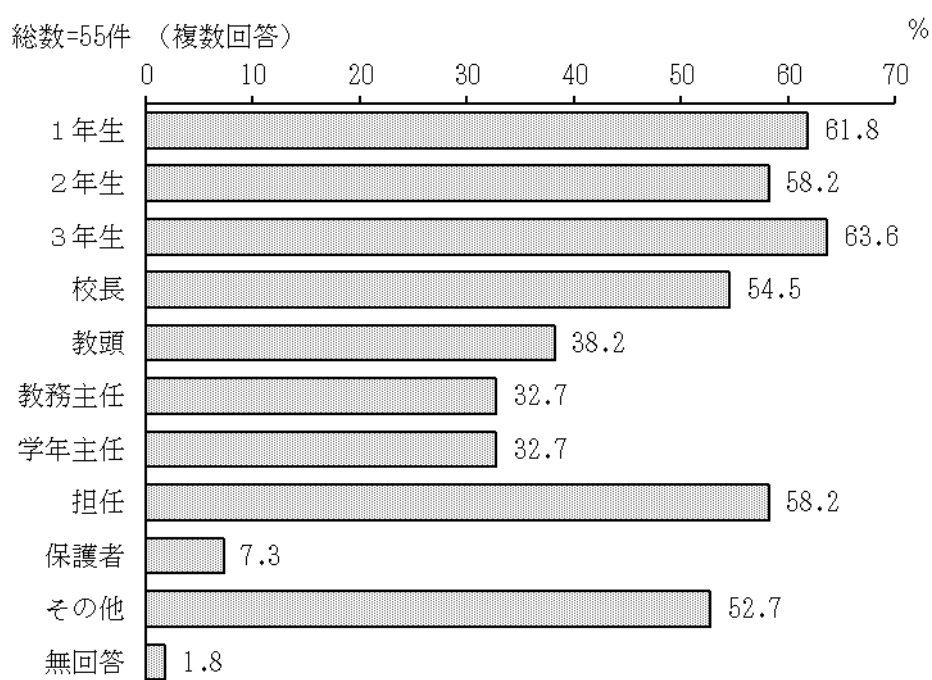


(3) 交流・連携の参加者

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。(あてはまるもの全てに○)

生徒では、「3年生」が63.6%と最も高く、次いで「1年生」が61.8%、「2年生」が58.2%となっています。教職員等では、「担任」が58.2%と最も高く、次いで「校長」が54.5%となっています。

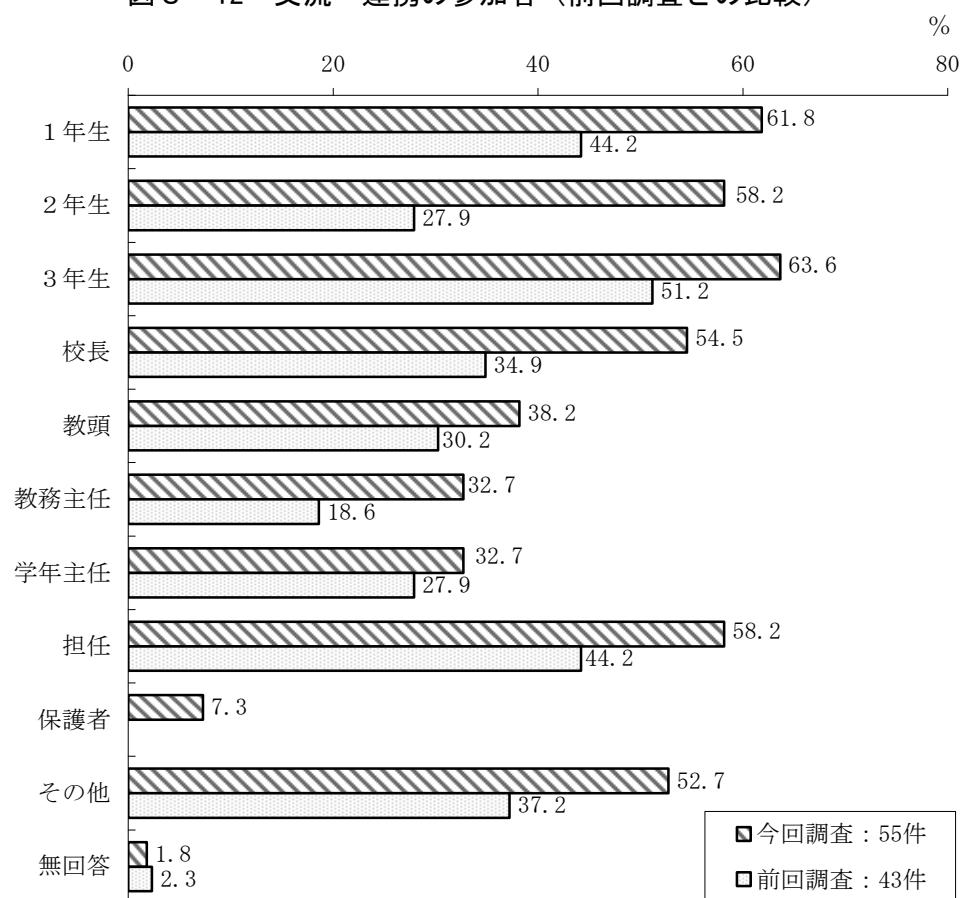
図3-11 交流・連携の参加者



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、すべての項目で割合が高くなっています。

図 3-12 交流・連携の参加者（前回調査との比較）



※ 前回調査は「保護者」の項目なし。

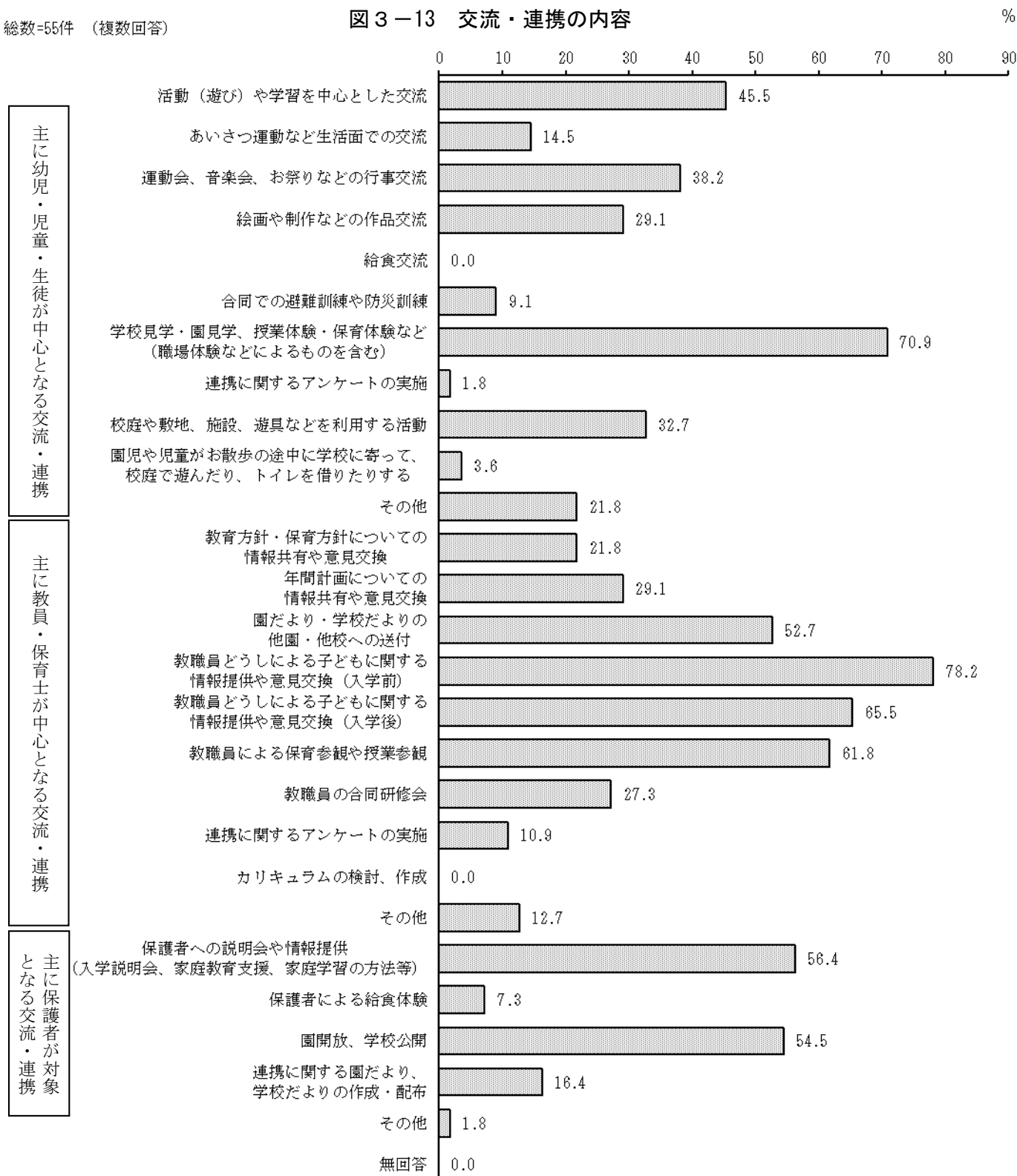
(4) 交流・連携の内容

問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。(あてはまるもの全てに○)

「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」が78.2%と最も高く、次いで「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」が70.9%、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学後）」が65.5%となっています。

総数=55件（複数回答）

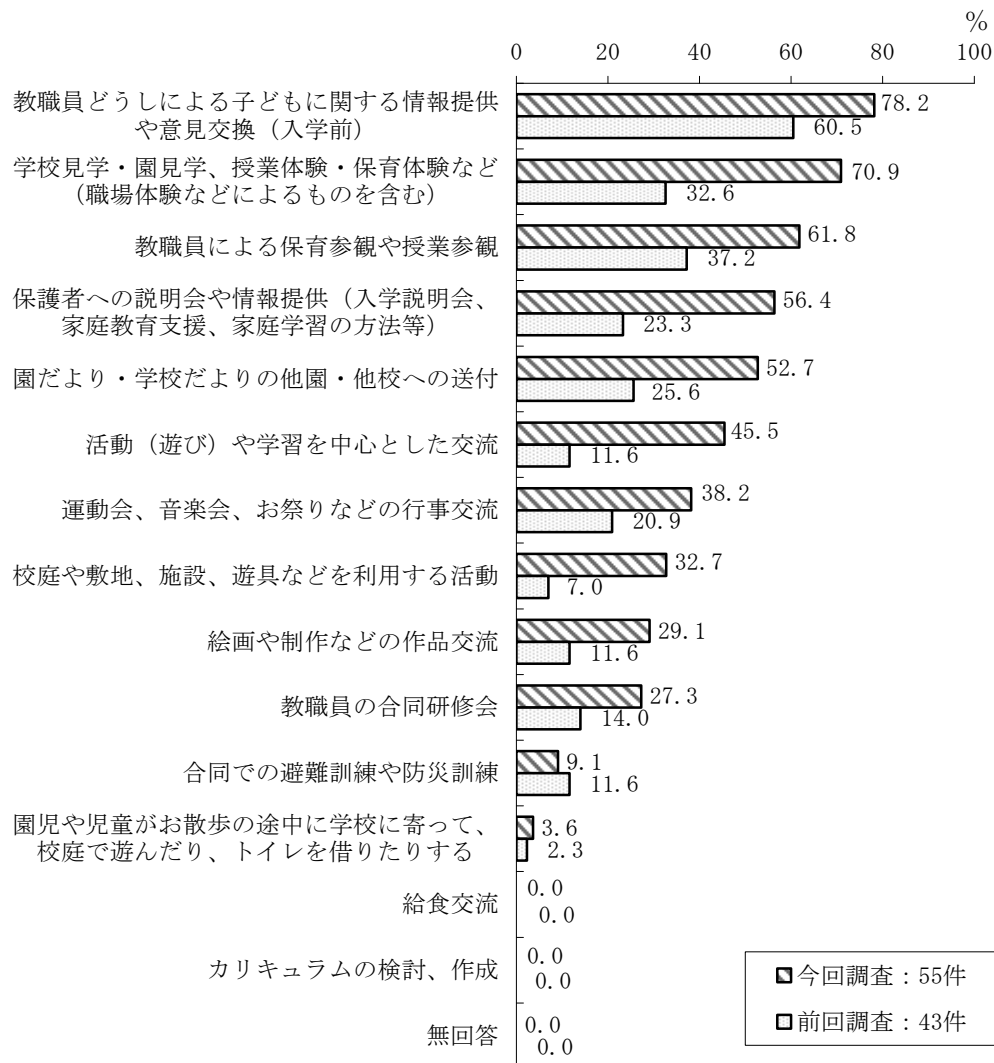
図3-13 交流・連携の内容



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「合同での避難訓練や防災訓練」以外はどの項目も割合が高くなっています。特に、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「教職員による保育参観や授業参観」、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）」、「園だより・学校だよりの他園・他校への送付」、「活動（遊び）を中心とした交流」、「校地や敷地、施設、遊具などを利用する活動」は、20ポイント以上割合が高くなっています。

図3-14 交流・連携の内容（前回調査との比較）



※ 前回調査と比較可能な項目を抜粋。「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」は、前回調査の「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換」と比較している。

(5) 重要な交流・連携の取組

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思われますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。(5つまで)

重要な交流・連携の取組については、主に幼児・児童・生徒が中心となる交流・連携では「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流」、「活動(遊び)や学習を中心とした交流」の件数が多く、主に教員・保育士が中心となる交流・連携では「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学前)」、「教職員による保育参観や授業参観」、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学後)」の件数が多く、主に保護者が対象となる交流・連携では「保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等)」の件数が多くなっています。

表3-1 重要な交流・連携の取組

単位:件

交流・連携の内容			重要度 1	重要度 2	重要度 3	重要度 4	重要度 5	合計
主に 幼児・児童・生徒が 中心となる 交流・連携	1	活動(遊び)や学習を中心とした交流	8	1	1	2	1	13
	2	あいさつ運動など生活面での交流	1	0	5	3	1	10
	3	運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流	4	4	3	4	2	17
	4	絵画や制作などの作品交流	0	1	1	2	2	6
	5	給食交流	0	0	0	1	0	1
	6	合同での避難訓練や防災訓練	0	0	0	0	0	0
	7	学校見学・園見学、授業体験・保育体験など(職場体験などによるものを含む)	7	6	1	0	5	19
	8	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	0	1	1
	9	校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動	1	0	0	0	1	2
	10	園児や児童がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする	0	0	0	0	0	0
	11	その他	1	0	0	0	2	3
主に 教員・保育士が 中心となる 交流・連携	12	教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換	0	0	1	0	0	1
	13	年間計画についての情報共有や意見交換	1	0	0	0	2	3
	14	園だより・学校だよりの他園・他校への送付	0	0	1	1	1	3
	15	教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学前)	22	7	3	2	1	35
	16	教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換(入学後)	2	13	4	2	1	22
	17	教職員による保育参観や授業参観	5	8	10	1	0	24
	18	教職員の合同研修会	1	1	4	4	1	11
	19	連携に関するアンケートの実施	0	0	0	0	1	1
	20	カリキュラムの検討、作成	0	0	0	0	0	0
	21	その他	0	1	1	3	0	5
主に 保護者が 対象となる 交流・連携	22	保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等)	0	3	2	1	2	8
	23	保護者による給食体験	0	0	0	0	0	0
	24	園開放、学校公開	1	0	2	1	1	5
	25	連携に関する園だより、学校だよりの作成・配布	0	0	1	0	0	1
	26	その他	0	0	0	0	0	0

【重要と考える理由】

重要度 1～5 のそれぞれについて、最も件数の多かった項目の理由は以下のようになっています。

①重要度 1

「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」（22 件）で記述があったのは 22 件でした（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 22 件より多くなっています。）。

項目	件数
学級編成に活かすため	7
適切な指導ができるから	3
入学前に生徒の情報を知っておくことは重要だから	3
生徒の理解を深める上で必要だから	2
長期的に継続した指導・支援ができるから	2
配慮の必要な生徒の状況を把握する必要があるから	1
生徒指導及び学年経営に関わるから	1
中 1 ギャップの解消に繋がるから	1
トラブルの未然防止のため	1
よりよい教育実践のため	1
スムーズに新しい環境での準備ができるから	1
知らなかった情報を得ることができるから	1

②重要度 2

「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学後）」（13 件）で記述があったのは 13 件でした。

項目	件数
適切な指導ができるから	3
生徒の理解を深める上で必要だから	2
その後の教育活動がしやすいから	2
長期的に継続した指導・支援ができるから	1
子どもについて意見交換する時、子どものことを互いに知っていることが大切だから	1
定期的に学校・園の状況を相互に理解し、協力するため	1
情報交換は大切だから	1
知らなかった情報を得ることができるから	1
その他	1

中学校の調査結果

③重要度 3

「教職員による保育参観や授業参観」(10件)で記述があったのは10件でした(1件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は10件より多くなっています。)

項目	件数
互いの指導方針・内容、専門性の違いなどを理解するため	3
授業を通して意見交換できるから	1
授業のルールや子どもの実態を知る絶好の機会だから	1
授業の様子やクラスの雰囲気などを共有することは有益だから	1
入学後の生徒への指導上必要だから	1
教員相互の小学校・中学校に対する理解を深めるため	1
小学校の取り組みを見ることで、中学校に引き継げることもあるから	1
知らなかった情報を得ることができるから	1
その他	1

④重要度 4

「運動会、音楽会、お祭りなどの交流行事」(4件)で記述があったのは4件でした。

項目	件数
子どもが互いの学校をよく知ることができるから	1
合唱を通して中学生の行事への取り組みを肌で感じ取れるから	1
児童生徒の繋がりができるから	1
行事や文化交流も様子を理解できるから	1

「教職員の合同研修会」(4件)で記述があったのは4件でした。

項目	件数
互いの意思疎通、情報交換を図ることができるから	2
現状の理解、課題の明確化、解決に向けた方策のため	1
教員同士が共通の認識のもとで教育にあたることが重要だから	1

⑤重要度 5

「保護者への説明会や情報提供(入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等)」(5件)で記述があったのは5件でした。

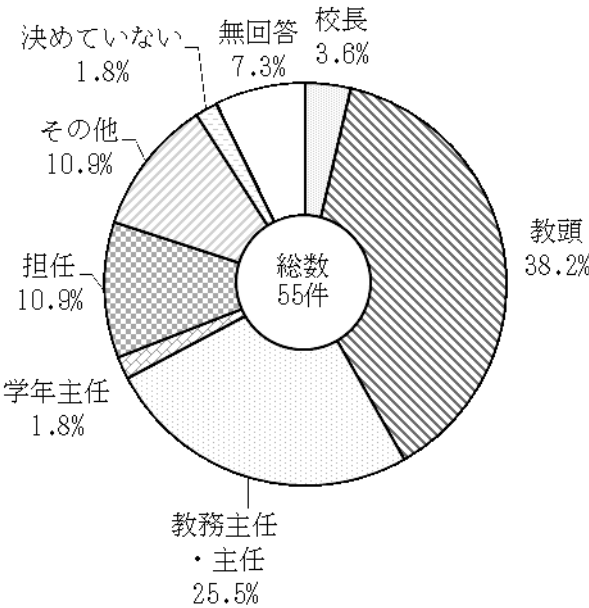
項目	件数
児童と生徒が互いの関わりをもてるから	2
体験等を通して生徒の実態がわかるから	1
子どもの体験学習の一貫として必須事項だから	1
その他	1

(6) 交流・連携の窓口の主な担当者

問6 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。(○は1つだけ)

「教頭」が38.2%と最も高く、次いで「教務主任・主任」が25.5%、「担任」が10.9%となっています。

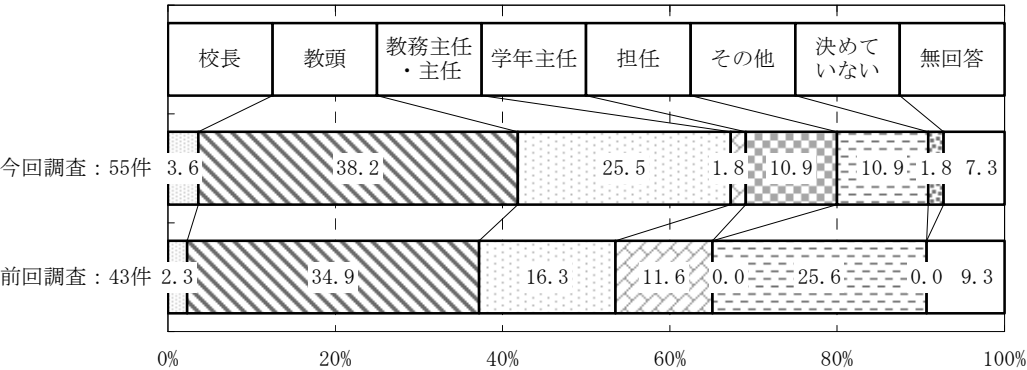
図3-15 交流・連携の窓口の主な担当者



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「教務主任・主任」、「担任」という回答の割合が高くなっています。

図3-16 交流・連携の窓口の主な担当者（前回調査との比較）

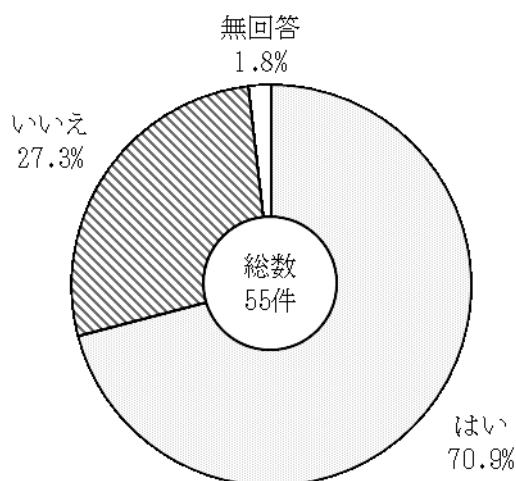


（７）交流・連携の窓口の担当者の固定化

問７ 【問１で１の「はい」に○をつけた場合に教えてください】 交流・連携の窓口の担当者は、固定していますか。（○は１つだけ）

「はい」が70.9%、「いいえ」が27.3%となっています。

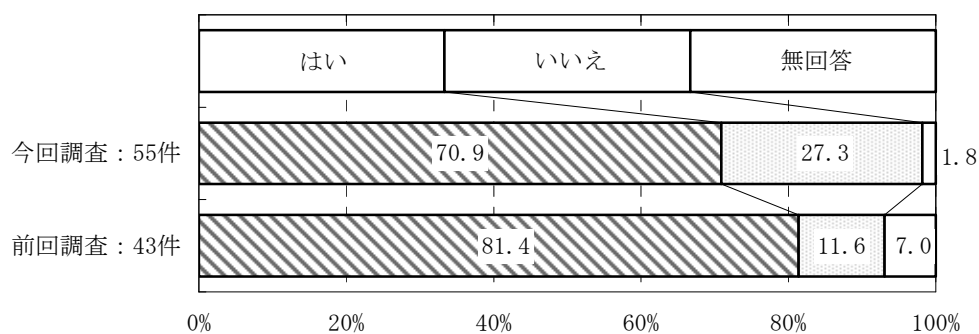
図３－１７ 交流・連携の窓口の担当者の固定化



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、固定化している割合が低くなっています。

図３－１８ 交流・連携の窓口の担当者の固定化（前回調査との比較）

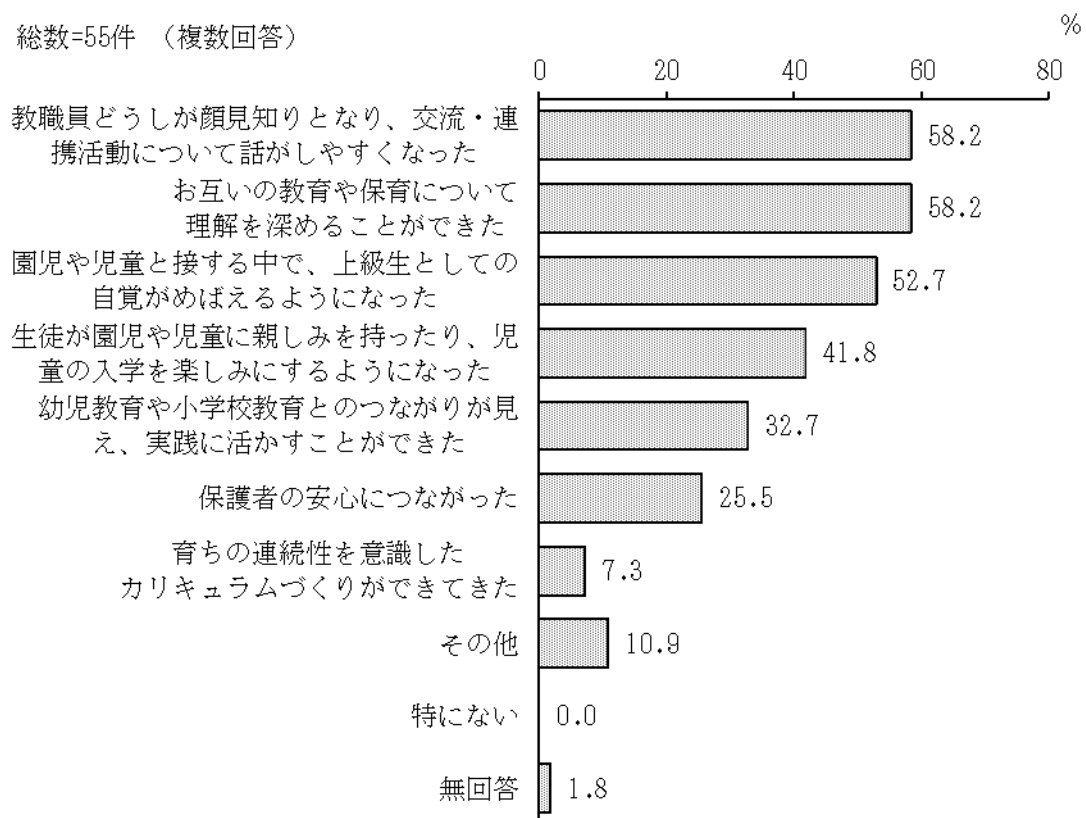


(8) 交流・連携を行って良かった点

問8 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携活動について話がしやすくなった」と「お互いの教育や保育について理解を深めることができた」が58.2%と最も高く、次いで「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」が52.7%となっています。

図3-19 交流・連携を行って良かった点

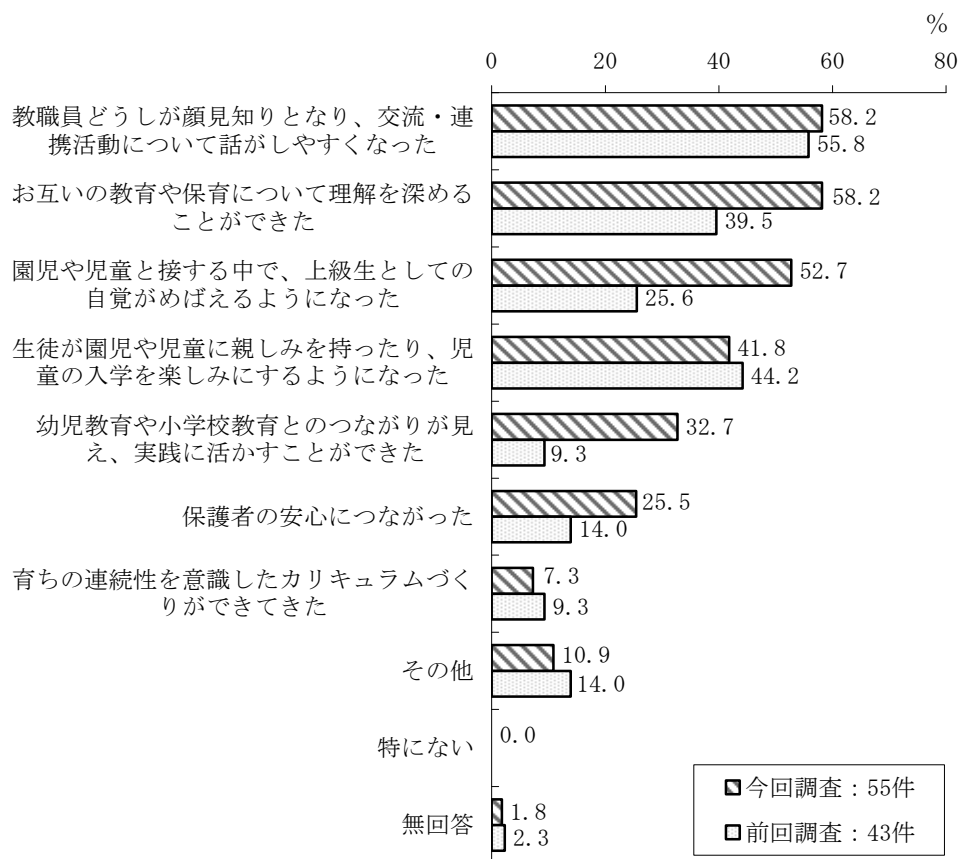


中学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「お互いの教育や保育について理解を深めることができた」、「園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった」、「幼児教育や小学校教育とのつながりが見え、実践に活かすことができた」、「保護者の安心につながった」という回答の割合が高くなっています。

図3-20 交流・連携を行って良かった点（前回調査との比較）



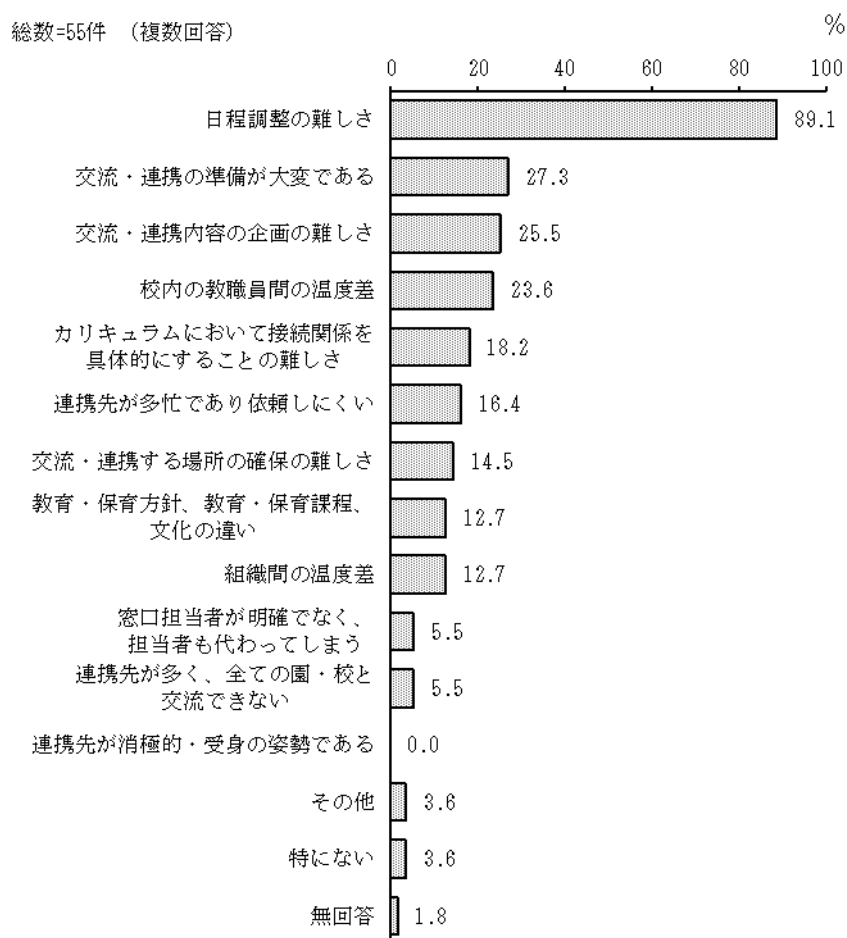
※ 前回調査は「特にない」の項目なし。

(9) 交流・連携の課題となる点

問9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「日程調整の難しさ」が89.1%と最も高く、次いで「交流・連携の準備が大変である」が27.3%、「交流・連携内容の企画の難しさ」が25.5%となっています。

図3-21 交流・連携の課題となる点

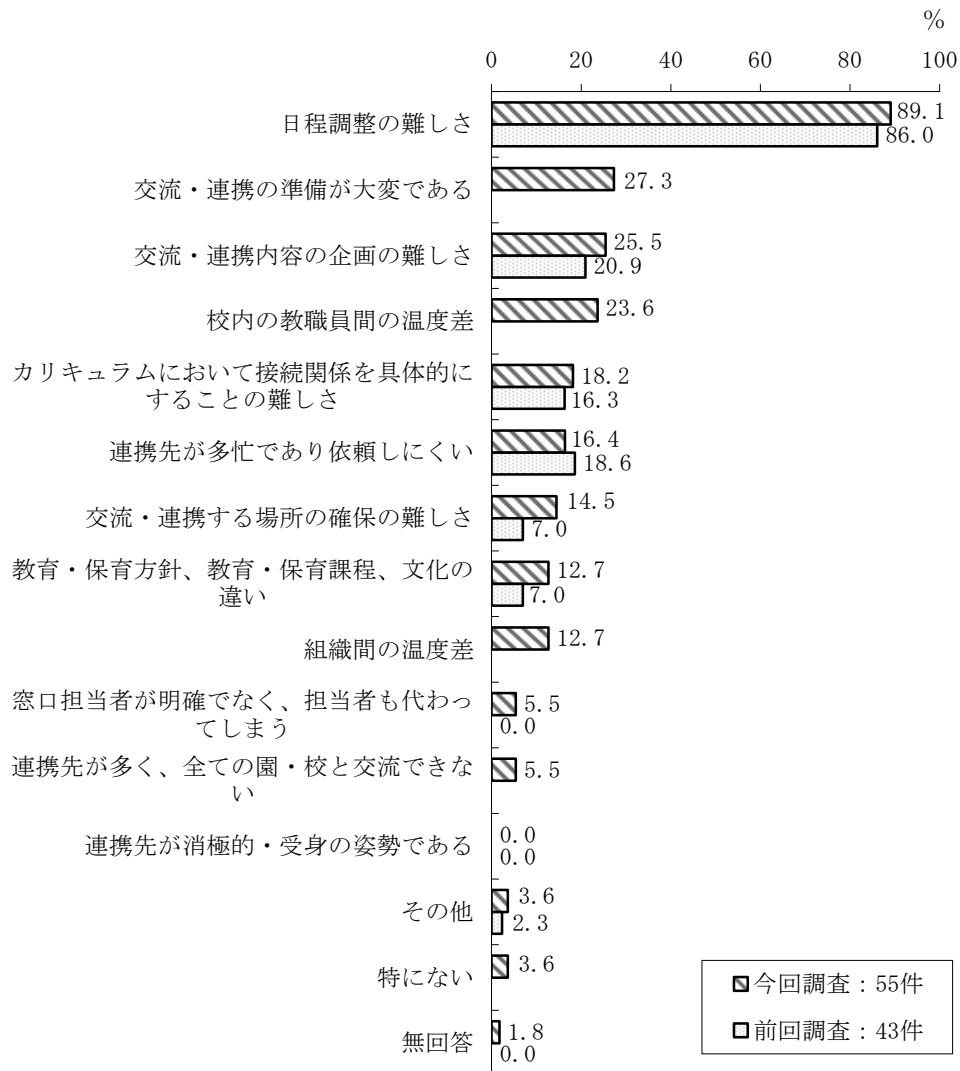


中学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「交流・連携する場所の確保の難しさ」、「教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い」という回答の割合がやや高くなっています。

図 3-22 交流・連携の課題となる点（前回調査との比較）



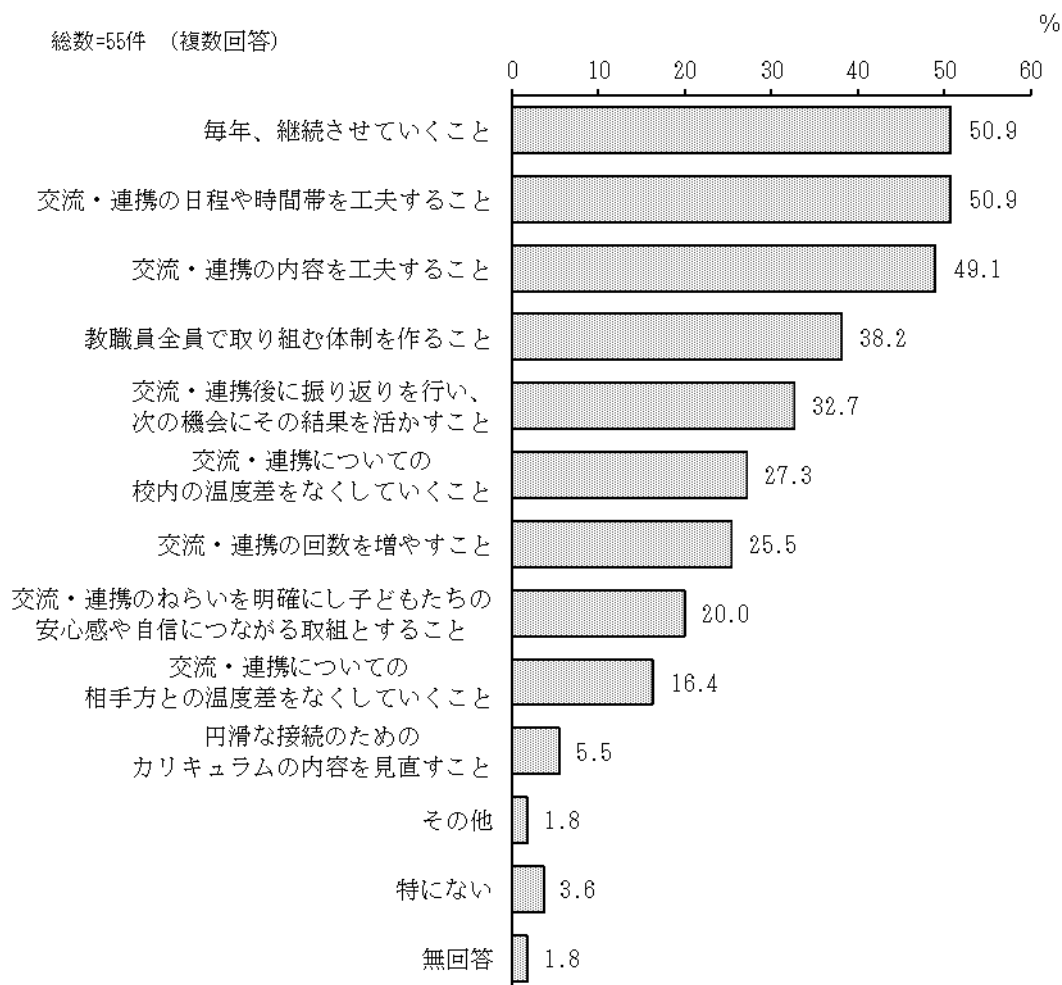
※ 前回調査は「交流・連携の準備が大変である」、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」、「特になし」の項目なし。「校内の教職員間の温度差」、「組織間の温度差」は内容が一部異なるため比較していない。

(10) 交流・連携で改善したい点

問 10 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「毎年、継続させていくこと」と「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」がそれぞれ 50.9%と最も高く、次いで「交流・連携の内容を工夫すること」が 49.1%となっています。

図 3-23 交流・連携で改善したい点

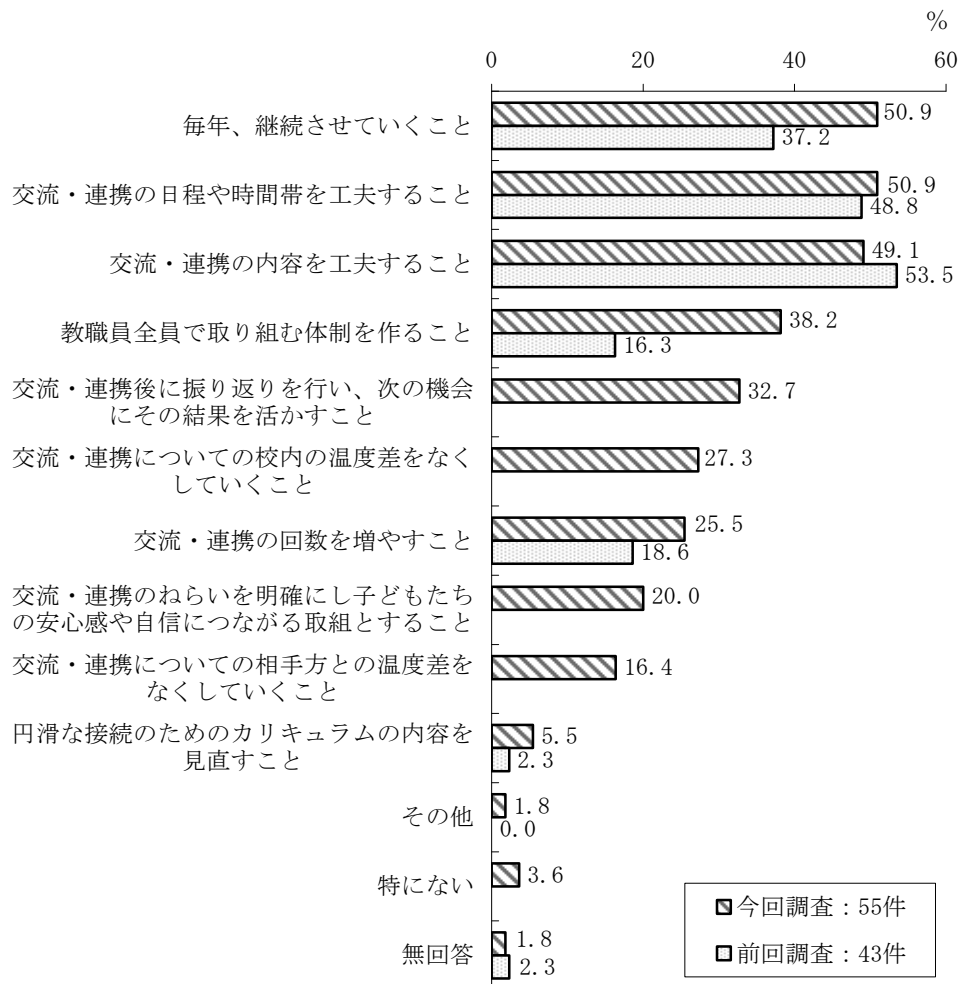


中学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「毎年、継続させていくこと」、「教職員全員で取り組む体制を作ること」という回答の割合が高くなっています。

図3-24 交流・連携で改善したい点（前回調査との比較）



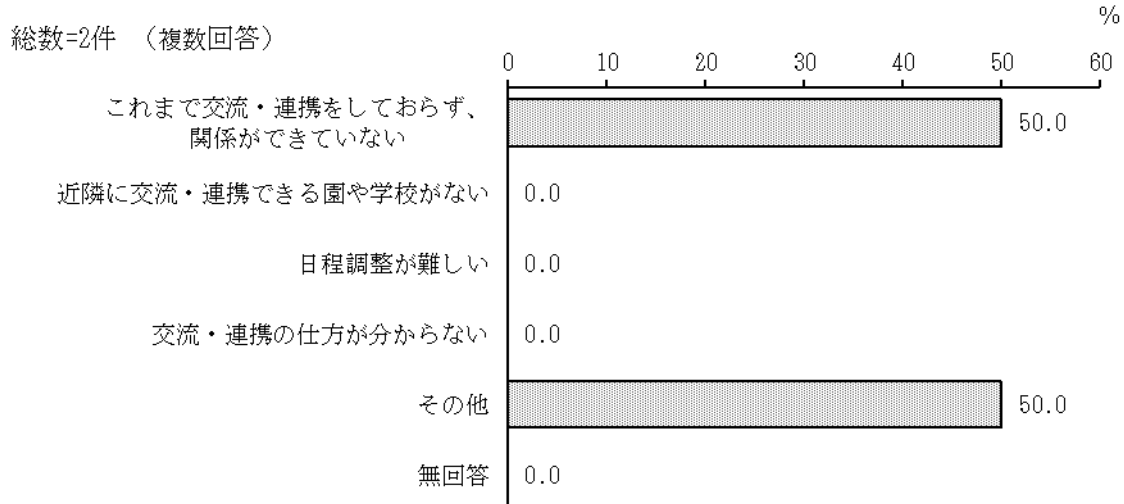
※ 前回調査は「交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を活かすこと」、「交流・連携のねらいを明確にし子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること」、「特にない」の項目なし。「交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと」、「交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと」は内容が一部異なるため比較していない。

(11) 交流・連携の実施が困難な理由

問 11 【問 1 で 2 の「いいえ」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」が 50.0%となっています。

図 3-25 交流・連携の実施が困難な理由

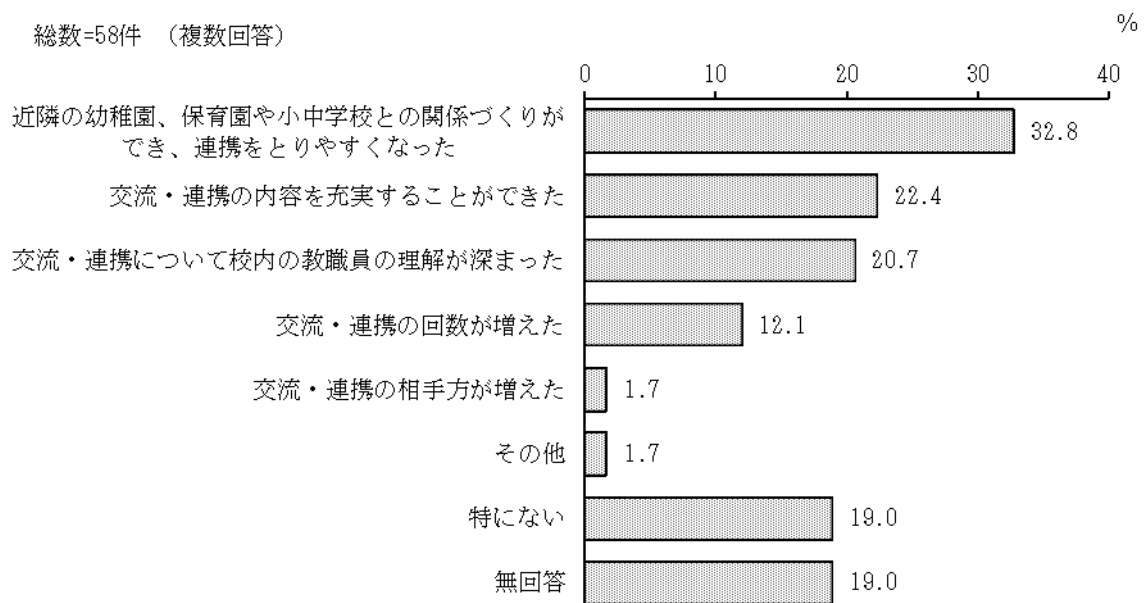


(12) 他園・校との交流・連携について改善されたこと

問 12 あなたの学校において、昨年度（平成 24 年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」が 32.8%と最も高く、次いで「交流・連携の内容を充実することができた」が 22.4%、「交流・連携について校内の教職員の理解が深まった」が 20.7%となっています。一方、「特にない」は 19.0%となっています。

図 3-26 他園・校との交流・連携について改善されたこと



3 中1ギャップについて

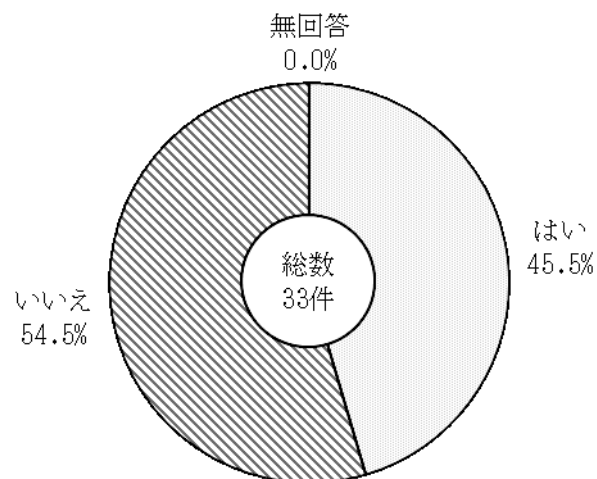
「中1ギャップ」（授業内容の高度化や、先輩・後輩といった上下関係など、小学校にはなかった新しい環境になじめず、不登校などになってしまう生徒が中学生になって急増することをいいます）について、あなたの学校の状況を教えてください。（問13～問18は、校長、生徒指導主任、1年生の学年主任のみ、お答えください）

（1）「中1ギャップ」の発生状況

問13 あなたの学校では、今年度（平成25年度）、「中1ギャップ」といわれる状況がみられますか。（○は1つだけ）

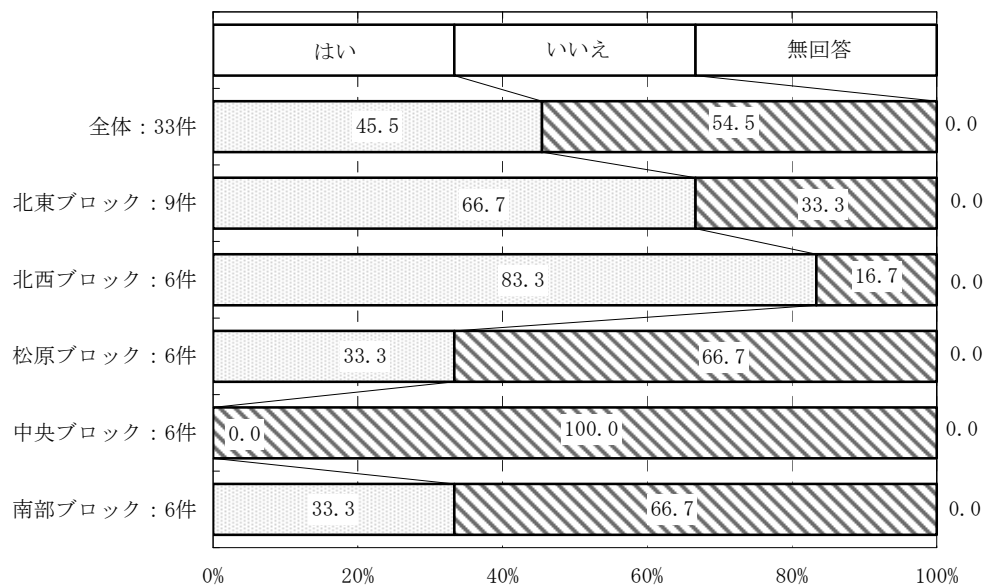
「はい」が45.5%、「いいえ」が54.5%となっています。

図3-27 「中1ギャップ」の発生状況



地域別にみると、「はい」という回答は、北西ブロックが 83.3%と最も高く、次いで北東ブロックが 66.7%、松原ブロックと南部ブロックがそれぞれ 33.3%となっています。

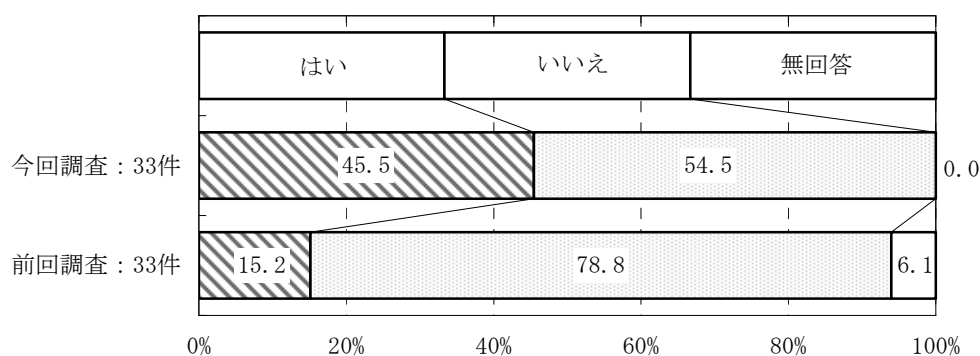
図 3-28 「中 1 ギャップ」の発生状況（地域別）



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「中 1 ギャップ」といわれる状況がみられるとする回答の割合が高くなっています。

図 3-29 「中 1 ギャップ」の発生状況（前回調査との比較）

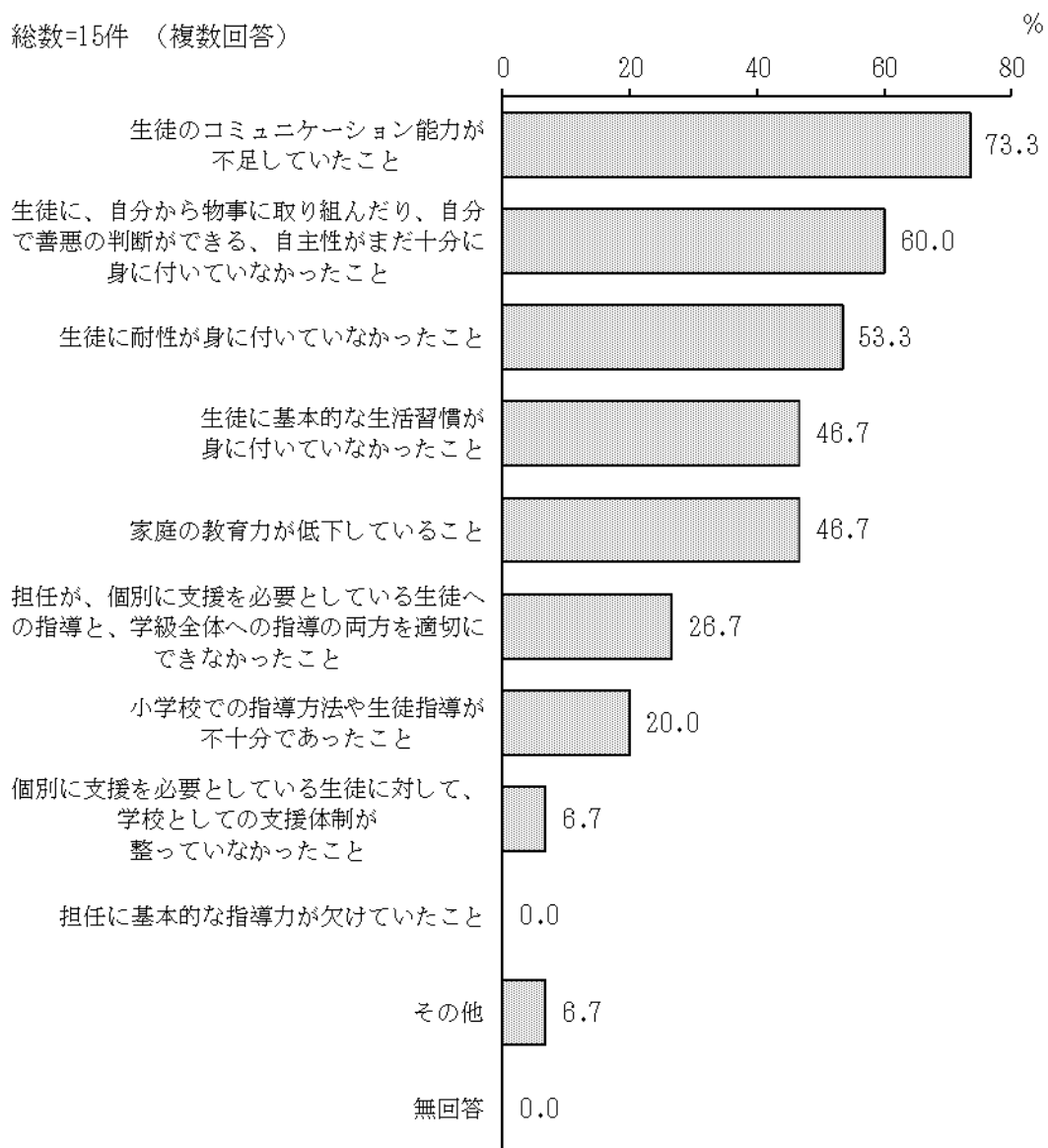


(2)「中1ギャップ」の要因

問 14 【問 13 で 1 の「はい」に○をつけた場合に教えてください】「中1ギャップ」がみられる要因はどのようなことであると考えますか。(あてはまるもの全てに○)

「生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと」が 73.3%と最も高く、次いで「生徒に、自分から物事に取り組んだり、自分で善悪の判断ができる、自主性がまだ十分に身に付いていなかったこと」が 60.0%、「生徒に耐性が身に付いていなかったこと」が 53.3%となっています。

図 3-30 「中1ギャップ」の要因

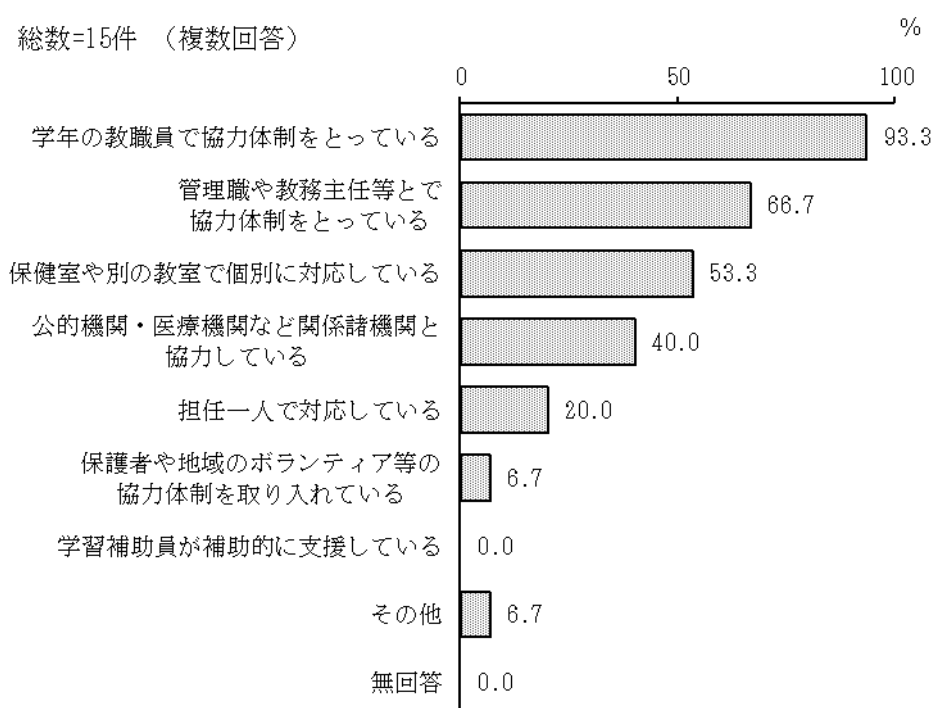


(3)「中1ギャップ」への対応

問 15 【問 13 で 1 の「はい」に○をつけた場合に教えてください】「中1ギャップ」とみられる状況に、どのように対応していますか。(あてはまるもの全てに○)

「学年の教職員で協力体制をとっている」が 93.3%と最も高く、次いで「管理職や教務主任等と協力体制をとっている」が 66.7%、「保健室や別の教室で個別に対応している」が 53.3%となっています。

図 3-31 「中1ギャップ」への対応

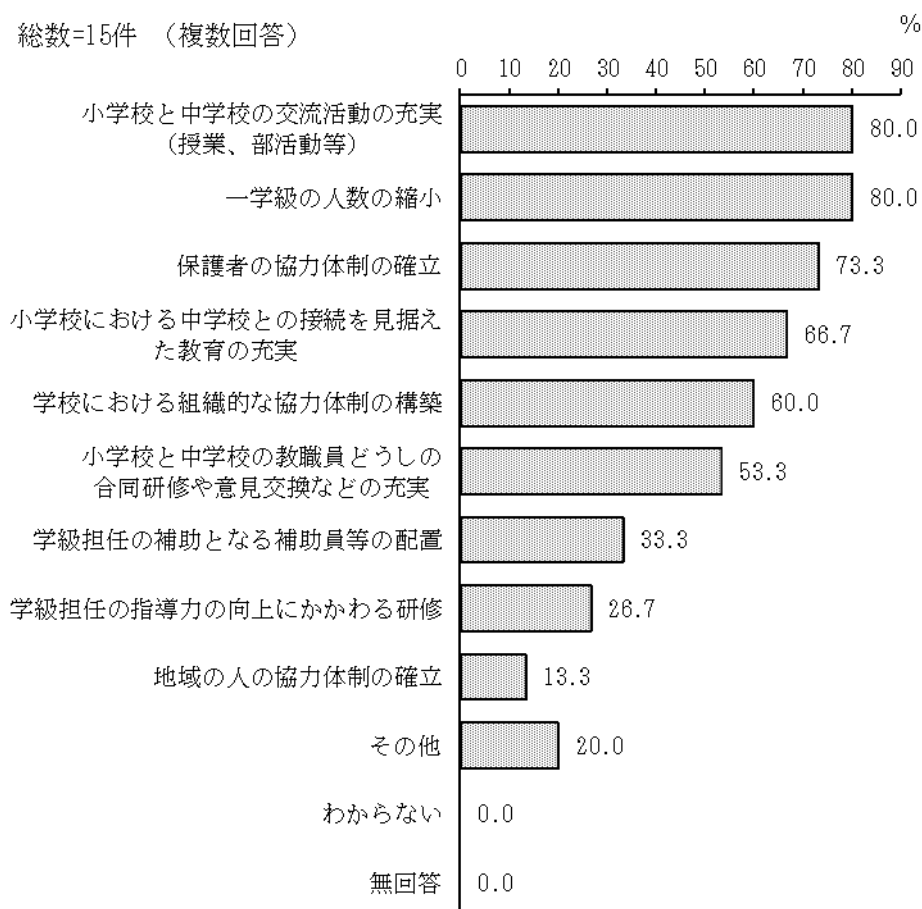


(4)「中1ギャップ」の予防や解消のための対応策

問 16 【問 13 で 1 の「はい」に○をつけた場合に教えてください】「中1ギャップ」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「小学校と中学校の交流活動の充実（授業、部活動等）」と「一学級の人数の縮小」がそれぞれ 80.0%と最も高く、次いで「保護者の協力体制の確立」が 73.3%となっています。

図 3-32 「中1ギャップ」の予防や解消のための対応策

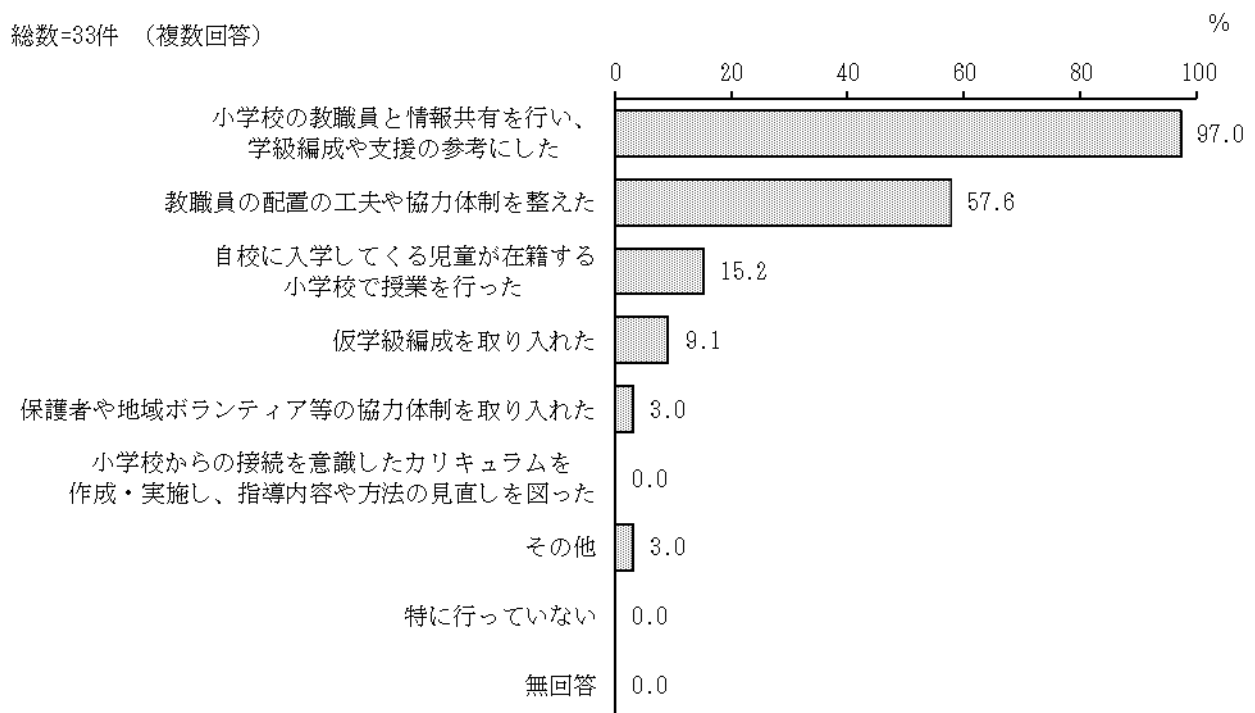


(5) 入学に際しての配慮や準備

問 17 あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

「小学校の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした」が 97.0%と最も高く、次いで「教職員の配置の工夫や協力体制を整えた」が 57.6%、「自校に入学してくる児童が在籍する小学校で授業を行った」が 15.2%となっています。

図 3-33 入学に際しての配慮や準備

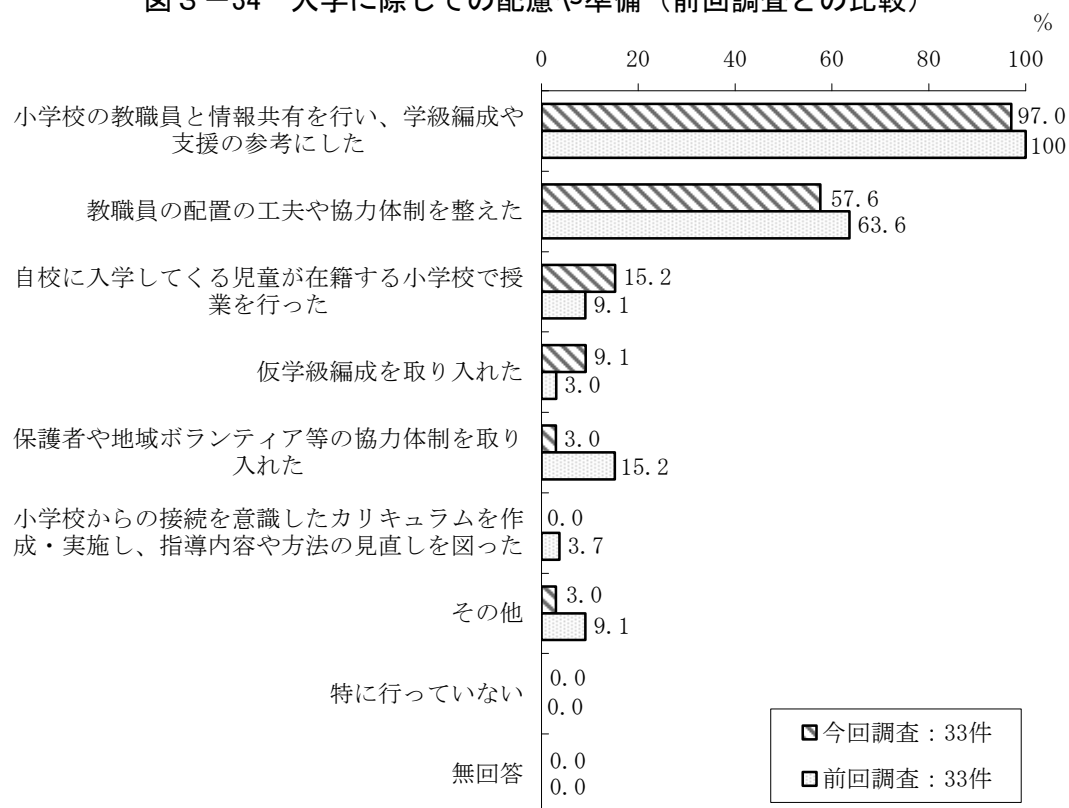


中学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「保護者や地域ボランティア等の協力体制を取り入れた」という回答の割合が低くなっています。

図 3-34 入学に際しての配慮や準備（前回調査との比較）

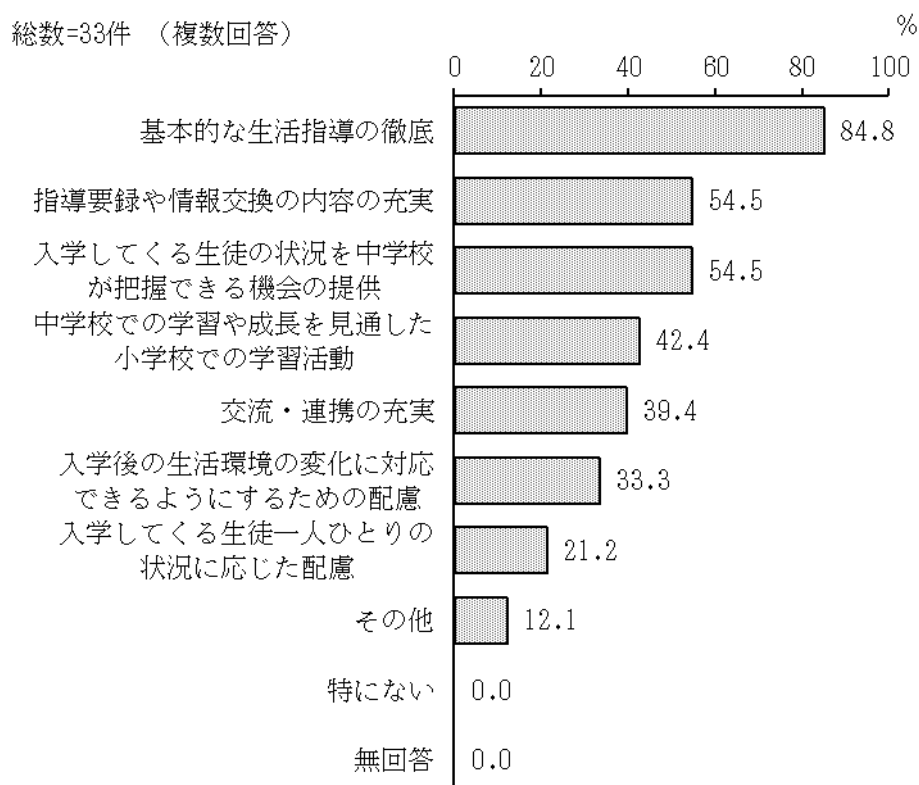


(6) 小学校に対して期待すること

問 18 あなたの学校に入学する生徒の出身校である小学校に対して、どのようなことを期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

「基本的な生活指導の徹底」が 84.8%と最も高く、次いで「指導要録や情報交換の内容の充実」と「入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供」がそれぞれ 54.5%となっています。

図 3-35 小学校に対して期待すること

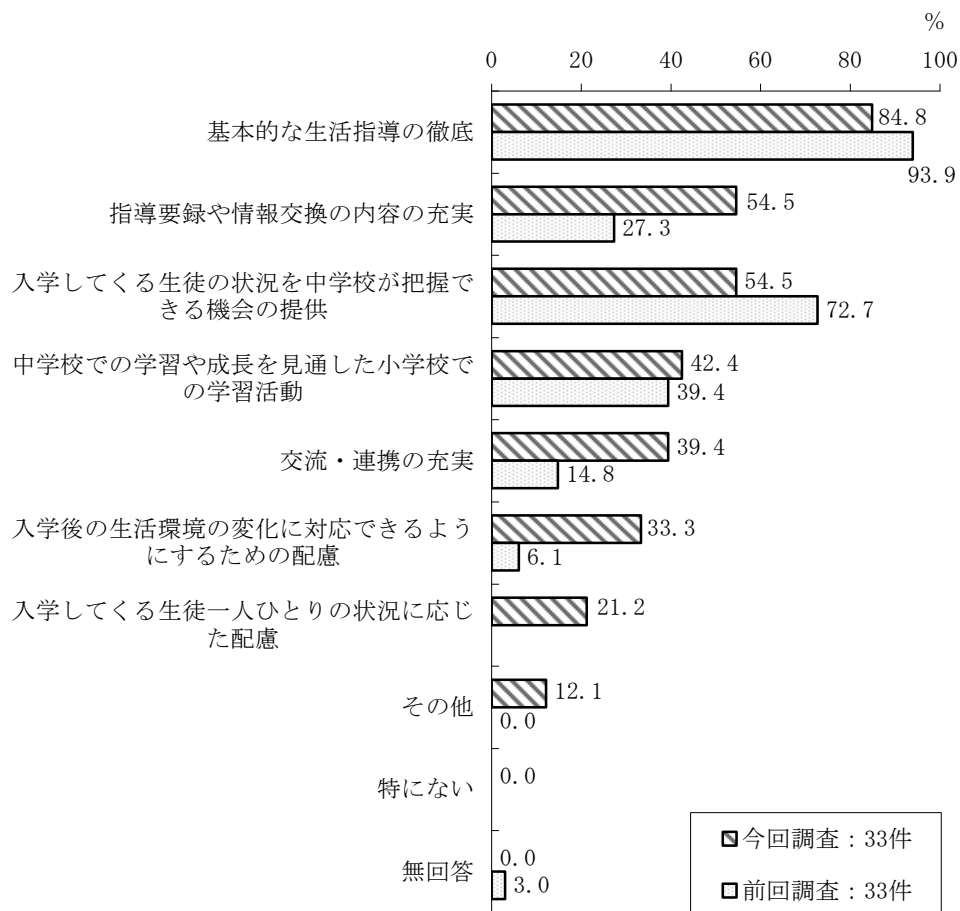


中学校の調査結果

【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「指導要録や情報交換の内容の充実」、「交流・連携の充実」、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮」という回答の割合が特に高くなっています。一方、「入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供」という回答の割合が低くなっています。

図 3-36 小学校に対して期待すること（前回調査との比較）



※ 前回調査は「入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮」、「特にない」の項目なし。

4 自由記述

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

対象となる回収数 58 件中 14 件に記述がありました（1 件の中に複数の項目にまたがる記述もあるため、各項目の件数の合計は 14 件より多くなっています）。

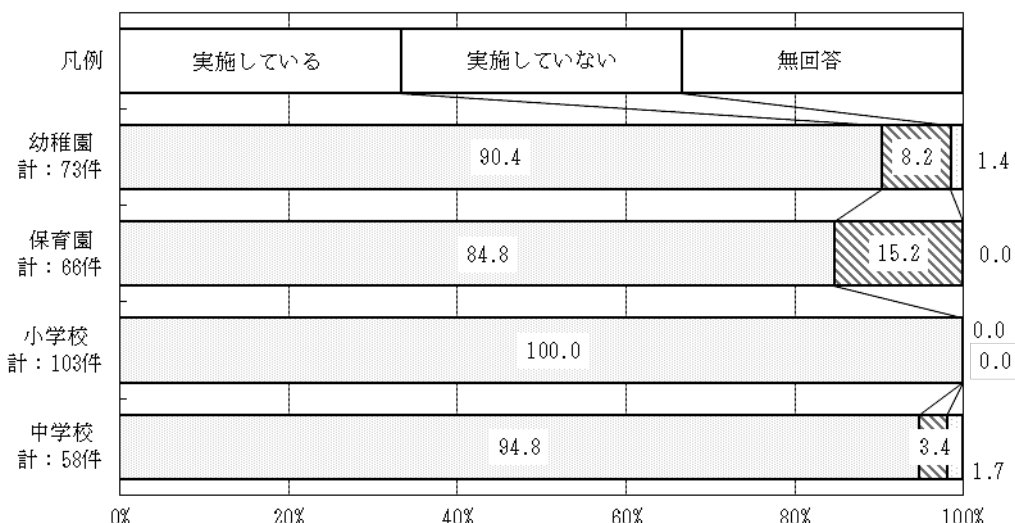
項目	件数
園・学校間の連携に関すること	10
中高連携の取組があるとよい	2
入学してくる子どもたちが楽しい学校生活が送れるよう交流・連携を推進したい	1
小中連携で生徒指導面だけでなく、教科や授業面でも深め合えるとよい	1
交流・連携をさらに推進するためには、人・時間の確保が必要	1
小中学校の現状では多忙のため互いにカリキュラムを作成・実施するのは大変	1
小中連携の最重要事項は学力保障	1
高校・大学への進学、就職等に対しての「乗り越える力」を付ける指導が必要	1
1 学級あたりの人数を減らし、一人一人へのきめこまかな指導で中 1 ギャップは無くなる	1
家庭に対する支援・指導を充実させてほしい	1
その他	6

Ⅳ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の調査結果の比較

1 交流・連携の実施状況

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、交流・連携の実施状況は、幼稚園が 90.4%、保育園が 84.8%、小学校が 100%、中学校が 94.8%と、いずれも極めて高い割合で交流・連携を実施していました。

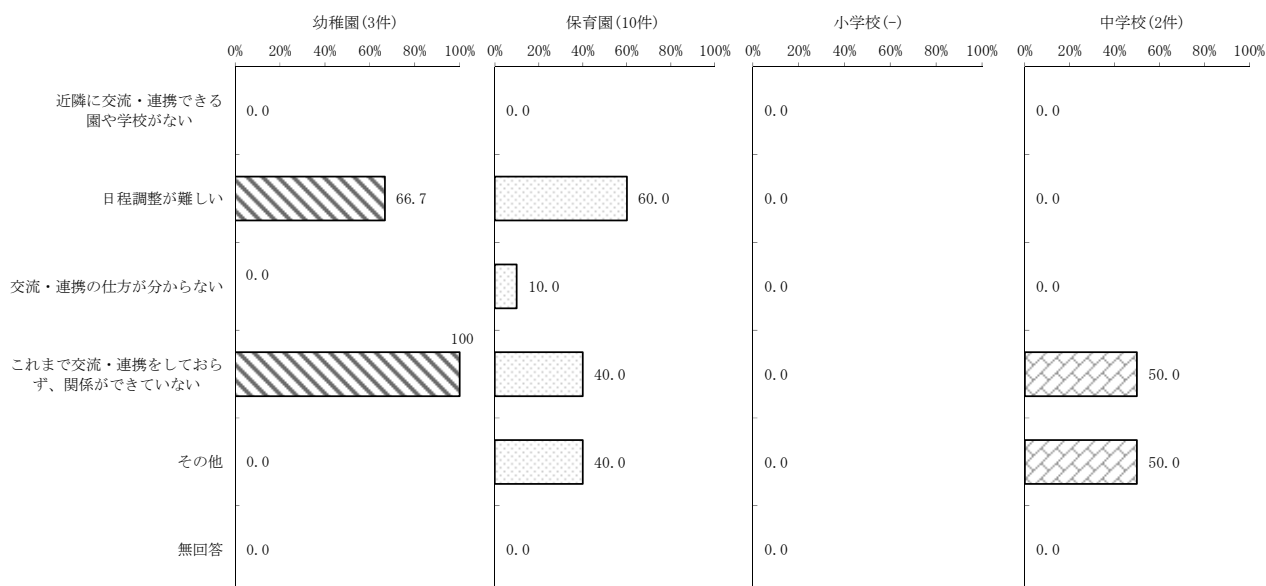
図 4－1 交流・連携の実施状況



2 交流・連携の実施が困難な理由

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、交流・連携を「実施していない」と回答した回答者に、交流・連携が困難な理由を尋ねたところ、幼稚園では「日程調整が難しい」「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」が、保育園では「日程調整が難しい」「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」「交流・連携の仕方が分からない」が、中学校では「これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない」がそれぞれ挙げられました。小学校は、交流・連携を「実施していない」と回答した回答者はいませんでした。

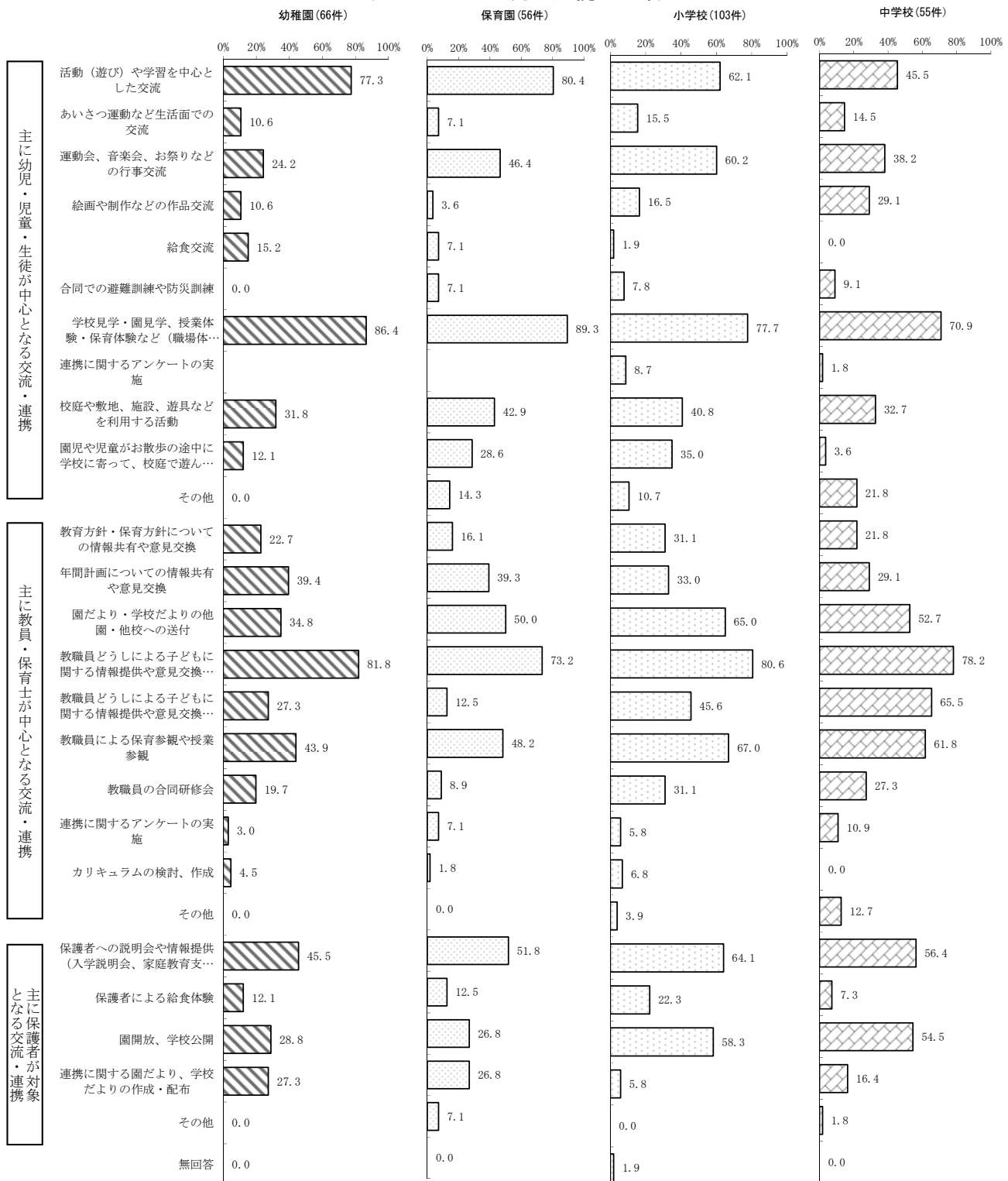
図 4－2 交流・連携の実施が困難な理由



3 交流・連携の内容

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「活動（遊び）や学習を中心とした交流」という回答は幼稚園、保育園、小学校が、「学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）」、「教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）」という回答はすべての校種が、「教職員による保育参観や授業参観」、という回答は小学校、中学校が、「保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）」という回答はすべての校種において、回答の割合が高くなっています。

図4-3 交流・連携の内容

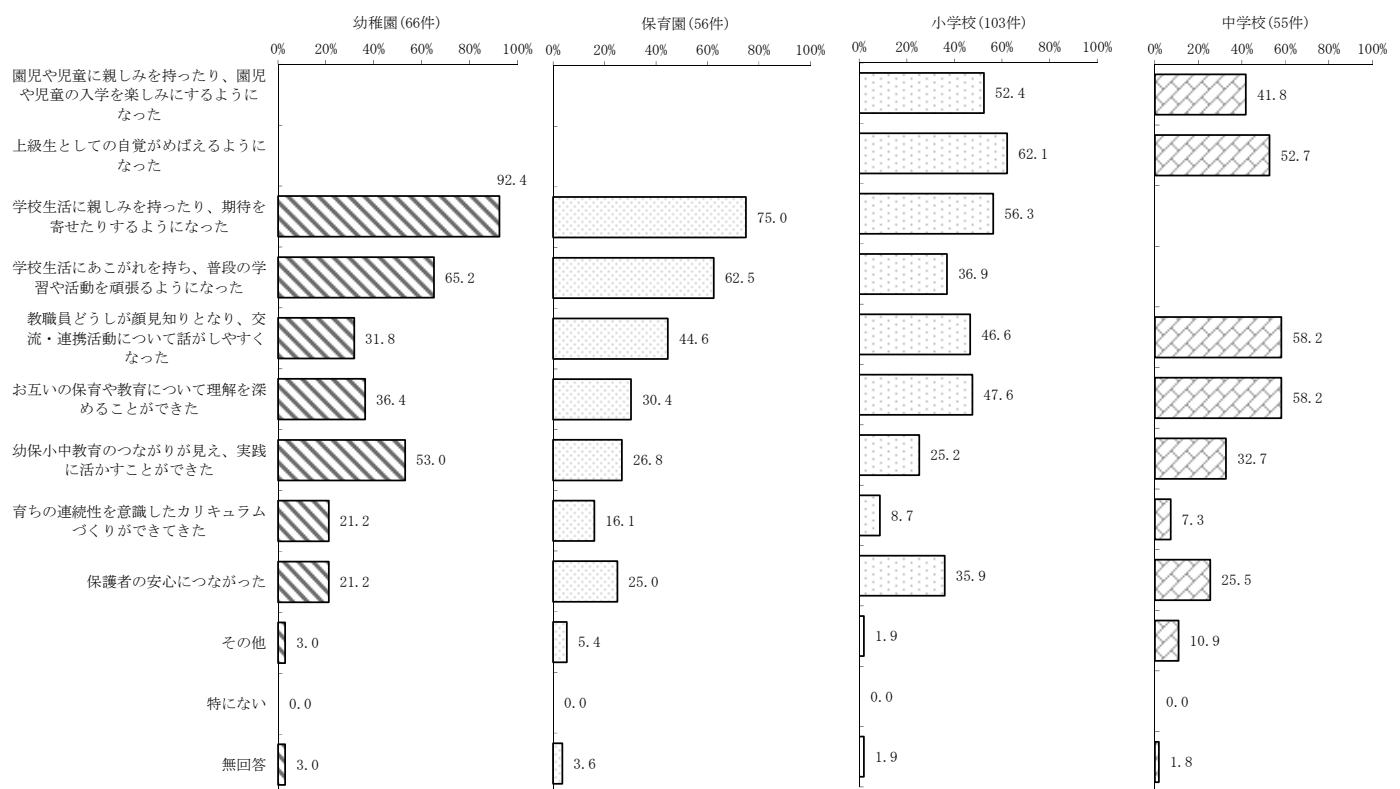


※ 幼稚園、保育園は「主に幼児・児童・生徒が中心になる交流・連携」中に「連携に関するアンケートの実施」の項目なし。

4 交流・連携を行って良かった点

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「園児や児童に親しみを持ったり、園児や児童の入学を楽しみにするようになった」という回答は小学校が、「上級生として自覚がめばえるようになった」という回答は小学校・中学校が、「学校生活に親しみを持ったり、期待を寄せたりするようになった」という回答は特に幼稚園が、「学校生活にあこがれを持ち、普段の学習や活動を頑張るようになった」という回答は幼稚園・保育園が、「教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携活動について話がしやすくなった」という回答は中学校が、「お互いの保育や教育について理解を深めることができた」という回答は小学校・中学校が、「幼保小中教育のつながりが見え、実践に活かすことができた」という回答は特に幼稚園が、「保護者の安心につながった」という回答は小学校が、それぞれその割合が高くなっています。

図4-4 交流・連携を行って良かった点

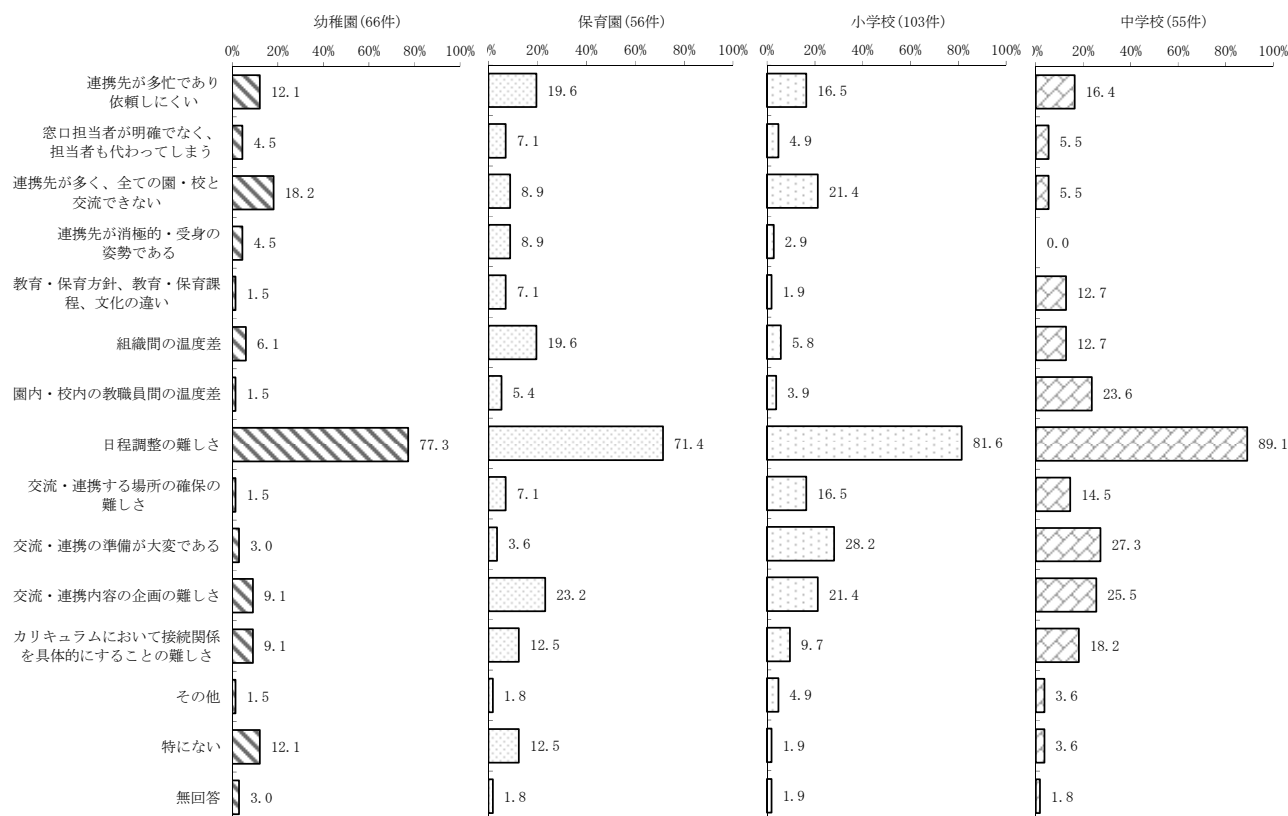


※ 幼稚園、保育園は「園児や児童に親しみを持ったり、園児や児童の入学を楽しみにするようになった」、「上級生としての自覚がめばえるようになった」の項目なし。中学校は「学校生活に親しみを持ったり、期待を寄せたりするようになった」、「学校生活にあこがれを持ち、普段の学習や活動を頑張るようになった」の項目なし。

5 交流・連携の課題となる点

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「連携先が多く、全ての園・校と交流できない」という回答は幼稚園・小学校が、「組織間の温度差」という回答は保育園が、「園内・校内の教職員間の温度差」という回答は中学校が、「日程調整の難しさ」という回答はすべての校種において、「交流・連携の準備が大変である」という回答は小学校、中学校において、「交流・連携内容の企画の難しさ」という回答は保育園・小学校・中学校において割合が高くなっています。

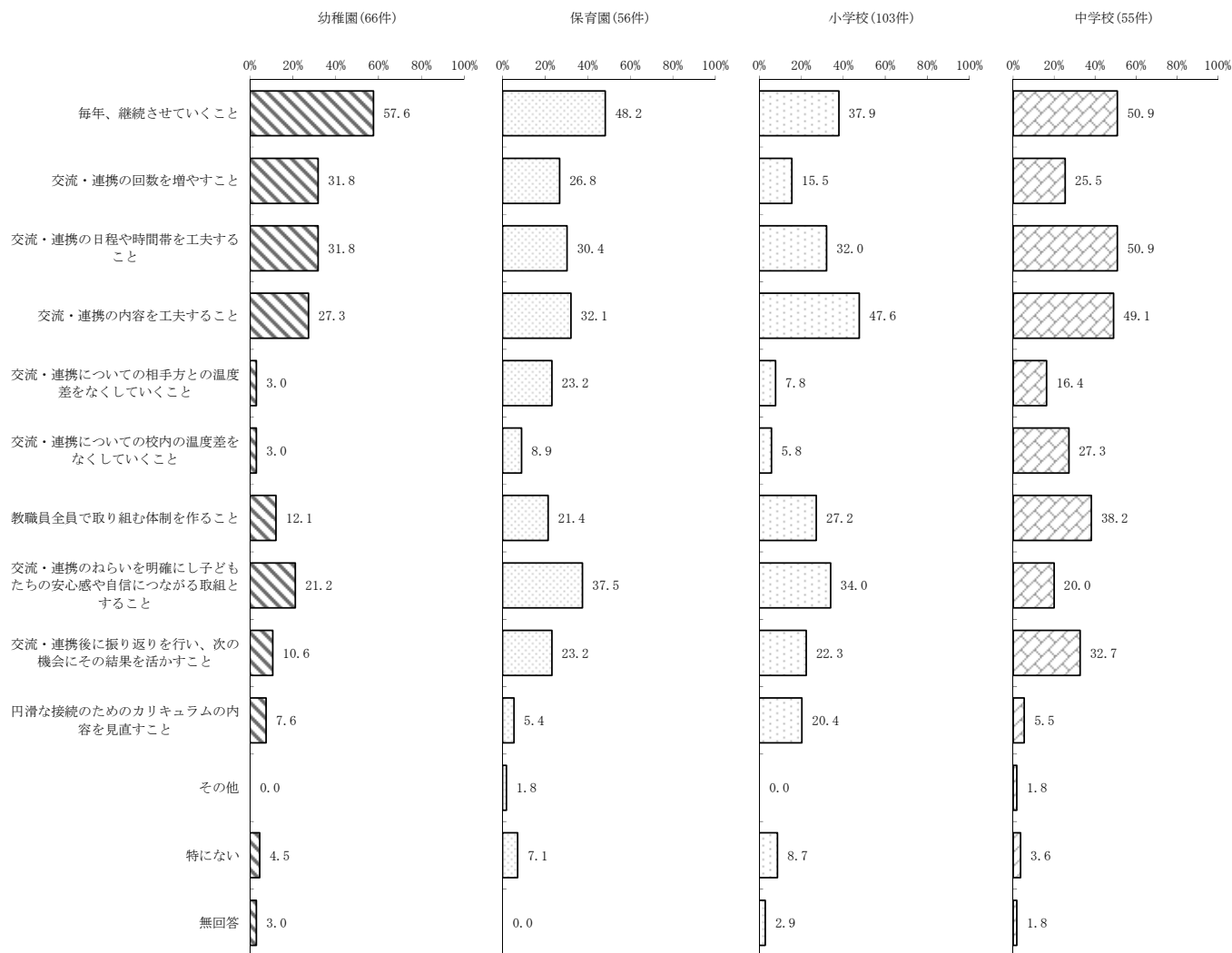
図4-5 交流・連携の課題となる点



6 交流・連携で改善したい点

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「毎年継続させていくこと」という回答は幼稚園・保育園・中学校が、「交流・連携の日程や時間帯を工夫すること」という回答は中学校が、「交流・連携の内容を工夫すること」という回答は小学校・中学校が、割合が高くなっています。

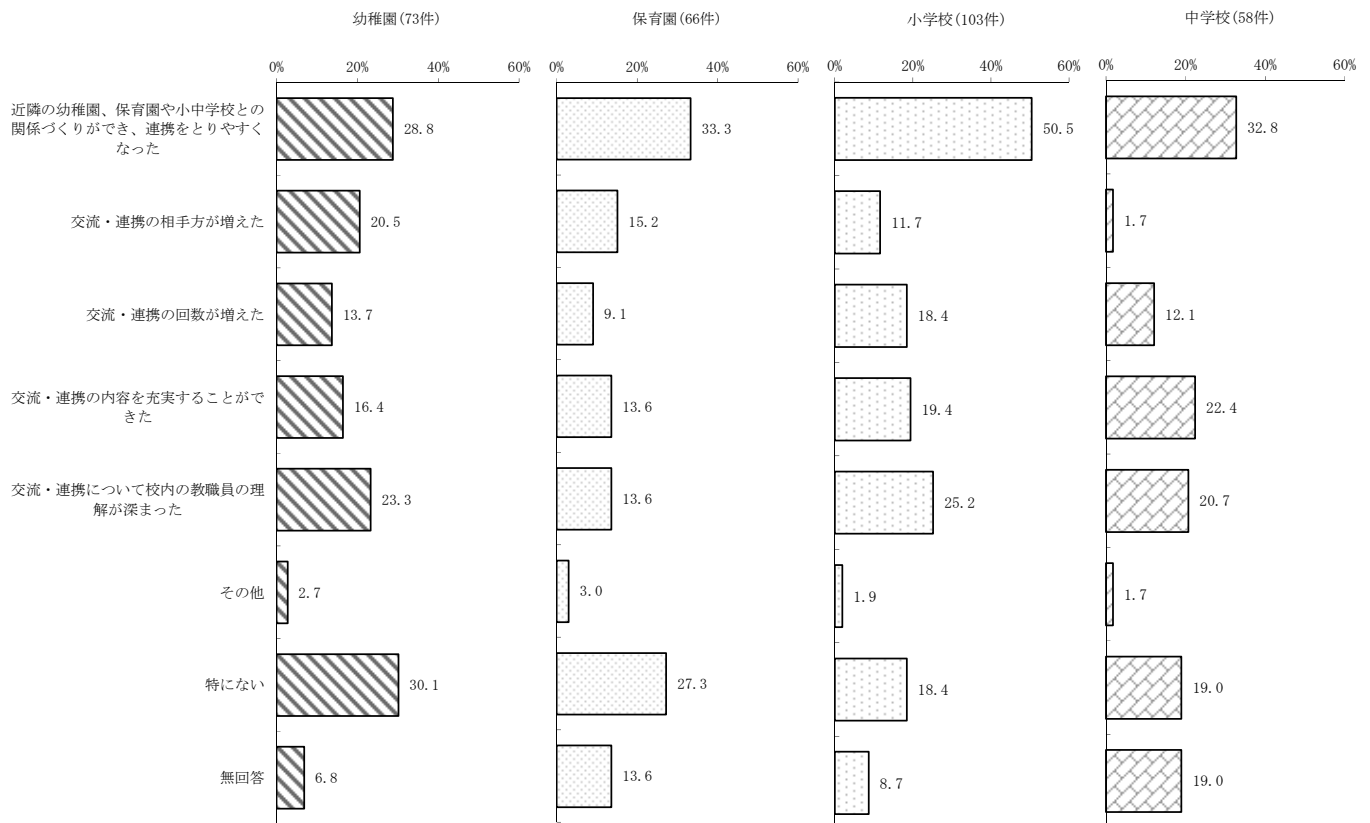
図4-6 交流・連携で改善したい点



7 他園・校との交流・連携について改善されたこと

幼稚園・保育園・小学校・中学校の別にみると、「近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった」という回答は小学校が高くなっています。また、「交流・連携について校内の教職員の理解が深まった」という回答は幼稚園・小学校・中学校が高くなっています。一方、「特にない」という回答は、幼稚園・保育園で高くなっています。

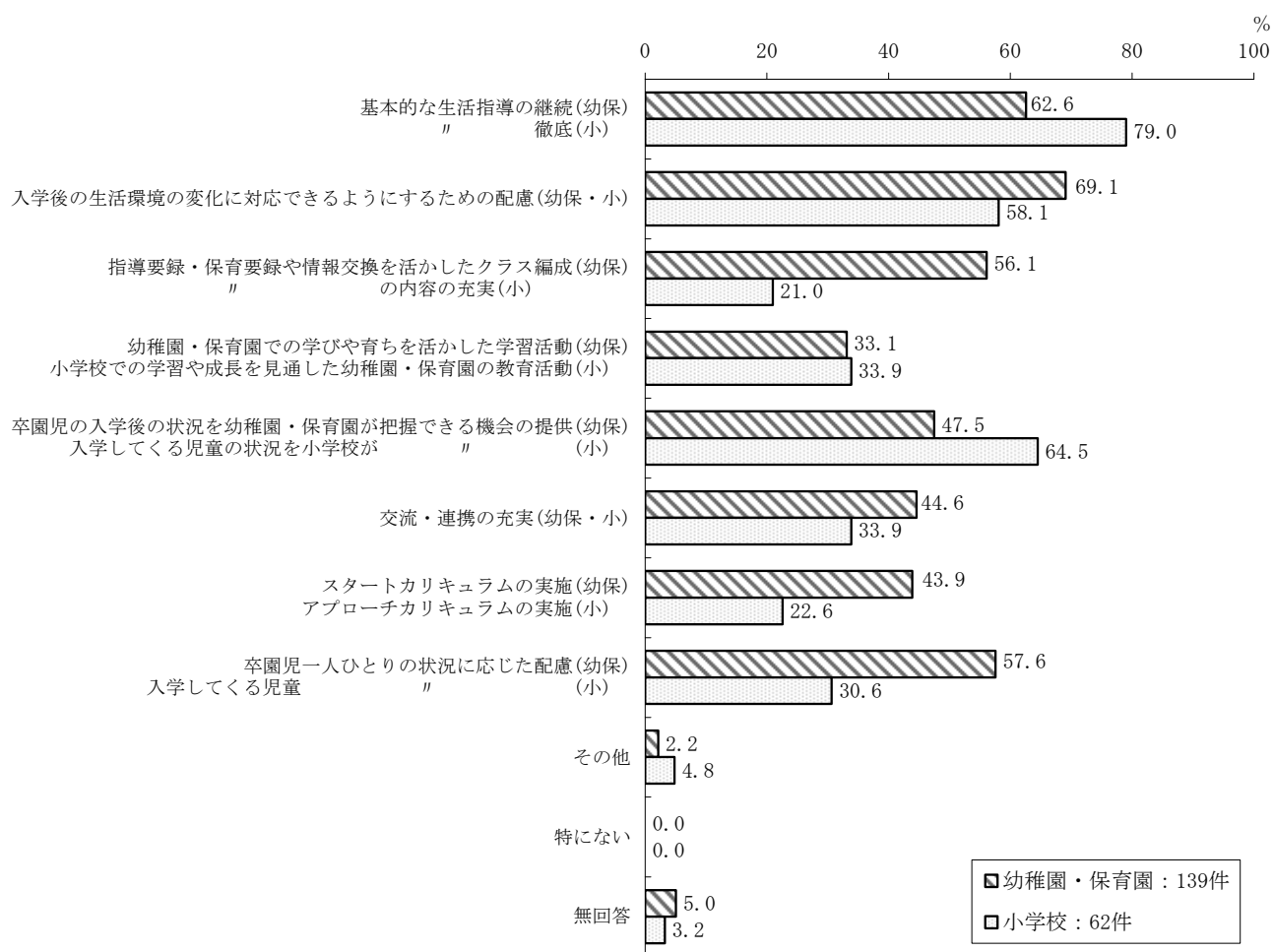
図4-7 他園・校との交流・連携について改善されたこと



8 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること

「基本的な生活指導の継続(幼保)／基本的な生活指導の徹底(小)」、「卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供(幼保)／入学してくる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供(小)」という回答は、小学校が幼稚園・保育園より高くなっています。一方、「指導要録・保育要録や情報交換を活かしたクラス編成(幼保)／指導要録・保育要録や情報交換の内容の充実(小)」、「スタートカリキュラムの実施(幼保)／アプローチカリキュラムの実施(小)」、「卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮(幼保)／入学してくる児童一人ひとりの状況に応じた配慮(小)」という回答は、幼稚園・保育園が小学校より特に高くなっています。

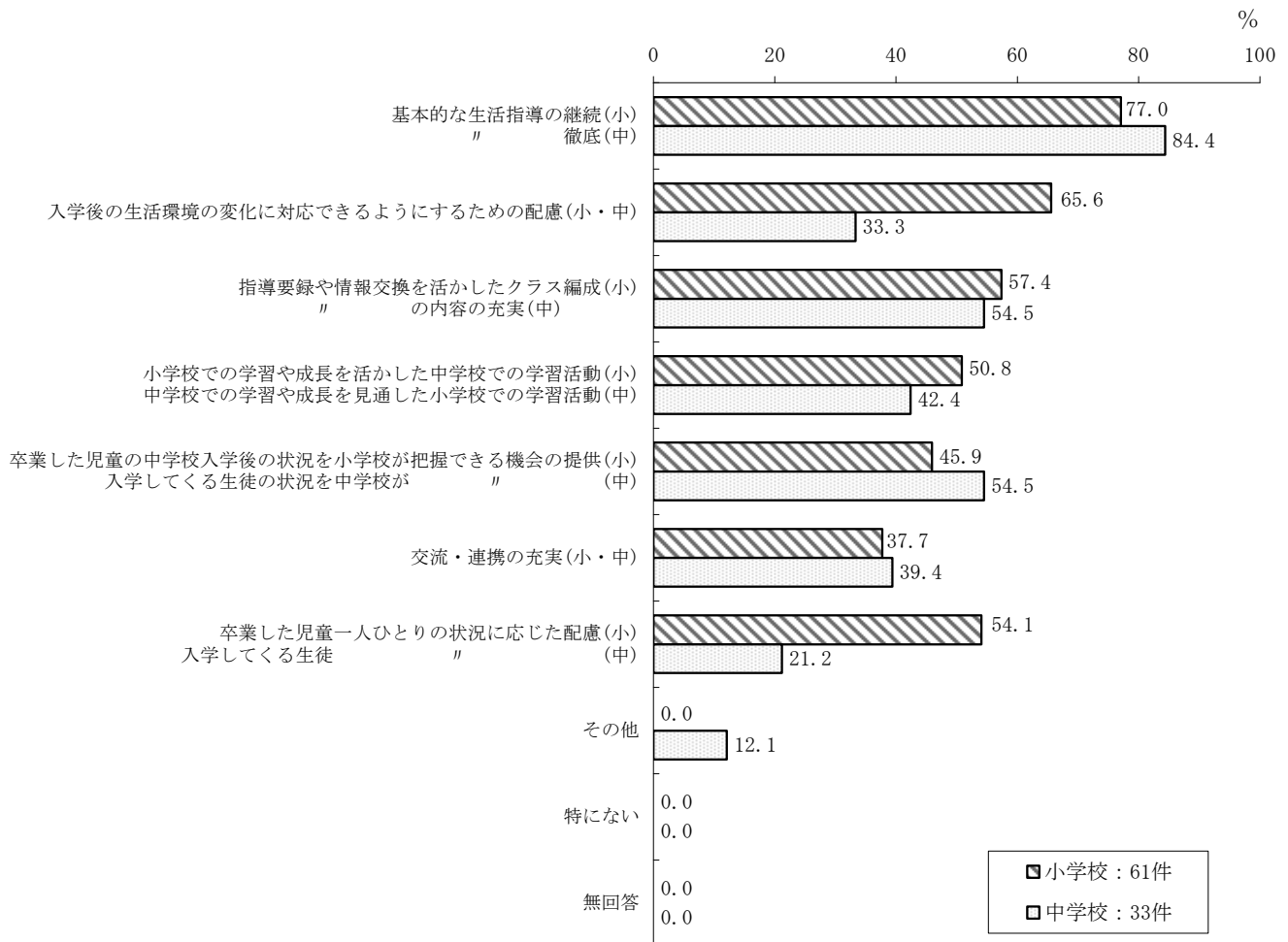
図4-8 幼稚園・保育園と小学校が相互に期待すること



9 小学校と中学校が相互に期待すること

「基本的な生活指導の継続(小)／基本的な生活指導の徹底(中)」、「卒業した児童の中学校入学後の状況を小学校が把握できる機会の提供(小)／入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供(中)」については小学校より中学校が、「入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮(小・中)」、「卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮(小)／入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮(中)」については中学校より小学校が、回答の割合が高くなっています。

図4-9 小学校と中学校が相互に期待すること



資料編

草加市子ども教育の連携に関する

教員・保育士アンケートのお願い

大暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から草加市の教育行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本市教育委員会では、市内の幼稚園、保育園、小学校、中学校における子ども教育の連携の実態を把握するために、昨年7月にアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、生まれてから中学校卒業までの育ちを共に支える「草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画」を本年3月に策定しました。

本調査は、今年度の子ども教育の連携について実態を把握するとともに、昨年度からの変化を把握し、今後の子ども教育の連携推進に係る基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成25年7月 草加市教育委員会

《ご回答をお願いしたい先生方》

- 幼稚園：園長、年長組を受け持つ先生方
保育園：園長、5歳児を受け持つ先生方
小学校：校長、生徒指導主任、小学校1年生及び6年生の学年主任、特別支援学級の担任
中学校：校長、生徒指導主任、中学校1年生及び3年生の学年主任、特別支援学級の担任

《アンケートのご回答にあたって》

- 1 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
- 2 回答が済みましたら、お手数ですが、園・学校ごとにまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
- 3 お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話 922-3494（直通）

あてはまる番号・項目に○を付けてご回答ください。また、（ ）の記述欄については、記入をお願いします。

回答される方の基本情報

園の名前（正式名称）：（ ） 幼稚園・保育園

職名：1 園長 2 年長・5歳児担任

教員・保育士歴：1 1～5年目 2 6～10年目

3 11～15年目 4 16年以上

園児の進学先（平成24年度、上位3校）：（園長先生のお答えください）

1（ ）小学校－（ ）%程度

2（ ）小学校－（ ）%程度

3（ ）小学校－（ ）%程度

幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

問1 あなたの園では、昨年度（平成24年度）に、他の幼稚園・保育園・小学校・中学校のいずれか又はいくつかと交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

1 はい → 問2～問10へ 2 いいえ → 問11へ

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の相手方はどこでしたか。（あてはまるもの全てに○、相手方の数を記入）

1 幼稚園（ ）園 2 保育園（ ）園

3 小学校（ ）校 4 中学校（ ）校

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携に参加したの以下のうち誰でしたか。（あてはまるもの全てに○）

1 年長児（5歳児） 2 年中児（4歳児） 3 年少児（3歳児）

4 教諭・保育士 5 園長 6 保護者

7 その他（ ）

問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。（あてはまるもの全てに○）

＜主に幼児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞

1 活動（遊び）や学習を中心とした交流

2 あいさつ運動など生活面での交流

3 運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流

4 絵画や制作などの作品交流

5 給食交流

6 合同での避難訓練や防災訓練

7 学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）

8 家庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動

9 園児や児童がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする

10 その他（ ）

- 問 6 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の窓口は、主にどなたが担当していますか。（○は 1 つだけ）

 1 管理職（園長、副園長） 2 教務主任・主任 3 年長組（5 歳児）担任

 4 その他（ ） 5 決めていない

 問 7 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の窓口の担当者は、固定していますか。（○は 1 つだけ）

 1 はい 2 いいえ

 問 8 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

 1 園児が小学校生活に親しみを持ったり期待を寄せたりするようになった

 2 園児が小学校生活にあこがれを持ち、普段の活動を頑張るようになった

 3 教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携活動について話がしやすくなった

 4 お互いの保育や教育について理解を深めることができた

 5 幼児教育と小学校教育のつながりが見え、実践に活かすことができた

 6 育ちの連続性を意識したカリキュラムづくりができてきた

 7 保護者の安心につながった

 8 その他（ ）

 9 特にない

 問 9 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

 1 連携先が多忙であり依頼しにくい

 2 窓口担当者が明確でなく、担当者も代わってしまう

 3 連携先が多く、全ての園・校と交流できない

 4 連携先が消極的・受身の姿勢である

 5 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い

 6 組織間の温度差

 7 園内の教職員間の温度差

 8 日程調整の難しさ

 9 交流・連携する場所の確保の難しさ

 10 交流・連携の準備が大変である

 11 交流・連携内容の企画の難しさ

 12 カリキュラムにおいて接続関係を具体的にすることの難しさ

 13 その他（ ）

 14 特にない

- <主に教員・保育士が中心となる交流・連携>

 11 教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換

 12 年間計画についての情報共有や意見交換

 13 園日より・学校だよりの他園・他校への送付

 14 教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）

 15 教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学後）

 16 教職員による保育参観や授業参観

 17 教職員の合同研修会

 18 連携に関するアンケートの実施

 19 カリキュラムの検討、作成

 20 その他（ ）

 <主に保護者が対象となる交流・連携>

 21 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）

 22 保護者による給食体験

 23 園開放、学校公開

 24 連携に関する園日より、学校だよりの作成・配布

 25 その他（ ）

問 5 【問 1 で 1 の「はい」に○をつけた場合に答えてください】問 4 の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思われめますか。重要度が高いと考える順に、問 4 の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。（5 つまで）

重要度	問 4 の選択肢番号（1 ～ 25）	重要と考える理由
1		
2		
3		
4		
5		

問10 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何か。（あてはまるもの全てに○）

- 1 毎年、継続させていくこと
- 2 交流・連携の回数を増やすこと
- 3 交流・連携の日程や時間帯を工夫すること
- 4 交流・連携の内容を工夫すること
- 5 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと
- 6 交流・連携についての園内の温度差をなくしていくこと
- 7 教職員全員で取り組み体制を作ること
- 8 交流・連携のねらいを明確にし子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること
- 9 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を活かすこと
- 10 円滑な接続のためのカリキュラムの内容を見直すこと
- 11 その他（ ）
- 12 特にない

問11 【問1で2の「いいえ」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 近隣に交流・連携できる園や学校がない
- 2 日程調整が難しい
- 3 交流・連携の仕方が分からない
- 4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない
- 5 その他（ ）

問12 あなたの園において、昨年度（平成24年度）当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった
- 2 交流・連携の相手方が増えた
- 3 交流・連携の回数が増えた
- 4 交流・連携の内容を充実することができた
- 5 交流・連携について園内の教職員の理解が深まった
- 6 その他（ ）
- 7 特にない

就学に向けた取組について

問13 あなたの園では、他の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流・連携以外に、小学校教育への接続を意識して行う幼児教育を行っていますか。（○は1つだけ）

- 1 行っている
- 2 行っていない

問14 【問13で1の「行っている」に○をつけた場合に答えてください】小学校教育への接続を意識して行う幼児教育として、どのようなことを行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせること
- 2 戸外での遊びや運動などによる体力増進や健康づくり
- 3 ルールを守ることの大切さを教えること
- 4 友だちと関わる中で思いやりや親しみを持つこと
- 5 友だちと一緒に、同じ目的をもって1つのことに取り組むこと
- 6 大勢の前で発表する機会を設けること
- 7 当番活動などを行うこと
- 8 絵や工作、歌や楽器などによる創作的な活動
- 9 文字や数に興味を持たせること
- 10 集中して1つのことに取り組む時間を設けること
- 11 小学校以降の育ちの連続性を意識したカリキュラムの実施
- 12 その他（ ）

問15 【問13で1の「行っている」に○をつけた場合に答えてください】小学校教育への接続を意識して行う幼児教育を、いつ頃から行っていますか。（○は1つだけ）

- 1 年長（5歳児）の（ ）月頃から 2 年中（4歳児）の（ ）月頃から
- 3 年少（3歳児）の（ ）月頃から 4 その他（ ）

問16 あなたの園では、就学に向けた具体的な取組として、どのようなことを行っていますか。

（あてはまるもの全てに○、開始時期（年長・5歳児、年中・4歳児、年少・3歳児）の何月頃からかを記入）

- 1 小学校の登校時間に合わせて登園時間を早める（ ）の（ ）月頃から
- 2 昼寝の時間をなくす（ ）の（ ）月頃から
- 3 子ども自身にハンカチ・ティッシュを持たせる（ ）の（ ）月頃から
- 4 上履きをはいて生活する（ ）の（ ）月頃から
- 5 立ったまま着替える練習をする（ ）の（ ）月頃から
- 6 和式トイレに慣れる練習をする（ ）の（ ）月頃から
- 7 自分の名前が読めるように練習する（ ）の（ ）月頃から
- 8 決められた時間内に食事ができるようにする（ ）の（ ）月頃から
- 9 あいさつや返事ができるようにする（ ）の（ ）月頃から
- 10 時間を意識して活動を行う（ ）の（ ）月頃から
- 11 身の回りの物などを片付けられるようにする（ ）の（ ）月頃から
- 12 その他（上記1～11の他に園で取り組んでいることがある場合に取組の内容と開始時期を記入）（ ）の（ ）月頃から

- （ ）の（ ）月頃から
- （ ）の（ ）月頃から
- （ ）の（ ）月頃から

草加市子ども教育の連携に関する 教員・保育士アンケートのお願い

大暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から草加市の教育行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本市教育委員会では、市内の幼稚園、保育園、小学校、中学校における子ども教育の連携の実態を把握するために、昨年7月にアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、生まれてから中学校卒業までの育ちを共に支える「草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画」を本年3月に策定しました。

本調査は、今年度の子ども教育の連携について実態を把握するとともに、昨年度からの変化を把握し、今後の子ども教育の連携推進に係る基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成25年7月 草加市教育委員会

《ご回答をお願いしたい先生方》

- 幼稚園：園長、年長組を受け持つ先生方
保育園：園長、5歳児を受け持つ先生方
小学校：校長、生徒指導主任、小学校1年生及び6年生の学年主任、
特別支援学級の担任
中学校：校長、生徒指導主任、中学校1年生及び3年生の学年主任、
特別支援学級の担任

- 《アンケートのご回答にあたって》
- 1 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
 - 2 回答が済みしたら、お手数ですが、園・学校ごとにまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
 - 3 お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話922-3494（直通）

問17 卒園児が進学する小学校に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活指導の継続
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録・保育要録や情報交換を活かしたクラス編成
- 4 幼稚園・保育園での学びや育ちを活かした学習活動
- 5 卒園児の入学後の状況を幼稚園・保育園が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 卒園児がスムーズに小学校での生活や学習に適応できるようにするための、スタートカリキュラムの実施
- 8 卒園児一人ひとりの状況に応じた配慮
- 9 その他（ ）
- 10 特になし

最後に、あなたの園や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

小学校用（校長、生徒指導主任、１年生・６年生の学年主任、特別支援学級の担任）

あてはまる番号・項目に○を付けてご回答ください。また、（ ）の記述欄については、記入をお願いします。

なお、各設問の回答に当たっては、校長及び生徒指導主任は学校全体の児童の様子について、学年主任及び特別支援学級の担任は担当する学年の児童の様子についてお答えください。

回答される方の基本情報

学校の名前：（ ） 草加市立 小学校（ ）

職名： 1 校長 2 生徒指導主任 3 学年主任（ ） 年生）

4 生徒指導(兼)学年主任（ ） 年生） 5 特別支援学級の担任

教員歴： 1 1～5年目 2 6～10年目

3 11～15年目 4 16年目以上

学級数： 1 年生（ ） クラス） 6 年生（ ） クラス）

特別支援学級（ ） クラス）

入学してくる児童の出身園の数（平成24年度）：（校長先生のお答えください）

幼稚園（ ） 園）・保育園（ ） 園）

入学してくる児童の出身園（平成24年度、上位3園）：（校長先生のお答えください）

1（ ） 幼稚園・保育園－（ ） %程度

2（ ） 幼稚園・保育園－（ ） %程度

3（ ） 幼稚園・保育園－（ ） %程度

上位3園からの入学児童数が新入学児童数全体に占める割合（平成24年度）：

（校長先生のお答えください）（ ） %

幼稚園・保育園・小学校・中学校の交流・連携の実施状況について

問1 あなたの学校では、昨年度（平成24年度）に、幼稚園・保育園・他の小学校・中学校のいずれか又はいくつかと交流・連携を行いましたか。（○は1つだけ）

1 はい →問2～問10へ 2 いいえ →問11へ

問2 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の相手方はどこでしたか。（あてはまるもの全てに○、相手方の数を記入）

1 幼稚園（ ） 園 2 保育園（ ） 園

3 小学校（ ） 校 4 中学校（ ） 校

問3 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携に参加したのは以下のうち誰でしたか。（あてはまるもの全てに○）

1 1年生 2 2年生 3 3年生

4 4年生 5 5年生 6 6年生

7 校長 8 教頭 9 教務主任

10 学年主任（ ） 年 11 担任（ ） 年 12 保護者

13 その他（ ）

問4 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の内容はどのようなものでしたか。（あてはまるもの全てに○）

＜主に幼児・児童・生徒が中心となる交流・連携＞

- 1 活動（遊び）や学習を中心とした交流
- 2 あいさつ運動など生活面での交流

- 3 運動会、音楽会、お祭りなどの行事交流
- 4 絵画や制作などの作品交流
- 5 給食交流
- 6 合同での避難訓練や防災訓練
- 7 学校見学・園見学、授業体験・保育体験など（職場体験などによるものを含む）
- 8 連携に関するアンケートの実施
- 9 校庭や敷地、施設、遊具などを利用する活動
- 10 園児や児童がお散歩の途中に学校に寄って、校庭で遊んだり、トイレを借りたりする
- 11 その他（ ）

＜主に教員・保育士が中心となる交流・連携＞

- 12 教育方針・保育方針についての情報共有や意見交換
- 13 年間計画についての情報共有や意見交換
- 14 園日より・学校だよりの他園・他校への送付
- 15 教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学前）
- 16 教職員どうしによる子どもに関する情報提供や意見交換（入学後）
- 17 教職員による保育参観や授業参観
- 18 教職員の合同研修会
- 19 連携に関するアンケートの実施
- 20 カリキュラムの検討、作成
- 21 その他（ ）

＜主に保護者が対象となる交流・連携＞

- 22 保護者への説明会や情報提供（入学説明会、家庭教育支援、家庭学習の方法等）
- 23 保護者による給食体験
- 24 園開放、学校公開
- 25 連携に関する園日より、学校だよりの作成・配布
- 26 その他（ ）

問5 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】問4の選択肢に挙げられている交流・連携の内容のうち、特に重要な取組はどれだと思いますか。重要度が高いと考える順に、問4の選択肢番号及び重要と考える理由をご記入ください。（5つまで）

重要度	問4の選択肢番号（1～26）	重要と考える理由
1		
2		
3		
4		
5		

問 6 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の窓口は、主に
どなたが担当していますか。(○は1つだけ)

1 校長	2 教頭	3 教務主任・主任
4 学年主任 (年)	5 担任 (年生)	6 その他 ()
7 決めている		

問 7 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の窓口の担当者
は、固定していますか。(○は1つだけ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問 8 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携を行って良かった
点は何か。(あてはまるもの全てに○)

1 児童が園児に親しみを持ったり、園児の入学を楽しみにするようになった
2 園児と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった
3 児童が中学校生活に親しみを持ったり、期待を寄せたりするようになった
4 中学校生活にあこがれを持ち、児童が普段の学習や活動を頑張るようになった
5 教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携活動について話がしやすくなった
6 お互いの保育や教育について理解を深めることができた
7 幼児教育と小学校教育、小学校教育と中学校教育のつながりが見え、実践に活かすことができた
8 育ちの連続性を意識したカリキュラムづくりができてきた
9 保護者の安心につながった
10 その他 ()
11 特にない

問 9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何か。(あてはまるもの全てに○)

1 連携先が多忙であり依頼しにくい
2 窓口担当者が明確でなく、担当者も代わってしまう
3 連携先が多く、全ての園・校と交流できない
4 連携先が消極的・受身の姿勢である
5 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い
6 組織間の温度差
7 校内の教職員間の温度差
8 日程調整の難しさ
9 交流・連携する場所の確保の難しさ
10 交流・連携の準備が大変である
11 交流・連携内容の企画の難しさ
12 カリキュラムにおいて接続関係を具体的にすることの難しさ
13 その他 ()
14 特にない

問10 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何か。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|--|
| 1 毎年、継続させていくこと |
| 2 交流・連携の回数を増やすこと |
| 3 交流・連携の日程や時間帯を工夫すること |
| 4 交流・連携の内容を工夫すること |
| 5 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと |
| 6 交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと |
| 7 教職員全員で取り組む体制を作ること |
| 8 交流・連携のねらいを明確にし子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること |
| 9 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を活かすこと |
| 10 円滑な接続のためのカリキュラムの内容を見直すこと |
| 11 その他 () |
| 12 特にない |

問11 【問1で2の「いいえ」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1 近隣に交流・連携できる園や学校がない |
| 2 日程調整が難しい |
| 3 交流・連携の仕方が分からない |
| 4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない |
| 5 その他 () |

問12 あなたの学校において、昨年度(平成24年度)当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありますか。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|---|
| 1 近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった |
| 2 交流・連携の相手方が増えた |
| 3 交流・連携の回数が増えた |
| 4 交流・連携の内容を充実することができた |
| 5 交流・連携について校内の教職員の理解が深まった |
| 6 その他 () |
| 7 特にない |

小1プロブレムについて

「小1プロブレム」(入学したばかりの1年生の教室において、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話を聞かないなど、学校生活にうまく適応できない状態が続き、学級として機能しないことをいいます)について、あなたの学校の状況を教えてください。(問13～問19は、校長、生徒指導主任、1年生の学年主任のみ、お答えください)

問13 あなたの学校では、今年度(平成25年度)、「小1プロブレム」といわれる状況がみられますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 はい →問14～問19へ | 2 いいえ →問18・問19へ |
|----------------|-----------------|

問14 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】「小1プロブレム」がみられた学級は何学級ですか。

「小1プロブレム」が見られた学級数 (学級)

問15 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】「小1プロブレム」がみられた要因はどのようなことであると考えますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 児童に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと
- 2 児童に集団生活での経験が不足していたこと
- 3 児童に耐性が身に付いていなかったこと
- 4 家庭の教育力が低下していること
- 5 担任が、個別に支援を必要としている児童への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと
- 6 担任に基本的な指導力が欠けていたこと
- 7 個別に支援を必要としている児童に対して、学校としての支援体制が整っていないこと
- 8 その他（ ）

問16 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】「小1プロブレム」とみられる状況に、どのように対応していますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 担任一人に対応している
- 2 学年の教職員で協力体制をとっている
- 3 管理職や教務主任等とで協力体制をとっている
- 4 保護者や地域のボランティア等の協力体制を取り入れている
- 5 学習補助員、学級支援員、小1プロブレム対応職員が補助的に支援している
- 6 保健室や別の教室で個別に対応している
- 7 公的機関・医療機関など関係諸機関と協力している
- 8 その他（ ）

問17 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】「小1プロブレム」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思われますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 幼稚園・保育園における小学校との接続を見据えた幼児教育の充実
- 2 幼稚園・保育園と小学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実
- 3 幼稚園・保育園と小学校の交流活動の充実
- 4 学級担任の補助となる補助員等の配置
- 5 一学級の人数の縮小
- 6 学級担任の指導力の向上にかかわる研修
- 7 学校における組織的な協力体制の構築
- 8 保護者の協力体制の確立
- 9 地域の人の協力体制の確立
- 10 その他（ ）
- 11 わからない

問18 あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 教職員の配置の工夫や協力体制を整えた
- 2 幼稚園・保育園の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした
- 3 幼児期からの接続を意識したスタートカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った
- 4 保護者や地域ボランティア等の協力体制を取り入れた
- 5 その他（ ）
- 6 特に行っていない

問19 あなたの学校に入学する児童の出身園である幼稚園や保育園に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活指導の徹底
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録・保育要録や情報交換の充実
- 4 小学校での学習や成長を見通した幼稚園・保育園での教育活動
- 5 入学してくる児童の状況を小学校が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 幼稚園・保育園での育ちや学びを小学校につながるためのアブローチカリキュラムの実施
- 8 入学してくる児童一人ひとりの状況に応じた配慮
- 9 その他（ ）
- 10 特にない

中学校進学に向けた取組について

問20 【校長、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください】あなたの学校では、中学校進学に向けて、生徒指導や教科指導等における具体的な取組として、どのようなことを行っていますか（教科担任制の導入、中学校生活について話を聞く機会の設定など）。具体的に記入ください。

問21 【校長、生徒指導主任、6年生の学年主任のみ、お答えください】あなたの学校を卒業する児童が進学する中学校に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活指導の継続
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録や情報交換を活かしたクラス編成
- 4 小学校での学習や成長を活かした中学校での学習活動
- 5 卒業した児童の中学校入学後の状況を小学校が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 卒業した児童一人ひとりの状況に応じた配慮
- 8 その他（ ）
- 9 特にない

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由にご記入ください。

中学校用（校長、生徒指導主任、1年生・3年生の学年主任、特別支援学級の担任）

草加市子ども教育の連携に関する

教員・保育士アンケートのお願い

大暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃から草加市の教育行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本市教育委員会では、市内の幼稚園、保育園、小学校、中学校における子ども教育の連携の実態を把握するために、昨年7月にアンケート調査を実施し、その結果を基礎資料として、生まれてから中学校卒業までの育ちを共に支える「草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画」を本年3月に策定しました。

本調査は、今年度の子ども教育の連携について実態を把握するとともに、昨年度からの変化を把握し、今後の子ども教育の連携推進に係る基礎資料となる重要な調査です。

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成25年7月 草加市教育委員会

《ご回答をお願いしたい先生方》

幼稚園：園長、年長組を受け持つ先生方

保育園：園長、5歳児を受け持つ先生方

小学校：校長、生徒指導主任、小学校1年生及び6年生の学年主任、特別支援学級の担任

中学校：校長、生徒指導主任、中学校1年生及び3年生の学年主任、特別支援学級の担任

《アンケートのご回答にあたって》

- 1 質問の回答として、あてはまる番号に○をつけてください。また、「その他」を選択した場合など（ ）の記述欄については、その内容を（ ）内に記入してください。
- 2 回答が済みましたら、お手数ですが、園・学校ごとにまとめ、同封しました送付状のとおり、教育委員会にご提出ください。
- 3 お問い合わせ先 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室
電話922-3494（直通）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

- 問7 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の窓口の担当者
は、固定していますか。(○は1つだけ)
- 1 はい 2 いいえ
- 問8 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携を行って良かった点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)
- 1 生徒が園児や児童に親しみを持ったり、児童の入学を楽しみにするようになった
- 2 園児や児童と接する中で、上級生としての自覚がめばえるようになった
- 3 教職員どうしが顔見知りとなり、交流・連携活動について話がしやすくなった
- 4 お互いの教育や保育について理解を深めることができた
- 5 幼児教育や小学校教育とのつながりが見え、実践に活かすことができた
- 6 育ちの連続性を意識したカリキュラムづくりができてきた
- 7 保護者の安心につながった
- 8 その他 ()
- 9 特にない
- 問9 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって課題となる点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)
- 1 連携先が多忙であり依頼しにくい
- 2 窓口担当者が明確でなく、担当者も代わってしまう
- 3 連携先が多く、全ての園・校と交流できない
- 4 連携先が消極的・受身の姿勢である
- 5 教育・保育方針、教育・保育課程、文化の違い
- 6 組織間の温度差
- 7 校内の教職員間の温度差
- 8 日程調整の難しさ
- 9 交流・連携する場所の確保の難しさ
- 10 交流・連携の準備が大変である
- 11 交流・連携内容の企画の難しさ
- 12 カリキュラムにおいて継続関係を具体的にすることの難しさ
- 13 その他 ()
- 14 特にない
- 問10 【問1で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施にあたって改善したい点は何ですか。(あてはまるもの全てに○)
- 1 毎年、継続させていくこと
- 2 交流・連携の回数を増やすこと
- 3 交流・連携の日程や時間帯を工夫すること
- 4 交流・連携の内容を工夫すること
- 5 交流・連携についての相手方との温度差をなくしていくこと
- 6 交流・連携についての校内の温度差をなくしていくこと
- 7 教職員全員で取り組む体制を作ること
- 8 交流・連携のねらいを明確にし子どもたちの安心感や自信につながる取組とすること
- 9 交流・連携後に振り返りを行い、次の機会にその結果を活かすこと
- 10 円滑な接続のためのカリキュラムの内容を見直すこと
- 11 その他 ()
- 12 特にない

- 問11 【問1で2の「いえ」に○をつけた場合に答えてください】交流・連携の実施が困難な理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)
- 1 近隣に交流・連携できる園や学校がない
- 2 日程調整が難しい
- 3 交流・連携の仕方が分からない
- 4 これまで交流・連携をしておらず、関係ができていない
- 5 その他 ()

- 問12 あなたの学校において、昨年度(平成24年度)当初と比べ、他園・校との交流・連携について改善されたことはありませんか。(あてはまるもの全てに○)
- 1 近隣の幼稚園、保育園や小中学校との関係づくりができ、連携をとりやすくなった
- 2 交流・連携の相手方が増えた
- 3 交流・連携の回数が増えた
- 4 交流・連携の内容を充実することができた
- 5 交流・連携について校内の教職員の理解が深まった
- 6 その他 ()
- 7 特にない

中1ギャップについて

「中1ギャップ」(授業内容の高度化や、先輩・後輩といった上下関係など、小学校にはなかった新しい環境になじまず、不登校などになってしまう生徒が中学生になって急増することをいいます)について、あなたの学校の状況を教えてください。(問13～問18は、校長、生徒指導主任、1年生の学年主任のみ、お答えください)

- 問13 あなたの学校では、今年度(平成25年度)、「中1ギャップ」といわれる状況がみられますか。(○は1つだけ)

1 はい →問14～問18へ 2 いいえ →問17・問18へ

問14 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】「中1ギャップ」がみられる要因はどのようなことであると考えますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 生徒に基本的な生活習慣が身に付いていなかったこと
- 2 生徒のコミュニケーション能力が不足していたこと
- 3 生徒に耐性が身に付いていなかったこと
- 4 生徒に、自分から物事に取り組んだり、自分で善悪の判断ができる、自主性がまだ十分に身に付いていなかったこと
- 5 家庭の教育力が低下していること
- 6 小学校での指導方法や生徒指導が不十分であったこと
- 7 担任が、個別に支援を必要としている生徒への指導と、学級全体への指導の両方を適切にできなかったこと
- 8 担任に基本的な指導力が欠けていたこと
- 9 個別に支援を必要としている生徒に対して、学校としての支援体制が整っていないかったこと
- 10 その他 ()

問15 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に答えてください】「中1ギャップ」とみられる状況に、どのように対応していますか。（あてはまるものを全てに○）

- 1 担任一人で対応している
- 2 学年の教職員で協力体制をとっている
- 3 管理職や教務主任等とで協力体制をとっている
- 4 保護者や地域のボランティア等の協力体制を取り入れている
- 5 学習補助員が補助的に支援している
- 6 保健室や別の教室で個別に対応している
- 7 公的機関・医療機関など関係諸機関と協力している
- 8 その他（ ）

問16 【問13で1の「はい」に○をつけた場合に教えてください】「中1ギャップ」の発生の予防や解消にはどのような対応策が効果的だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 小学校における中学校との接続を見据えた教育の充実
- 2 小学校と中学校の教職員どうしの合同研修や意見交換などの充実
- 3 小学校と中学校の交流活動の充実（授業、部活動等）
- 4 学級担任の補助となる補助員等の配置
- 5 一学級の人数の縮小
- 6 学級担任の指導力の向上にかかわる研修
- 7 学校における組織的な協力体制の構築
- 8 保護者の協力体制の確立
- 9 地域の人の協力体制の確立
- 10 その他（
- 11 わからない

問17 あなたの学校では、入学に際し、以下のような配慮や準備を何か行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

- 1 教職員の配置の工夫や協力体制を整えた
- 2 小学校の教職員と情報共有を行い、学級編成や支援の参考にした
- 3 仮学級編成を取り入れた
- 4 自校に入學してくる児童が在籍する小学校で授業を行った
- 5 小学校からの接続を意識したカリキュラムを作成・実施し、指導内容や方法の見直しを図った
- 6 保護者や地域ボランティア等の協力体制を取り入れた
- 7 その他（ ）
- 8 特に行っていない

問18 あなたの学校に入学する生徒の出身校である小学校に対して、どのようなことを期待しますか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 基本的な生活指導の徹底
- 2 入学後の生活環境の変化に対応できるようにするための配慮
- 3 指導要録や情報交換の内容の充実
- 4 中学校での学習や成長を見通した小学校での学習活動
- 5 入学してくる生徒の状況を中学校が把握できる機会の提供
- 6 交流・連携の充実
- 7 入学してくる生徒一人ひとりの状況に応じた配慮
- 8 その他（
- 9 特にない

最後に、あなたの学校や地域での交流・連携の取組状況、子ども教育の連携推進事業、草加市の教育についてご意見などがあれば、自由に記入ください。

[illegible]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

草加市子ども教育の連携に関する教員・保育士アンケート調査報告書

発行年月 平成26年3月

発行 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室

〒340-8550 埼玉県草加市高砂1丁目1番1号

電話 048-922-3494（直通）

